京都市内遺跡立会調査概報

平成９年度

京　都　市　文　化　市　民　局

ごあいさつ

京都は，世界に誇る数多くの歴史遺産に恵まれた大都市であります。市内には多くの遺跡があり，これらは埋蔵文化財包蔵地と呼ばれ，年代ごとに幾層にもわたり積み重ねられた歴史の重みをもつものが数多く存在します。

このような埋蔵文化財は，我が国の歴史や文化の成り立ちを知ることができる国民共有の貴重な財産であり，将来にわたって保存すべきものであります。

近年，埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等による開発行為は，これら埋蔵文化財保護に少なからず影響を及ぼしております。先人が残した埋蔵文化財を引き継いだ私達は，その保存と開発行為との調整を適切に行い，これを後世に伝承していく責務があると考えております。

本報告書は，平成９年度に本市が文化庁の国庫補助を得て実施した埋蔵文化財調査の結果をまとめた概要報告書であります。この調査のうち，試掘調査は京都市埋蔵文化財調査センターが実施し，発掘調査及び立会調査は，財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託したものであります。

結びに，この度の各調査の実施に当たりまして，御理解と御協力を賜りました市民の皆様を初め，御指導と御助言を賜りました関係機関の皆様に心から感謝申し上げますとともに，本報告書が京都の歴史を知るための一助として，お役立ていただければ幸いに存じます。

平成10年３月

京都市長　　桝　本　頼　兼

例　　言

1　本書は京都市文化市民局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託して実施した、文化庁国庫補助事業に伴う平成９年度の京都市内遺跡立会調査概要報告書である。

2　本書の編集は小檜山一良、近藤章子、高橋　潔、長戸満男、長宗繁一、端　美和子、尾藤徳行、本　弥八郎、吉本健吾、竜子正彦が調整・作成実務を担当した。

3　各報告の執筆者はそれぞれの文末に記した。

4　写真撮影は村井伸也と幸明綾子が担当し、遺跡の一部は調査担当者が行った。

5　遺物復原・彩色は出水みゆき、中村享子、村上勉が担当した。

6　本書で用いた土壌色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。

7　本書に使用した遺構の略記号は、奈良国立文化財研究所の用例に従った。

8　個々の調査地での計測値は、宅地の場合には仮の「水準点」を±０mとし、道路の場合には現行道路面を地表面（±０m）としている。なお、本書中で使用している方位および座標の数値は、平面直角座標系Ⅵにより、標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。その際の測量基準点は京都市遺跡発掘調査基準点を使用し、調査地における測量基準点の設置は辻　純一、宮原健吾が行った。

9　本書ではいわゆる「地山」を無遺物層と表記した。また、調査一覧表では各時代の「時代」は省略しており、調査日については簡略に記しているものもある。

10　なお、本書を作成するにあたっては、田中　宙・伊東史朗・泉　武夫・橋本清一の各氏にご教示いただいた。記して謝意を表したい。

11　本書で使用した地図は京都市長の承認を得て同市発行の都市計画基本図（縮尺：1/2,500）を複製して調整したものである。

都市計画基本図は、縮尺を調整して以下のものを使用した。

平安宮跡　　図版１　8,000分の１（聚楽廻、壬生）

平安京跡　　図版２～13　8,000分の１（船岡山、衣笠山、花園、聚楽廻、御所、山ノ内、壬生、三条大橋、西京極、島原、五条大橋、中河原、梅小路、京都駅）

各報告の「調査位置図」5,000分の１

図１・８　（三条大橋）　図13・65　（五条大橋）

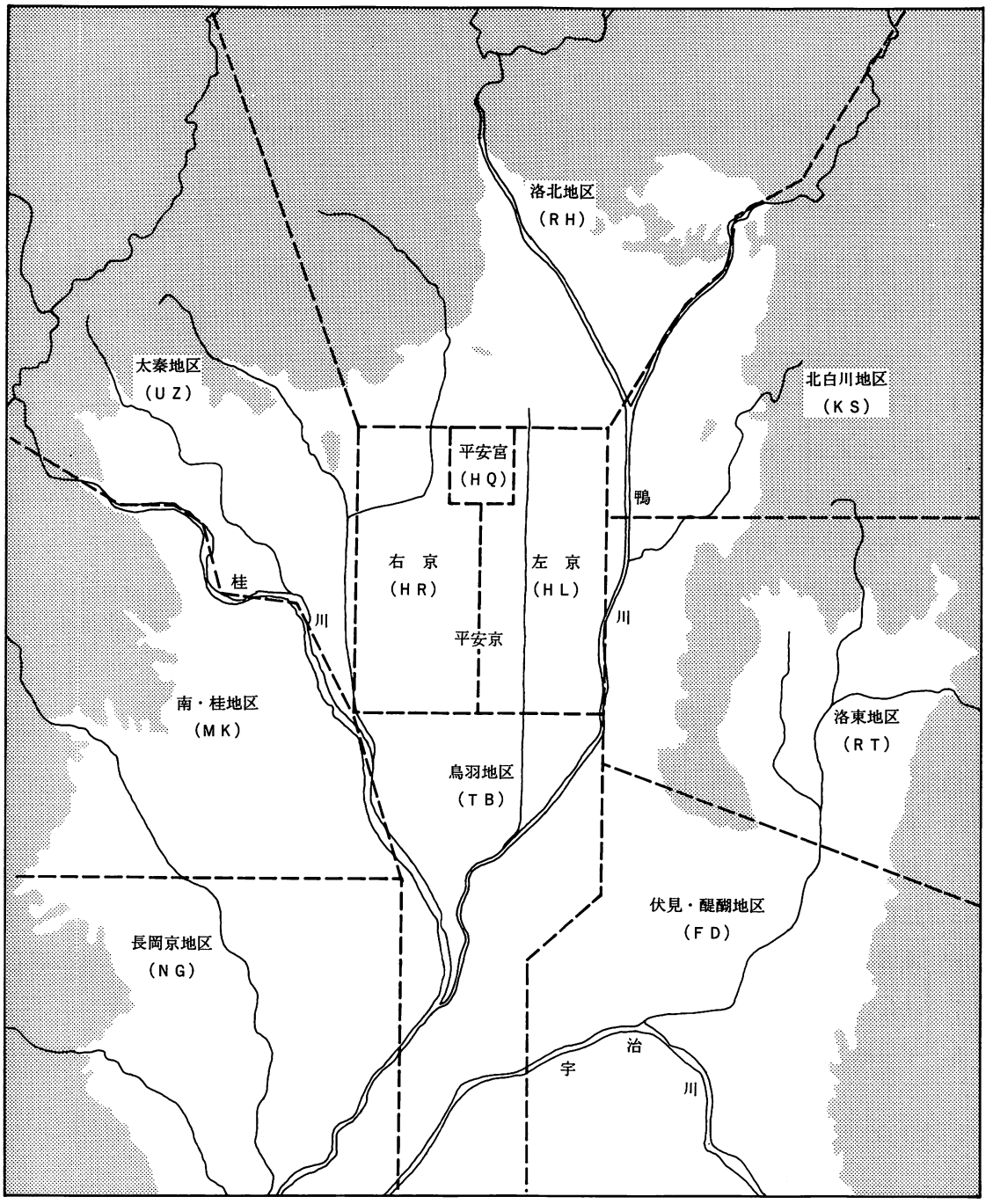
図16　（花園・聚楽廻）　図20・43・46・30　（花園）

図23　（山ノ内・壬生）　図26・33・34　（西京極）

図31・32　（山ノ内）　図38　（植物園）

図52　（宇多野）　図58　（太秦）

図63　（大原野）　図69　（横大路）


洛北地区
(RH)
太秦地区
(UZ)
北白川地区
(KS)
平安宮
(HQ)
鴨
右 京
(HR)
左 京
(HL)
桂
川
川
平安京
南・桂地区
(MK)
洛東地区
(RT)
鳥羽地区
(TB)
伏見・醍醐地区
(FD)
長岡京地区
(NG)
宇
治
川

地区設定概念図

本 文 目 次

I　調査概要……1

II　平安京跡……3

1　平安京左京三条三坊七町（96ＨＬ444）……3
2　平安京左京四条三坊八町（96ＨＬ374）……10
3　平安京左京六条三坊　六条大路（96ＨＬ491）……13
4　平安京右京一条二坊　近衛大路（97ＨＲ162）……15
5　平安京右京一条四坊二町（97ＨＲ93）……18
6　平安京右京四条二坊十一・十二町　淳和院（96ＨＲ470）……19
7　平安京右京五条三坊四町（97ＨＲ314）……21
8　平安京右京六条二坊十二・十三町（97ＨＲ21）……25

III　その他の遺跡……27

1　植物園北遺跡（97ＲＨ202）……27
2　北野遺跡・北野廃寺１（97ＲＨ23）……30
3　北野遺跡・北野廃寺２（97ＲＨ65）……32
4　梅ケ畑祭祀遺跡（97ＵＺ１）……38
5　広隆寺旧境内（97ＵＺ201）……47
6　南春日町遺跡（96ＭＫ312）……52
7　法住寺殿跡・六波羅政庁跡（96ＲＴ512）……54
8　下三栖遺跡（97ＴＢ63）……57

表 目 次

調査一覧表……65

I　1997年　１～３月期（平成８年度）……65
II　1997年　４～12月期（平成９年度）……72
III　1995年度（平成７年度未報告分）……84

報告書抄録……85

図 版 目 次

図版１～13　調査位置図
図版１　平安宮
図版２　平安京左京北辺～三条　一・二坊
図版３　平安京左京北辺～三条　三・四坊
図版４　平安京左京　四～六条　一・二坊
図版５　平安京左京　四～六条　三・四坊
図版６　平安京左京　七～九条　一・二坊
図版７　平安京左京　七～九条　三・四坊
図版８　平安京右京北辺～三条　三・四坊
図版９　平安京右京北辺～三条　一・二坊
図版10　平安京右京　四～六条　三・四坊
図版11　平安京右京　四～六条　一・二坊
図版12　平安京右京　七～九条　三・四坊
図版13　平安京右京　七～九条　一・二坊
図版14～18　平安京左京三条三坊七町（96ＨＬ444）
図版14　１　No.２地点　土壙遺物出土状況
２　No.４地点　南北溝断面
図版15　No.２地点　土壙出土遺物
図版16　No.２地点　土壙出土遺物
図版17　No.２地点　土壙出土遺物
図版18　１　No.２地点　土壙出土遺物
２　No.３地点　池出土遺物
図版19・20　平安京左京四条三坊八町（96ＨＬ374）
図版19　１　落込　土器出土状況
２　落込　出土遺物
図版20　落込　出土遺物
図版21　平安京左京六条三坊　六条大路（96ＨＬ491）
図版21　１　調査地全景
２　東壁断面
図版22　平安京右京一条四坊二町（97ＨＲ93）
図版22　１　No.３地点　溝断面
２　No.４地点　溝断面
図版23　平安京右京四条二坊十一・十二町　淳和院（96ＨＲ470）
図版23　１　No.５地点　断面
２　No.６地点　断面
図版24　平安京右京五条三坊四町（97ＨＲ314）
図版24　１　溝１　断面
２　溝２　断面
図版25　平安京右京六条二坊十二・十三町（97ＨＲ21）
図版25　１　調査地全景
２　No.３・４地点　断面

図版26　植物園北遺跡（97ＲＨ202）
図版26　1　竪穴状遺構
2　No.4地点　溝、調査風景
3　各遺構　出土遺物
図版27　北野遺跡・北野廃寺（97ＲＨ23・65）
図版27　1　97ＲＨ23　基壇状高まり　断面
2　97ＲＨ65　第2面全景
図版28～34　梅ケ畑祭祀遺跡（97ＵＺ１）
図版28　1　調査当初　丘陵全景
2　調査中　丘陵全景
図版29　1　頂部　遺構検出状況1
2　頂部　遺構検出状況2
3　Ａ-6地区　整地層上面検出状況
4　Ａ-6地区　柱穴列1
図版30　1　Ｂ地区　ＳＸ１掘り下げ状況
2　Ｂ地区　ＳＸ１銭貨出土状況
図版31　1　Ａ-2・3地区　完掘状況
2　Ａ-2地区　遺物出土状況
3　Ａ-3地区　遺物出土状況
図版32　1　Ｃ地区　検出状況
2　Ｄ-7地区　遺物出土状況
図版33　1　Ｄ-8地区出土　線刻石製品
2　各地区出土　二彩陶器
図版34　1　各地区出土　銭貨
2　墨書土器
図版35～37　広隆寺旧境内（97ＵＺ201）
図版35　1　調査地全景
2　土壙4　断面
図版36　軒平瓦・鬼瓦・平瓦
図版37　平瓦
図版38　南春日町遺跡（96ＭＫ312）
図版38　1　調査地全景
2　遺構全景
図版39　法住寺殿跡・六波羅政庁跡（96ＲＴ512）
図版39　1　調査地全景
2　東壁　溝断面
3　西壁　溝断面
図版40～42　下三栖遺跡（97ＴＢ63）
図版40　1　No.6地点　溝1断面
2　No.9地点　溝2完掘状況
図版41　溝2　出土土器
図版42　1　溝2　出土製塩土器
2　溝2　出土埴輪
3　溝1　出土土器

挿　図　目　次

96ＨＬ444
図１　調査位置図……３
図２　遺構位置図……３
図３　No.２地点平面・断面図……４
図４　No.４地点北壁断面図……４
図５　No.２地点出土遺物実測図１……５
図６　No.２地点出土遺物実測図２……６
図７　No.３・５地点出土遺物実測図……８
96ＨＬ374
図８　調査位置図……10
図９　遺構位置図……10
図10　落込略実測図……10
図11　遺物実測図……11
図12　蒔絵片……12
96ＨＬ491
図13　調査位置図……13
図14　遺構位置図……13
図15　東壁断面図……14
97ＨＲ162
図16　調査位置図……15
図17　調査地点図……16
図18　柱状断面図……16
図19　遺物実測図……17
97ＨＲ93
図20　調査位置図……18
図21　調査地点位置図……18
図22　No.４地点南壁断面図……18
96ＨＲ470
図23　調査位置図……19
図24　調査地点位置図……19
図25　No.５地点北壁断面図……20
97ＨＲ314
図26　本調査および関連調査位置図１…21
図27　遺構位置図……21
図28　北壁断面図……22
図29　遺物実測図……22
図30　関連調査位置図２……23
図31　関連調査位置図３……23
図32　関連調査位置図４……24
図33　関連調査位置図５……24
97ＨＲ21
図34　調査位置図……25
図35　遺構位置図……25
図36　遺構断面図……25
図37　文字瓦拓影……26
97ＲＨ202
図38　調査位置図……27
図39　遺構平面図……27
図40　東壁断面図……28
図41　遺物実測図……28
図42　鉄製鎌実測図……29
97ＲＨ23
図43　調査位置図……30
図44　遺構位置図……30
図45　遺構断面図……30
97ＲＨ65
図46　調査位置図……32
図47　調査区位置図……32
図48　遺構平面図……33
図49　南・北壁断面図……34
図50　セクション断面図……35
図51　遺物実測図……36
97ＵＺ１
図52　調査位置図……38
図53　丘陵地形図およびトレンチ配置図…39
図54　頂部遺構平面・断面図……41
図55　線刻石製品実測図……43
図56　二彩陶器実測図……44
図57　銭貨拓影……45
97ＵＺ201
図58　調査位置図……47
図59　遺構位置図……47
図60　遺構断面図……48
図61　遺物実測図……49
図62　瓦拓影・実測図……50
96ＭＫ312
図63　調査位置図……52
図64　遺構平面図……53
96ＲＴ512
図65　調査位置図……54
図66　遺構位置図……54
図67　遺構断面図……55
図68　遺物実測図……55
97ＴＢ63
図69　調査位置図……57
図70　調査地点位置図……57
図71　No.５～７・９地点遺構断面図……58
図72　溝１出土土器実測図……60
図73　溝２出土土器実測図１……61
図74　溝２出土製塩土器拓影・実測図…61
図75　溝２出土土器実測図２……62
図76　溝２出土埴輪拓影・実測図……63
図77　土壙３出土土器実測図……63
図78　土壙３出土土器……63

Ⅰ 調 査 概 要

(財)京都市埋蔵文化財研究所では京都市文化市民局の委託を受けて、京都市内の遺跡を対象とした文化庁国庫補助事業による立会調査を実施している。本書では平成９年度概要報告として、1997年１月６日から３月31日までの1996年度と、同年４月１日から12月25日までの1997年度の調査成果を合わせて報告する。調査件数は1996年度１～３月期が162件、1997年度４～12月期が360件であった。京都市内を便宜的に地域分けした各地区の調査件数は下表のとおりである。

地　　区	96年度1～3月	97年度4～12月	小計	地　　区	96年度1～3月	97年度4～12月	小計
平安宮(ＨＱ)	37	58	95	南・桂地区(ＭＫ)	7	5	12
平安京左京(ＨＬ)	39	87	126	洛東地区(ＲＴ)	14	39	53
平安京右京(ＨＲ)	23	60	83	鳥羽地区(ＴＢ)	11	15	26
洛北地区(ＲＨ)	3	17	20	伏見地区(ＦＤ)	14	24	38
太秦地区(ＵＺ)	2	15	17	長岡京地区(ＮＧ)	4	16	20
北白川地区(ＫＳ)	8	24	32	計	162	360	522

本書では成果の良好な調査のうち16件について概要報告を行い、その他は調査一覧表としてまとめた。なお、一覧表では未報告の1995年度調査分も掲載した。

立会調査の原因は工事の種類によって、小面積の宅地での建築工事に伴うものと、現道路での埋設工事に伴うものに大きく分けることができる。本年度の件数の比率では圧倒的に建築工事が多い。住宅建替え工事が最も多く、共同住宅や店舗・事務所の建築工事が次いでいる。埋設工事では、阪神大震災以降盛んに行われている耐震性のガス管への布設替え工事が各所で調査の対象となった。また、上水道管の老朽化に伴った布設替え工事も目立った。

平安宮(ＨＱ)　宮域では良好な成果は得られなかった。昨年と同様に小面積の宅地の開発が多く、工事掘削深が浅いことから、遺構や遺構面に達しないものがほとんどであった。豊楽院（97ＨＱ58）では、現代盛土直下で版築状の土層を確認した。遺物が出土せず、時期は確定できなかったが豊楽院に関連する施設と考えられる。

平安京左京(ＨＬ)　左京域では、三条三坊七町（96ＨＬ444）と四条三坊八町（96ＨＬ374)、六条三坊（96ＨＬ491）の３件の概要を報告する。京都御苑では、計画されている迎賓館建設に関連する調査（96ＨＬ492）があり、近世の整地層・遺物包含層が良好に遺存していることが明らかとなった。条坊に関連する成果には、東京極大路西側溝(96ＨＬ492)、三条坊門小路路面(９６ＨＬ536)、五条大路北築地内溝（96ＨＬ532)、六条大路路面（96ＨＬ491)、八条大路路面（97ＨＬ22）などがある。

平安京右京(ＨＲ)　右京域では、一条二坊（97ＨＲ162)、同四坊二町（97ＨＲ93)、四条二坊十一・十二町（96ＨＲ470)、五条三坊四町（97ＨＲ314)、六条二坊十二・十三町（97ＨＲ21）の５件の概要を報告する。これらのうち、97ＨＲ93を除く４件は条坊に関連する成果であった。こ

れ以外の条坊関連のものには、野寺小路路面（97ＨＲ358)、西大宮大路西側溝と考えられる落込(97ＨＲ241)、同路面（97ＨＲ２)、左女牛小路北側溝（97ＨＲ240）などがある。

洛北地区(ＲＨ)　植物園北遺跡８件、北野遺跡および北野廃寺３件、平安京隣接地・紫野斎院跡各２件、世尊寺跡・新町校地跡・聚楽第跡・小野瓦窯跡・元稲荷瓦窯跡各１件であった。そのうち植物園北遺跡（97ＲＨ202)、北野遺跡・北野廃寺（97ＲＨ23・65）の３件を概要報告する。97ＲＨ23では寺域の西端で平安時代以降の版築による基壇状の遺構、また97ＲＨ65では道祖大路の北延長の平安時代中期以降の路面と側溝を確認したことは注目される。

太秦地区(ＵＺ)　広隆寺旧境内３件、南野古墳群・上ノ段町遺跡・東衣手町遺跡各２件、梅ケ畑遺跡隣接地・清凉寺境内・仁和寺院家跡・円乗寺跡・草木町遺跡・法金剛院境内・多藪町遺跡・西野町遺跡各１件であった。これらのうち梅ケ畑遺跡隣接地（97ＵＺ１）と広隆寺旧境内（97ＵＺ201）の概要を報告する。97ＵＺ201は寺域の南限付近にあたり、ここで遺構・遺物を検出したことは、今後広隆寺旧境内の寺域を考えるうえで重要である。

北白川地区(ＫＳ)　岡崎遺跡および白河街区跡22件、京都大学構内遺跡・北白川廃寺各４件、池田町古墳群２件であった。顕著な調査成果はないが、北白川廃寺（97ＫＳ189）では古墳時代・奈良時代前期・平安時代後期の土壙を検出している。また、京都大学北部構内遺跡（97ＫＳ46）では６地点で縄文時代後期と弥生時代前期の遺物包含層などを確認した。

南・桂地区(ＭＫ)　南春日町遺跡３件、中久世遺跡・大藪遺跡各２件、松室遺跡・下津林遺跡・法華山寺跡・芝古墳群・妙見山古墳隣接地各１件であった。奈良・平安・鎌倉各時代の掘立柱建物などを検出した南春日町遺跡（96ＭＫ314）の概要を報告する。

洛東地区(ＲＴ)　中臣遺跡34件、法住寺殿跡および六波羅政庁跡８件、山科本願寺跡５件、法性寺跡・安朱遺跡各３件であった。このうち法住寺殿跡・六波羅政庁跡（96ＲＴ512）の概要を報告する。そのほかでは中臣遺跡（97ＲＴ129）で中世の遺構が良好に遺存していた。

鳥羽地域(ＴＢ)　鳥羽離宮跡17件、下三栖遺跡３件、上鳥羽遺跡２件、唐橋遺跡・烏丸町遺跡・下鳥羽遺跡・西飯食町遺跡各１件であった。下三栖遺跡（97ＴＢ63）の概要を報告する。この遺跡は近年存在が明かとなった集落遺跡である。ほかに、下鳥羽遺跡（97ＴＢ337）では弥生・奈良・平安各時代の遺物包含層を確認している。

伏見・醍醐地区(ＦＤ)　伏見城跡33件、深草坊町遺跡２件、嘉祥寺跡・醍醐廃寺・向島城跡各１件である。顕著な成果はなかった。

長岡京地区(ＮＧ)　長岡京跡19件、久我殿遺跡１件で、顕著な成果はなかった。

本年度報告分のうち、97ＵＺ１は銅鐸出土地の隣接地として調査を開始したが、丘陵頂部に平安時代前期を中心とする祭祀跡が良好に残っており、発掘調査に切り替えた。この丘陵には梅ケ畑遺跡や御堂ヶ池古墳群が存在するにも拘らず、当遺跡はこれまで全く知られずにいた。このことは、京都市域にまだ認識されていない遺跡が数多く残されていることを示唆している。今後も遺跡外とされている地域についても機会あるごとに調査を行う必要があろう。　（高橋　潔）

II　平　安　京　跡

1　平安京左京三条三坊七町（96ＨＬ444）

調査経過（図１）

調査地は中京区衣棚通押小路下る下妙覚寺町185・187・189番地である。当地のマンション建設に伴って、1997年２月12日から３月４日の間に計７日間調査を実施した。

当地は平安京左京三条三坊七町に位置し、平安時代は「鴨院」、南北朝時代は二条良基の「二条殿」がある。[註1] 応仁元（1467）年から天正十四（1586）年の120年間を描いたとする宝暦三（1753）年作図の『中昔京師地図』には、室町小路を挟んで東西２箇所に池が描かれており、東の池には「竜躍池」と記されている。室町時代の文明十五（1483）年以降は日蓮宗妙覚寺の寺地にあたる。また当地東隣には現在も御池之町の町名が残る。

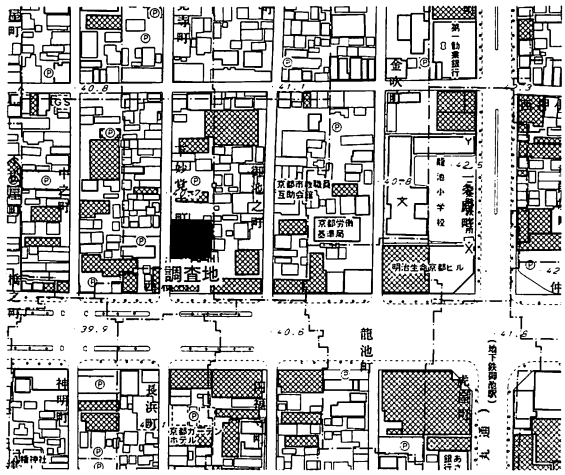


図１　調査位置図（1：5,000）

遺　構（図版14、図２～４）

敷地の４地点で調査を実施した。以下に各地点毎に遺構をまとめて概説する。なお、敷地に西面する南北道路中央を水準点とした。

No.１地点　-1.58mで一辺0.4mの方形、深さ0.16mの柱穴を確認した。中央に径0.15mの柱根跡がある。埋土からは平安時代後期の土師器、白色土器が出土している。No.１地点から１m東の地点の-1.6mでは、無遺物層の明黄褐色砂泥層を切込んで南北1.5m以上、東西0.7m以上の落込１基を確認した。埋土からは中世から江戸時代前期の土師器、須恵器、瓦器、陶器、輸入陶磁器、瓦が出土した。

No.２地点　工事によって-1.64mまで無遺物層の明黄褐色砂泥層が削平されていたが、この上面で南北1.5m、東西3.1m、深さ0.88mの隅の丸い長方形をした土壙を確認した。この土壙は、中央部が南北1.5m、東西1.6mでほぼ垂直

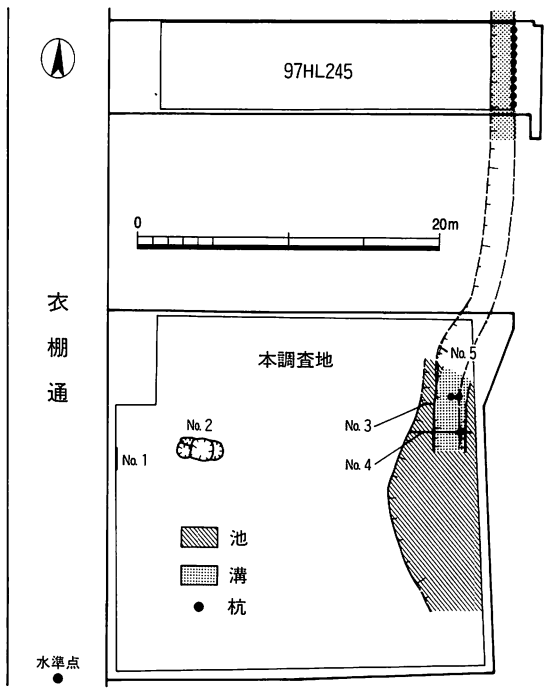


図２　遺構位置図（1：500）

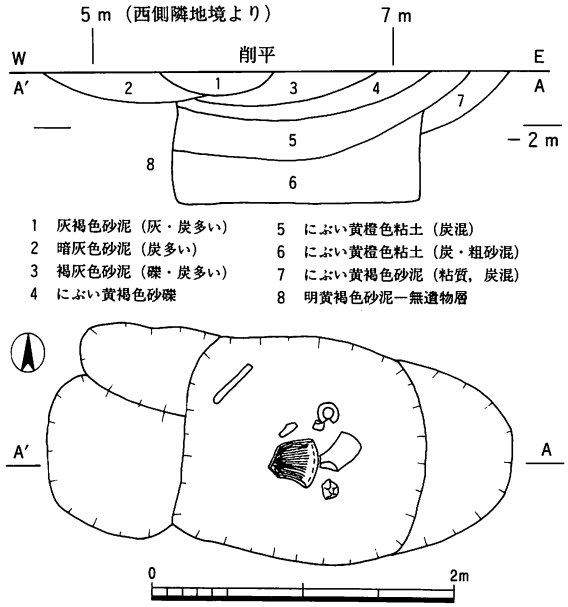


図３　No.２地点平面・断面図（1：50）

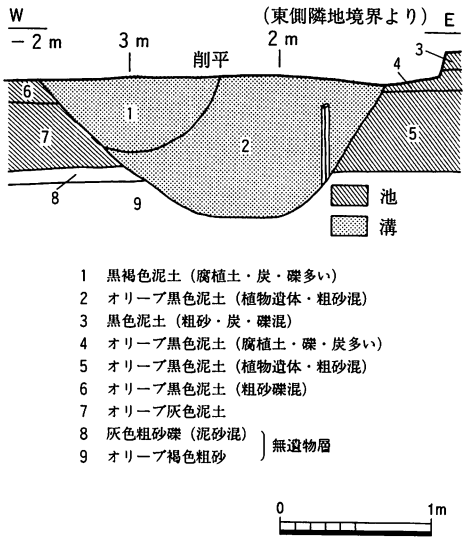


図４　No.４地点北壁断面図（1：50）

に掘り込まれている。埋土は７層に分けられ、第１層には灰・炭、第３層には礫・炭、第６層には炭・粗砂、その他の第４層以外の層には炭が含まれていた。埋土からは江戸時代前期の遺物が出土した。

No.３地点　-1.82mで池の西肩を南北方向に20m分を確認した。敷地東端から西肩までの距離は4.05～6.55mである。池の肩は、敷地の南北の中央付近で西へ少し弯曲しふくらむ。この池は東側隣地へ大きく広がっていると考えられる。埋土からは鎌倉時代から江戸時代前期の遺物が出土した。

No.４地点　No.３地点で確認した池の埋土を切って幅2.3m、深さ0.92mの南北溝を確認した。溝の東肩の底部近くで、縦0.04m、横0.1mの断面長方形で長さ0.5mの杭を１本検出し、この杭から北へ2.4mの地点とさらにこの地点から西へ0.7mの地点でそれぞれ１本の杭を検出した。これらは溝の護岸施設に伴うものと考えられる。溝は最終的には幅が約半分の西側だけとなり、浅くなる。埋土には腐植土や植物遺体が多く混入しており、流れが澱んでいたことを窺わせる。埋土からは江戸時代前期の土師器、天目椀、擂鉢、瓦質火鉢が出土した。

No.５地点　溝の埋土と思われる堆積層を確認した。埋土から江戸時代前期頃の土師器、瓦器、陶磁器、瓦が出土した。

当調査地より２軒北側の立会調査[註2]（97ＨＬ245）でも、当地から北へ続く同時代の池と杭を伴う南北溝の西肩と考えられる落込を確認した。この西肩とNo.４地点の西肩では、前者が3.75m東にある。また現在の両調査地の東側隣地境界線を比較すると、当調査地の北側で大きく東へ振れ、西肩と同程度にずれている。この境界線は南北溝のやや東側のラインを踏襲したものと考える。

遺　物（図版15～18、図５～７）

No.２地点の土壙から出土した一括遺物（１～60）は量的には少ないが、土師器、瓦器、陶器、焼締陶器、輸入磁器類などの他に銭、鋳造関連の遺物がある。

No.３～５地点の池、南北溝から出土した遺物（61～73）は、遺物整理箱に３箱あり、土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入磁器類、瓦、他に鋳造関連の遺物などがある。72はNo.５地点、その他はNo.３地点から出土した。鋳造関連具としては、坩堝、フイゴ羽口、砥石、鉄滓が出土し

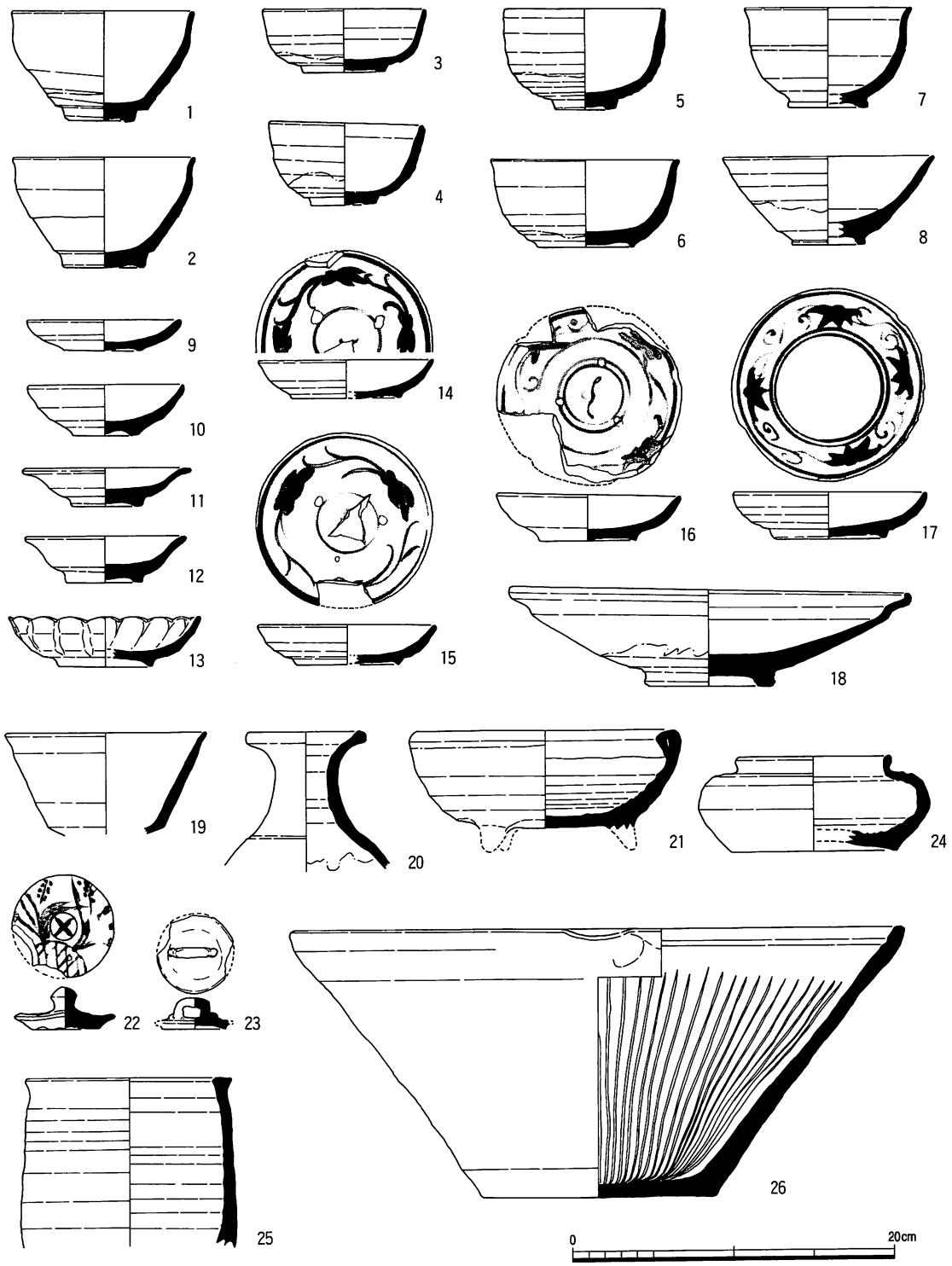


図５　No.２地点出土遺物実測図１（1：4）

ている。

（１・２）は天目茶椀でいずれも体部の立ち上りが強く、口縁部はほぼ直立しており、高台内の削りが浅い。１は器高に比べ高台径が小さくやや不安定であり、高台は削り出しで作りは粗い。釉は暗褐色で外面の各所に素地がのぞく。胎土は淡黄色で軟質である。２は１に比べ高台径がやや大きく高台付近のヘラケズリも丁寧である。内面底部には緩やかな凹みがみられる。釉は黒褐

色を呈する。

（3～6）は志野産の杯・椀でいずれも長石釉が掛かる。また4～6は「入れ子」にして焼成したために内面底部に円錐ピンの痕が残る。3は底部付近で弯曲し、口縁部まで直線的に立ち上がる。底部は削り出し高台で、釉は白濁する。4は高台脇で内弯気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。器壁は全体的に厚い。胎土は灰白色で粗い。5の体部は高台脇で弯曲し、直線的に口縁部までのびる。削り出しの輪高台の径は小さく、高台から体部にかけてのヘラケズリの幅は細く密である。釉に貫入がみられる。6はこの中では大振りである。高台脇から緩やかに内弯して立ち上がり口縁端部はわずかに外反する。高台径は大きく碁笥底となる。釉の薄い部分には粗い貫入がみられる。

（7・8）は唐津椀である。7は体部が内弯気味に立ち上がり口縁は外反する。輪高台の削り出しは粗い。釉は黄褐色の灰釉である。8は体部が斜めにほぼ直線的に開く椀で、輪高台の削りは丁寧である。体部外面の施釉範囲は比較的狭く露胎部が広い。胎土は微砂質だが精良で黄色を

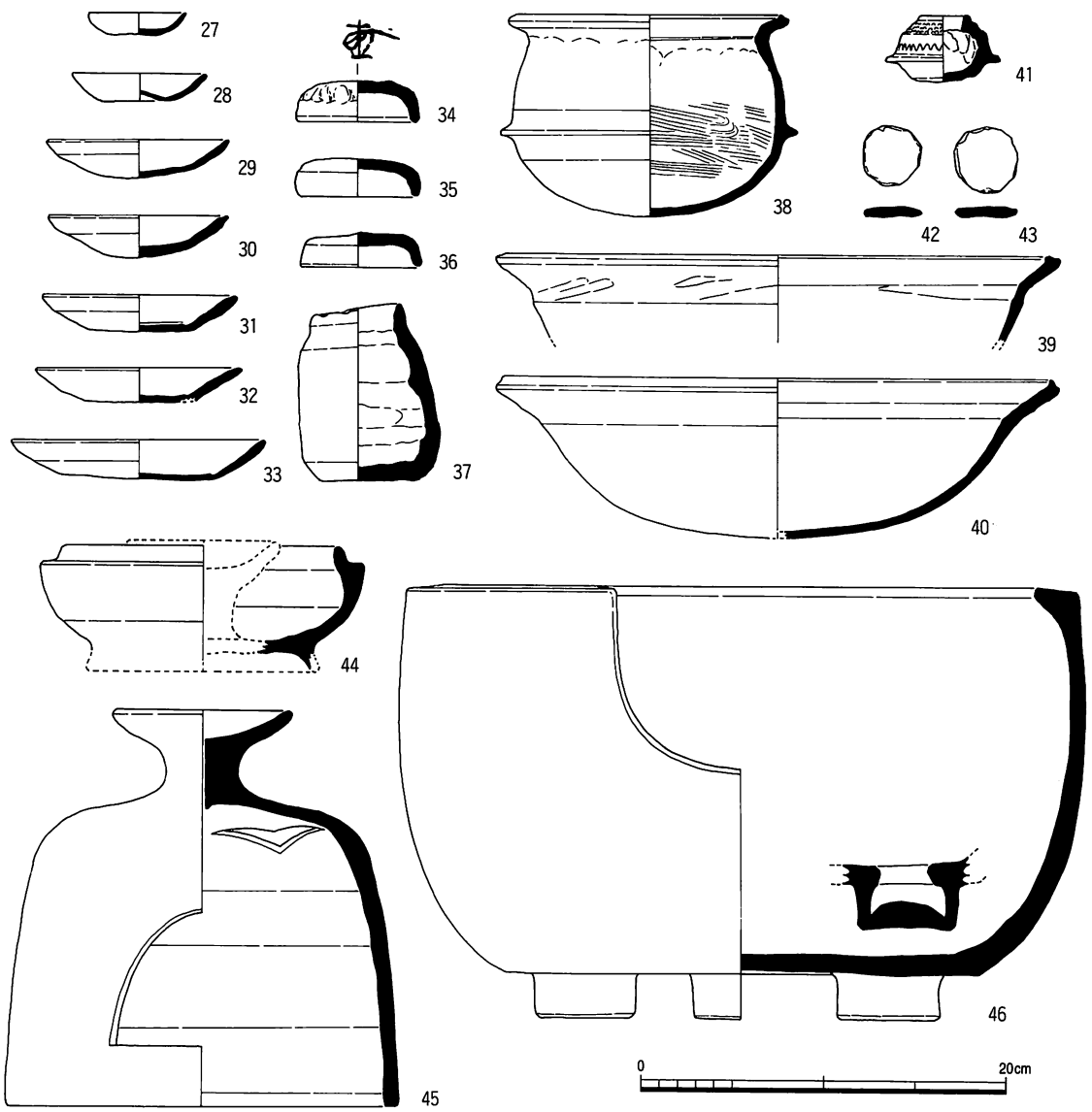


図6　No.2地点出土遺物実測図2（1：4）

呈する。内面底部に目跡がみられる。

（9～18）は皿類である。9は高台が碁筍底の黄瀬戸皿で、全面に黄灰色の釉が掛けられ、高台脇には目跡が3箇所みられる。10～12は唐津皿で、10は粗い削り出し高台で、体部が内弯ぎみに立ち上がる。口縁端部に鉄釉を塗る。釉はくすんだ灰緑色で、露胎部は茶褐色に発色し硬く焼き締まる。11・12の口縁部はゆるやかに外反し、端部は厚く丸みをもっておわる。黄緑色の灰釉が厚く掛けられ、高台周辺の露胎部に火色がみられる。12の内面底部には胎土目跡がみられる。13は志野織部菊皿で、高台内の一部を残し全体に青みがかった長石釉を厚く掛ける。内面底部と高台内に目跡がみられる。14～17は志野織部丸皿で、いずれも内面に鉄釉で圏線と蔓文を描き長石釉を掛ける。14・15の胎土は緻密で焼成は硬く青灰色で、16・17の胎土はやや粗く軟質で黄白色を呈しており、窯の違いが考えられる。16は口縁端部を浅く凹め輪花状につくり、釉は白濁し釉下の鉄絵が不鮮明である。いずれも底部内外面に目跡が残る。18は唐津大皿で体部は高台から斜めに直線的に開き、口縁部で外反し端部を上方に丸くおさめる。釉は淡緑褐色で、体部下半の露胎部は赤褐色を呈する。内面底部に目跡が4箇所みられる。胎土は砂質で灰色である。

（19）は黄瀬戸の椀で、高台脇に稜をもち体部が斜め上方に直線的にひらき、口縁部は薄く端部がわずかに外反する。釉は淡黄灰色を呈する。

（20）は唐津徳利で肩部に一条の凹線を施す。釉は黒褐色の灰釉で、胎土は淡黄褐色で粗い。

（21）は三足付きの鉢で、体部は内弯気味に立ち上がり、端部を内側に折り曲げて口縁を玉縁状につくる。体部上半から底部にかけてはヘラケズリを施し、暗褐色の鉄釉を口縁を除く外面全体に漬け掛けしており、釉面は光沢がなくザラつく。胎土は褐黄色で粗い。口縁に貝の目跡がみられ北九州系の製品とみられる。

（22）は志野水注蓋。上部はつまみの左右に鉄釉で秋草を描き長石釉を厚く掛け、下部は糸切りのまま未調整で無施釉である。胎土は黄白色で焼成は良好である。

（23）は美濃の水注蓋。紐状のつまみを付け、黄白色の灰釉を掛ける。下部は糸切りのまま未調整で無施釉。胎土は黄白色である。

（24）は備前の壷である。白色の砂・礫を含む粗い胎土で、底部、体部下半に粗いヘラケズリを施す。外面底部と肩部に重ね焼きの跡が残る。外面底部にヘラ記号の一部が見られる。

（25）は備前焼きで、筒形の胴部に平坦で幅広の口縁が付く。胎土は赤褐色で白色礫を含む。

（26）は丹波擂鉢で内面の片口部脇に「二」字のヘラ記号がある。内面の磨滅が激しい。

（27～33）は土師器皿で、大・小4タイプに分類できる。31～33は内底部に圏線があり、29・30にはない。31～33は灯明皿として使用され煤が付着しており、32には圏線部に穿孔がされ、外面にも煤がみられる。

（34～37）は焼塩壷で、蓋34～36はいずれも内面には布目痕が残る。34は指オサエ痕が顕著で上面に墨書がされている。身37は底部から肩部にかけてやや細くなり口縁は直立する。底部は未調整で、体部は粗いナデ、肩部から口縁にかけて強いヨコナデを施す。

（38）は大和型とみられる羽釜で、内面全体に炭素が吸着し黒変するが、外面に煤の付着は認

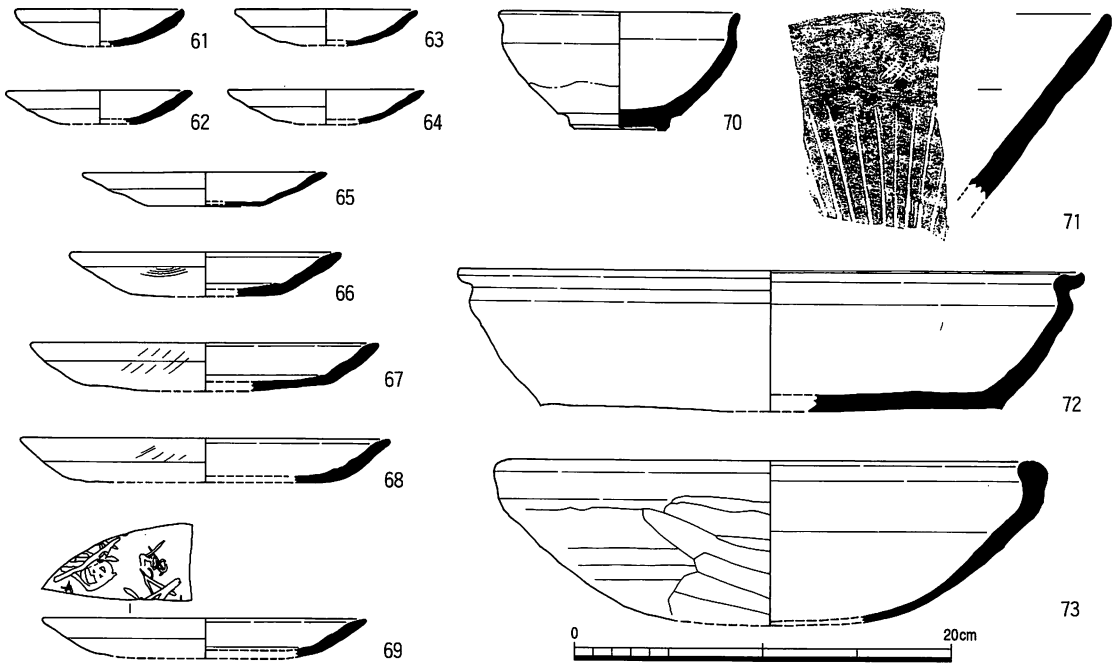


図７　No.３・５地点出土遺物実測図（1：4）

められない。

（39・40）は焙烙で、口縁部を「く」字状に外反させ端部を内上方に折る。口縁の内外面は荒いヨコナデで体部内外面はミガキを施す。39の内面にはハケメが認められる。いずれも外面に煤が付着する。

（41）は上半部を型作りした羽釜のミニチュアである。

（41・42）は土師器皿の口縁部を利用し円形に加工したものである。用途は不明である。

（44・45）は瓦燈である。44は台部の破片で、内面底部中央に火皿が付くと思われる。胎土は茶褐色で砂粒を含み粗い。45は蓋で、釣鐘形を呈する。火口からみて右奥に雁形の透かしを一つ配する。胎土は灰白色で精良である。

（46）は瓦質の風炉で、体部は内弯して立ち上がり、口縁上端を平坦にして内側に突出させる。底部には穴を３個所穿ち中空の脚を接合する。内外面が黒色で外面は丁寧にヘラミガキされ、光沢がある。胎土は灰白色で精良である。

（47～60）は輸入磁器で、型成形の白磁・青花の鉢・杯・椀・皿類である。

（61～69）は土師器皿である。61～64は内面を回しナデただけのもの、65～69は体部内面立ち上がり部に凹線状圏線をもつもの。66～69は口径14.4cm～19.6cm、厚さ0.6cmと大型で器壁が厚く、板状工具で体部外面を斜め、内面底部を一定方向に成形後、外面を押し当て型作りで平滑にしている。また内外面に高熱によると思われる変色、鉱滓状のものの付着がみられる。鋳造関連に使用した可能性が考えられる。69は内面に花押を練習した墨書がみられる。

（70）は天目茶椀である。口径に比べ器高が低く、釉は明黄褐色で体部上半にかかる。胎土は灰白色である。

（71）は丹波擂鉢である。片口部脇の内面に「※」のヘラ記号がある。

(72) は備前鉢である。体部は外上方へやや直線的に立ち上がり、内弯する頸部から口縁部は水平に外折し、端部を上方へつまみ上げる。

(73) は焙烙である。口縁は肥厚して立ち上がり、端部は平坦な面となる。内面は下半に一定方向のナデ、上半にヨコナデを施す。外面は口縁部をヨコナデし、体部を横方向にヘラケズリしている。外面には煤が付着する。

ま と め

1 江戸時代初頭の池、溝、土壙を検出した。

2 池は昔からの湧水地のなごりで、平安時代から邸宅の苑池として利用され、江戸時代初頭まで池として残り、埋没後最終的に溝が開削される。

3 土壙から出土した遺物は、江戸時代初頭の町屋の生活を彷彿させる多種類の日用品を含んでいる。

4 池や土壙から鋳造関連遺物が出土しており、周辺に鋳造施設が想定される。

これらのことから、推測ではあるが当地には衣棚通に面した町屋があり、鋳造関係の施設があったと思われる。屋敷裏には東側の隣家との間に池、後世には溝状の水路があり、様々な日常生活に利用されていたのであろう。また、池近くの裏庭あたりに掘られた穴には、食器、調理具、灯明具などの日常用具が投棄され、この町屋の暮らし向きが偲ばれる。

(竜子正彦・本　弥八郎)

註1　京都市編『史料京都の歴史』第9巻　中京区　平凡社　1985年

註2　本書 「調査一覧表」

2　平安京左京四条三坊八町（96ＨＬ374）

調査経過（図８）

調査地は中京区室町通三条下る烏帽子屋町482・484番地で、マンション建設が計画されたため、1996年12月６日から1997年１月８日の間に計４日間調査を実施した。当地は平安京左京四条三坊八町にあたる。

図８　調査位置図（1：5,000）

遺　構（図版19-１、図９・10）

敷地と前面の南北道路との境界の縁石上を水準点とした。

調査開始時には既に-1.86mまで掘削されており、この深さで敷地の北西隅に落込を検出した。落込は無遺物層の暗灰黄色砂を切って成立する。規模は東西3.8m以上、南北1.3m以上、深さ0.49mで、方形あるいは長方形になると思われる。壁面は垂直で、底面はほぼ水平である。埋土は炭を多量に含んだ黒色泥土で、一部に平安時代後期の土師器皿を含む土がブロック状に混入する。埋土からは江戸時代前期の一括の遺物が出土した。

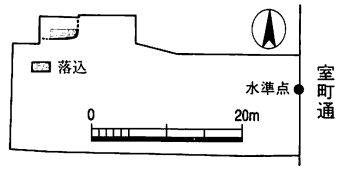


図９　遺構位置図（1：1,000）

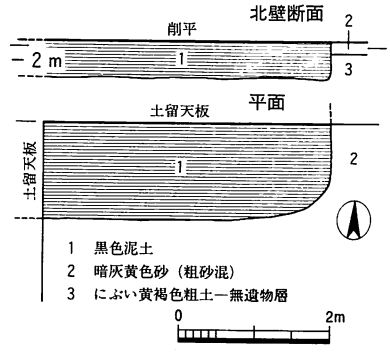


図10　落込略実測図（1：100）

遺　物（図版19-２・20、図11・12）

落込から出土した遺物は土師器、瓦器、陶器、焼締陶器、輸入磁器類、瓦、土製品、鉄製品、石製品、漆器があり、遺物整理箱に３箱ある。

（１～３）は唐津椀である。１は内弯気味に立ち上がる体部にやや広い高台がつく。底部内面に重ね焼きの胎土目が４箇所ある。釉はオリーブ黄色である。２は体部が外上方に直線的に立ち上がり、少し小振りの高台がつく。釉は灰白色で、釉垂れの部分が白く泡立つ。体部立ち上がり部に細かい植物繊維が付着する。３は口縁部を欠く鉄絵の椀で、内弯気味に立ち上がる体部に側面を面取りした狭い高台がつく。高台脇の釉は白濁し皺がみられる。

（４）は瀬戸・美濃系の灰釉椀である。直線的に立ち上がる体部に安定感のある高台がつく。釉はオリーブ灰色で銀化し、内面底部の釉が磨り減っている。

（５）は美濃産の椀で、半筒型である。釉は赤みを帯びた暗褐色で全面に施釉され、高台全面に重ね焼きの跡が残る。おそらく重ね焼きの溶着痕があったと思われる内面底部を削り研磨している。漆継ぎ跡がある。

（６）は美濃産の天目椀である。体部の立ち上がりが緩やかで、口縁端部は厚くわずかに外反

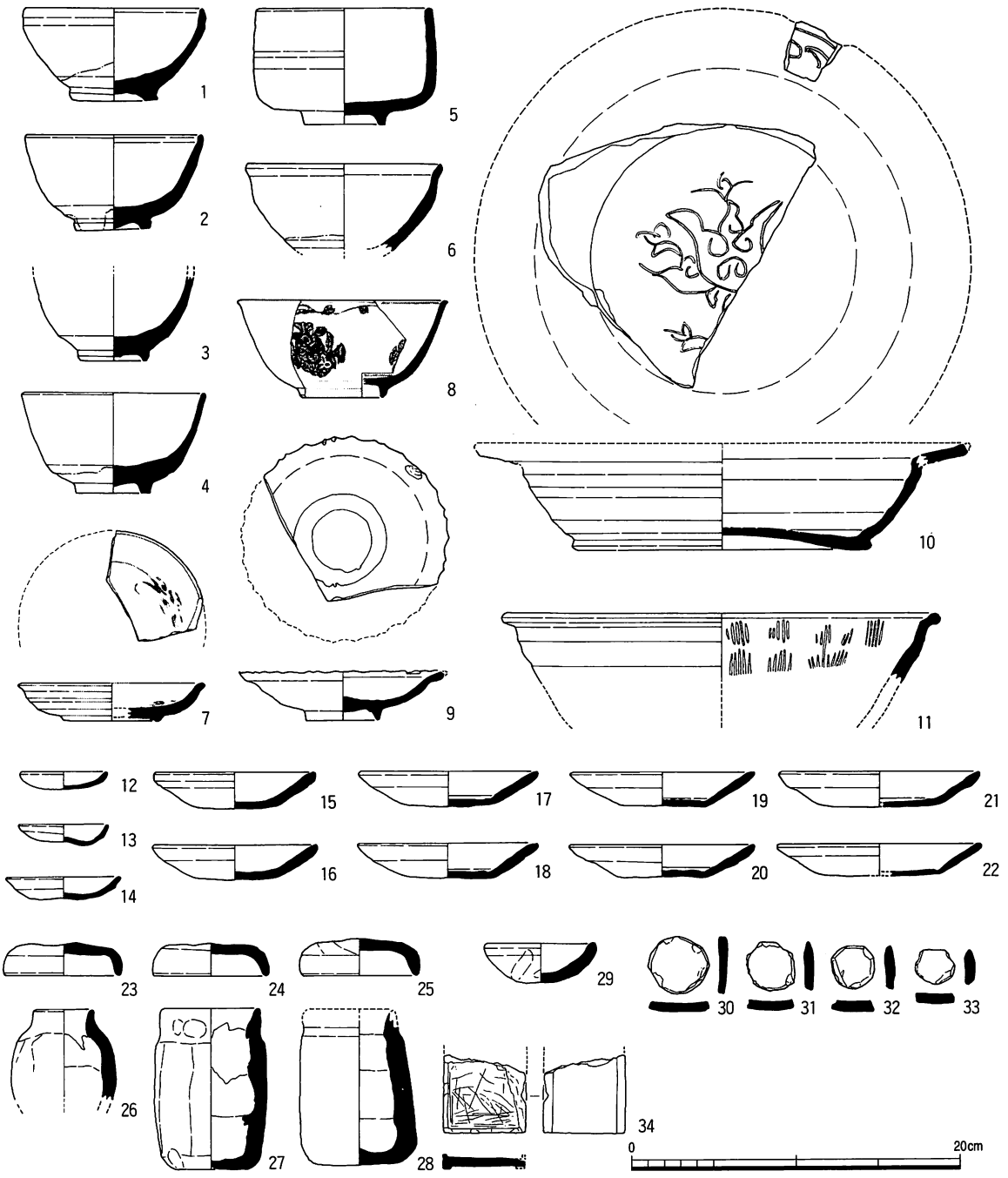


図11　遺物実測図（1：4）

する。釉は黒褐色を呈する。底部を欠く。

（7）は志野の絵皿で内面に鉄釉で蔓文を描く。

（8）は青花椀である。高台内の削り込みは深く、高台は面取りされて薄い。外面には口縁部に横方向の唐草、体部に4箇所花文を描く。

（9）は白磁皿で、口縁端部を波状に作る。高台内は露胎で、底部内面は蛇ノ目状に釉が剥ぎ取られ、体部下半と高台に焼けた粗い砂の付着がみられる。漆継ぎの跡がある。

（10）は華南三彩盤である。底部は中央が高まり体部は少し内弯して立ち上がる。口縁部は外折して端部は稜花を呈す。釉は底部外面を除く全面に施され、内面底部に一輪の花文、口縁部に

花文と稜花に沿った圏線を線刻する。地は緑彩で、線刻部分は黄彩と褐彩を施す。

(11) は擂鉢で5本単位の擂目を粗く施す。体部は少し弯曲して立ち上がり、口縁は外へ屈曲し端部は肥厚し丸くおさめ、内外面ともヨコナデしている。信楽産に似るが、胎土は精良である。

(12～22) は土師器皿である。12～14は口径5.4～7.0cmの赤色系の小型皿、15・16は内面ヨコナデだけの口径9.9～10.1cmの白色系小型皿、17～22は凹線状圏線をもつ口径10.9～12.4cmの白色系の大型皿である。

(23～25) は焼塩壷蓋で、いずれも内面をヨコナデし、外面に指圧痕が顕著である。

(26～28) は焼塩壷である。26は丸い体部にすぼまった狭い口縁部が直立してつく。27・28は体部外面を面取りヨコナデする。内面に布目痕が残る。

(29) は椀形の土製品で、外面は指オサエ、後にナデを施す。器壁が厚く、胎土に小礫が多い。用途は不明である。

(30～33) は土師器皿の口縁部を打ち欠いて、円形に作り出した土製品である。すべてに口縁端部を一部残す。31は口縁部に煤が付着する。用途は不明である。

(34) は硯で陸部のみが残存する。陸部の表面に鋭利な工具による直線的な傷が多く付けられている。材質は丹波帯凝灰質砂岩である。[註]

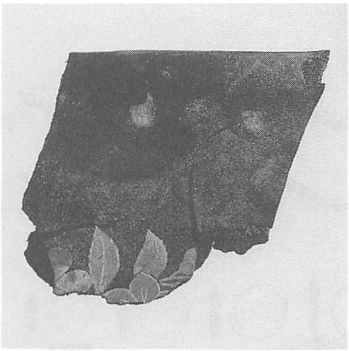


図12　蒔絵片(35)

(35) は蒔絵の漆器で、木地は腐食して消失しているが器壁は薄いと思われる。細片のため器形は不明。外面は地の黒漆の上に金で蒔絵を描き、内面は赤漆を塗り、端部を金で縁取る。蒔絵は模様を線描きしたものと、梨地で描いたものがあり、高台寺蒔絵と称されるものと考える。模様は桜と思われる花と葉を、特に葉は周囲の細かい鋸歯まで丁寧に描き込んでいる。

ま　と　め

当地域の三条通以南は、商家が集中した山鉾町で中世以降下京の中心地であり、文人や富裕な商人が暮らし活動していた。

出土した遺物のなかでも、華南三彩盤、高台寺蒔絵の漆器などは町衆の豊かな生活の一端を示すものであろう。

(竜子)

註　硯の材質については、京都大学の田中宙氏に御教示いただいた。

3　平安京左京六条三坊　六条大路（96ＨＬ491）

調査経過（図版21-1、図13）

下京区六条通不明門東入る仏具屋町167・168番地においてマンション建設が計画された。当地は、六条大路に推定されている。そこで基礎掘削工事に伴い、1997年３月３日に調査を実施した。なお、工事開始の連絡が遅く、調査開始時には掘削工事はほぼ終了し、わずかに北壁と東壁部分が観察できた。

調査の結果、六条大路路面と、その下層に平安時代前期の土壙を２基検出した。

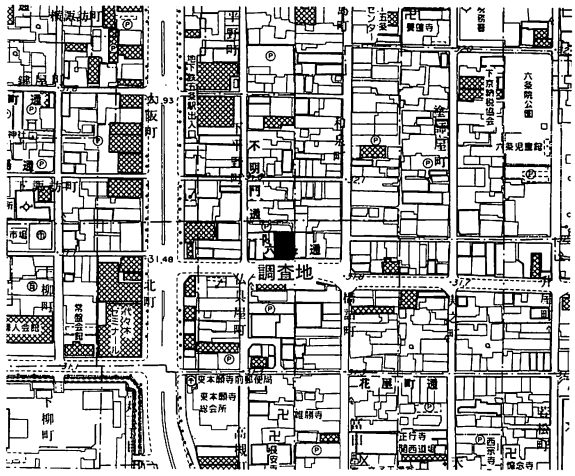


図13　調査位置図（1：5,000）

遺構・遺物（図版21-2、図14・15）

京都市の現在の道路網は平安京の条坊をほぼ踏襲しているが、当地は六条大路が敷地中央に推定されており、その路面の検出が期待された。しかし、敷地の大部分が江戸時代の焼け瓦を含む土壙で占められており、東壁断面で路面と土壙を検出した。なお、敷地南西角の歩道との境界の縁石を水準点として、遺構断面の計測を行った。

路面は東壁の-0.7～1.2mの間で、南北1.5mにわたって、厚さ0.03～0.08mの路面整地層を７面検出した。これらはさらに２m北方まで続いていることを確認した。敷地南端から約13mにあたるこの地点は六条大路のほぼ中央部分に推定される。路面からの出土遺物は、中世の土師器皿の細片などがわずかに出土した。路面の下層は、黄褐色砂礫の無遺物層となる。

この無遺物層に切り込む幅2.6m以上、深さ0.5mの土壙２を検出した。埋土は４層に分層でき、土師器皿・杯・甕、緑釉陶器皿・椀、黒色土器椀、須恵器杯・壷、瓦が出土した。いずれも小片だが平安時代前期のものと考える。また、-1.2mで、この土壙２に切り込む幅0.7m以上、深さ0.3mの土壙１を検出した。埋土からは土師器皿・杯・甕、馬の歯が出土した。これらも小片だが平安時代前期の遺物と考える。

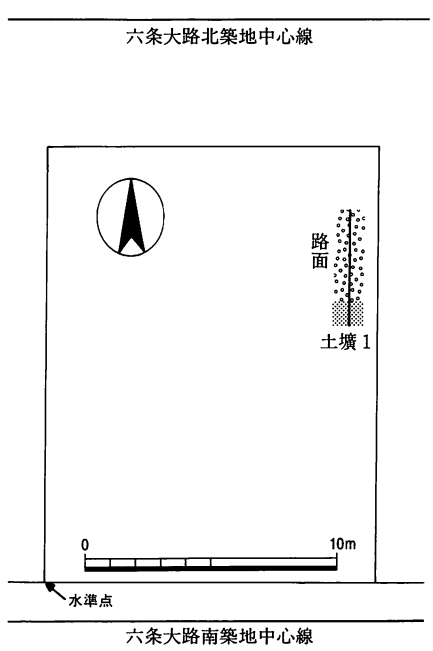


図14　遺構位置図（1：300）

ま　と　め

今回の調査地から約50m西の地下鉄烏丸線建設に伴う発掘調査で、平安時代前期・後期の烏丸小路の西側溝と平安時代末期から鎌倉時代の烏丸小路の路面[註1]、また平安時代後期の六条大路の路面と北側溝を検出[註2]している。しかし、本調査と同様に平安時代前期まで遡る路面は確認できていない。また、1981年の調

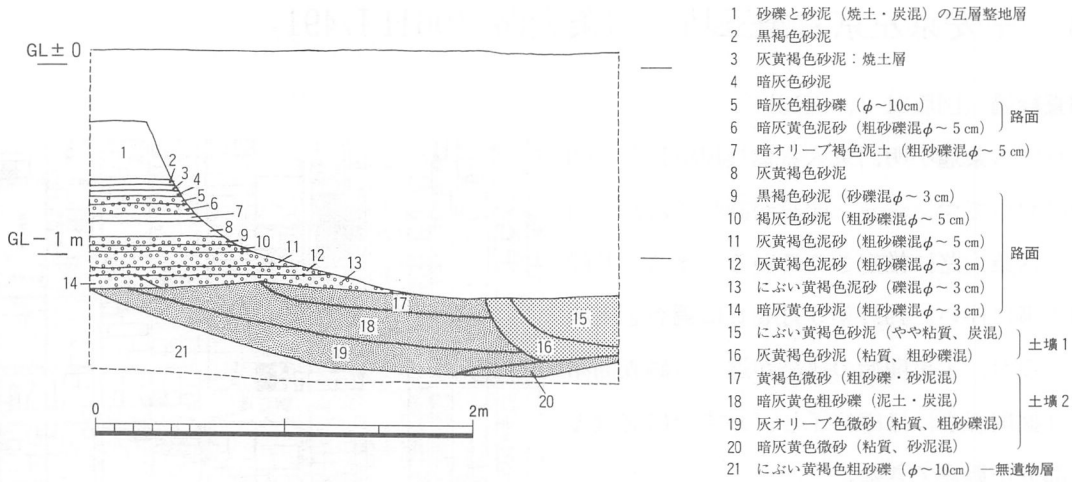


図15　東壁断面図（1：40）

査では、六条大路の路面10層と室町時代の北側溝を検出している。[註3]

本調査でも、平安時代前期の土壙の上面で7層の路面層を南北3.5m以上検出したが、平安時代に遡るものは確認できなかった。これまでの発掘調査の成果から考えて、当地域付近の六条大路は平安時代前期の早い時期には完全には整備されていなかったと思われる。

今回の調査地は六条大路に推定されており、この地で大路に北面する六条三坊十三町は宇多上皇の御所として建てられた「中六条院」[註4]のあったところである。延長年間（923～391年）には院御所として醍醐天皇の行幸が何度もあったと記録にある。

これらのことから、路面が整備されたのは早くても平安時代前期の土壙が埋められた後、遅くとも「中六条院」のできた平安時代中期と考えられる。路面の残存状態は良好なところもあり、今後の調査に期待される。

（尾藤徳行）

註1　大矢義明・永田信一・小森俊寛ほか「烏丸線内遺跡No.77地点」『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅲ　1977～1981年度』　京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会　1982年

註2　大矢義明・永田信一・小森俊寛ほか「烏丸線内遺跡No.58地点」『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅱ　1976年度』　京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会　1981年

註3　平尾政幸「左京六条三坊」『昭和56年度　京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1983年

註4　「中六条院跡」『京都市の地名』（日本歴史地名大系27）　平凡社　1979年

4　平安京右京一条二坊　近衛大路（97ＨＲ162）

調査経過（図16）

調査地は中京区と上京区にまたがる妙心寺道の西大路通から御前通の間約380mで、京都市水道局による水道管入替工事に伴い、調査を実施した。調査期間は、1997年９月２日から10月23日である。

当地は、平安京右京一条二坊二・七・十町に南接する東西道路である近衛大路に推定される。

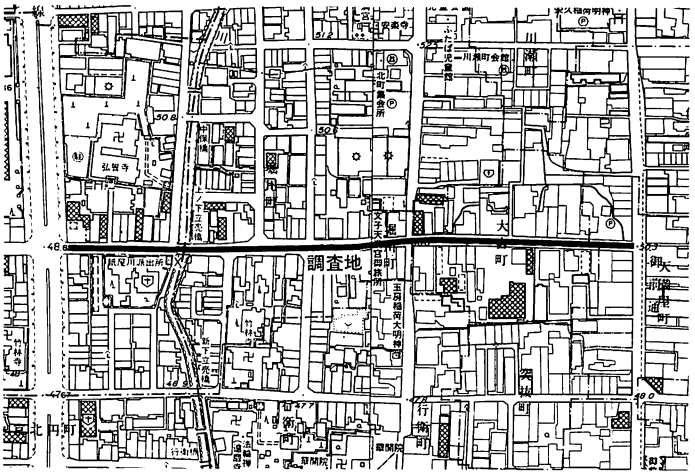


図16　調査位置図（1：5,000）

遺　構（図17・18）

掘削工事に伴い、西から14箇所で調査を実施した。調査対象となった現道路は、近衛大路の路面部分とほとんど重複しており、すべての地点で路面整地層を確認した。しかし遺物を伴う層が少なかったため、時期を特定できる路面整地層はほとんどない。路面整地層より下層では、平安時代前期から中期、鎌倉時代の遺物包含層を、また平安時代後期の遺構を検出した。

以下に、主要な地点での断面観察の結果を述べる。最も西のNo.１地点の地表面の標高は49.31m、東のNo.14地点は49.60mである。

No.２地点　-0.35～0.73mで７層の路面整地層を検出し、その下層で無遺物層（地山）を切り込む遺構を検出した。東西幅0.45m、深さ0.3m以上で、底では0.15m大の河原石を３個検出した。掘削溝北側の断面は攪乱されており、確認できなかったが南北溝である可能性がある。この遺構からは、平安時代後期の土師器皿が出土した。

No.３地点　-0.7mで黒色（7.5ＹＲ2/1）砂泥層を検出した。この層は以東の各地点でも確認している。

No.４地点　-0.62mで平安時代後期の土師器皿を含む黒褐色（10ＹＲ2/2）砂泥層を検出した。この地点の東と西で検出された上記の黒色砂泥層がここでは検出されなかったため、この層は黒色砂泥層を切り込む大型の土壙であると思われる。

No.８地点　-0.62mで、平安時代前期の土師器高杯脚部と平瓦片を含む黒色（10ＹＲ1.7/1）砂泥層を検出した。

No.９地点　-0.63mで、平安時代中期の土師器、須恵器、平瓦片を含む黒褐色（7.5ＹＲ3/2）砂泥層を検出した。

No.10地点　北・南両壁を観察した。南壁は-0.4～0.72mで４層の路面整地層を検出したが、北壁は攪乱されており確認できなかった。南壁-0.82mの黒色砂泥層から土師器高杯脚部が出土した。この層は北壁では-1.43mまで落ち込む。

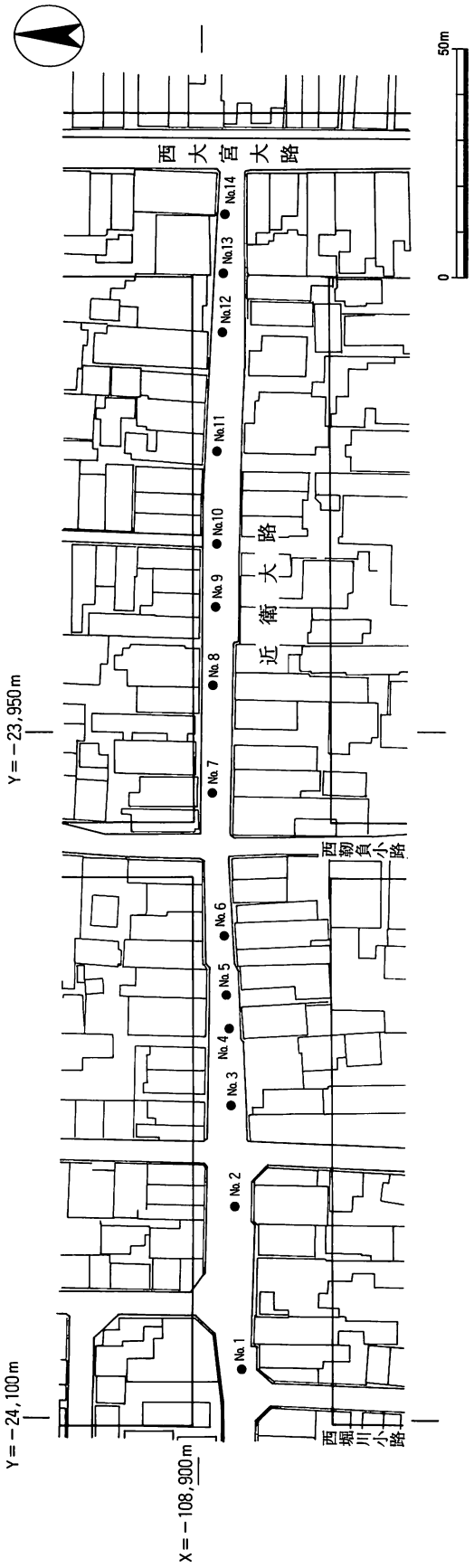


図17　調査地点図（1：1,500）

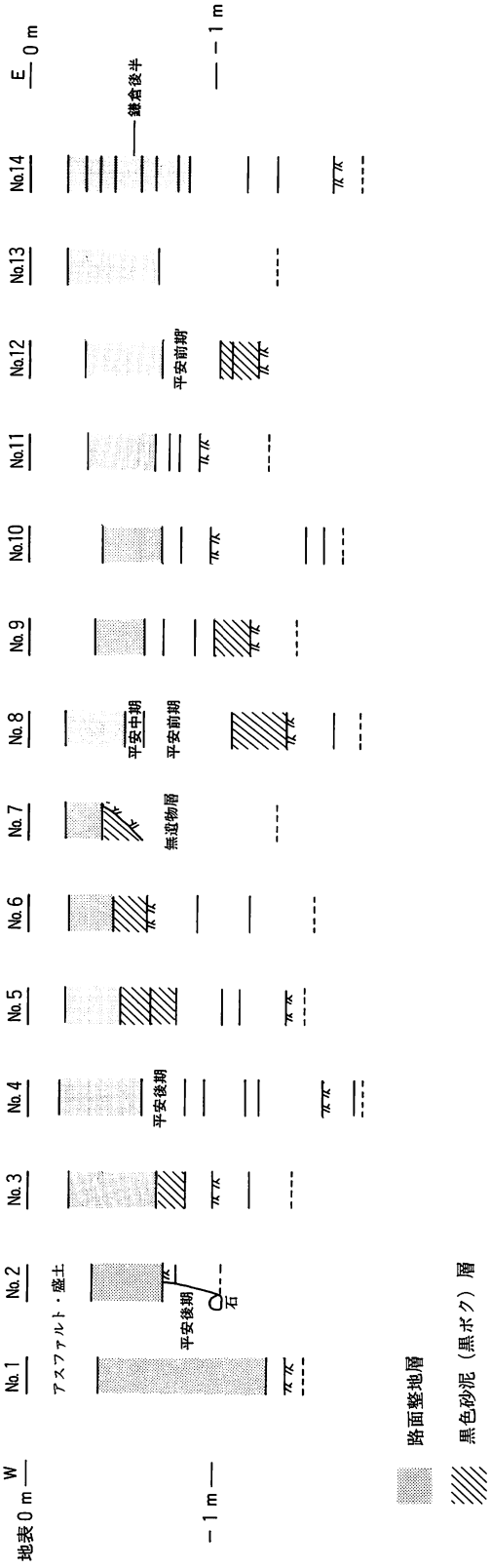


図18　柱状断面図（1：40）

No.12地点　-0.72mの黒色（7.5YR1.7/1）砂泥層から、平安時代前期の土師器皿が出土した。

No.13地点　-0.2～0.7mで路面整地層を検出し、その下層よりNo.12地点と同じ黒色砂泥層を検出した。この辺りは西大宮大路との交差部に比定されるが、路面は東へそのまま続き、西大宮大路の西側溝は検出されなかった。

No.14地点　-0.20～0.86mで、7層の路面整地層を検出した。第3～6層には瓦が混入しており、第4層からは鎌倉時代後半の土師器皿が出土した。この地点は西大宮大路の中央付近に位置する。

遺　物（図19）

平安時代前期から鎌倉時代までの遺物が出土した。遺物の出土量は少なく、そのほとんどが小片である。

No.8地点で出土した土師器高杯は脚裾部で、裾部径は15.0cm、残存高は1.3cmである。外面はナデ調整した後、粗いヘラミガキを施す。胎土は細かい砂粒を含み、赤褐色を呈する。9世紀前半のものである。

図19　遺物実測図（1：4）

ま　と　め

今回の調査では、各地点で近衛大路の路面整地層を確認した。本調査の東端部で近衛大路は西大宮大路に接続するが、少なくとも本調査では西大宮大路の西側溝は検出できず、近衛大路の路面はそのまま西大宮大路の路面に続いていることを確認した。

このことは、西大宮大路の西側溝は近衛大路を横断せず、近衛大路の北側溝に取り付いていることを示すと考えられる。

『延喜式』「京程」には、大路・小路・側溝などの規模の記述はあるが、各交差部の構造についての規定はない。過去の調査例を検討するとともに、今後の調査によって解明していきたい問題である。

（近藤章子）

5　平安京右京一条四坊二町（97ＨＲ93）

調査経過（図20）

本調査は、右京区花園木辻北町１番地所在の花園高校々舎建築工事に伴う調査で、1997年５月26日から７月30日にかけて実施した。調査地は妙心寺に隣接し、現妙心寺道に面する。条坊では右京一条四坊二町の南西隅で、南側は近衛大路が推定される。調査では鎌倉時代の溝、室町時代の土壙、近世の柱穴などを検出した。

遺構・遺物（図版22、図21・22）

調査地の現地形は標高約47.6mで平坦だが、妙心寺道が標高46.8mと、0.8m程の段差を示す。盛土の厚さは北側で0.3m、南側で0.8mあり、旧地形の斜面を水平に造成していた。盛土下層は黄褐色粘土、黄褐色砂礫の無遺物層が堆積しており、この上面で各遺構を検出した。

鎌倉時代の溝は、No.１～５地点の南北約30mにわたって幅1.3～2.2m、深さ0.2～0.4mの規模を確認した。この溝は北では幅広く浅く、南では幅狭く深く検出したが、西肩の位置が一直線につながること、溝内堆積土や出土遺物の時期が一致することなどから同一の遺構と判断した。溝はNo.６地点以南で西に振れる可能性がある。遺物は土師器皿、瓦器椀、焼締陶器甕、瓦、鉄釘などが出土した。No.４地点では土師器皿数点が重ねられて投棄された状態で検出した。13世紀末から14世紀前半の遺物である。

ま　と　め

今回の調査成果は、南北約30m以上に及ぶ溝を検出したことである。この溝は14世紀前半に開かれたとされる妙心寺の創建時期に関わる遺構であり、当時の寺域内の地割を考証するうえで貴重な手掛かりを得たといえるだろう。

（長戸満男）

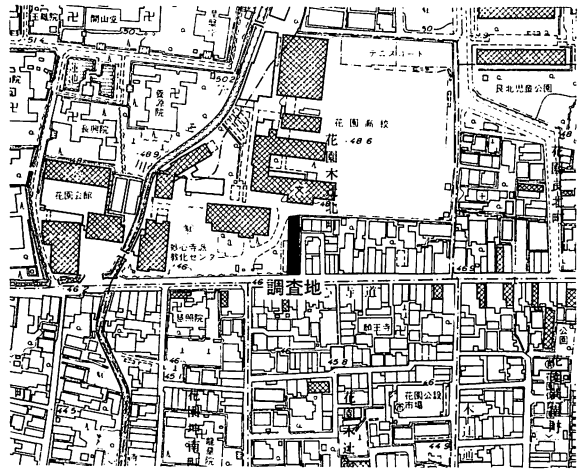


図20　調査位置図（1：5,000）

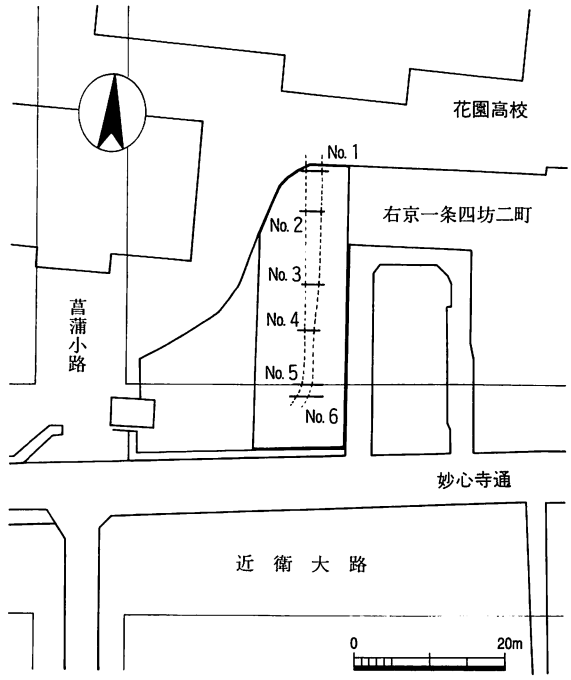


図21　調査地点位置図（1：1,000）

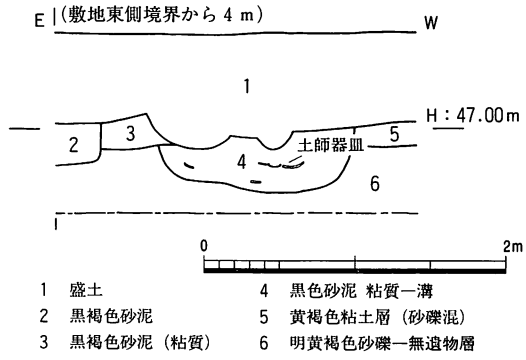


図22　No.４地点南壁断面図（1：50）

6　平安京右京四条二坊十一・十二町　淳和院（96ＨＲ470）

調査経過（図23）

本調査は、右京区西院東淳和院町５－４番地他所在の駐車場建設工事に伴う調査で、1997年２月21日から26日にかけて実施した。事前の1996年９月18日、京都市埋蔵文化財調査センターが試掘調査を実施しており、本調査はその成果を引き継ぐものである。

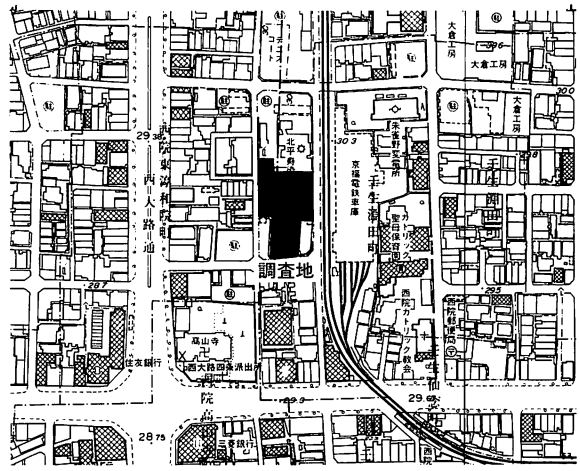


図23　調査位置図（1：5,000）

調査地は、東半に西堀川小路、北西に右京四条二坊十一町、南西に同十二町が推定されており、本来の条坊ならば、両町の南北間に錦小路が存在し、西堀川小路との交差点部西側の位置となる。しかし、両町は方四町とされる淳和院の東半にあたり、当敷地の中央には南北に西堀川小路西築地中心線が通る。安土桃山時代には御土居が築造されていた地点でもある。

試掘調査では、調査地中央付近のトレンチで西堀川小路西築地の内溝と考えられる幅3.4m、深さ0.2m（標高28.40～28.60m）の浅くて幅広い溝状の遺構が検出された。遺構からは平安時代前期の土師器、瓦類などが出土している。

本調査では、南北方向の９箇所で遺構を検出し、そのうちの西堀川小路西築地中心線上にあたる７箇所で築地基底部、内溝、側溝と考えられる一連の遺構を検出した。

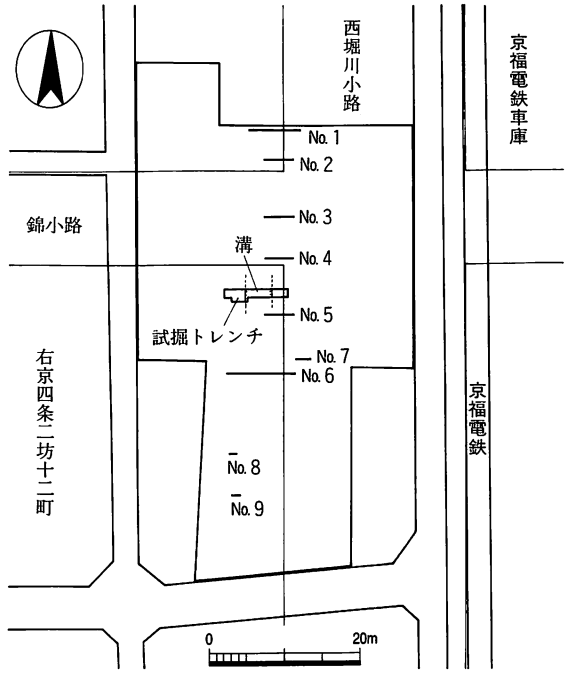


図24　調査地点位置図（1：1,000）

遺構・遺物（図版23、図24・25）

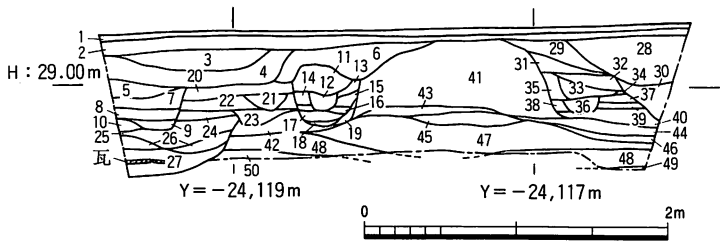
調査地の現在の地形は標高29.4～30.1mで東側がやや高くなる。調査地中央の築地中心線付近の基本層位は、0.1～0.3m厚の盛土直下の随所に平安時代の遺物を含む黒褐色砂泥層の堆積がみられ、築地基底部もこの深さで検出した。標高28.5～28.7m（地表下0.8～0.9m）で黄灰色粘土の無遺物層上面となる。調査地東半には西堀川の氾濫層とみられる砂礫層が厚く堆積している。

西築地の基底部はNo.１～６地点の６箇所で検出した。検出規模、整地土の特徴を以下に述べる。

No.１地点　幅3.0m、高さ0.40m（標高28.96～29.36m）。土師器片を含む均質な黒褐色系砂泥。

No.２地点　幅2.8m、高さ0.48m（標高28.88～29.36m）。同様の黒褐色系砂泥。

No.３地点　幅2.5m、高さ0.20m（標高28.89～29.09m）。土師器片を含む均質な黒褐色系砂泥



1 舗装
2 砕石
3 褐色砂泥（礫混）
4 にぶい黄褐色泥砂（小礫混）
5 にぶい黄褐色泥砂（小礫混）
6 黄褐色泥砂
7 灰褐色砂泥
8 にぶい黄褐色砂泥
9 灰褐色細砂
10 灰黄褐色泥砂（砂多混）
11 にぶい黄褐色泥砂（礫混）
12 黒褐色泥砂（礫混）
13 黒褐色砂泥（炭混）
14 黒褐色砂泥（炭混）
15 暗褐色泥砂（礫混）
16 にぶい黄橙色粘土
17 黒褐色砂泥（焼土混）
18 褐色粘土
19 黒褐色砂泥（炭混）
20 灰褐色砂泥（炭・小礫混）
21 にぶい褐色粗砂
22 褐灰色砂泥（小礫混）
23 灰褐色砂泥
24 灰黄色砂泥
25 褐灰色砂泥（50層混）
26 灰色粘土
27 褐灰色粘土
28 暗褐色泥砂（焼土混）
29 極暗褐色泥砂（焼土混）
30 灰褐色砂泥（焼土混）
31 灰褐色砂泥
32 暗褐色砂礫
33 黒褐色砂泥（砂多混）
34 黒褐色砂泥
35 黒褐色砂泥
36 灰褐色砂泥（小礫混）
37 褐灰色砂泥
38 黒褐色泥砂（焼土混）
39 にぶい黄褐色粘土（礫混）
40 黒褐色泥砂（小礫混）
41 黒褐色砂泥（50層混）
42 黒褐色砂泥（50層混）
43 黒褐色砂泥（50層混）
44 黒褐色砂泥（50層混）
45 黒色砂泥
46 黒褐色泥砂（細砂混）
47 黒褐色砂泥（均質）
48 黒色砂泥（均質）
49 灰黄褐色泥土（均質）
50 黄灰色粘土―無遺物層

図25　No.5地点北壁断面図（1：50）

や、無遺物層粒が斑紋状に混入し、突き固めた様な固さの黒褐色系砂泥をマウンド状に検出。

No.4地点　幅1.7m、高さ0.16m（標高28.72～28.88m）。均質で固い黒褐色系砂泥。

No.5地点　幅2.9m、高さ0.84m（標高28.48～29.32m）。41・44層には無遺物層の小ブロックが斑紋状に多く混入し、42・43層には同様の粘土が薄い横縞状になって互層状態で混入していた。

No.6地点　幅2.9m、高さ0.38m（標高28.48～28.86m）。地山粘土が斑紋状に混入した黒褐色系砂泥や均質で粘性の強い褐灰色砂泥。

その他、No.5・6地点の2箇所では、築地基底部の東西側面に柱穴を検出した。築地の築造過程で設けられた柱の痕跡であろうと考えられる。心々間の距離は共に約1.7mであり、垣の中央から「垣基二尺五寸」とする『延喜式』「京程」の記述に近い数値である。

築地の内溝は、試掘調査で検出された溝状遺構の延長線上の4箇所で検出したが、各々東肩部しか確認できなかった。No.2地点では、幅1.0m、深さ0.34m（標高28.91～29.25m）。瓦片を多量に含む黒褐色泥砂。No.3地点では、幅0.7m、深さ0.14m（標高28.88～29.02m）。土師器片を含む均一で軟質な黒褐色砂泥。No.4地点では、幅0.9m、深さ0.18m（標高28.74～28.92m）。土師器や瓦片を含む軟質な黒褐色砂泥。No.5地点では、幅0.8m、深さ0.43m（標高28.40～28.83m）。27層が内溝の堆積土で、瓦片を多く含む。

西堀川小路の西側溝は、No.6地点で西肩部、No.7地点で東肩部を検出した。幅1.2m、深さ0.23m（標高28.39～28.62m）。瓦片を含む褐灰色砂泥や黒褐色砂泥が埋まる。

西堀川の氾濫層と考えられる砂礫層が築地基底部を浸蝕した状況を2箇所で検出した。No.3地点では整地土の東面を浸蝕し、No.4地点では内溝にまで覆い被さる状況であった。

御土居に関する明瞭な遺構は未検出である。但し、No.8・9地点の2箇所で近世の遺物を含む湿地状堆積層の一部を検出しており、これが御土居の濠と関連する可能性がある。

出土遺物は整理箱に1箱分あるが、その大半は瓦類であり、土器類は少ない。

ま　と　め

今回の調査成果としては、西堀川小路西築地の関連遺構を南北約32mにわたり検出したことによって、淳和院東辺の一画が明らかにできたこと、また、築地基底部の側面に柱穴を検出したことによって、築地塀の構築方法を知る手掛かりを得たことなどがあげられる。　（長戸）

7．平安京右京五条三坊四町（97ＨＲ314）

調査経過（図26）

調査地は右京区西院西矢掛町31-１、32-２・３番地で、右京五条三坊四町の西側中央部分と宇多小路にあたる。今回、事務所の新築工事に伴って調査を行った。三坊四町では北東部分（西院中学）を1981年[註1]と1987年[註2]に発掘調査し、平安時代前期の掘立柱建物３棟と池跡を検出している。

調査は、掘削工事が行われた1997年10月27日から31日までの５日間実施した。調査の結果、平安時代前期の遺物を含む南北溝２条、東西溝、落込を検出した。

遺　構（図版24、図27・28）

層序は調査地北側で、現代盛土の下に厚さ0.07mの耕作土があり、以下は黄褐色砂泥の無遺物層である。南東付近では現代盛土の下に平安時代前期の遺物包含層が２層あり、以下は無遺物層である。遺構は無遺物層の上面で検出した。

溝１は調査地西端より東へ約８mの地点で検出した南北溝である。北壁断面で幅2.3m以上、深さ0.8m、断面は浅いU字状を呈する。底部は平坦ではなく凹凸が激しく、南北８m間を検出したが、底部の高低差は確認できなかった。埋土は大きく４層に分層でき、上層の３層は粘質の砂泥層で、最下層は褐色細砂層である。少量であるがすべての層から平安時代前期の土師器・須恵器が出土した。この溝は宇多小路東築地中心線の西にあることから、同東側溝と考えられる。

溝２は調査地西端より東約11.5mの地点で検出した南北溝である。北壁断面で幅１m、深さ0.27mで、断面の形状は椀状を呈する。南北約14.5m分を検出した。底部の高低差は0.15mで

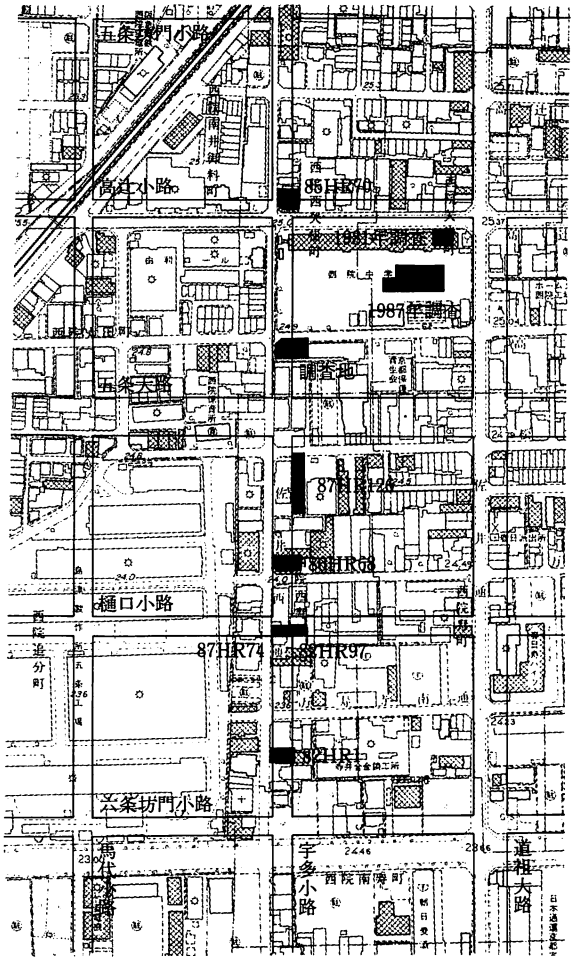


図26　本調査および関連調査位置図１
（右京五条・六条三坊付近、1：5,000）

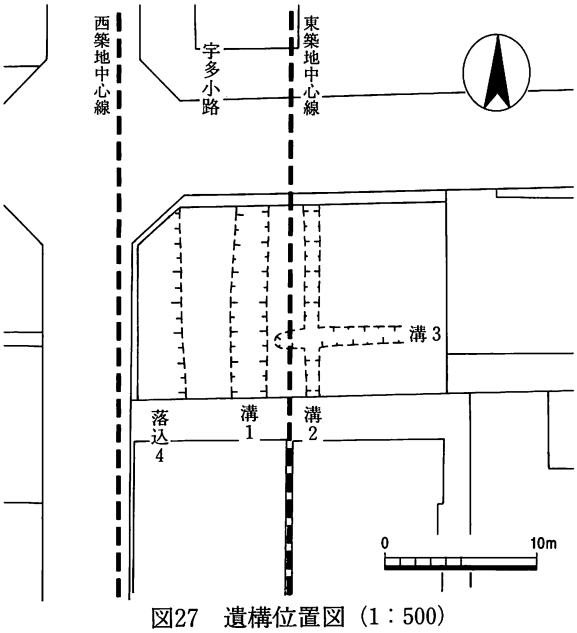


図27　遺構位置図（1：500）

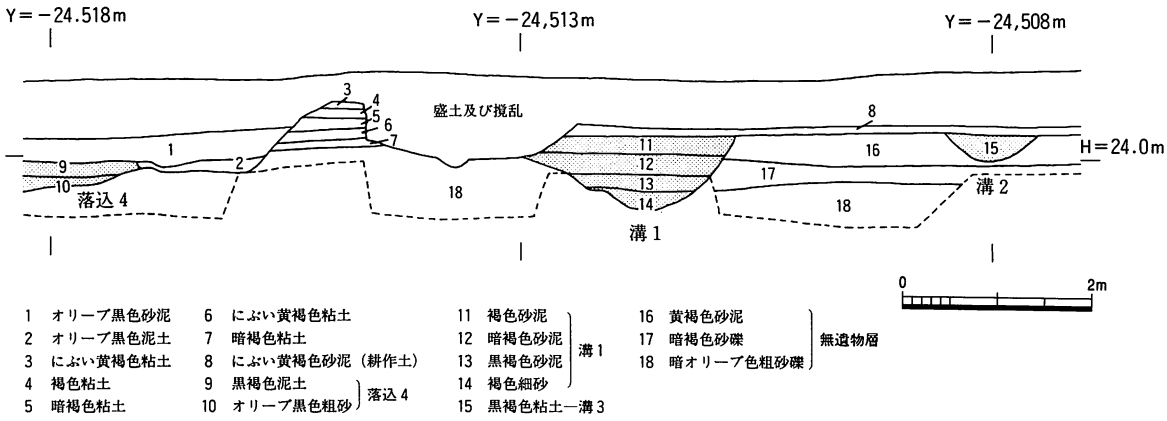


図28　北壁断面図（1：80）

北から南へなだらかに下がっていく。埋土は北壁では黒褐色粘土の単一層であるが、南壁では上層が暗灰黄色砂泥、下層は黄灰色粘土層に分層でき、下層から平安時代前期の土師器椀が出土している。この溝は宇多小路東築地中心線の東に位置する。

溝３は調査地南端より北へ4.6m、西端より東へ9.7～14mの地点で検出した東西溝である。幅0.3m以上、深さ0.1m、断面は北肩のみの確認であるが椀状を呈する。溝３は溝１の東肩より東へ0.5mの地点から始まり、溝２と交差して東へ3.3mまで延びる。底部の高低差はほとんど確認できず、埋土は灰黄褐色粘土の単一層であり、平安時代前期の土師器皿が出土している。この溝状遺構は四行の六門と七門を区画する線上に位置する。

落込４は調査地西端より東へ3.8mの地点で南北方向の東肩を検出した。幅は1.2m以上、深さ0.35m、なだらかに西へ下がる落込である。埋土は上下２層に分層でき、上層が泥土及び粘土層、下層は粗砂及び細砂層である。南壁の上層から平安時代前期の土師器皿、須恵器蓋・甕、丸瓦を検出している。この落込は宇多小路西側溝の位置にあたると想定される。

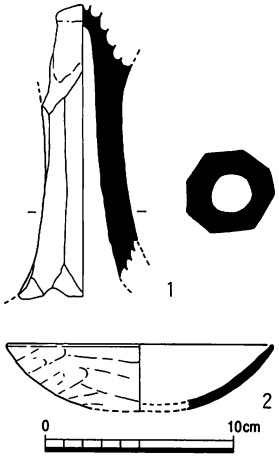


図29　遺物実測図（1：4）

遺　物（図29）

出土遺物は極少量であり、土器類、瓦類、木製品がある。

土器類では、土師器は時期の特定できるものはすべて平安時代前期である。高杯の脚部（１）は溝１の最上層から、椀（２）は溝２の下層から出土している。須恵器も時代の特定できるものはすべて平安時代であり、溝１の最下層からは甕口縁と杯底部が、落込４の上層からは蓋・甕が出土している。

瓦類は、落込４の上層から丸瓦が１点、調査区南東付近の平安時代前期の遺物包含層の下層から平瓦が４点出土している。

ま　と　め（図26、30～33）

調査では、推定の宇多小路部分で南北方向の溝１と落込４を検出したが、路面は削平を受けており、検出できなかった。また当四町の区画内では南北方向の溝２と東西方向の溝３を検出したが、建物などに関連する遺構は検出できなかった。

溝１・２は、ほぼ宇多小路の東側溝とその内溝に位置する。溝３は、四行の六門と七門を分かつ位置にあり、区画の性格を持った溝と考えることができる。落込４は宇多小路西側溝の位置にあたるが、東肩の位置は宇多小路の道路中央に寄り過ぎている。本調査地から約130m南の調査（86ＨＲ68、図26）では宇多小路の路面中央で平安時代から近世まで続く北から南へ流れる流路を検出しており、この付近で流路による路面の侵食が平安時代よりあったことを確認している。本調査の落込４も、そういった流路に関連するものであろう。北側および南側の隣接地のさらなる調査に期待したい。

宇多小路に関する調査は、隣接地も含め一条大路から九条大路の間で、現在まで発掘調査を６件、試掘・立会調査を63件行っており、ここで概観しておきたい。これらの調査のうち、路面を確認した調査が１件、側溝と推定される溝・溝状遺構・落込・土壙などを検出している調査が６件あり、いずれも立会調査である。

路面は樋口小路との交差点部分で検出している。地表下0.93mで平安時代前期の遺物と動物の骨を含んだ路面層を２層検出している[註4]（87ＨＲ74、図26）。

側溝は、西側溝を一条三坊七町で検出している。溝は幅0.9～2.2m、深さ0.7mで、埋土からは平安時代中期の遺物が出土している[註3]（86ＨＲ113、図30）。一条三坊五町でも幅３m以上、深さ１mの平安時代の遺物を含む落込を検出している[註3]（86ＨＲ３、図30）。東側溝は前述の路面と同じ樋口小路との交差点部分で検出している。溝の幅2.6m以上、深さ0.33mで、遺物が出土せず、時期は不明である。この溝が平安時代のものであれば、宇多小路の東側溝が樋口小路を横断していたことになる[註5]（82ＨＲ97、図26）。六条三坊二町では幅1.05m以上、深さ0.21mの平安時代の遺物を含む溝状遺構を検出している[註5]（82ＨＲ１、図26）。五条三坊三町では東築地推定線の西側に平安時代前期の遺物を含む幅４m以上、深さ0.29m以上の土壙を検出しているが溝となる可能性もある[註6]（85ＨＲ70、図26）。

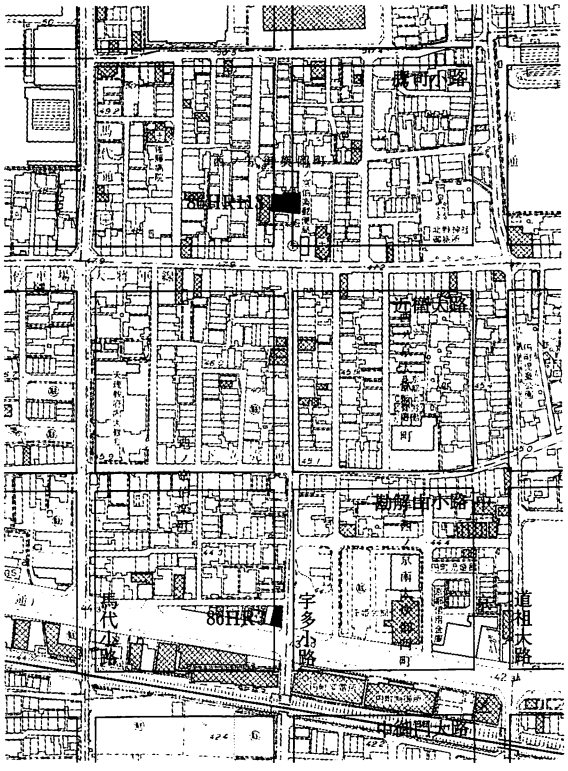


図30　関連調査位置図２
（右京一条三坊付近、1：5,000）

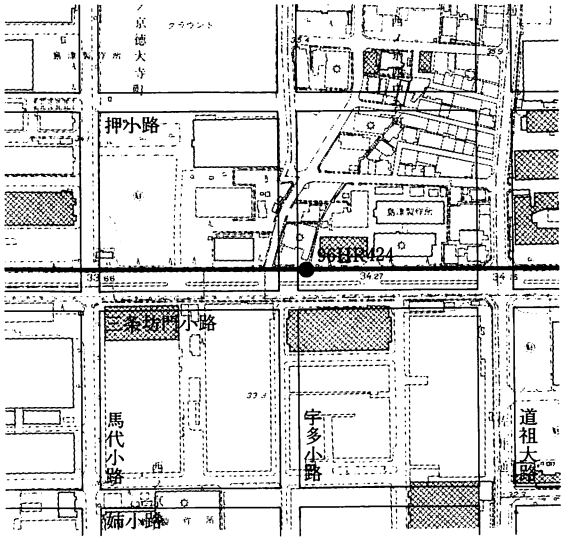


図31　関連調査位置図３
（右京三条三坊付近、1：5,000）

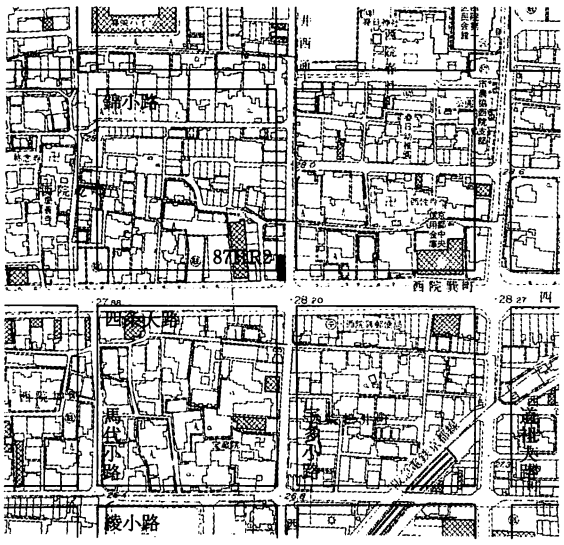


図32　関連調査位置図４
（右京四条・五条三坊付近、１：5,000）

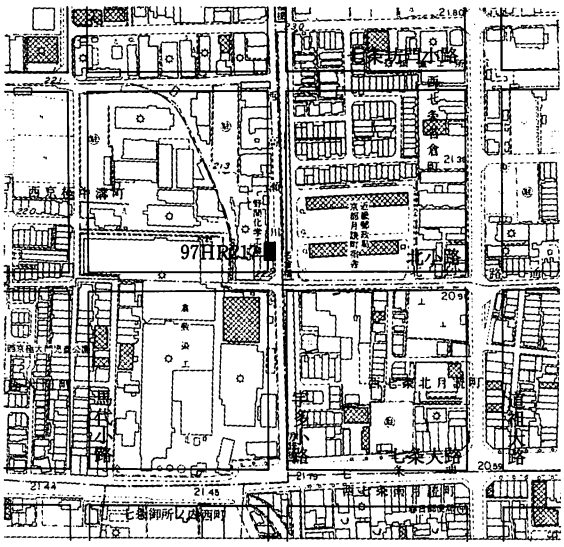


図33　関連調査位置図５
（右京七条三坊付近、１：5,000）

以上が宇多小路に関連する遺構検出例であるが、その他に先に挙げた六条三坊一町では路面中央部にあたる地点で幅５m以上、深さ0.68mの南北流路を検出している[註3]（86ＨＲ68）。この流路は上層に近世の遺物、下層には平安時代の遺物が含まれている。また、湿地状堆積が確認された地点は、三条三坊七町[註7]（96ＨＲ424、図31）、四条三坊五町[註4]（87ＨＲ２、図32）、六条三坊一町[註4]（87ＨＲ126、図26）、七条三坊六町[註7]（97ＨＲ217、図33）などがあるが、いずれも時期は特定できていない。

（吉本健吾）

註１　鈴木廣司　「平安京右京五条三坊」『昭和56年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1983年

註２　堀内明博　「平安京右京五条三坊」『昭和62年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1991年

註３　「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和61年度』京都市文化観光局　1986年

註４　「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和62年度』京都市文化観光局　1987年

註５　「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和57年度』京都市文化観光局　1982年

註６　「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和60年度』京都市文化観光局　1985年

註７　本書　「調査一覧表」

8　右京六条二坊十二・十三町（97ＨＲ21）

調査経過（図34）

右京区西院中水町21-1、22-1番地において、工場・事務所建築が計画された。当地は、平安京右京六条二坊十二町・十三町、野寺小路に推定されている。当地は、1992年に京都市埋蔵文化財調査センターによって試掘調査が行われ、野寺小路の側溝が検出されていた。このため、工事に伴い、1997年４月10日から21日まで調査を実施し、調査順にNo.１～６の番号をつけて断面観察を行った。

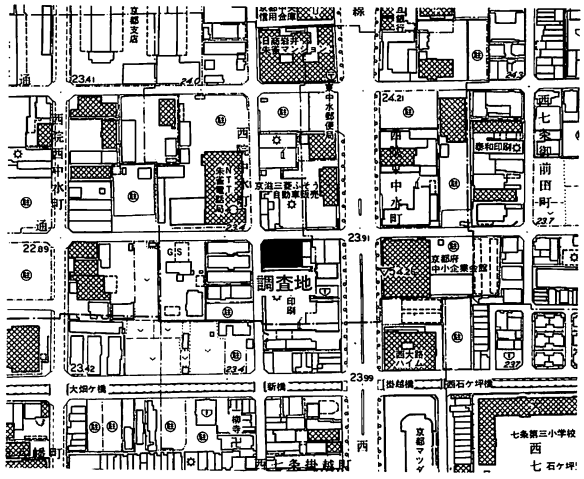


図34　調査位置図（1：5,000）

調査の結果、野寺小路の両側溝をそれぞれ２条と路面下の整地層を南北約11mにわたって検出した。

遺　構（図版25、図35・36）

断面の実測にあたっては、敷地北西部分の南側角を水準点とした。

基本層序は盛土が厚さ0.5m、耕作土が厚さ0.1m、以下が粘土・砂礫の無遺物

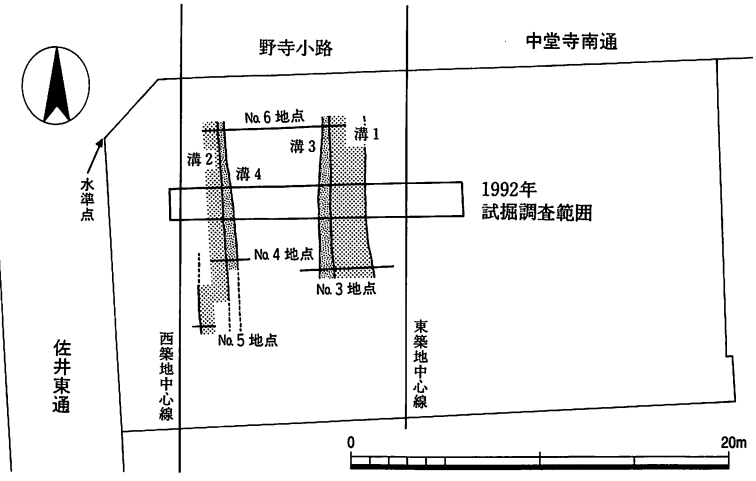


図35　遺構位置図（1：400）

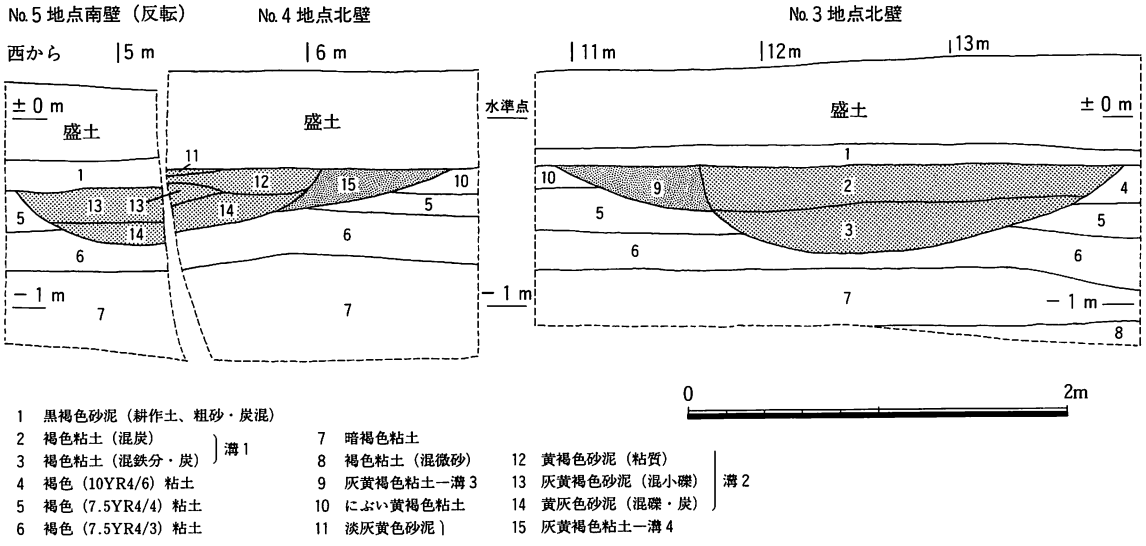


図36　遺構断面図（1：40）

層である。野寺小路の両側溝は、この無遺物層上面に切り込む。

野寺小路東側溝（溝１・３）はNo.３・６地点で検出した。溝１は、No.３地点では-0.3mで、幅2.2m、深さ0.4mである。底部は、水準点よりそれぞれNo.６地点が-0.6m、No.３地点が-0.7mで北から南へわずかに低くなる。溝埋土からは平安時代前期の遺物が出土した。また、やや西側で溝１に切られる幅0.8m以上、深さ0.2m以上の溝３を検出した。

野寺小路西側溝（溝２・４）はNo.４・５・６地点で検出した。溝２は、No.４・６地点では溝の東肩部を、No.５地点では西肩部を検出した。推定幅は約1.5m、深さ0.3mである。また、やや東側で溝２に切られる幅0.9m以上、深さ0.2m以上の溝４を検出した。

溝１と溝２間の路面幅は5.6～5.7mである。路面については後世に削平されたようで、未検出であるが、No.３～４地点の溝３と溝４の間で、路面下整地層を検出した。厚さ0.1～0.2m、検出幅は約4.7mである。細片の遺物が少量出土した。

遺　物（図37）

溝１からは土師器、須恵器、瓦、溝２からは土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦が出土した。時期はいずれも平安時代前期と考える。溝３・溝４からは遺物は出土していない。

路面下の整地層からは、平安時代の土師器、黒色土器、瓦などの細片が少量出土したが、詳細な時期は判別できない。

図37　文字瓦拓影（1：1）

溝２からは、凹面に「木」逆字が陰刻されている平瓦（図37）が１点出土している。「木」は縦棒の跳ねは左上がりで正字であるが、左右の跳ねが逆字になっている。また、この字が「本」に見えるのは、「木」を二度押捺しており、最初の押捺では「木」の左の払いしか出ず、その部分が二度目の「木」の縦棒の跳ねの部分に残っているからである。「木」銘の瓦は、木工寮の管轄する造瓦所で生産されたと考えられている。粘土板を切り取った時の糸切り痕が凹凸両面に顕著にみられ、凹面の布目跡は荒い。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、灰白色を呈する。

ま　と　め

今回の調査地周辺での調査例は少なく、これまでの調査では耕作土層直下は無遺物層となっている。今回、野寺小路の両側溝を検出したことから、遺構の密度は低いが、深い遺構は残存していることが明らかとなった。今後、面的に遺跡解明が可能な発掘調査が望まれる。

（尾藤・吉本）

Ⅲ　その他の遺跡

1　植物園北遺跡（97ＲＨ202）

調査経過（図38）

調査地は北区上賀茂岩ヶ垣内町90番地である。マンション建設工事に伴い、調査を1997年８月４日から13日まで実施した。

当遺跡は弥生時代から古墳時代を中心とした大規模な集落跡で、中世まで良好な遺構・遺物が残存している地域である。

工事掘削は敷地の東半部で行われ、布掘りによって縦横の溝状に掘り下げられた部分と島状に取り残された部分とがある。溝状に掘り下げられた部分は無遺物層を掘り抜いており、その底面にはコンクリートが既に入れられていた。そのため、島状に残った部分の壁面と道路との境界の壁面など６箇所で断面観察を行った。その結果、竪穴住居跡と思われる落込を確認した。

そこで京都市埋蔵文化財調査センターおよび業者と協議の結果、３日間の調査期間を得た。

残存している島状の部分４箇所を掘り下げて調査を行った。敷地の南側と西側は、自然流路による堆積層に覆われていたと思われ、明確な遺構は検出できなかった。

遺　構（図版26-１・２、図39・40）

調査した島状の部分をNo.１～４と番号を付けた。

上部は削平されており、旧耕作土・床土は一括で掘り下げた。その下層は暗褐色（10ＹＲ3/3）砂泥で遺物包含層となり、敷地全域でみられる。旧耕作土・床土からは

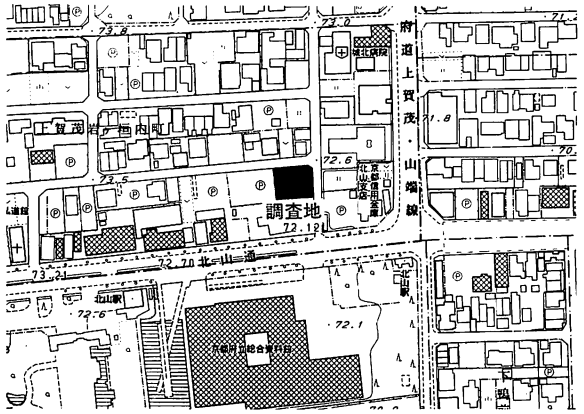


図38　調査位置図（1：5,000）

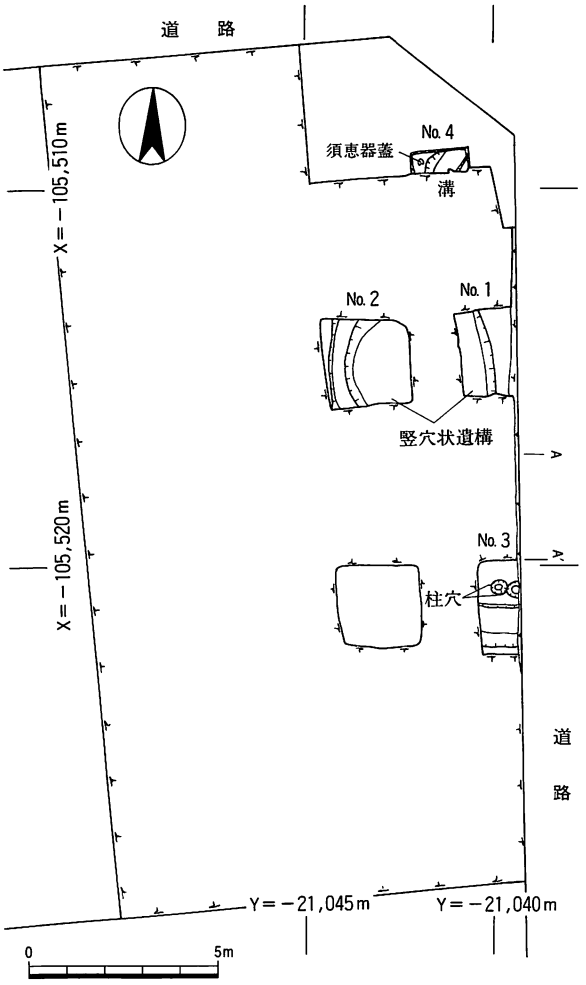


図39　遺構平面図（1：200）

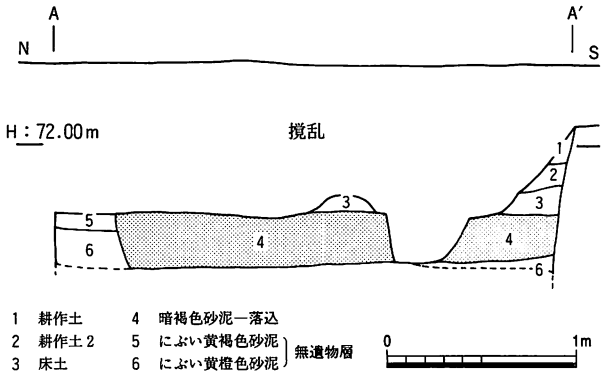


図40　東壁断面図（1：40）

平安時代を中心とした土器・瓦などが出土し、輸入陶磁器も数点含まれていた。

竪穴状遺構はNo.1で東肩部、No.2で西肩部を検出し、東西幅4.2m分を確認したが、南北は削平されており残存していた約2m分を調査した。埋土は黒褐色（10YR3/2）砂泥を中心とする。しかし、柱穴・周壁溝・床面などは検出できなかった。遺物は土師器・須恵器の小片が出土したが、磨滅が著しく時期の特定はできない。なお、No.2の上層より鉄製の鎌が出土した。

No.3で柱穴2基を検出した。西側の柱穴が東側の柱穴に先行する。ともに径0.19mの柱当たりをもつ。東側の柱当たりの埋土は黒褐色（10YR3/2）砂泥で、西側は灰褐色（5YR4/2）砂泥である。土師器が少量出土したが、小片で磨滅しており時期の特定はできなかった。

No.4では北東から南西方向の溝状遺構を検出した。東西幅0.72m、深さ0.12mで南北0.52m分を確認した。埋土は暗褐色泥砂層、黒褐色泥砂層に粗砂礫が混じる。土師器小片が出土したが、時期の特定はできない。この溝状遺構の西側で、耕作土を除去した無遺物層の上面で飛鳥時代後半の須恵器杯蓋が出土した。

敷地東壁で南北幅2m以上の暗褐色砂泥層の落込を検出した。飛鳥時代後半の須恵器杯2個体が出土した。東側道路下へ続くため、断面観察にとどまったが、竪穴住居跡の可能性がある。

遺　物（図版26-3、図41・42）

遺物は整理箱に1箱あり、飛鳥時代から江戸時代までの土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・輸入陶磁器・瓦・鉄製品などが出土した。土師器は小片で磨滅しているものが多い。須恵器には飛鳥時代の杯・杯蓋とそれ以降の蓋・甕・平瓶などが出土した。緑釉陶器と灰釉陶器は高台部分のみであるが、灰釉陶器には底部外面にも施釉しているものもある。輸入陶磁器には、平安時代末期から鎌倉時代の泉州窯の製品や中国南方白磁、室町時代の龍泉窯青磁などがある。瓦は布目痕のつくものが2点ある。その他に鉄製の鎌が出土した。

須恵器杯（1・2）　1はやや丸い底部、2は平坦な底部である。ともに底部から外傾して立ち上がる体部で、口縁端部は丸くおさめる。2の口縁部はやや外反する。底部外面はヘラオコシの痕跡を残し、1は後にナデ調整を施しているが、2は未調整のままである。1は口径10.3cm、高さ3.7cmで、2は口径10.0cm、高さ3.0cmである。敷地東壁の竪穴住居と考えている落込より出土した。

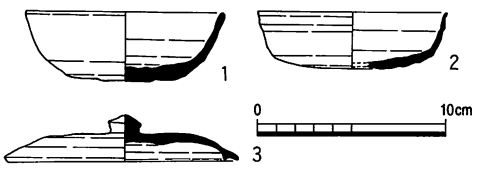


図41　遺物実測図（1：4）

須恵器蓋（3）　天井部外面はヘラケズリののち、ナデを施す。宝珠形つまみをつける。口縁端部は内面にかえりをもち、かえりの先端は口縁端部より下方へは突出しない。口径12.4cm、高さ2.4cmである。

No.4の耕作土を除去した無遺物層の上面で検出した。

鉄製鎌(4)　残存刃弦長は13.3cmで刃幅は2.50cm、刃厚は柄に近い部分で0.35cm、中程では約0.1cmである。鉄鎌は使用による刃部の変形や錆の付着などによって、製作時の形態を維持するのがむずかしく、また装着部を欠くため形状は特定し難いが、峰部は比較的直線的で、刃部はやや内弯しているようにみえる。先端に近い部分で「鳶の嘴」状に下方に向く。古墳時代後期から奈良時代に多くみられる形態である[註1]。No.2の竪穴状遺構の埋土の上層より出土した。

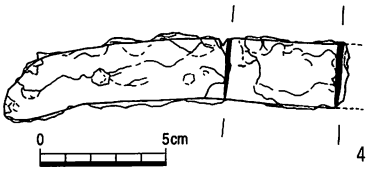


図42　鉄製鎌実測図(1:3)

ま　と　め

今回の調査では、竪穴住居は遺構としてはとらえられなかったが、当地で飛鳥時代の遺構を検出したことは注目すべきことである。遺跡内での古墳時代後期から飛鳥時代の遺構の分布は、北西部の上賀茂小学校周辺、南東部の京都コンサートホール周辺とノートルダム女子大学構内の3地域に中心があるとみられていた[註2]。今回の調査によって、南東部の京都コンサートホール周辺の当該期の遺構分布がやや北へ拡がったことになる。また、竪穴状遺構から鉄鎌が出土したことからも、この付近に集落があったことを窺わせる。

植物園北遺跡は広範囲な遺跡であり、今後の周辺の調査によってさらなる解明に努めたい。

(近藤)

註1　「古代における農具の変遷－稲作技術史を農具から見る－」発表要旨集　(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所　1994年

註2　高橋　潔「植物園北遺跡(第14次調査)」『京都市内遺跡発掘調査概報　平成6年度』　京都市文化観光局　1995年

2　北野遺跡・北野廃寺１（97ＲＨ23）

調査経過（図43）

調査は、北区北野上白梅町１番地で計画された住宅建設に伴い、1997年４月11日～21日間に計３日にわたり実施した。当地は北野廃寺の西辺部に推定されている。

今回の調査では、既に掘削工事は終了し、敷地前面道路と同一レベルまで地表がすき取られていた。しかし当地より一段高い北と東側隣地との境界の掘削断面で、削り出した無遺物層の上に版築状の整地層をもつ基壇状高まりを確認した。

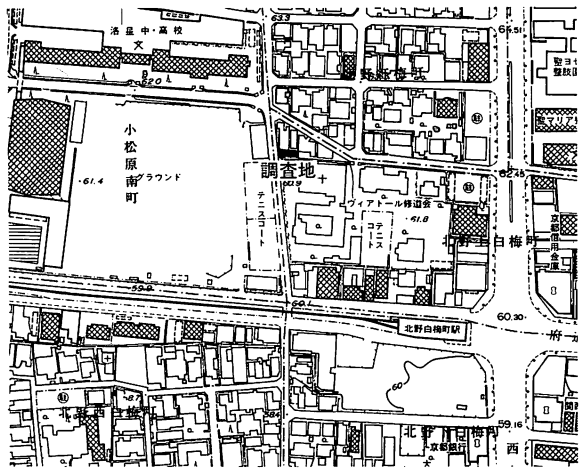


図43　調査位置図（1：5,000）

遺構・遺物（図版27-1、図44・45）

当地周辺の現地形は、敷地の南側隣地境界線の東西ラインを境にして、北側が約１m高くなっている。しかし、北側隣地では西半部が当敷地の面する道路面の高さとなっており、高い地形は北側隣地の東半部にのみに残っている。これが削平された状態であるのか、旧地形を残しているのかは不明である。したがって残存していた高い地形の断面は、敷地の北壁東側6.1m間と東壁の3.83m間である。

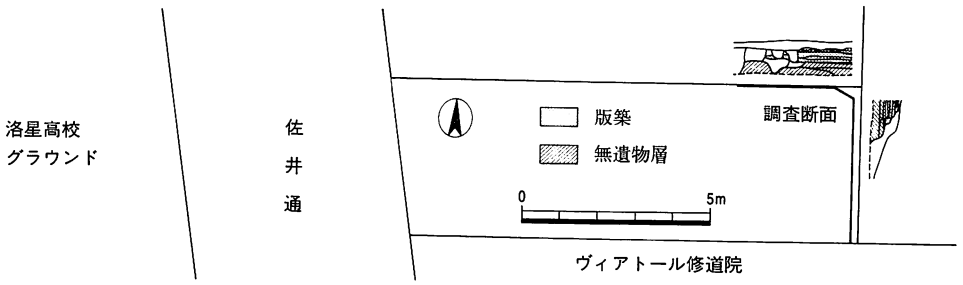
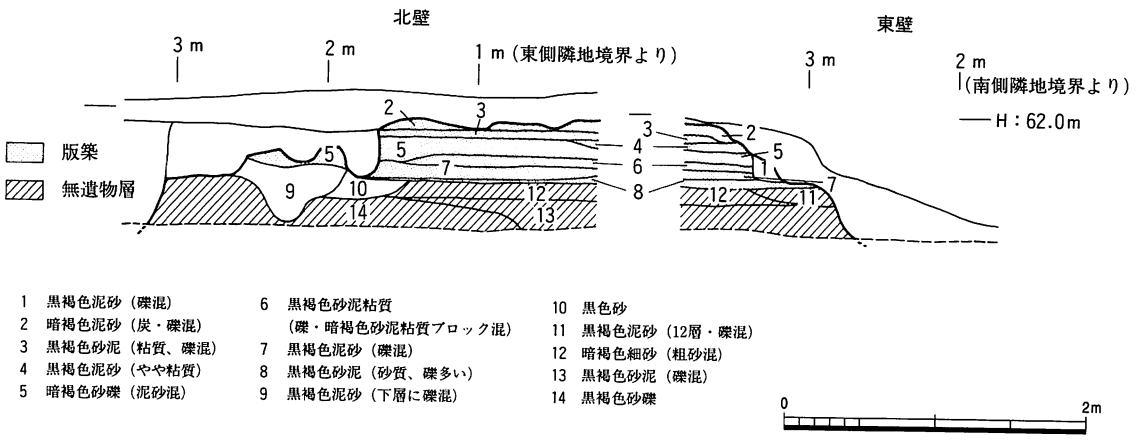


図44　遺構位置図（1：200）



1　黒褐色泥砂（礫混）
2　暗褐色泥砂（炭・礫混）
3　黒褐色砂泥（粘質、礫混）
4　黒褐色泥砂（やや粘質）
5　暗褐色砂礫（泥砂混）
6　黒褐色砂泥粘質（礫・暗褐色砂泥粘質ブロック混）
7　黒褐色泥砂（礫混）
8　黒褐色砂泥（砂質、礫多い）
9　黒褐色泥砂（下層に礫混）
10　黒色砂
11　黒褐色泥砂（12層・礫混）
12　暗褐色細砂（粗砂混）
13　黒褐色砂泥（礫混）
14　黒褐色砂礫

図45　遺構断面図（1：50）

北壁では厚さ0.15mの盛土の直下から版築状の整地層が厚さ0.4mあり、以下-0.9mの掘削深までが砂礫の無遺物層である。整地層は泥砂層、砂泥粘質層、砂礫層を0.05～0.15mの厚さで交互に約7層積み重ねているが、西半分は後世の土壙に削平されている。この整地層の下層で無遺物層を切って土壙を2基検出している。東側隣地境界から西へ3.07mの地点で基壇状高まりの西端は近世以降の落込に切られている。この西端が基壇状高まりの西端であるかどうかは不明である。東壁でも北壁と同様の堆積状況を示しており、基壇状高まりの南端は南側隣地境界から北へ2.88mの地点である。つまり、基壇状高まりの残存部分の検出範囲は敷地の北東隅から北壁で3m、東壁で1.17m間である。

出土遺物としては、整地層（第5層）から中世頃と考えられる須恵質陶器片が1片と、整地層下層の土壙2基（9・10層）より平安時代前期から中期にかけての土師器、黒色土器、灰釉陶器などがある。しかし、いずれの土器も実測、復原できない細片である。

ま と め

今回の調査では、版築状の整地層を上部にもつ基壇状の高まりを断面で確認した。基壇状高まりの南西角近辺を確認したと考える。整地層には中世の遺物を含み、下層に平安時代前期から中期の土壙があることから考えて、この高まりは平安時代以降に築造されたものと考えられ、飛鳥時代に創建されたとされる北野廃寺の時期まで遡らない。なお今回は断面のみの観察であることや近世以降の落込によって切られているため、基壇状高まりの規模、方位を確定することはできなかった。

当地から南へ200mの調査[註]（97RH65）で、平安時代中期から室町時代にかけての道祖大路末の路面と西側溝が確認されている。当地はその道祖大路末の北延長部、大路の正面にあたり、敷地南端から一条大路北築地線までの距離が約240mであるなど、平安京の条坊地割りに則った位置関係にあるといえる。（竜子）

註　本書Ⅲ-3　小檜山一良「北野遺跡・北野廃寺2」

3　北野遺跡・北野廃寺２（97ＲＨ65）

調査経過（図46）

本調査は、北区北野西白梅町75番地で行われた住宅建設工事に伴う調査である。1997年５月９日、基礎工事の際の掘削断面の観察により、南北方向の２条の溝が良好に遺存していることが明らかになった。このため、京都市埋蔵文化財調査センターおよび施工業者と話し合い、工事を中断して調査を実施することとなった。

調査期間が限定されたため、工事業者側の重機によって溝の上面までの土層を排除・搬出した後、５月12日から16日にかけて４日間調査を行った。敷地内の東側には建築資材が置かれているため南北13m、東西４～６mの台形状で約60m²の調査区となった。その後の工事中にも敷地東端で南北両壁の補足調査を行った。

調査地は、北野廃寺の西限付近に推定されている地点で、さらに弥生時代から古墳時代の北野遺跡にも含まれる。近辺の主要な調査では、北東の1978年調査[註1]（第３次）で古墳時代の竪穴住居跡や平安時代の掘立柱建物など、1979年調査[註2]（第７次）で飛鳥時代から平安時代前期の瓦窯群や平安時代の掘立柱建物、室町時代の掘立柱建物や井戸など、さらに120m東の1981年調査[註3]（11次調査）で、平安時代の土壇や瓦溜り、室町時代の溝や柵などが検出されている。また、調査地より20m南の1989年調査[註4]では遺構・遺物は未検出であった。

遺　構（図版27-２、図47～50）

地表面は調査区北端で標高58.40m、南端で58.20mと緩やかに北から南へ傾斜している。基本層序は厚さ約0.3mの近世・現代の盛土層、厚さ0.1m前後の室町時代後半の遺物包含層、以下無遺物層となる。室町時代後半の遺物包含

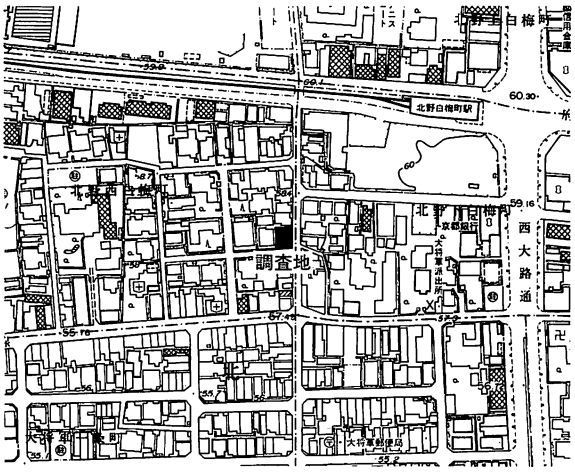


図46　調査位置図（1：5,000）

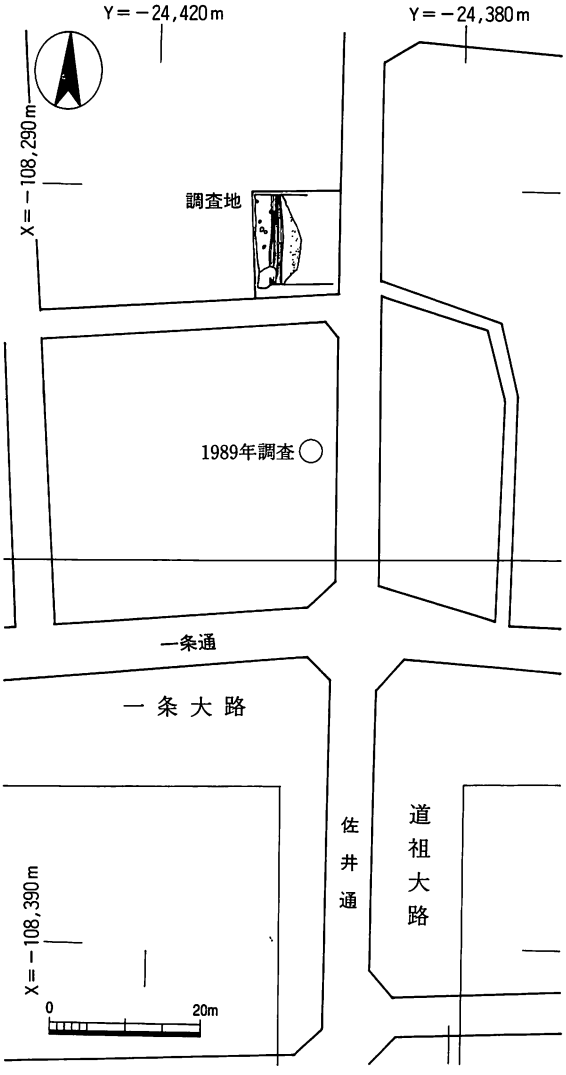


図47　調査区位置図（1：1,000）

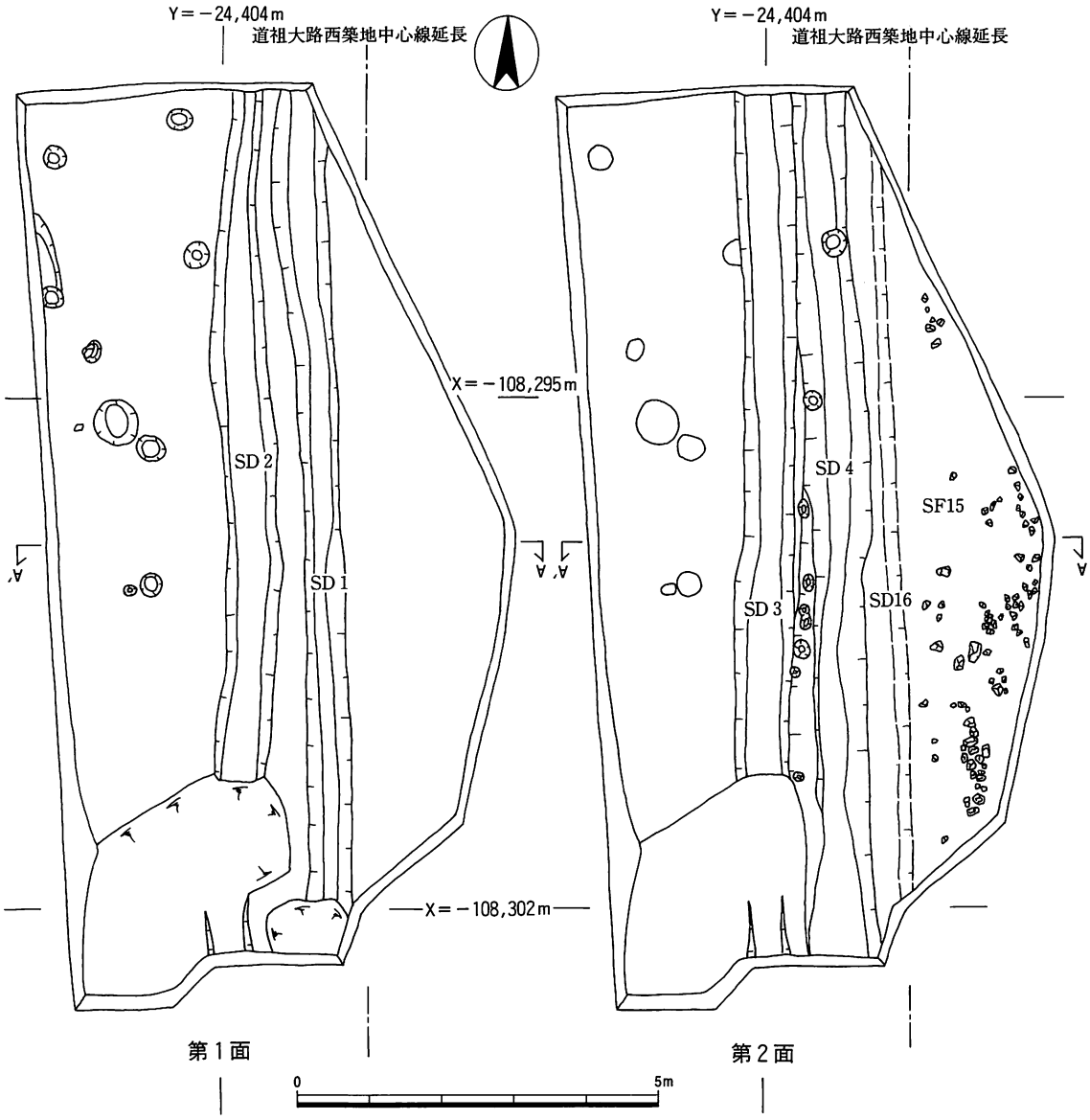


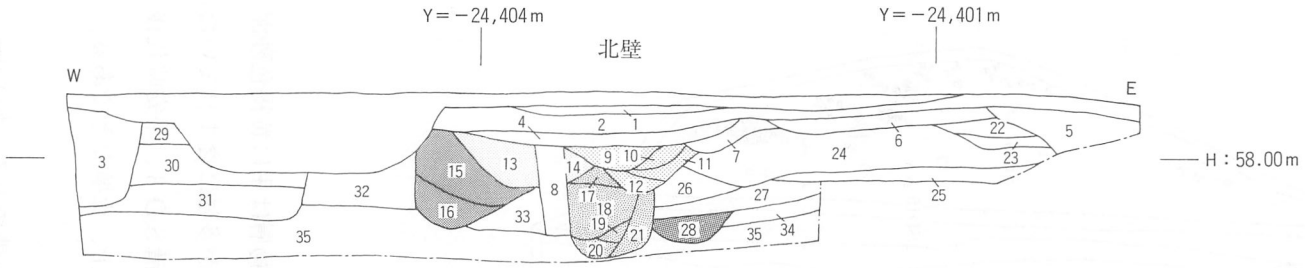
図48　遺構平面図（1：100）

層はオリーブ黒色砂泥で、少量の土器類と多量の瓦類を含んでいる。無遺物層は主に黄褐色砂泥である。また、西壁には約0.4mの厚さの整地土層があり、室町時代の瓦類が多量に含まれていた。

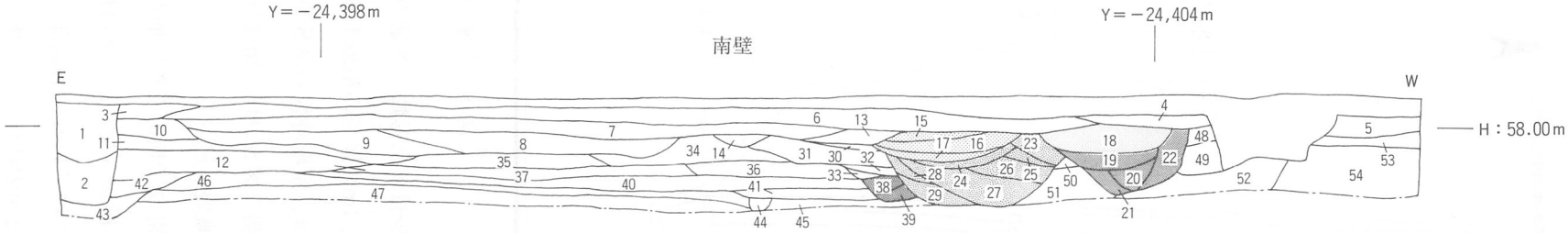
調査で検出した主な遺構は、室町時代の溝ＳＤ１・２、鎌倉時代前期の溝ＳＤ３、平安時代後期の溝ＳＤ４、平安時代中期の溝ＳＤ16、路面ＳＦ15・17、ピット10基以上、土壙などである。ここでは溝と路面について概要を述べる。

ＳＤ１　調査区中央部東寄りで検出した断面が浅いＵ字状の南北方向の溝である。幅0.9m、深さ0.3mである。埋土は４層からなり、上層は灰褐色砂泥で炭や礫を含み、溝の底部には部分的に灰白色系の粘土を貼りつけている。溝底部の標高は北端で57.80m、南端が57.72mと非常に緩やかな傾斜である。遺物は平安時代の土器類や瓦類が多く、15世紀の土師器片が少量出土した。

ＳＤ２　ＳＤ１の西隣に位置する南北方向の溝で、幅1.0m、深さ0.4mとＳＤ１よりやや規模が大きい。断面は浅いＵ字状を呈し、底部の標高は北端で57.82m、南端が57.78mでＳＤ１と同



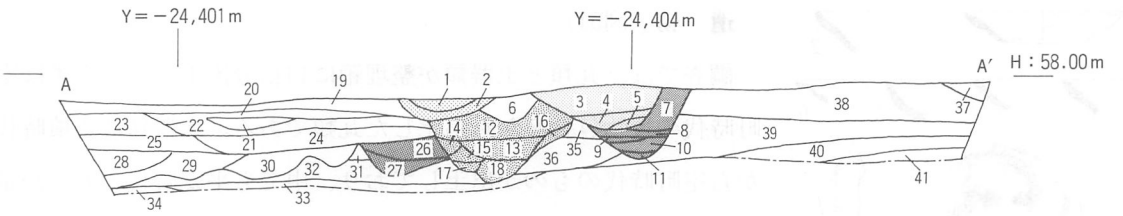
1 黒褐色砂泥
2 黒褐色砂泥
3 灰黄褐色砂泥
4 暗褐色砂
5 黒褐色砂泥
6 にぶい黄灰色泥砂
7 灰黄褐色砂泥
8 黒褐色砂泥
9 黒褐色粘土・黒褐色砂泥（粘質）
10 黒褐色砂泥
11 にぶい黄褐色砂泥
12 にぶい黄褐色砂泥
SD1
13 暗褐色砂泥（やや粘質）
14 暗褐色砂泥（やや粘質）
SD2
15 黒褐色砂泥
16 黒褐色泥砂
SD3
17 暗褐色砂泥（粘質）
18 黒褐色砂泥
19 暗褐色泥砂
20 にぶい黄褐色泥砂
21 暗褐色泥砂
SD4
22 黒褐色砂泥（やや粘質）
23 黒褐色砂泥（やや粘質）
24 黒褐色砂泥
25 黒褐色砂泥（粘質）
26 暗褐色砂泥
27 黄褐色砂（小礫混）
28 にぶい黄褐色泥砂—SD16
29 黒褐色泥砂
30 黒褐色砂泥
31 黒褐色砂泥（粘質）
32 明褐色砂泥
33 黄褐色泥砂
34 黄褐色泥砂
35 暗褐色泥砂



1 黒褐色砂泥
2 灰黄褐色砂泥
3 黄灰色砂泥
4 黒褐色砂泥
5 灰黄褐色砂泥
6 黒褐色泥砂
7 オリーブ黒色砂泥
8 黒褐色泥砂
9 灰黄褐色泥砂
10 暗オリーブ褐色泥土
11 黒褐色泥土
12 黒褐色砂泥
13 灰黄褐色泥砂
14 黒褐色砂泥
15 褐灰色砂泥
16 黒褐色砂泥
SD1
17 灰黄褐色砂泥
18 黒褐色砂泥—SD2
19 黒褐色砂泥
20 黒褐色砂泥
21 黒褐色砂泥
22 黒褐色砂泥
SD3
23 暗褐色砂泥
24 黒褐色砂泥
25 灰黄褐色砂泥
26 黒褐色砂泥
27 黒褐色泥砂
28 黒褐色砂泥
29 灰黄褐色砂泥
SD4
30 褐色砂泥
31 暗オリーブ褐色泥砂
32 暗褐色砂泥
33 オリーブ褐色泥砂
34 黒褐色砂泥
35 黒褐色泥砂
36 暗灰黄色泥砂
37 暗灰黄色泥砂
38 褐色砂泥
39 にぶい黄褐色砂泥
SD16
40 にぶい黄褐色泥砂—SF17
41 褐色砂礫
42 灰褐色泥砂
43 暗褐色泥砂
44 黒褐色泥土
45 オリーブ褐色砂泥
46 暗灰黄色泥砂
47 にぶい黄褐色泥砂
48 黒褐色砂泥
49 暗褐色砂泥
50 にぶい黄褐色砂泥
51 褐色泥土
52 暗褐色砂泥
53 黒褐色砂泥
54 灰黄褐色砂礫

0　2m

図49　南・北壁断面図（1：50）



1 黒褐色砂泥
2 暗褐色砂泥
SD1
3 黒褐色砂泥
4 黒褐色砂泥
5 黒褐色砂泥
SD2
6 黒褐色砂泥
7 黒褐色砂泥（やや粘質）
8 黒褐色砂泥
9 黒褐色砂
10 黒褐色砂泥
11 極暗褐色砂泥
SD3
12 黒褐色砂泥
13 黒褐色砂泥（やや粘質）
14 暗褐色砂
15 黒褐色砂泥
16 黒褐色砂泥
17 極暗褐色砂泥
SD4
18 暗褐色砂泥（やや粘質）
19 黒褐色砂泥―SF15
20 褐色砂礫
21 暗褐色砂
22 暗褐色粗砂
23 黒褐色砂礫
24 暗褐色砂
25 暗褐色砂礫
26 暗褐色砂泥
27 褐色砂泥（やや粘質）
SD16
28 暗褐色砂泥
29 暗褐色砂泥
30 暗褐色砂泥（粘質）
SF17
31 褐色砂泥（粘質）
32 褐色粘土ブロック
33 暗褐色粘質土・黄褐色粘質土
34 にぶい黄色砂礫
35 黒褐色砂泥
36 暗褐色砂泥
37 黒褐色砂泥
38 黒褐色砂礫
39 暗褐色砂泥（粘質）
40 褐色砂泥
41 褐色砂泥（粘質）

図50　セクション断面図（1：50）

様に非常に緩やかな傾斜である。埋土は３層からなり、上層は暗褐色砂泥を主体とし、中層には直径0.05～0.12mの礫を多量に含む。北壁断面の観察ではＳＤ１に切られているが、出土した遺物からはほとんど時期差は認められない。

ＳＤ３　幅1.1m、深さ0.7mの南北方向の溝で、断面はＵ字状を呈しＳＤ１・２のほぼ２倍の深さである。埋土は５層からなり、上層は粘質のやや強い黒褐色砂泥で、中層には砂層が認められる。底部の標高は北端で57.74m、南端が57.46mで、他の溝よりはやや傾斜が強い。ＳＤ２とほぼ重複し、ＳＤ２に切られている。10～13世紀の土器類が出土した。

ＳＤ４　ＳＤ１とほぼ重複する南北方向の溝で、断面はＵ字状を呈する。幅1.2m、深さ0.7m以上で、検出した溝の中では最も深く、規模も大きい。溝底部は平坦ではなく、全体の傾斜は非常に緩やかである。埋土は７層からなり、上層は黒褐色砂泥で、下層には粘質の強い砂泥が堆積する。溝東肩部付近に直径0.1m程の木杭跡の並びが確認できる。埋土から９～12世紀の土器類が出土した。

ＳＦ15　室町時代後半の遺物包含層下面で路面を検出した。路面は黒褐色砂泥の非常に堅く締まった堆積層で、上面には部分的に礫を敷き詰める。ＳＤ３ないしＳＤ４に対応するとみられる。

ＳＤ16　断割り調査によってＳＦ15の下位で検出した溝で、南北両壁および中央セクション壁で確認した。断面が浅い逆台形状の南北方向溝で、検出した溝の中では、最も東に位置する。幅0.5m、深さ0.3mである。埋土は主に２層からなり、上層は暗褐色砂泥を主体とし、部分的に砂層を含み、下層は粘質の強い砂泥である。溝底部の標高は北壁で57.46m、南壁が57.42mと非常に緩やかな傾斜である。ＳＤ４に切られており、検出した溝の中では層位的に最も時期が古い。９～10世紀の土器類が出土した。

ＳＦ17　ＳＤ16の東に位置し、ＳＦ15上面より0.3m下位で確認した路面である。上層は暗褐色砂泥の非常に堅く締まった層を成し、下層は褐色の粘土に礫を含んだ層となる。ＳＤ16と同様に断割り調査で検出した。下層で10世紀の土師器が出土しており、ＳＤ16に対応するとみられる。

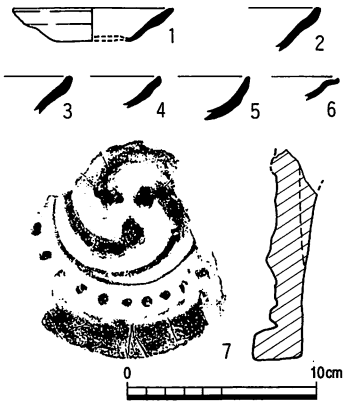


図51　遺物実測図（1：4）

遺　物（図51）

調査では、瓦類と土器類が整理箱に14箱分出土した。大半は室町時代の遺物包含層から出土した瓦類である。土器類は古墳時代から室町時代のものが出土しており、中でも平安時代のものが量的にも多く、土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・黒色土器・瓦器・製塩土器・輸入陶磁器などが各遺構から出土している。これらの土器類は、ほとんどが細片のため全形を示すことはできないが、主要な遺構から出土した土師器については口縁端部の形態を図化し掲載した。

土師器皿（1・2）　1は、口径8.4cm、器高1.7cm。体部下半がオサエ、口縁部付近はナデ調整を施す。体部中位の外面は稜状に少し張り出す。胎土の色調はやや赤褐色を呈する。2は、口径11cmほどの大型品とみられる。体部から口縁部が外反し、口縁端部は尖り気味にやや上方へ向け、先端は小さく丸く収める。赤色系。ともに15世紀半ば［Ⅸ期古］[註5]に属する。ＳＤ１から出土した。

土師器皿（3）　2と同タイプの大型品。15世紀半ば［Ⅸ期古］に属する。ＳＤ２から出土した。

土師器皿（4）　体部外面上半から口縁部外面に横方向のナデによる一段の浅い窪みが認められ、ナデ部分がやや外反する。橙褐色系。13世紀前半［Ⅳ期新］に属する。ＳＤ３から出土した。

土師器皿（5）　厚手で体部外面上半から口縁部外面に二段のナデを施す。橙褐色系。12世紀前半［Ⅴ期中］に属する。ＳＤ４から出土した。

土師器皿（6）　いわゆる「ての字状口縁」と称される口縁形態で、器壁は非常に薄い。器高は明らかではないが、やや深いタイプに属するとみられる。10世紀［Ⅲ期中］に属する。ＳＦ18から出土した。

三巴文軒丸瓦（7）　左巻き巴文で、頭部は離れ、尾部は互いに接して界線となる。大粒の珠文が密にめぐる。瓦当部裏面に補充粘土を多く使用している。瓦当面に離れ砂が多く認められる。灰色を呈する。室町時代の遺物包含層から出土した。

他には、円面硯、製塩土器、古墳時代後期の須恵器高杯や白鳳期の平瓦など、少量ではあるが出土している。

ま　と　め

調査地は、平安京一条大路と道祖大路の交差部から北へ40mほどの平安京外にあたる地点であるが、路面と対応した南北方向の溝５条などを検出した。これらの遺構は、およそ３時期に分けられる。

まず平安時代中期にはＳＦ17とＳＤ16がある。路面の西側に溝が位置する関係から、南北道路とその西側溝にあたるとみられる。現段階では、当地に敷設された最初の時期の道路とみられる。

次に、平安時代後期にはＳＦ15とＳＤ４がある。これらも南北道路と西側溝にあたり、ＳＤ４は最初に造られたＳＤ16の２倍以上の規模でその西側に開削している。また、鎌倉時代前期の溝にはＳＤ３がある。ＳＤ３はＳＤ４を廃棄した後に、新たに西側にほぼ同規模で造り替えられた

側溝である。

室町時代の溝にはＳＤ１とＳＤ２がある。ＳＤ２はＳＤ３の廃棄後にほぼ同位置で成立しているが、成立後まもなく埋め戻され、その東側にＳＤ１が造り替えられている。ともに前代の側溝より小規模である。

当地は平安京外であり、座標上では道祖大路西築地の中心線を北に延ばすと、調査区内にこの延長線が通ることになる。今回検出した南北方向の５条の道路側溝は、すべてこの延長線の西２m以内に位置し、また溝の傾きもほぼ並行していることが明らかになった。今回検出した平安時代中期の南北道路と西側溝は、当初平安京の条坊制に規制を受けて敷設され、その後もほぼ同位置で継続的に室町時代に至るまで機能していたとみられる。

なお、今回の調査においては、平安時代前期の道路と側溝や奈良時代以前の遺構は認められなかった。また、調査地西隣の民家の地表が調査地の地表面より、北で0.3m、南で0.6mほど高く、基壇状の高まりとなっていることを確認している。さらに調査区内で中世の瓦類が多量に出土していることなどから、当地周辺に室町時代の寺院などの存在が想定される。　　（小檜山一良）

註１　梅川光隆『北野廃寺跡－シャルマンハイツ白梅町新築に伴う発掘調査の概要』昭和53年度　（財）京都市埋蔵文化財研究所　1980年

註２　堀内明博・吉村正親『北野廃寺発掘調査概報　昭和57年度』　京都市文化観光局　1982年

註３　本弥八郎・木下保明「第11次発掘調査」『北野廃寺発掘調査概報　昭和61年度』　京都市文化観光局1987年

註４　「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報　平成元年度』　京都市文化観光局　1990年

註５　小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第３号　（財）京都市埋蔵文化財研究所　1996年

4　梅ケ畑祭祀遺跡（97ＵＺ１）

調査経過（図版28、図52・53）

本調査は右京区梅ケ畑向ノ地町の小丘陵を対象とした立会・発掘調査である。この小丘陵に京都市水道局山ノ内浄水場の高区配水池を新設するため、丘陵北側の掘削工事が1997年４月より開始された。本丘陵では1963年の東側宅地造成時に弥生時代中期の銅鐸４個が出土している[註1]ことから、今回の掘削工事に際しては「梅ケ畑遺跡（銅鐸出土地）隣接地」として調査を実施した。掘削工事は、掘削対象となっている丘陵の東裾部分より始められ、ほどなく丘陵北側の樹木伐採が行われた。

図52　調査位置図（1：5,000）

工事掘削が進んだ４月21日、丘陵の頂部に近い北東尾根筋の重機による撹乱において平安時代前期の土器類を多量に含む層を確認した。これまで本丘陵には当該期の遺跡の存在は知られておらず、翌日より遺構・遺物の分布状況を把握するための追認調査を開始した。その結果、平安時代前期の遺物包含層が北東斜面全域に拡がること、丘陵頂部や東斜面に人為的と見られる平坦面が存在することなどを確認した。この間、京都市埋蔵文化財調査センターに遺跡の状況や出土遺物などについての報告を行い、平安時代前期を中心とする新発見遺跡として調査の必要が認められ、発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、５月16日より開始した。調査中も掘削工事が継続されていたため、工事の進捗状況に合わせて、便宜的に頂部北半と北東斜面をＡ地区、頂部南半をＢ地区、東斜面をＣ地区とし、計13のトレンチを設定した。調査は、頂部および東斜面では遺構の検出、北東斜面では遺物出土状況の把握と遺物収集を主目的とし、全ての作業を人力で行った。当初の予想よりも北東斜面での遺物出土量が多く、二週間の調査期間の延長が認められ、６月27日まで継続した。調査中の６月15日に現地説明会を実施し、成果を公表した。

発掘調査終了までに樹木の伐採が未了であるなどの理由で、発掘調査では及ばなかった範囲に関しては、この後も立会調査の形で調査を継続した。工事掘削がかなり進んだ西斜面の掘削断面

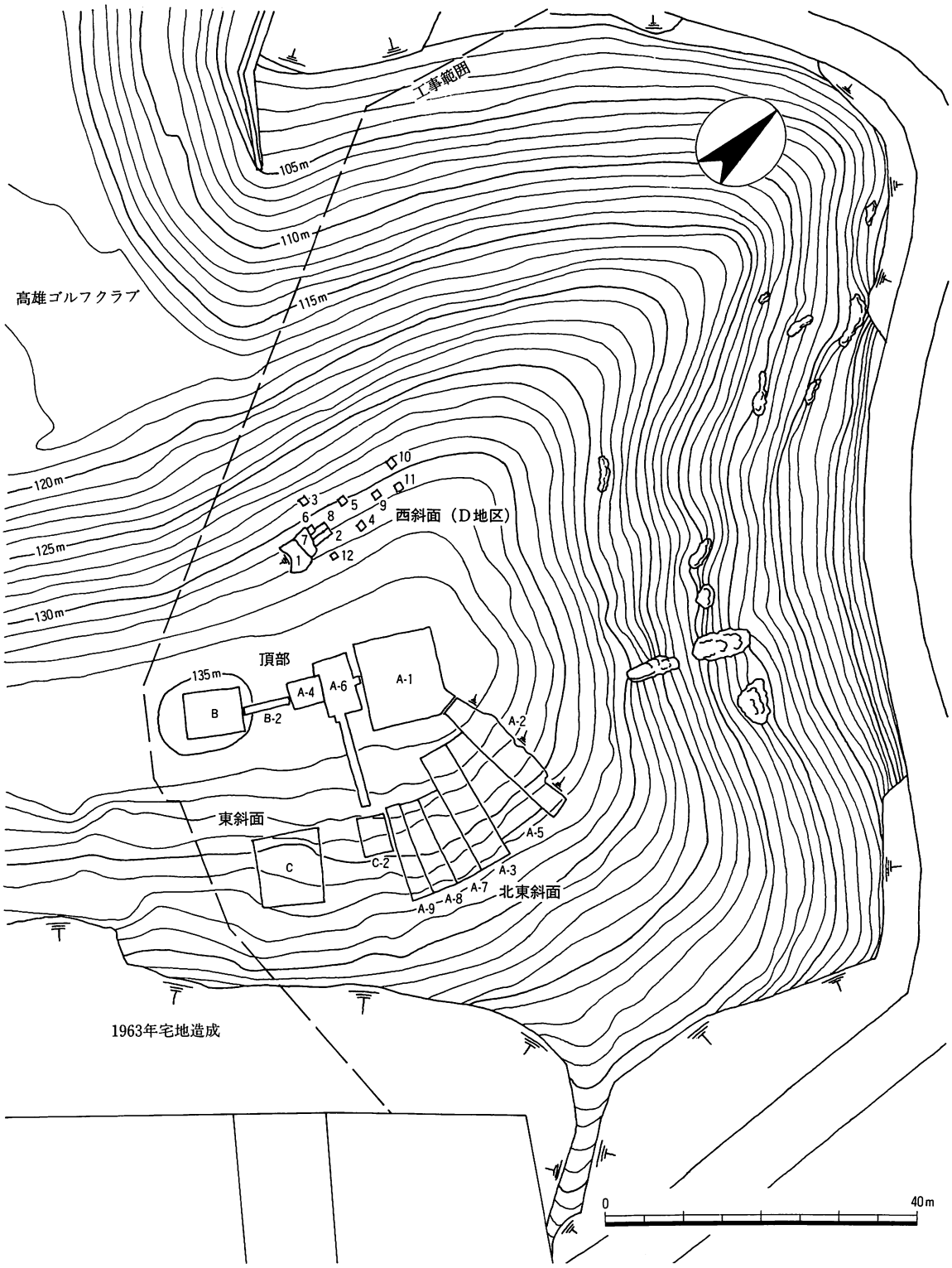


図53　丘陵地形図およびトレンチ配置図（1：800）

で、それまで認識できなかった奈良時代の遺物包含層を確認した（D地区）。このため、その部分の工事掘削を一時中断して、8月22日から29日まで調査を行った。

本来であれば、本報告では立会調査部分のみについて記すべきであるが、一連の調査であることを重視し、発掘調査で得た成果も含めて遺跡の概略を報告することにした。なお、立会調査は現在も断続的に継続している。

遺　構（図版29～32、図53・54）

丘陵は北北東へ突き出ており、平面的な形状は北東と北西に尾根筋が張り出して、北面の中央がやや凹んでいる。頂部の標高は135m前後、周囲の道路面との比高差が35mほどの小丘陵であるが、丘陵腹の傾斜は比較的急峻である。北面の斜面はとくに急峻であり、巨大な岩盤がいくつも露頭している。頂部は比較的平坦で、北端から南へ緩やかに高くなっている。

遺構の状況や出土遺物の時期などから、奈良時代中頃を中心とする西斜面、平安時代前期前半を中心とする北東斜面、平安時代前期後半を中心とする頂部および東斜面平坦面の三つに分けることができる。

Ⅰ．**西斜面**　西斜面（Ｄ地区）では計12箇所に0.5m四方の小グリッドを設け、土層観察と遺物の分布状況について調査を行い、遺物の出土状況によってグリッドを拡張する方法を採った。その結果、Ｄ-１・２・６～８とした標高130mを中心とする南北7.5m、東西４mの極く限られた範囲において、遺物包含層を確認した。遺物包含層は炭化物を多く含む厚さ0.3～0.5mの明褐色泥砂であり、奈良時代中頃を主体とした遺物が出土した。その他のグリッドでは遺物が皆無であった。

Ⅱ．**北東斜面**　本遺跡発見の契機となった遺物包含層の分布域である。この斜面には、東西方向の七つのトレンチ（Ａ-２・３・５・７～９地区、Ｃ-２地区）を放射状に設けた。調査で確認できた遺物包含層の範囲は、南北が北東尾根先端部からＣ-２地区辺りまでの約25m、東西は頂部平坦部の東端から下方へ水平距離で約20m、標高では133m前後から127mまでである。遺物の分布はこれより下方にも拡がっていたが、工事による掘削が迫っており、安全上の理由から確認できなかった。遺物は西斜面と同様に炭化物を多く含む厚さ0.2～0.5mの明褐色砂泥層に含まれている。層位的に取り上げることが困難であったため、各トレンチの西端より水平距離２mのグリッドを設定して取り上げた。平安時代前期前半を主体とする遺物が多量に出土した。

Ⅲ．**頂部および東斜面**　丘陵頂部にはＡ-１・４・６地区、Ｂ・Ｂ-２地区の五つのトレンチ、東斜面平坦部にはＣ地区を設けた。後述するこれらの地区の整地層・盛土からは、平安時代前期後半を主体とする遺物が出土した。

頂部の北側には岩が露出する平坦面（Ａ-１地区）があり、その南にやや高まった地域（Ａ-４・６地区）、さらに南端には中央に礫敷遺構のある円形の高まり（Ｂ地区）があって、北から南に向けて緩やかに三段に高められた状態である。Ａ-１・４・６地区では、表土の腐植土層を除去すると黄褐色砂泥の整地層となる。

Ａ-１地区の整地層は厚さ0.1m前後あり、上面は北端がやや高く南に低くなる。この平坦面の中央南寄りには東西1.5m、南北1.3m、高さ0.5mの岩が露出している。この岩は無遺物層の堅い岩盤層の一部が露頭しているもので、人為的に据えられたものではないことを確認した。この岩の南からＡ-６地区の北半には幅約４mの東西方向の浅い溝状の凹み（ＳＤ１）があり、頂部では最も低くなる。ＳＤ１の南肩から南は、整地層によって緩やかに高められＡ-４地区へとつづく。

Ａ-４地区は、厚さ0.3～0.4mの整地層によってＡ-１地区に比べると0.4mほど高められており、平坦な段状の遺構である。Ａ-６地区は北半はＳＤ１、南半はＡ-４地区へつづく緩やかな傾

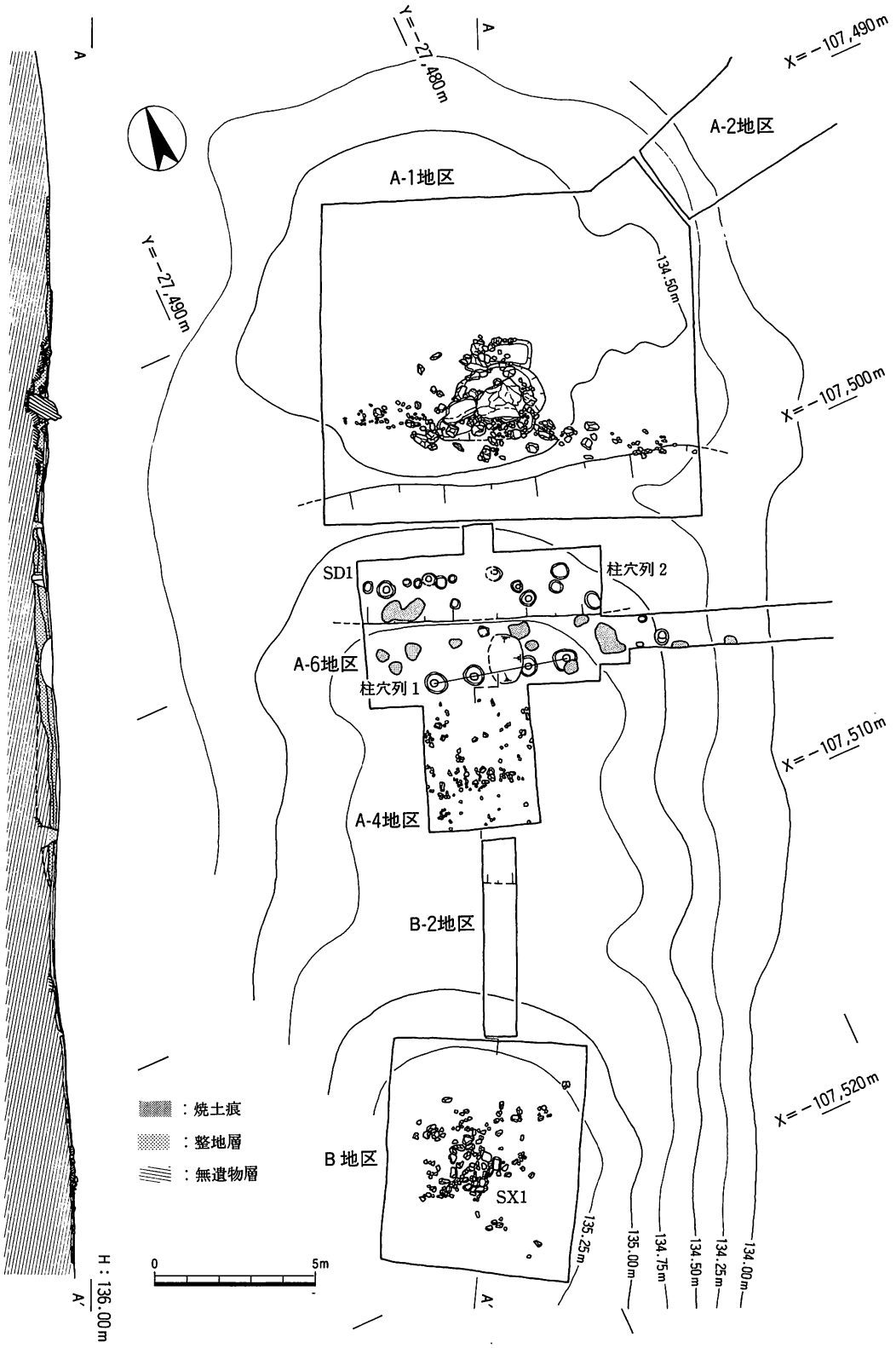


図54　頂部遺構平面・断面図（1：200）

斜面となっており、整地層上面で焼土痕と柱穴列を確認した。焼土痕はＳＤ１の南肩に沿うように東西の帯状に分布しており、幅約２ｍの間に11箇所確認した。また、柱穴列はいずれも東西方向と考えられ、柱穴列１を焼土痕群の南、柱穴列２をＳＤ１の底部で検出した。柱穴列１は東西

三間で、柱間が東から1.2m、1.7m、1.2mである。柱穴列2は少なくとも2列以上あると思われる。柱穴の多くは整地層を掘り下げた無遺物層上面で検出したが、整地層の上面から切り込んでいることを断面観察により確認している。

B地区はA-4地区よりさらに約0.5m高められている。その間に設けたB-2地区の北端より1.2mの地点でA-4地区を形成している整地層は収束し、以南は無遺物層となる。B地区は無遺物層を削り出して不整な円形の高まりとして整形されている。その中央で礫敷遺構（SX1）を検出した。SX1は長軸0.5m前後の礫を平坦な面を造るように配している。礫の分布は3m四方でまばらであるが、礫の隙間には0.2mほどの盛土を施しており、中央の1.5m四方は比較的密に礫を配する。配された礫の多くは角礫であるが、角の丸い河原石も少量含まれていた。

東斜面C地区はB地区の東の丘陵斜面を削り取り、下方に盛土を施して平坦面を造り出したテラス状の遺構である。削り出された崖面は高さ1.8mあり、平坦面の盛土は東へ厚くなり、東端では厚さ2m以上におよぶ。平面的には一辺7mほどの方形を意識したように思える。ここでは建物の痕跡などは認められなかった。

遺　物（図版33・34、図55～57）

遺物は全体でこれまでに整理箱に89箱出土した。現在、整理途中で今後詳細な検討が必要であるが、まずそれぞれの地区の出土遺物の概要について記す。

西斜面遺物包含層からは、完形のものを多く含む土師器・須恵器のほか、製塩土器や石製品など奈良時代中頃を主体とする遺物が整理箱に4箱出土した。これらの遺物は出土状況などから、頂部より転落して溜まったものと考えられる。また、仏画を線刻した石製品がある。これについては後述する。墨書土器は1点あり、土師器皿の底部外面に「□寺」と記されている（図版34-2）。

北東斜面遺物包含層からは、平安時代前期前半のものを主体とする土師器・須恵器・黒色土器・二彩陶器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦・製塩土器のほか、銭貨・鉄釘・砥石などが整理箱に79箱程度出土した。土器類は小片で磨滅しているものが多いが、完形のものや接合によって完形になるものも多く、出土状況などから頂上付近より転落したものと思われる。土師器の食器類が最も多く、須恵器の食器類がこれに次ぐ。これらのなかには煤が付着し、灯明の用に供されたものが目立つ。土師器や須恵器の甕も多く、ほとんどのものに煮沸痕が明瞭に残る。また、須恵器瓶子は完形のものが多く、量的にも多い。土師器の皿や須恵器の杯蓋には墨書のあるものがあり、「秦」の字や仏の絵（図版34-2）とみられるものがある。瓦は少量あり、丸・平瓦のみで軒瓦は皆無であった。銭貨はいずれも土器類などと共に出土した。石製品には、摩擦痕があり砥石として用いられたものが出土している。ここで特筆されるのは二彩陶器が多く出土したことであるが、これに反して緑釉陶器や灰釉陶器が比較的少ないことも興味深い。

頂部および東斜面の整地層・盛土からは、いずれも小片であるが、平安時代前期後半を主体とする土師器・須恵器・黒色土器・二彩陶器・灰釉陶器・瓦・鉄釘・銅銭・砥石などが出土し、合わせて整理箱に6箱程度出土した。

以下に、本調査で出土した遺物のうち特筆される線刻石製品、二彩陶器、銭貨について記して

おくことにする。

線刻石製品[註2](図版33-1、図55)　西斜面D－8で出土した。石製品は長軸9.1cm、短軸8.4cm、最大の厚さ1.1cmの珪質頁岩～珪質粘板岩で、いわゆる鳴滝（砥）石と呼ばれる。その表面に線刻による仏画が施されている。表面は中央辺りが厚く稜をもち、上・下が薄く傾斜面となっている。裏面は後世に剝離してほぼ平らになっている。もとはもっと大きい石であったようである。

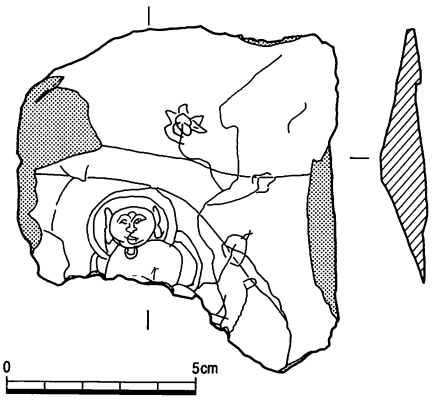


図55　線刻石製品実測図（1：2）

線刻は非常に細く、輪郭などは太めの線、細部は細い線で表すなど描き分けがみられ、丁寧、繊細に描かれている。頭には螺髪がなく、丸い顔の両側に大きな耳をつける。目尻は上がり気味で瞳を点で表現し、二本の鼻梁から踏ん張った鼻、やや曖昧であるが分厚い口が表される。眉の間に描かれたものは白毫であろうか。首はいわゆる二道である。身体は丸みを帯び、腕は中央で組み袖で隠れる「拱手」であると考えられる。身体左下には膝が描かれ、座像である。光背は頭光と身光を二重円光で表し、頭光の外側の線は中心からずれるが先端が尖っており、宝珠形を意識したともみえる。また、仏の左右には樹木が描かれており、「宝樹」を表しているとみられる。右の樹木は剝離により欠けているが、左のものは屈曲しながら上下に続いており、分かれた枝の先端には蕾や花と思われる表現が為されている。石が欠けており、身体の下半は欠損するが、仏の残存高は2.6cm、頭光まで入れると3.2cmである。「拱手如来座像」と考えられる。

画自体は稚拙で画師によるものではないと考えられるが、全体にボリューム感や明るい雰囲気があり、顔が丸い、肩幅が広い、耳が大きいことや丁寧に描かれている点などは古い要素と認められる。また、拱手像であること、樹木を描くことは奈良時代に多く、平安時代以降にはあまり見られない。仏画としては鼻梁が描かれるのは後の時代の要素であるが、奈良時代の人面墨書土器には鼻梁を描くものもある。以上の諸点から、出土地点の土器群と同時期の奈良時代の作とみてよいようである。

二彩陶器（図版33-2、図56）　頂部A－6地区で出土した1点以外は、すべて北東斜面の各地区の遺物包含層から出土した。小片が多いが、少なくとも皿・杯・鉢・小壷・小壷蓋・小型火舎・瓶・壷などの器種があり[註3]、皿と考えられるものが最も多い。図化し得たものは以下の11個体である。

皿（3～7）はいずれも口縁部の破片である。口縁端部は丸くおさめ、内面に強弱の差はあるが沈線を一条めぐらせる。内面と口縁部外面はヨコナデ、底部付近の外面はヘラケズリののちナデを施す。外面底部は透明釉のみで、それ以外には濃緑・透明釉を用いて文様を表現する。胎土は精良でやや黄色がかった白色を呈する。焼成はやや軟質である。口径は3が19.7cm、4が20.6cm、5が21.6cm、6が22.4cm、7が22.8cmである。3がA－5地区、4・7がA－9地区、5がA－7地区、6がA－2地区北側の斜面で出土した。

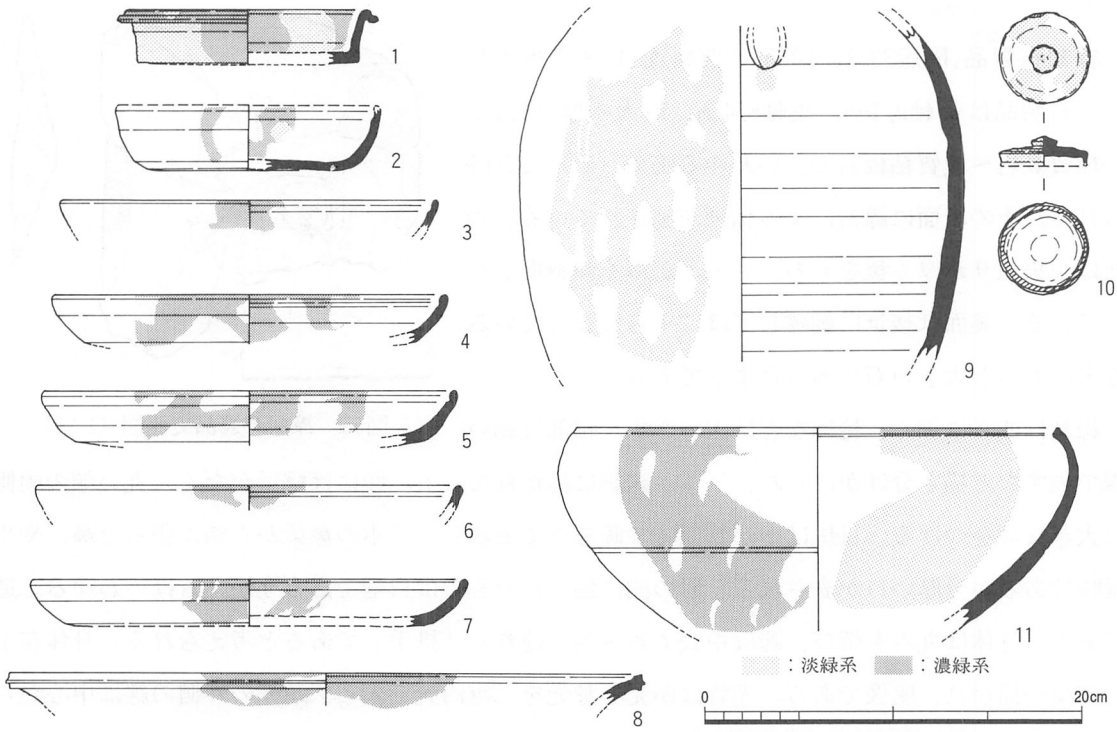


図56　二彩陶器実測図（1：4）

杯（2）は底部から内弯気味に立ち上がる口縁部をもつ。口縁端部は欠くが丸くおさめるものと思われる。口縁部内面には皿と同様に沈線を一条めぐらせる。内面と口縁部外面はヨコナデ、底部には回転ヘラケズリを施す。外面底部は透明釉のみで、それ以外には濃緑・透明釉を用いて文様を表現する。胎土は精良でやや黄色がかった白色を呈し、焼成は硬質である。口径は14.0cm、器高は3.35cmである。A-3地区で出土した。

鉢（11）は緩やかに拡がって立ち上がる体部から強く内弯する口縁部へつづく、いわゆる鉄鉢形である。底部は欠くが尖底になると思われる。体部外面の中ほどに沈線を一条めぐらせる。口縁端部は内傾する面をもつ。外面には濃緑・透明釉を用いて文様を表現し、口縁端部は濃緑色、内面は極く薄い緑色の釉を施す。内面および外面の沈線より上位にはナデ、下位はヘラケズリののちナデを施す。胎土は精良でやや黄色がかった白色を呈し、焼成は軟質である。口径は25.6cm、胴部最大径は27.6cmである。A-2地区北側の斜面で出土した。

小壷蓋（10）は口縁端部を欠くものの、ほぼ完形である。直線的に開く天井部から短い口縁部が垂下し、天井部中央には宝珠形のつまみがつく。天井部外面に回転ヘラケズリののちナデを施し、ほかは全体にナデで仕上げる。外面には黄緑・透明釉を用いて文様を表現する。内面には施釉しない。胎土は精良でやや黄色がかった白色を呈し、焼成は軟質である。天井部の径は4.6cmである。A-8地区で出土した。

小型火舎（1）は平坦な底部からやや外反気味に立ち上がる口縁部につづく。口縁端部は外へ拡張される。おそらく底部に脚がつくものと思われる。口縁部と底部内面にはナデ、底部外面にはヘラケズリののちナデを施す。釉は内外面ともに施し、濃緑色・黄緑色・透明釉によって文様

を表現する。胎土は精良でやや黄色がかった白色を呈し、焼成は軟質である。口径は12.4cmである。A-2地区で出土した。

瓶（9）は肩部から体部の破片である。肩部内面には楕円形の切り込みがみられ、釉が垂下していることから、多口瓶のような器形になるものと思われる。内外面ともヨコナデを施し、外面はとくに平滑に仕上げられている。施釉は外面のみで、やや黄色がかった淡緑色と透明釉で文様を表現している。胎土は精良でやや黄色がかった白色を呈し、焼成は軟質である。A-3地区で出土した。

壷（8）は外反気味に大きく開く口縁部の破片で、端部は外傾する面の下面に沈線をめぐらせる。釉は内外面ともに施され、濃緑色と透明釉で文様を表現している。胎土は精良でやや黄色がかった白色を呈し、焼成は軟質である。口径は31.4cmである。A-6地区で出土した。

これらのほかに、小壷の体部と考えられる小片や皿の底部、壷の頸部などが出土している。

銭貨（図版34-1、図57）　全体で14枚出土した。種類別には和銅開珎1枚、萬年通寶1枚、神功開寶6枚、隆平永寶3枚、富寿神寶3枚で、いわゆる皇朝十二銭のうちの五番目までのものである。頂部では、A-1地区整地層から隆平永寶が1枚（9）、A-6地区整地層から神功開寶が1枚（8）、B地区の礫敷遺構SX1の礫の間や下から神功開寶が4枚（3～6）それぞれ出土した。ほかはすべて北東斜面の遺物包含層から土器などとともに出土している。A-3地区では和銅開珎（1）・富寿神寶（14）各1枚、A-5地区では萬年通寶（2）・隆平永寶（10）各1枚と富寿神寶2枚（12・13）、A-8地区では神功開寶（7）・隆平永寶（11）各1枚が出土した。腐食の進んだ数枚を除いて、ほとんどのものが比較的良好に遺存していた。

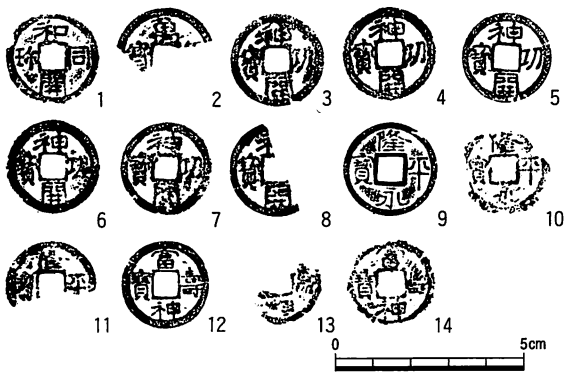


図57　銭貨拓影（1：2）

ま　と　め

本調査は弥生時代の銅鐸出土地の隣接地の調査として開始したが、期せずして奈良時代から平安時代の新たな遺跡の発見となり、立会調査から発掘調査の実施となった。

検出した遺構・遺物は先述したように、以下の三つの段階に分けることができる。

Ⅰ段階　奈良時代中頃　　；西斜面（D地区）

Ⅱ段階　平安時代前期前半；北東斜面（A-2・3・5・7～9地区、C-2地区）

Ⅲ段階　平安時代前期後半；頂部（A-1・4・6地区、B・B-2地区）・東斜面（C地区）

今後詳細な遺物の検討を必要とするが、遺構の状況や遺物の内容などから、祭祀的な性格の強い遺跡と考えられる。Ⅰ段階には線刻仏のような仏教的要素がみられるが、Ⅲ段階までには仏教的要素は払拭され、頂部の遺構にみられる祭祀的要素が強くなるといえよう。

斜面では祭祀に用いられ、使用のたびに頂部から投棄され累積したと考えられる遺物群が出土

した。Ⅰ段階には西斜面へ、Ⅱ段階以降には北東斜面へ投棄されたのであろう。北東斜面では他の地区をはるかに凌ぐ量の遺物が出土しており、土器類の投棄頻度、つまり祭祀行為の頻度の差が遺物量の差として現れたといえる。一方頂部ではⅢ段階に、整地層や無遺物層を削り出して北から南へ緩やかな三段築成の祭壇状の遺構が造られる。つまり、岩座ともみられる岩が中央に露頭する平坦面（A-1地区）があり、その南には柱穴列や焼土痕を挟んで整地層によって高められた段状の遺構（A-4地区）があって、南端に礫敷遺構のある円形の高まり（B地区）があるという構造である。また、これとほぼ同じ時期に、東斜面には斜面を削って下方に盛土を施したテラス状の空間（C地区）が形成される。頂部では明らかにⅡ段階以前に遡る遺構は検出できなかったが、これはⅢ段階に頂部が先述のような状態へ大規模に改変されたためと思われ、Ⅰ・Ⅱ段階にも頂部に祭壇のような遺構が営まれていたものと考えている。頂部の平坦な地域はB地区よりもさらに南へ続いているが、今回の工事範囲から外れるため調査できなかった。

以上のような状況から、本丘陵では奈良時代中頃以降、平安時代前期を通して断続的に頂部を中心とした何らかの祭祀が行われていたと考えられる。本遺跡は嵯峨野の北にひかえる北嵯峨丘陵に位置し、御室・鳴滝より神護寺・高山寺へ向かう街道が通る谷筋のやや奥まった南側の小丘陵上に立地している。平安京の北西角から直線距離で西北西に約2.2kmにあたるが、南東には本丘陵よりも高い音戸山があって平安京を見通せる位置にはない。かえって南方の嵯峨野や松尾などの方面の眺望がよいといえる。北東から南西には、北山から愛宕山の山塊が拡がる。祭祀の内容については今後の検討課題であるが、敢えてこのような地を選んで営まれた祭祀であったといえよう。とくにⅡ段階以降には投棄された遺物の内容やその特殊性、量の多さなどから、国家あるいは官などによる祭祀であった可能性も考えている。

今回の調査は周知の遺跡の「隣接地」として開始したが、平安京遷都前後の祭祀を考えるうえで貴重な発見となったと考えている。また、このことは行政的に調査の対象とされている遺跡以外にも、京都の歴史や平安京を考えるうえで、重要な遺跡が市内の各所に遺されている可能性があることを示している。今後、遺跡外の地域を含めて試掘・立会調査の重要性を見直す必要があり、組織的な分布調査の必要性も再認識しなければならないのではないだろうか。　　（高橋）

註1　京都市内唯一の銅鐸出土地、梅ケ畑遺跡。外縁付鈕式四区画袈裟襷文銅鐸が大小2個ずつあり、それぞれ「入れ子」の状態で出土したという。田辺昭三・佐原真「京都市梅が畑出土の銅鐸」『日本考古学協会昭和39年度大会　研究発表要旨』日本考古学協会　1964年

註2　仏画の時代鑑定は、京都国立博物館資料調査研究室長の伊東史朗氏と同館主任研究官の泉武夫氏にお願いした。また、石材の鑑定は京都府立山城郷土資料館資料課の橋本清一氏にお願いした。

註3　二彩陶器の器種の判定については、巽淳一郎編『陶磁（原始・古代編）』(『日本の美術』第235号、至文堂、1985年）掲載の「第86図　奈良三彩の器形」に準じた。

5　広隆寺旧境内（97ＵＺ201）

調査経過（図58）

右京区太秦桂木町９番地においてマンション建設が計画された。当地は広隆寺旧境内にあたり、工事に伴い1997年８月４日から12日にかけて調査を実施した。調査順にNo.１～５の番号をつけて断面観察・遺物採集を行った。

調査の結果、平安時代の土壙３基と飛鳥時代から奈良時代の土壙１基と包含層を検出した。

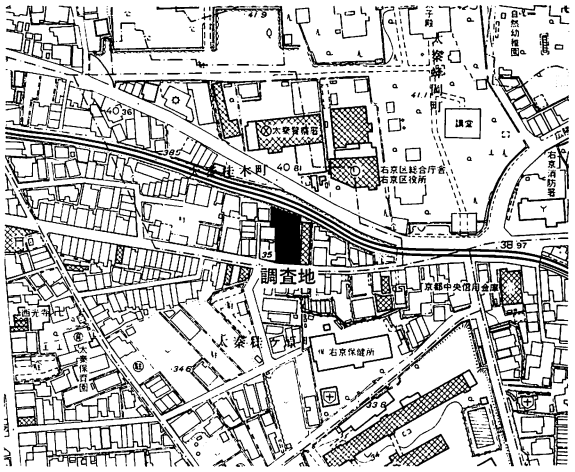


図58　調査位置図（1：5,000）

遺　構（図版35、図59・60）

敷地と道路との境界の縁石を水準点とすると、現地表は北東のNo.１・３地点では、＋0.9m、北西のNo.２地点では＋0.8m、南のNo.４・５地点では±０mと、敷地の北東方向が高く、南西方向に低くなっている。

No.１地点では、＋0.7mで土壙１を検出した。幅4.3m以上、深さ0.8mで、多量の瓦類と、少量の平安時代中期の遺物が出土した。また＋0.4mで厚さ0.2mの遺物包含層（No.１-３層）を検出した。この層は土壙１の肩部となり、飛鳥時代の遺物が出土した。＋0.2m以下は泥砂・砂礫の無遺物層となる。

No.２地点では、遺物包含層（No.２-３層）を南北５mにわたって検出した。北側では厚さ0.6m、南側では厚さ0.4mあり、平安時代の遺物が出土した。また、-0.2mで土壙２を検出した。幅2.3m、深さ0.5m以上で、平安時代の遺物が出土した。以下は泥砂・砂泥の無遺物層で、南へ低くなる。

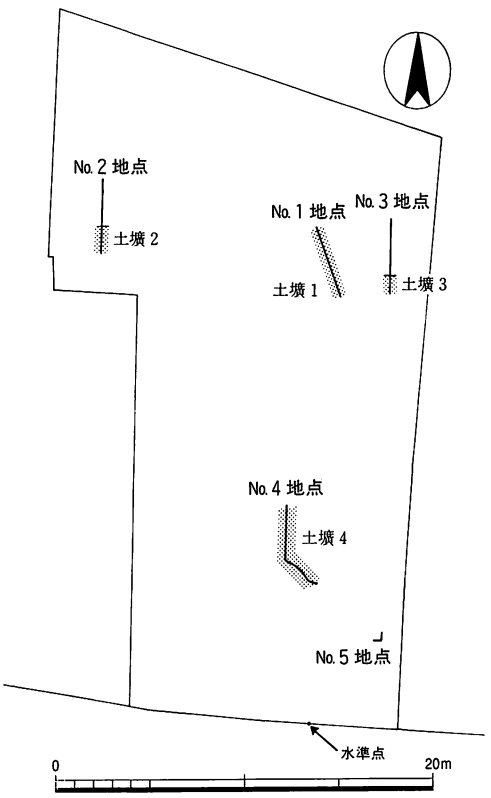


図59　遺構位置図（1：400）

No.３地点では、＋0.5mで土壙３を検出した。幅1.3m以上、深さ0.4mで、飛鳥時代から奈良時代の遺物が出土した。

No.４地点では、-0.3～1.4mで遺物包含層を３層検出し、平安時代中期の遺物が少量出土した。また、-1.4m以下は黄褐色砂泥の無遺物層となり、この上面で土壙４を検出した。南北幅4.0m以上、東西幅1.6m以上、深さ0.4mである。平安時代中期の遺物が出土した。

No.５地点では、-1.9mの遺物包含層から平安時代の遺物を採集した。

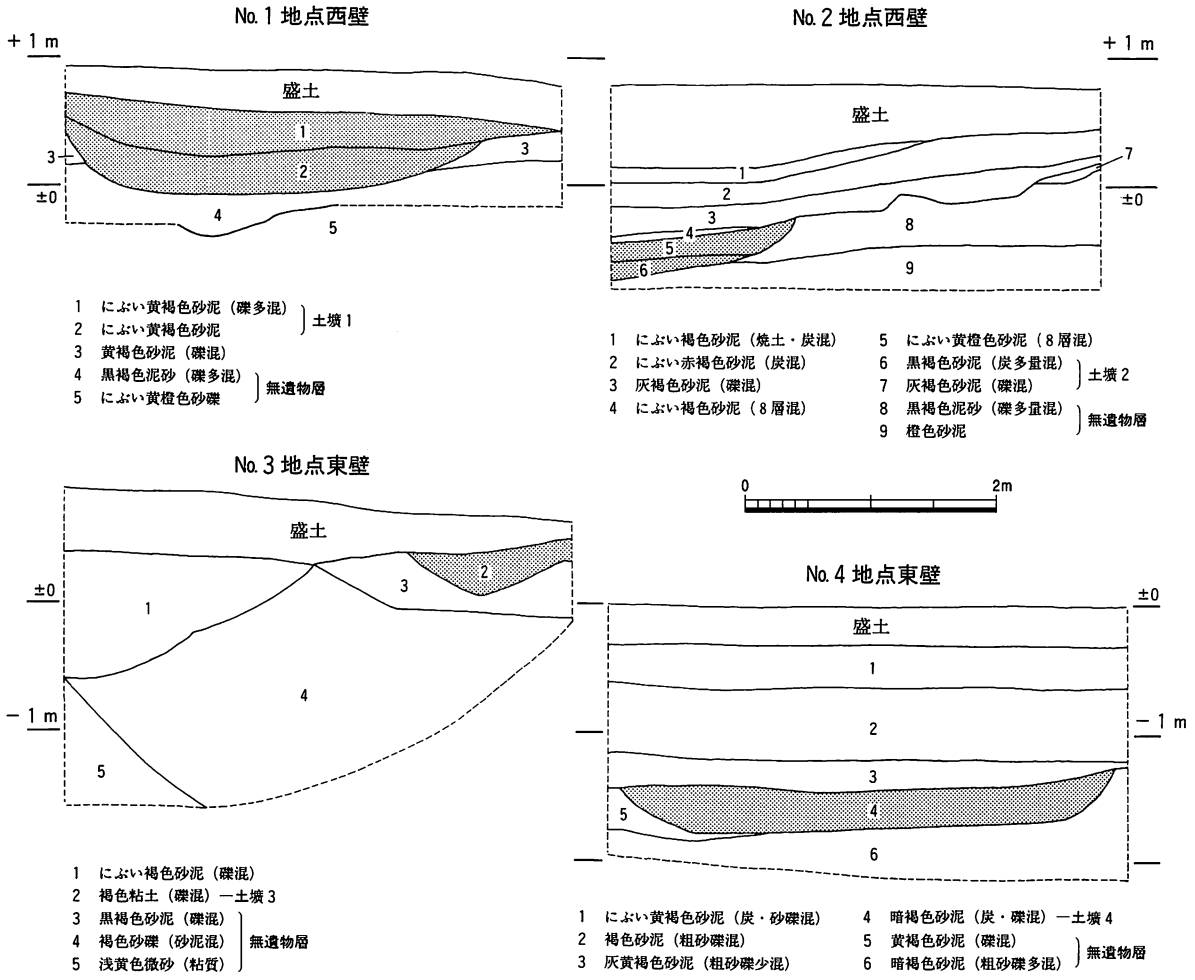


図60　遺構断面図（1：60）

遺　物（図版36・37、図61～62）

No. 1 地点では、土壙1から2点の軒瓦を含む瓦類、少量の平安時代中期の土師器皿など、整理箱16箱の遺物が出土した。遺物包含層（No. 1－3層）からは7世紀の須恵器甕が出土した。

No. 2 地点では、遺物包含層（No. 2－3層）から平安時代の土師器、瓦が出土した。土壙2から平安時代の土師器高杯、鬼瓦が出土した。

No. 3 地点では、土壙3から飛鳥時代から奈良時代の土師器、須恵器が出土した。

No. 4 地点では、3層の遺物包含層から平安時代中期の遺物が少量出土した。土壙4からは、平安時代中期の土師器皿・高杯、黒色土器椀、緑釉陶器片、須恵器壷や瓦類などまとまった遺物が出土したが、いずれも小片で計測可能なものはない。

No. 5 地点では、遺物包含層から平安時代の須恵器瓶子が出土した。

以上の遺物の大部分は瓦類で、少量であるが図化できる土器類が出土している。

須恵器甕（1）　口縁部は短く外反し、端部は外下方に肥厚する。体部外面にタタキメを施したのち、細条のハケメを施す。内面は同心円文がみられる。胎土は灰白色を呈し、焼成は軟質。7世紀に属する。No. 1 地点の遺物包含層から出土した。

須恵器瓶子（2）　頸部から上を欠くが、肩部がなだらかで体部はやや縦長である。体部内外面

はロクロ成形痕、底部外面は糸切り痕が残る。胎土は灰色を呈し、焼成は堅緻である。熔着や灰被りが多く認められる。9～10世紀に属する。No.5地点の包含層から出土した。

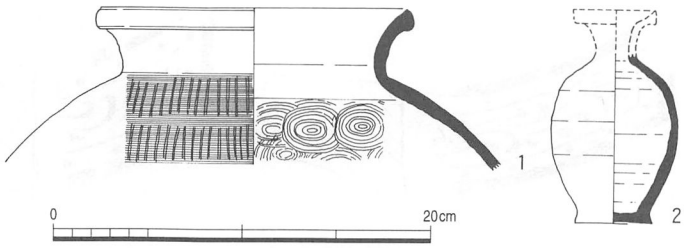


図61　遺物実測図（1：4）

「旨」銘均整唐草文軒平瓦（1）

土壙1より出土。瓦当左半部の破片であるが、中心飾りは○の中に「旨」の文字を配する。瓦当部の周囲および顎はヘラケズリの後ナデを施している。瓦当部の平瓦剥離部分は、強固に接合する個所なので「離れ砂」を付着させるとは考えられないが、「離れ砂」状に供土の上面に砂が多数付着している。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は淡灰色を呈する。広隆寺[註1]、北野廃寺[註2]、左京四条一坊[註3]などの調査で同笵瓦が出土している。

整唐草文軒平瓦（2）　土壙1の排土より出土。中心飾りを欠く瓦当左半部の破片である。瓦頭文様の笵は丁寧に作られているが押しは浅い。内区と脇区の界線の上延長部に細く線が認められるが、これは笵の彫り誤りと考えられる。瓦当部の周囲は丁寧にケズリとナデを施している。胎土は精良、焼成は良好、色調は暗灰色を呈する。広隆寺[註1]の調査で同笵瓦が出土している。

鬼瓦（3）　土壙2より出土。鬼瓦の歯と上唇（あるいは鼻の下部）の中心より左側の破片である。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は淡褐色を呈する。北野廃寺[註2]の調査で同笵瓦が出土している。他に、この鬼瓦と同笵と考えられる周縁の珠文帯の部分の破片と、周縁が珠文ではなく2本の界線で形成された破片も土壙1から出土している。

平瓦（4～14）　平瓦は土壙1・2から多量に出土している。平瓦の凸面に縄目叩き痕の他に楕円・格子・平行線・放射状の文様の叩き痕がある。

楕円文様には、中心に直線を置きそれを二重の楕円で囲んだもの（4）、中心に無数の平行線を並べそれを二重の楕円で囲んだもの（5）、中心に×印を置きそれを楕円で囲んだもの（6）の3例がある。

格子文様には、直交して目の粗いもの（7）、細かいもの（8）、斜格子で目の粗いもの（9）、さらに細かいもの（10）がある。7は目の中に数箇所丸い凸点が見られ、釘を打ち込んだ穴と考えられる。また、8は広端部と側部の角を広端部1.7cm・側部3.4cm分カットしている。用途は不明である。また広端面には、瓦制作時に桶から離しやすいように敷かれていた藁の痕跡が残っている。

平行線文様には、「×」の線を中心に線の間の四方に「∨」の線を平行に並べたもの（11）、4本の平行線をクロスさせたもの（12）がある。

放射状のものは、「×」の線を中心に線の間の四方に「∨」の線を放射状に並べたもの（13）がある。叩き目の文様は、格子のもの以外はすべて中心をもって文様をつくっていると考えられる。

また、叩き目をすりけしたもの（14）も出土している。

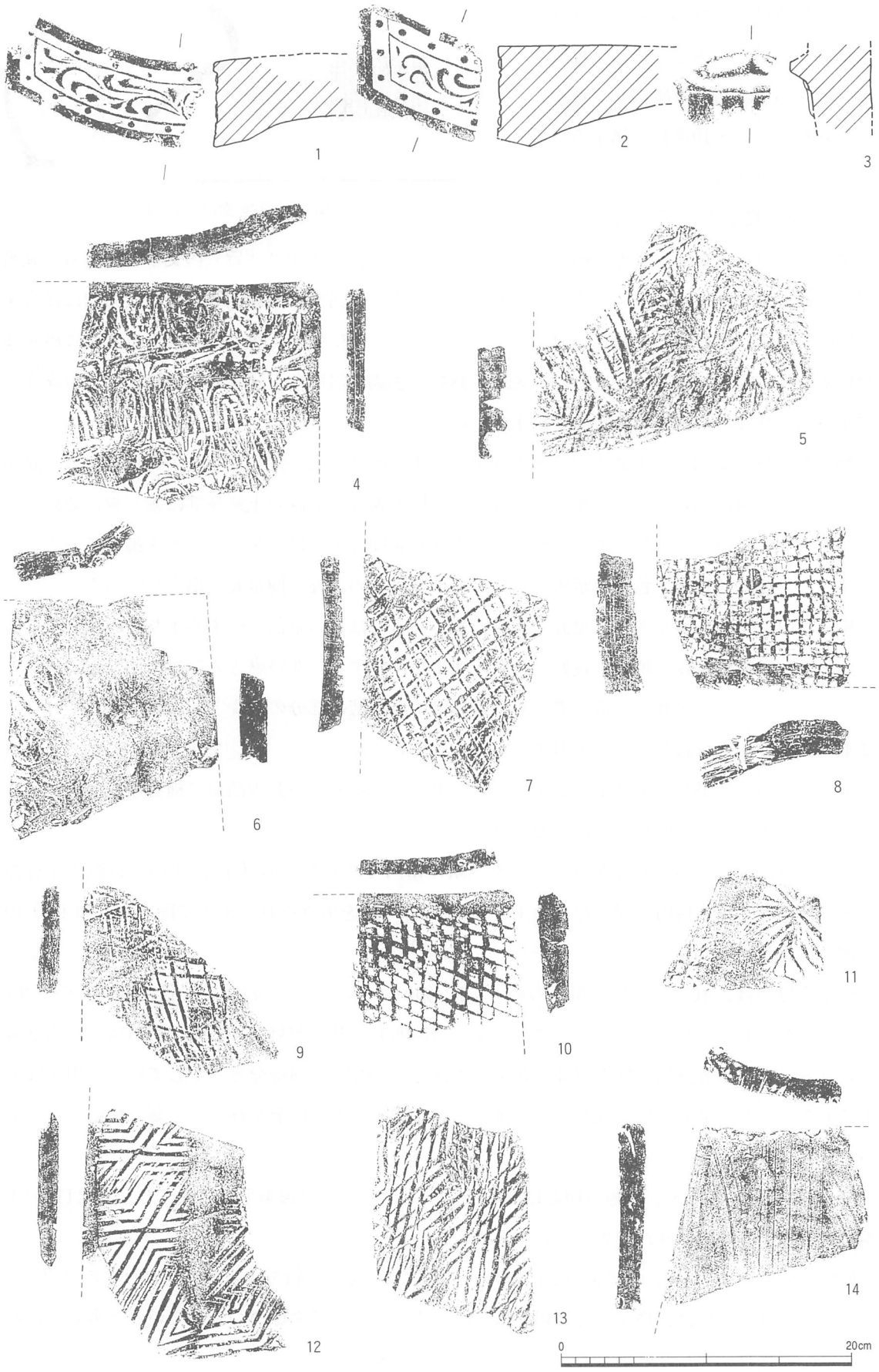


図62　瓦拓影・実測図（1：4）

ま と め

調査地北側のNo.1地点と南側のNo.4地点では無遺物層の高低差が1.4mあるが、現地形は敷地北東方向が高く南西方向に低くなり高低差が0.9mと傾斜がゆるやかになっている。1892年（明治25年）の大日本帝国陸地測量部の地図では、太秦村のあたりは南へ張り出した微高地で、広隆寺の東側は田圃、西側は竹林、南側の三条通付近は茶畑となっている。また、三条通南側の調査地周辺は緩やかな傾斜地で、南面道路沿いには建物が認められる。後年、嵐山電気鉄道（現京福電気鉄道嵐山線）が敷地北側に敷設される時、北側の斜面の切り土を南側に盛り土して、現地形になったものと考える。このことから、広隆寺旧境内地は明治時代までそれほど変化せず、緩傾斜地であったと考えられる。

今回は建物跡などの明確な遺構は検出できなかったが、出土した遺物は小破片の瓦類と土器類が大部分で二次堆積を示すと考えられる。しかし、このように多量の瓦を含む土壙を検出したことは、傾斜地ではあるが、近くに寺院に関連する施設の存在がうかがわれる。なお、広隆寺旧境内の遺跡の範囲は、当地の南面道路までと推定されている。

また、No.4地点の遺構面の深さから考えて、遺跡外となる南面道路より南側でも、遺構が残存することが考えられる。今後、道路南側を含む周辺地域でも、より詳しい調査が望まれる。

（尾藤・吉本・小檜山）

註1　平安博物館編『平安京古瓦図録』雄山閣出版　1977年

註2　(財)京都市埋蔵文化財研究所編『木村捷三郎収集古瓦図録』1996年

註3　平安京調査会編『平安京跡発掘調査報告―左京四条一坊―』1975年

6　南春日町遺跡（96MK312）

調査経過（図版38-１、図63）

調査地は西京区大原野南春日町、灰方町である。この一帯は、近年ほ場整備が継続的に行われ、徐々に景観を変えている。整備に伴い確認調査などが実施され、周知の遺跡以外にも多くの遺跡が発見されてきている。当調査も、大原野ほ場整備工事に伴う1996年度調査で、土壙や柱穴を部分的に確認していた区域にあたる。関係機関の協議の結果、原則として盛り土をすることで遺跡の保存が図られることとなったが、一部切り下げが行われることとなった。今年度その工事が実施される運びとなり、立会調査および必要な場合は発掘調査を実施することとなった。10月24日現地を確認した結果、遺物の散布および柱穴らしき遺構を検出したため、急遽関係者で協議を行って、区域の中で必要な面積を調査することとした。調査は1996年10月25日から29日まで実施し、調査面積は290m²であった。その他の工事区域については1997年１月20日に調査を実施した。調査位置は、大原野小学校の東方約200mの水田の中にあたる。

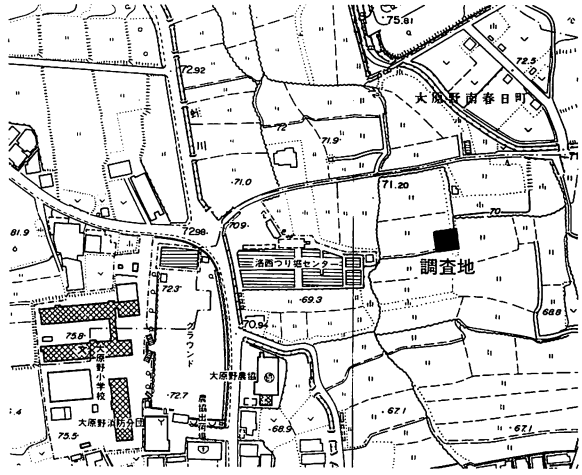


図63　調査位置図（1：5,000）

遺　構（図版38-２、図64）

検出した遺構には、奈良・平安・鎌倉時代の建物・柵・土壙・溝跡がある。

奈良時代の遺構には、後期頃の掘立柱建物２棟（ＳＢ１・２）、土壙１基（ＳＫ23）、溝１条（ＳＤ22）がある。建物は調査区中央で東西に並んで検出した。ＳＢ１は、２間×３間の東西棟で、梁間が２m等間、桁行が2.2m等間である。ＳＢ２は、ＳＢ１の西側で検出し、棟を合わせている。２間×３間の東西棟の母屋に南廂が付き、梁間が２m等間、桁行が2.3m等間、廂の出は2.5mである。柱穴掘形の形状はいずれもほぼ方形を呈している。ＳＫ23は、ＳＢ２の南で検出し浅い不定形を呈している。ＳＤ22は幅約0.2m、深さ0.15mの南北方向の溝で、ＳＫ23の東側に取り付く。平安時代の遺構には、調査区中央で検出した５間×１間の東西棟の掘立柱建物がある。梁間２m、桁行1.98m等間で、柱穴の形状は円形である。鎌倉時代の遺構には、調査区北西部で検出した変形した掘立柱建物がある。柱穴の形状は円形で、13世紀代の瓦器椀が出土している。

遺　物

遺物の出土量は整理箱１箱で、完形になるものはなく、破片が大多数である。奈良時代から鎌倉時代の遺物があり、土器・瓦類が出土した。

奈良時代の遺物としては、土師器・黒色土器・須恵器・製塩土器・瓦があり、製塩土器の破片の多さが目立つ。製塩土器は、ＳＤ22などから出土し、粗い白砂粒を含む赤褐色を呈した軟質の土器である。土師器は小片が多く、器形がわかるものは少ないが、甕・杯などがある。須恵器に

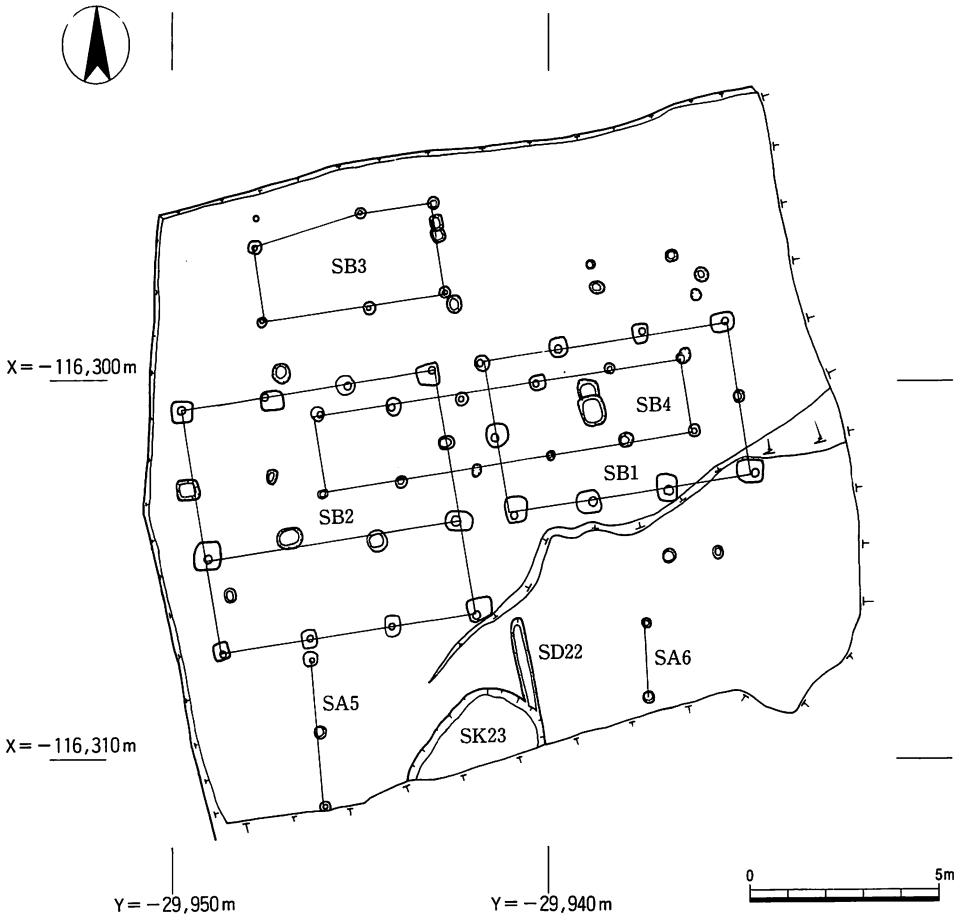


図64　遺構平面図（1：200）

は、杯A・Bや壷口縁部破片などがある。瓦類は、丸瓦の破片数片と唐草文軒平瓦が1点出土している。軒平瓦は当調査地北西に位置する南春日廃寺の塔跡出土のⅦ類と同型式とみられる。[註1]

平安時代の遺物は明確でないが、土師器と緑釉陶器の破片が少量出土しているのみである。

鎌倉時代の遺物には、瓦器椀、青磁椀が数点出土している。

ま　と　め

当調査では、奈良時代の建物跡、平安・鎌倉時代の建物跡を重複して検出する成果を得た。調査地の北西約400mの南春日町廃寺塔跡、南東約200mの飛鳥から奈良時代の変遷がみられる役所的な建物群（1996年度調査）[註2]とともに、一帯が奈良時代に大規模に整備された地域であることがわかってきた。建物跡は北に対し約8度西に振れており、前述の1996年度調査の遺構群の中にもこれに近い振れをもつ一群があること、また東西方向に走る府道樫原向日線の振れとも合うことから、狭い範囲ではあるが条里制地割が認められる。既往の調査で、下西代古墳群などの古墳時代の遺跡を含め、大原野地域内の歴史的変遷が徐々に明らかとなってきた。　（長宗繁一）

註1　(財)京都市埋蔵文化財研究所『南春日町遺跡発掘調査概要』1981年
　　向日市教育委員会『長岡京古瓦聚成』(向日市埋蔵文化財調査報告書第20集) 1987年

註2　永田宗秀「南春日町遺跡」『平成7年度　京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所　1997年

7　法住寺殿跡・六波羅政庁跡（96ＲＴ512）

調査経過（図65）

東山区大黒町通正面下る塗師屋町592-2において住宅建設が計画された。当地は平安時代の法住寺殿跡、鎌倉時代の六波羅政庁跡に推定されている。基礎掘削工事に伴い、1997年３月14日から19日にかけて調査を実施した。

調査の結果、平安時代の東西溝を約12mにわたって確認した。

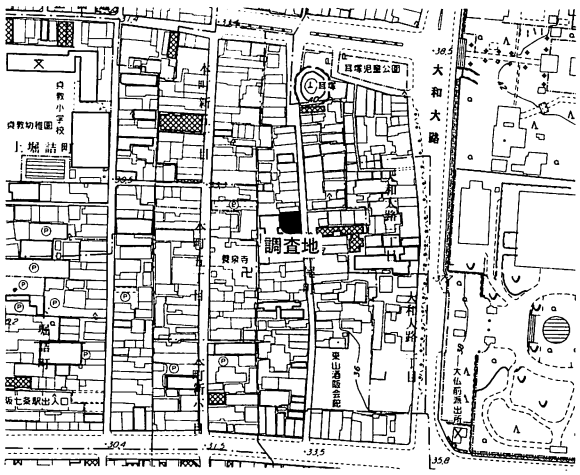


図65　調査位置図（1：5,000）

遺　構（図版39、図66・67）

敷地の北半は遺構の残存状態が良好であったが、南半は、近世以降の攪乱のため、残存状態は悪かった。敷地北東角の道路との縁石を水準点として、敷地北半の東端と西端で断面観察を行った。東壁では-0.4m以下は灰褐色・灰白色粘土の無遺物層となり、西壁では-0.7m以下が灰白色微砂・粘土の無遺物層となる。

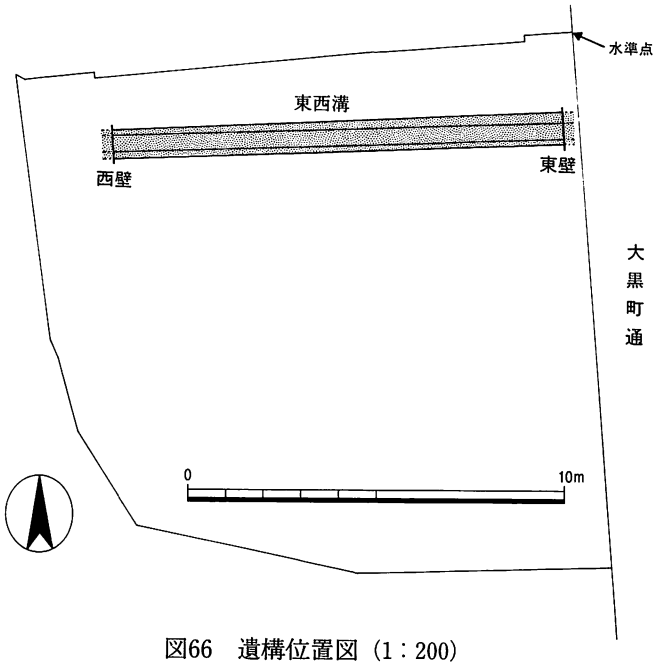


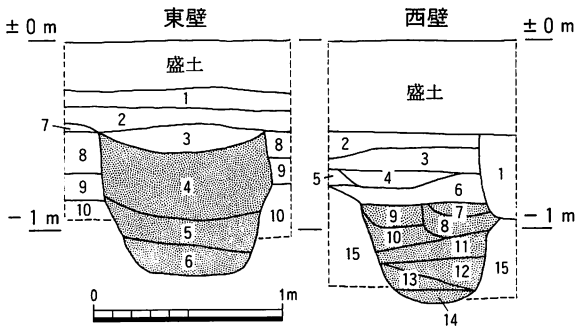
図66　遺構位置図（1：200）

この無遺物層に切込む東西溝を東西両壁で検出した。東壁では幅0.9m、深さ0.8m、埋土は４層に分層できたが、無遺物層の混入する人為的な埋土である。第４層から遺物が出土した。西壁では幅0.7m、深さ0.5mで、埋土は９層に分層でき、最下層（第14層）は砂を多く含み流れた痕跡が認められたが、上位の層は東壁と同様の人為的な埋土である。溝の底部は、東壁では-1.2m、西壁では-1.4mで、高低差が0.2mあり、東から西へ流れていたことがわかる。また、溝の中心線は座標東に対して北へ約２度振れていた。

遺　物（図68）

東壁の第２層からは13世紀後半の土師器皿（５～９）、青磁蓮弁椀、白磁壷などが、第３層からは白磁椀（10）が、第４層からは12世紀末から13世紀初頭の土師器皿（１～４）が出土した。西壁の溝埋土からは13～14世紀の土師器皿の小片が出土した。

土師器皿（１～９）　３・４は口径13.6・14.1cmの大型。３は厚手で体部外面上半から口縁部外



西　壁
1　暗灰黄色砂泥（粗砂礫混φ～1cm）
2　暗灰黄色砂泥（砂・粗砂礫混φ～1cm）
3　暗オリーブ褐砂泥（粗砂礫混φ～0.5cm）
4　暗褐色砂泥（粗砂礫混φ～0.5cm）
5　暗灰黄色砂泥（粗砂礫混φ～2cm）
6　暗オリーブ褐色砂泥（炭・礫混φ～1cm少量）
7　黒褐色砂泥（粘質、礫混φ～0.5cm少量）
8　オリーブ褐色粘土（礫・15層混）
9　明褐色粘土（礫・15層混）
10　黒褐色粘土（15層混）
11　暗灰黄色砂泥（粘質、礫・15層混）
12　オリーブ黄色砂泥（粗砂・黒褐色砂泥混）
13　暗灰黄色砂泥（粗砂・15層混）
14　黄灰色粘土（微砂・砂多混、流れ堆積）
15　灰白色微砂（粘質、礫混φ～3cm）―無遺物層
溝

東　壁
1　黒褐色砂泥（炭・礫混φ～2cm少量）
2　黒褐色砂泥（礫混φ～3cm）
3　灰黄褐色砂泥（粘質・9層混）
4　黒褐色砂泥（礫・9層混）
5　黒褐色砂泥（9層混）
溝
6　灰黄褐色粘土（炭・9層混）
7　灰褐色粘土
8　灰白色粘土
9　浅黄色微砂（礫混φ～2cm）
10　灰白色粘土
無遺物層

図67　遺構断面図（1：40）

面に2段のナデを施す。胎土は橙褐色系。4は器高がやや高く白味が強い色調である。1・2は口径8.8・9.0cmの小型で、器高は2cm未満でともに胎土は橙褐色系である。

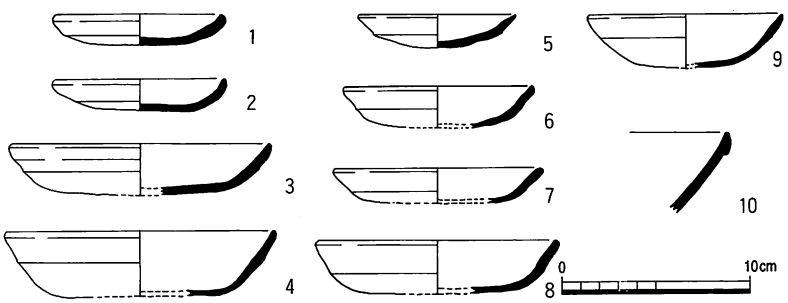


図68　遺物実測図（1：4）

9は口径10.2cmの中型で、白色を呈し器高がやや高く器壁が薄い。ナデやオサエを施し、5の仕上げは丁寧である。8は口径12.6cmの大型で、9は口径8.3cmの小型、6はその間の大きさで、ともに橙褐色系である。7も橙褐色系で、体部の外反がやや強い。

白磁椀(10)　玉縁状の口縁部をもつ。

ま　と　め

今回の成果をまとめると、東壁の溝埋土の第4層から12世紀末から13世紀初頭の遺物、西壁の溝埋土からは鎌倉時代の土師器皿が出土した。

周辺の調査例は少ないが、本調査地が東面する大黒町通（五条通から七条通）において水道管布設替え工事に伴う調査[註1]（97RT253）を行った。この調査の七条通から正面通の間では、地表下0.3～0.7mでにぶい黄橙色砂泥・粘土の無遺物層になり、これに切り込む土壙を数箇所で検出した。土壙からは平安時代末期や鎌倉時代の遺物が出土した。また、調査地北東の大和大路通に面する宅地での調査[註1]（97RT154）では、地表下0.3m前後で黄褐色砂泥の整地層と土壙を3基検出した。土壙からは平安時代末期から鎌倉時代の遺物が出土した。

当地の南東にあたる1990年度調査[註2]では鎌倉時代の南北溝、三十三間堂南西の1983年度調査[註3]では平安時代後期の建物3棟と南北溝を検出した。1990年度調査の南北溝は北で約3度東に振れており、1983年度調査の遺構は北で約0度24～44分東に振れている。これらは鎌倉時代に再建された

蓮華王院本堂（現三十三間堂）の南北軸の振れ（約１度40分東）に近いことから、それに関連するものと考えられている。これらに比べると、本調査で検出した東西溝の軸線は東で北に約２度、つまり北では西に約２度振れ、今までの調査例とは異なっており、法住寺殿に関連するものと考えておきたい。

周辺地域は古くからの木造住宅が多く残っているところであり、老朽化に伴う建替え工事が増加していくものと予想される。遺構面は地表面より0.3～0.7mの深さと比較的浅く、残存状況も良好であるため、今後も綿密な調査が必要である。（尾藤・小檜山）

註１　本書「調査一覧表」

註２　上村和直・西大條哲「六波羅政庁跡」『平成２年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1994年

註３　久世康博・上村和直「法住寺殿跡」『昭和58年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1985年

8　下三栖遺跡（97ＴＢ63）

調査経過（図69）

伏見区横大路下三栖において、近畿地方建設局による共同溝の工事が計画されたため調査を実施した。当地は弥生時代から中世にかけての下三栖遺跡および中世の平城である下三栖城跡隣接地にあたる。

周辺では、同じ共同溝の調査を1993年度から1996年度にかけて計３箇所で行っている。当地より南の1993年度の調査[註1]（93ＴＢ456）では、弥生・古墳時代の流れ堆積の包含層を確認し、1996年度の調査[註2]（96ＴＢ183）では、古墳時代の土師器、須恵器などが多量に出土した。特に土師器高杯の比率が高く、祭祀との関連が想定された。同じく北の1996年度の調査[註3]では、奈良時代の竪穴住居、条里の溝、中世の屋敷地と、その他に慶長の大地震に伴う噴砂を確認している。

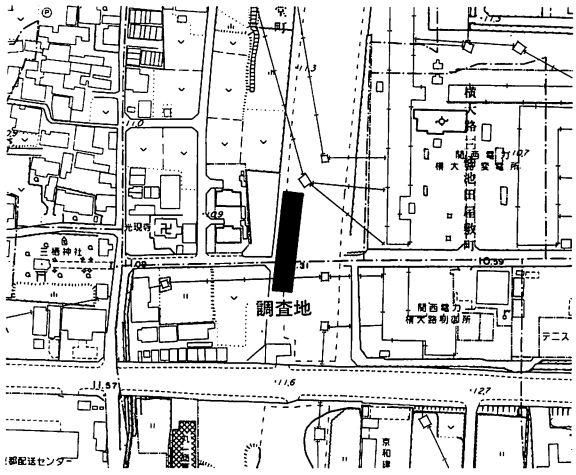


図69　調査位置図（1：5,000）

今回の調査地は、1996年度の両調査の間の区間である。調査は1997年８月20日から９月24日の期間に、重機掘削の進行に合わせ、主に断面観察を断続的に行った。

遺　構（図版40、図70・71）

８月20日には、既に掘削工事は進行し調査区の南端と南半の西側は終了していた。

南北約61m、東西13m範囲で10箇所の調査を行った。検出した遺構は溝２条、土壙２基、落込１基などである。

地表と仮定した水準点は調査区より西の三叉路のマンホール中央部分で、標高11.33mである。

No.１地点の-3.34～6.54mは、すべて泥土層と微砂層が互層となる流れ堆積である。

No.２地点の-0.99～2.51mは、粘土層、泥土層、微砂層が交互に堆積する。

No.３地点では、-1.63mまで盛土、その下に旧耕作土がある。-2.6mの遺物包含層から平安時代以降の瓦器、須恵器甕が出土した。-3.08m以下は粘土と微砂の互層堆積である。

No.４地点では、-1.38mまで盛土、-1.81mと-1.95mで遺物包含層を確認した。上層からは

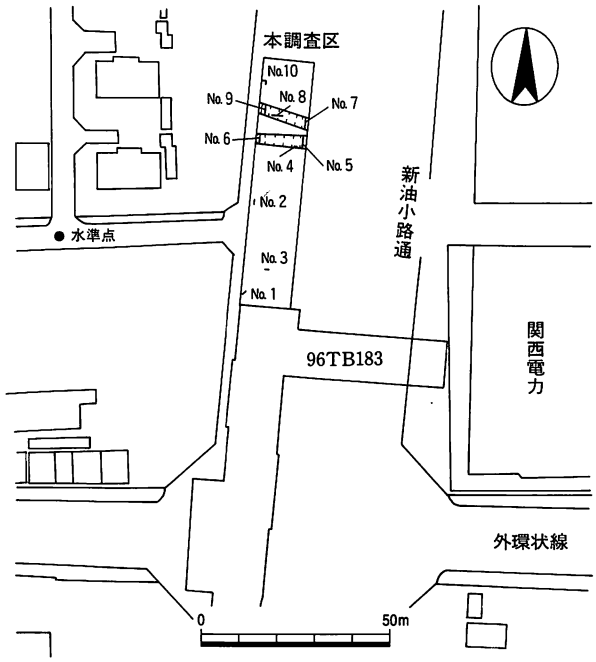


図70　調査地点位置図（1：2,000）

平安時代後期の土師器、瓦器、下層からは古墳時代から奈良時代の土師器が出土した。その他に-3.82m以下の灰オリーブ色微砂層が、0.02～0.03mの幅で上層の粘土層に貫入して-1.93mまで上昇しているのを確認した。それより上層は削平されていて不明であった。

No.5・6地点では東西方向の溝（溝1）を約13mにわたって確認した。No.5地点では、-2.28mまで削平され、この面で溝1を検出した。残存する溝の規模は幅3.25m、深さ1.13mで、断面は頂角の大きい逆三角形を呈する。埋土の第1層からは平安時代後期の遺物とともに室町時代前期の土師器が、第2～9層からは平安時代後期の遺物が出土した。特に第2層からは多量の炭・灰とともに完形に近い土師器、瓦器がまとまって出土した。No.6地点はNo.5地点から11.25m西の地点で、-1.77mまで削平されており、溝1はこの面で検出した。残存する規模は幅2.2m、深さ1.33mで、断面はU字形を呈する。この地点でも第1・2層からは平安時代後期の遺物とと

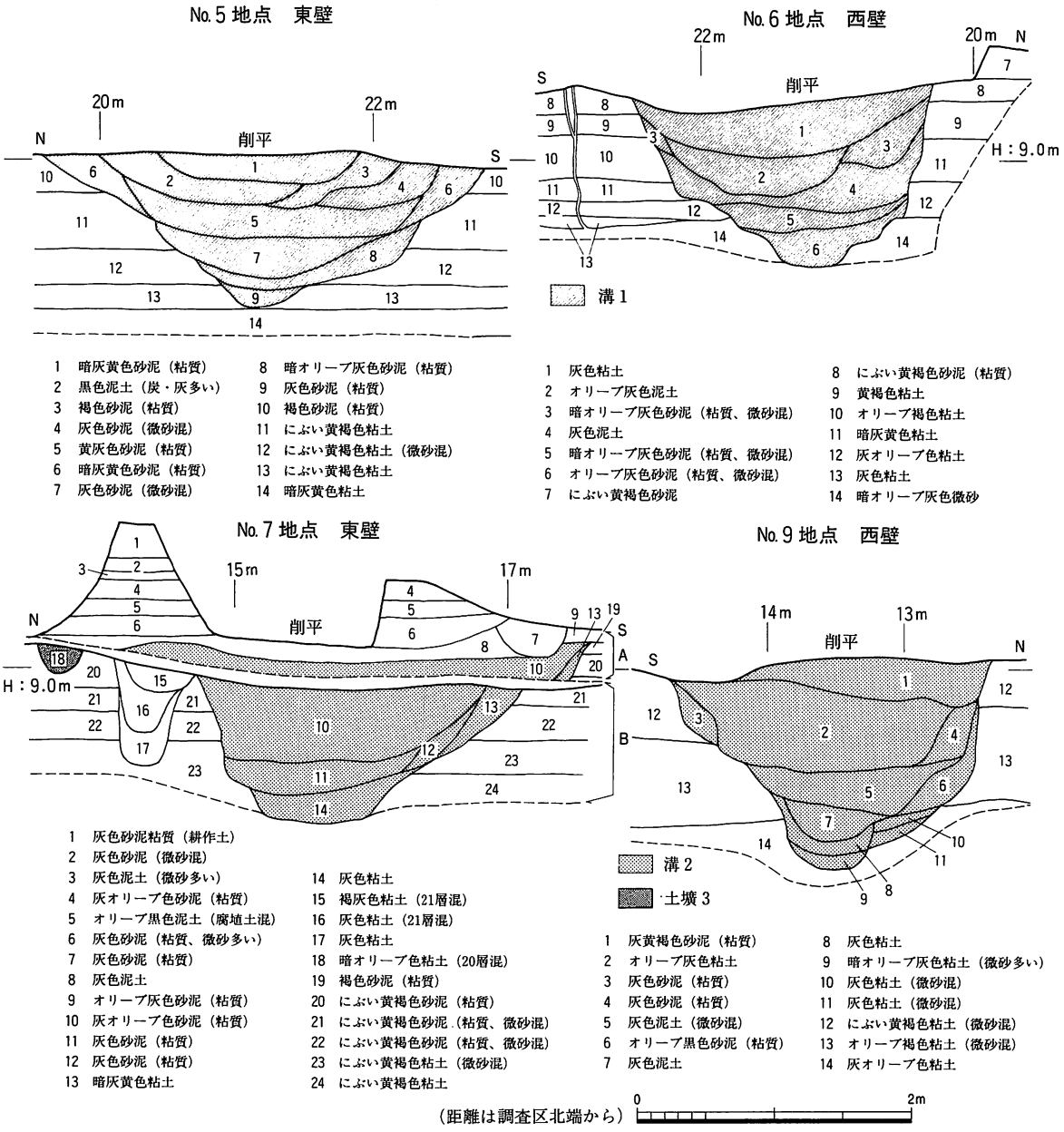


図71　No.5～7・9地点遺構断面図（1：50）

に中世の常滑陶器甕の口縁部が出土しており、No.5地点の第1層とNo.6地点の第1・2層が対応していると考える。またNo.4地点と同じく-2.82m以下の暗オリーブ灰色微砂層が、上層に貫入して-1.8mまで上昇しているが、これより上は削平され不明であった。

No.7～9地点では西北西から東北東方向に延びる溝（溝2）を約13.5mにわたって確認した。No.7地点は二段掘りされており、観察断面は東西に0.75m離れた上段（A）と下段（B）に分かれる。基本層序は-1.30mまで盛土で、その下に厚さ0.25mの旧耕土があり、以下は深いところで-2.3mまで湿地あるいは池状堆積層が続き、-2.14～3.46mまでは砂泥粘質層から粘土層となる。溝2は-2.14mの褐色砂泥粘質層を切って成立し、規模は幅2.4m以上、深さ1.31mで、断面の形状は北肩が急で南肩は緩やかな傾斜面を呈する。第10層と第11層から古墳時代から奈良時代の土器類が出土し、特にその境付近で多く出土した。

その他に溝2の北肩から0.8m北側で、土壙（土壙3）確認した。この地点は-2.16mまでが削平されており、土壙は残存する規模が幅0.35m、深さ0.22mで断面U字形を呈する。埋土からは古墳時代の須恵器が出土した。

No.8地点はNo.7地点とNo.9地点の間であり、溝2の一部を確認した。

No.9地点はNo.7地点から西北西へ約10.6mの地点で、-2.25mまでは削平されていた。この面で検出した溝は残存する規模が幅2.37m、深さ1.52mで、断面の形状はNo.7地点の溝2断面に類似する。埋土の第2層と第5層はNo.7地点の第11・12層と同様の遺物の出土状況を示しており、No.7地点の第10・11層とNo.9地点の第2・5層は対応すると考える。

No.10地点は-2.35mまで削平されており、-2.75mで落込を確認した。埋土からは古墳時代から平安時代の土師器、瓦器、須恵器が出土した。

遺　物（図版41・42、図72～78）

遺物内容は古墳時代から中世の土器類であり、各遺構から遺物整理箱に9箱出土した。

溝1（No.5地点）出土遺物（図72）

土師器皿（1～9）　1～4は大型の皿で口径が15.0～16.4cm。口縁部外面を2段にヨコナデし、口縁端部を上方に立ち上げる。5～9は小型の皿で口径が9.4～10.2cm。6～8は口縁端部が内弯気味に立ち上がり、9はわずかに外反する。

土師器脚付皿（10～14）　10・11は皿部で口径が17.0cmと16.7cm。口縁部外面を強く2段にヨコナデし、端部は10は外反させ、11は丸くおさめる。12～14は貼付けの脚部で底径9.7～10.4cm。12・14は脚が高く、13は低い。推定高は10・12が5.7cm、11・13が4.95cmである。

瓦器椀（15～18）　口径は15.1～15.8cm、器高は5.8～5.9cm。17・18は口縁端部内面に明確な一条の沈線をもつが、15・16は不明瞭である。すべて体部内外面にヘラミガキを施すが、内面は緻密で、外面はやや粗く3分割してミガキを施す。底部内面のヘラミガキは、16が螺旋状、15・17が一定の幅で往復させるもので、17は輪花様の暗文の上に同じく往復させる。16は底部内面、17は体部内面に、焼成後に「×」状の記号が鋭利な工具で刻まれている。同じ刻印のものが他にもう1点ある。その他に燻しがかかっていない破片もある。

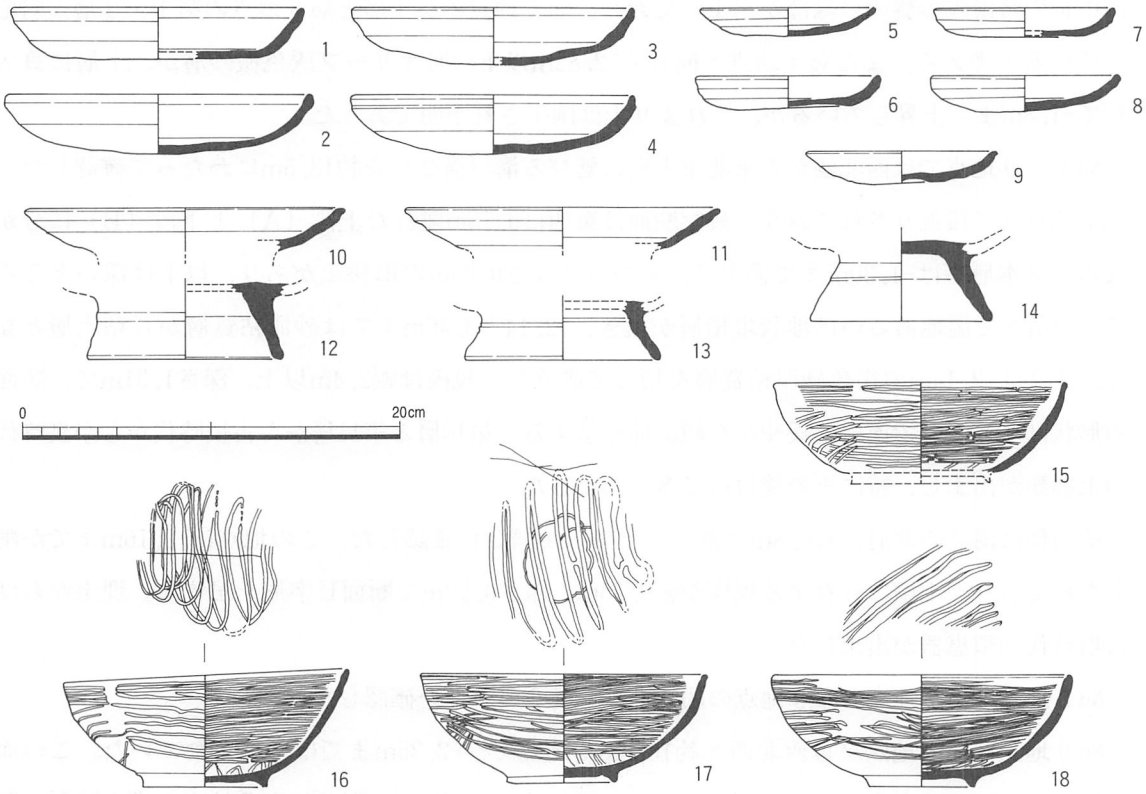


図72　溝１出土土器実測図（1：4）

その他の遺物には、土師質の竈あるいは焜炉等の煮炊に関連する土器、すさ入り粘土塊がある。9・14・15は５層、その他は２層から出土している。

溝２（No.７地点）出土遺物（図73・74）

土師器皿(19・20)　底部は平坦で体部はゆるく内弯気味に立ち上がる。19は口縁部がかるく外反し端部はやや肥厚し、20は外反の後内面に折り返す。19は底部外面にヘラケズリを施す。20は口縁内面に粗い放射状暗文をもつ。

土師器杯(21～24)　すべて底部外面にヘラケズリがある。21～23は口縁を外反させた後、端部を内側に折り返す。22は口縁内面に放射状暗文をもつ。24は全体に器壁が厚く、平坦な底部から口縁が内弯気味に丸く立ち上がり、端部を丸くおさめる。

土師器椀(25)　体部から口縁部にかけて内弯気味に立ち上がり、端部が強く外反する。

土師器甕(26～28)　26は口径13.8cm、残存高10.1cmと小型で、球形の体部に口縁部はゆるやかに外反し端部が内に肥厚する。外面は体部上半に縦方向、下半に斜め方向のハケメを施す。内面は口縁部と体部中央に横方向のハケメを施す。27・28は口径が27.1cmと26.4cmである。体部は縦長で、内外面にハケメ調整を施す。

須恵器杯蓋(29～31)　すべて頂部を欠く。29は丸みのある高い天井部にわずかに下方に折れる口縁部がつく。30は小型の蓋で器壁が厚い。天井部から口縁部まで直線的に伸びて端部を丸くおさめる。内面の端部近くにかえりがつく。31は低くやや平坦な天井部に下方へ短く折れ曲がる口縁部がつく。

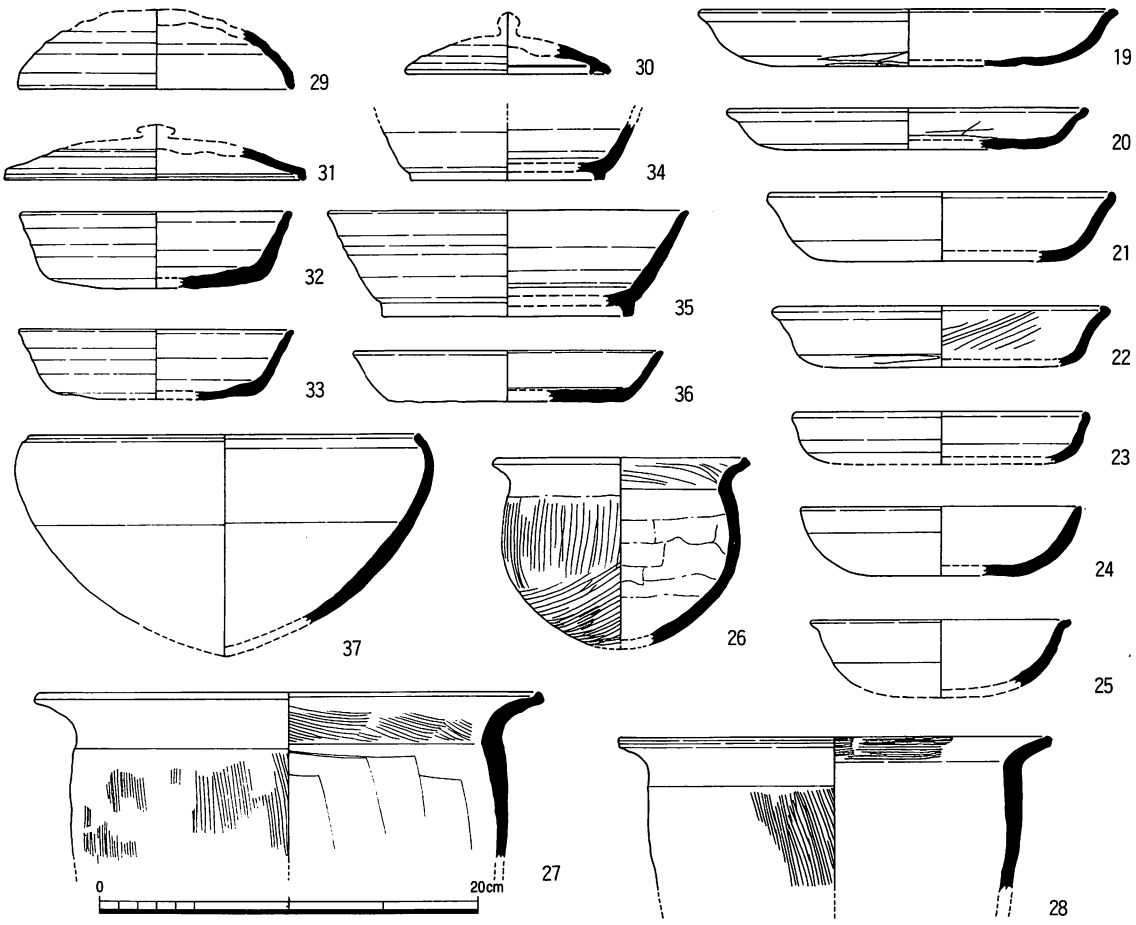


図73　溝２出土土器実測図１（1：4）

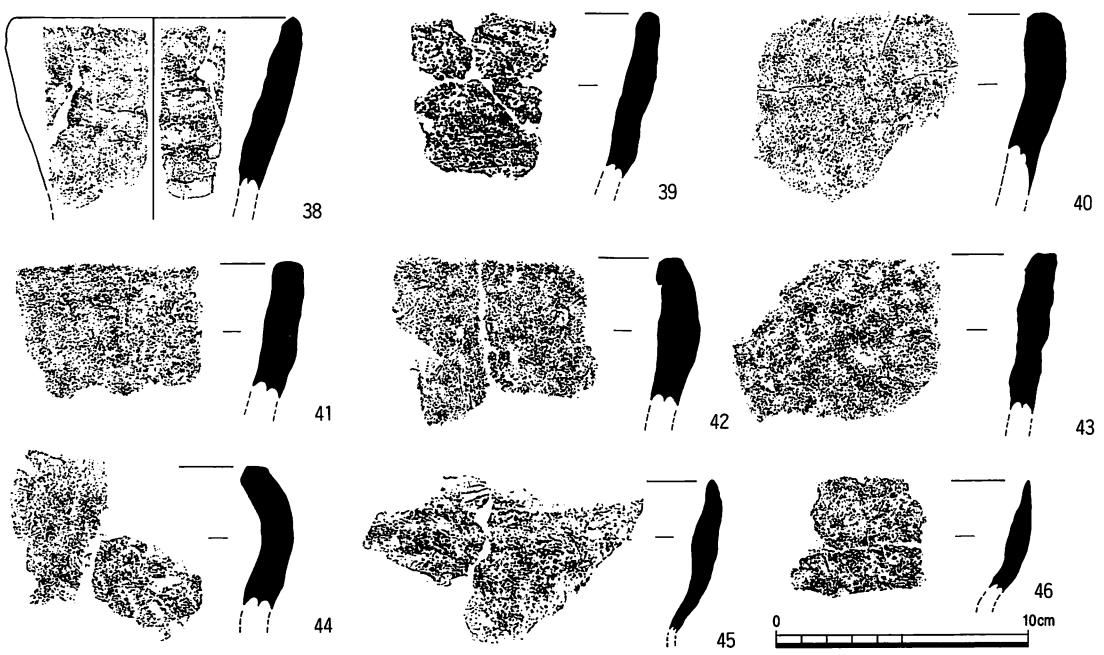


図74　溝２出土製塩土器拓影・実測図（1：3）

須恵器杯(32～35)　32・33はやや丸みをもつ底部から体部が斜め上方に直線的に立ち上がり、端部は丸くおさめる。34・35はいずれも断面が四角形の短い高台がつき、高台脇からすぐ体部が上方に直線的に伸び、口縁端部をわずかに外反させる。34は口縁部を欠く。

須恵器皿(36)　平坦な底部から体部が外上方に直線的に立ち上がり、端部は丸くおさめる。内面と体部外面に炭素が黒く吸着する。

須恵器鉢(37)　鉄鉢形で底部を欠くが先端が尖るものと思われる。口縁部は内弯し、端部は内側に面をなす。

製塩土器(38～46)　すべて口縁部の破片で、胎土や色調も一様ではない。口縁部径を計測し得るものは38の一点のみで11cmあり、他は断面の形状だけを図化した。38・39は外上方へ直に立ち上がり、端部は丸くおさめる。40はやや内弯気味に立ち上がる。41は端部上面がやや面をなす。42は内弯気味に立ち上がり、端部の内側が肥厚する。43は端部上面が平坦な面をなす。44は端部の上面と内面が平坦な面をなす。外面に指オサエの痕跡が残る。45・46は器壁が他と比べ薄く、体部は口縁近くで肥厚し、端部を細く摘み上げておわる。外面に粘土紐巻き上げ痕が残る。

その他の出土遺物としては、須恵器甕・壷、塼や、この地点の排土からではあるが底部外面に「三」と墨書した16世紀頃と思われる白磁皿などがある。

溝２（No.９地点）出土遺物（図75・76）

土師器甑(47)　口径7.8cm、器高8.0cmの小型の壷でほぼ完形である。体部外面に部分的にヘラケズリを施す。底部から体部下半にかけての外面に大きな黒斑がある。

土師器壷(48)　体部から口縁部にかけての破片で、わずかに外反気味の口縁部から端部は直立し、内側に凹線がつく。体部内外面は縦方向のハケメで、内面の頸部から下は縦方向のケズリを施す。

須恵器杯蓋(49・50)　49は天井部中央を欠く。低く平坦な天井部に屈曲する口縁部がつき、端部は短く折る。口縁内面にかえりがつき、端部は鋭い。天井部に回転ヘラケズリを施す。50は天井部を欠く。口縁端部を下方に短く折る。

須恵器杯(51～54)　51は口径10.0cmと小型で、底部がやや丸みを帯びる。52も口径10.9cmと小型で、底部が平坦。53は口径12.6cmで、平坦な底部から口縁部が斜め上方へ直線的に伸び、端部は丸くおさめる。54は平坦な底部に丸く内弯気味に立ち上がる体部がつく。高台は貼り付けで、

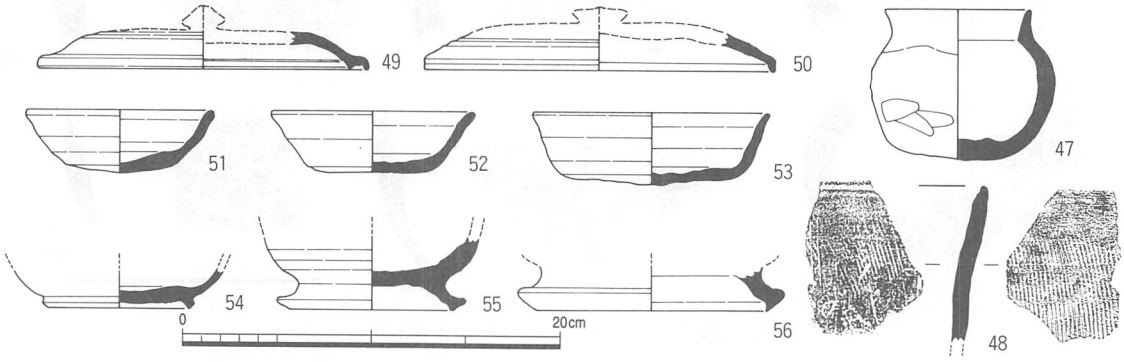


図75　溝２出土土器実測図２（1：4）

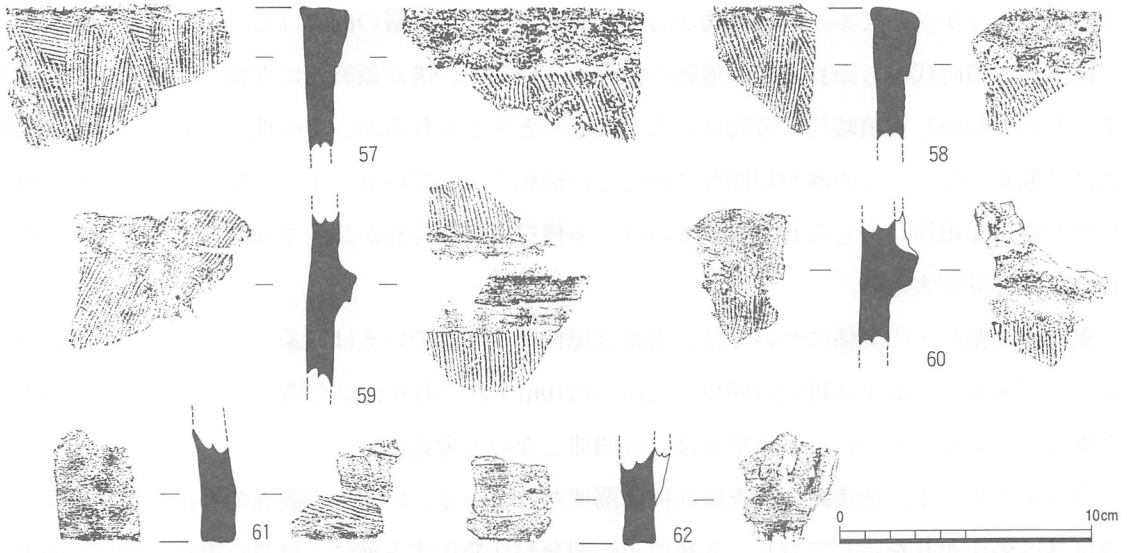


図76　溝２出土埴輪拓影・実測図（1：3）

短く外に開き端面が外傾する。

須恵器壷(55・56)　55は体部から上を欠く。平坦な底部から丸く体部が立ち上がる。高台は貼りつけで大きく外へ開き、端部は外へ拡張し端面が外傾する。内外面とも自然釉が付着する。56は高台部のみの破片。貼りつけ高台で大きく外へ開き、端部は外側を肥厚させながら内へ強く屈曲し、鋭く突き出る。外面には自然釉が付着する。

埴輪(57～62)　すべて各部分の破片である。57・58は口縁部。ハケメの後に端部外側に粘土を貼り付け肥厚させている。外面は縦方向、内面は横方向のハケメの後に縦方向のハケメを施す。59・60は体部。ハケメ後に断面台形のタガをつける。内外面とも縦方向のハケメを施す。61・62は底部。すべて内外面ともヨコナデ。62は端部外面に横方向のハケメ調整がみられる。60・62は形象埴輪の一部か。いずれも色調は暗赤褐色で硬く焼き締まっている。

その他の遺物には、須恵器甕・壷、塼、土馬がある。

土壙３（No.７地点）出土遺物（図77・78）

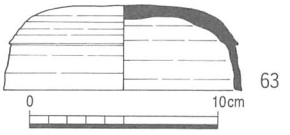


図77　土壙３出土土器実測図（1：4）

須恵器杯蓋(63)　平坦な天井部から下方に直立する口縁部がつき、端部は内傾した面をもつ。天井部と口縁部の境目に稜がつく。ＴＫ-208型式に併行する。

上記の遺物の年代観は、１～18が12世紀前半代、19～28・31～37・47・50・53～56が８世紀代、29が７世紀前半代、30が７世紀後半代、48・49・51・52は７～８世紀代に属する。

図78　土壙３出土土器（63）

ま　と　め

今回の調査で検出した主たる遺構は溝２条である。

溝１は平安時代後期と、少し間をおいて再度、室町時代前期に利用されている。平安時代後期の溝の第２層からは、炭・灰とともに土師器皿、瓦器椀が密集して出土しており、一括投棄のよ

うな状況をうかがわせる。出土遺物から第2層と下層の第5層の間には若干の時期差がある。

溝2は古墳時代から奈良時代の遺物が出土しているが、溝が最終的に埋没したのは奈良時代後半である。しかし古墳時代の遺物は混入したものと考えられるが、その他の各層からの出土遺物には時期差がなく、この溝が短期間に埋没した様相を示している。また、製塩土器、円筒埴輪、塼など特殊な用途が考えられる遺物からは、多様な遺跡の存在が想定され、周辺の調査で解明を待たれる部分が大きい。

条里の地割りとの関係については、当地は紀伊郡の条里でいえば四条にあたる。それぞれの溝についてみると、溝1は推定の坪境から南へ約10mずれており、また溝2は方位が地割りの方位と異なっている。そのため、条里とは直接関連しないと考える。

今回も含めて下三栖遺跡の調査は共同溝関連だけである。いずれの調査でも出土した遺構は調査区外への広がりを示しており、今後周辺の開発が活発化する前に、早急な遺跡の周知と範囲の確定が望まれる。

（竜子）

註1　「調査一覧表」『京都市内立会調査概報　平成6年度』京都市文化市民局　1995年

註2　尾藤徳行・竜子正彦「下三栖遺跡（96ＴＢ183）」『京都市内立会調査概報　平成8年度』京都市文化市民局　1997年

註3　平成8年度発掘調査（96ＦＤ-ＳＳ）、未報告。

調査一覧表

I　1997年　1～3月期（平成8年度）

平安宮（HQ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
大蔵	上・千本通一条下る西側西中筋町19-96・50	3/10	掘削工事なし。	HQ502	1
茶園	上・松屋町通中立売上る新白水丸町462-8	1/27	-0.75mで江戸の包含層（伏見人形、桟瓦）。	HQ426	1
大蔵省	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町255-31	3/7	掘削工事なし。	HQ499	1
図書寮	上・御前通下立売上る三町目東入三助町281-22	3/17・18	-0.25mまで現代盛土。	HQ519	1
縫殿寮	上・下長者町通土屋町西入二本松町16-2	3/13	巡回時、工事終了。	HQ507	1
職御曹司	上・裏門通下長者町下る坤高町86-9	1/27	-0.2mまで現代盛土。	HQ425	1
内裏	上・出水通智恵光院西入田村備前町243-15	3/5・6	-0.3mまで現代盛土。	HQ495	1
内裏	上・浄福寺通下立売下る西入中務町490	3/27・28	-0.9mで褐色泥砂混礫層、無遺物層か。	HQ533	1
右兵衛府	上・下立売通七本松西入西東町353-4	3/17	-0.15mまで現代盛土。	HQ517	1
中和院	上・千本通出水下る十四軒町408-2	1/10・13	-0.5mまで現代盛土。	HQ402	1
左兵衛府	上・松屋町通出水下る一町目　地先	1/13・16	-0.5mで暗褐色泥砂層、現代盛土か。	HQ405	1
左兵衛府	上・松屋町通下立売上る一町目625（No.1）	2/4	-0.25mまで現代盛土。	HQ432	1
左兵衛府	上・松屋町通下立売上る一町目625（No.2）	2/4	-0.25mまで現代盛土。	HQ433	1
左兵衛府	上・松屋町通下立売上る一町目625（No.3）	2/4	-0.25mまで現代盛土。	HQ434	1
左兵衛府	上・松屋町通下立売上る一町目625（No.8）	2/14	-0.45mまで現代盛土。	HQ449	1
左兵衛府	上・松屋町通下立売上る一町目625（No.6）	2/14	-0.45mまで現代盛土。	HQ450	1
左兵衛府	上・松屋町通下立売上る一町目625（No.10）	2/14	-0.45mまで現代盛土。	HQ451	1
左兵衛府	上・松屋町通下立売上る一町目625（No.11）	2/14	-0.45mまで現代盛土。	HQ452	1
左兵衛府	上・松屋町通下立売上る一町目625（No.5）	2/14	-0.45mまで現代盛土。	HQ453	1
左兵衛府	上・松屋町通下立売上る一町目625（No.7）	2/14	-0.45mまで現代盛土。	HQ454	1
左兵衛府	上・松屋町通下立売上る一町目625（No.12）	2/14	-0.45mまで現代盛土。	HQ455	1
内匠寮	中・西ノ京左馬寮町21-17	3/27・28	-0.3mまで現代盛土。	HQ534	1
左馬寮	中・壬生花井町～右・太秦一ノ井町　JR山陰本線（二条駅～花園駅）	'96/12/20・25, '97/4/7	-1.3m以下、黄褐色砂礫の無遺物層。	HQ392	1
左馬寮	中・西ノ京車坂町　地内	2/21, 3/6・7	-1.4m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	HQ469	1
豊楽院	中・聚楽廻西町188-54	2/14・19	-0.45mまで現代盛土。	HQ448	1
豊楽院	中・聚楽廻西町　地内	2/18, 3/5	-1.15m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	HQ462	1
豊楽院	中・西ノ京内畑町22-18・22	2/18	-0.25mまで現代盛土。	HQ463	1
豊楽院	中・聚楽廻中町　地内	2/28, 3/5	-1.3mで旧耕作土。	HQ484	1
朝堂院	上・千本通二条下る東入主税町807-2	2/6	-0.3mで炭を含む褐色砂泥層。	HQ437	1
朝堂院	上・千本通二条下る東入主税町812-6	2/10・18	-0.3mまで現代盛土。	HQ443	1
朝堂院	中・聚楽廻南町　地内	2/17, 3/11・12	-0.56mで落込２。一方の落込から近世の遺物。	HQ457	1
朝堂院	中・聚楽廻中町49-20	3/10	-0.1m以下、黄褐色粘質土の無遺物層。	HQ501	1
大膳職	上・日暮通丸太町下る南伊勢屋町759	1/14・16	-0.3mまで現代盛土。	HQ407	1
宮内省	上・竹屋町通智恵光院東入主税町　地先	2/3・18	-0.7mで近世の東西溝。-1.4m以下、にぶい黄褐色微砂の無遺物層。	HQ429	1
宮内省	上・日暮通丸太町下る主税町1225	2/17	-0.25mまで現代盛土。	HQ456	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町1-8　地先	2/27	-0.55mで湿地堆積。-0.9m以下、灰白色砂泥の無遺物層。	HQ483	1
刑部省	中・西ノ京内畑町15-27	2/27	巡回時、工事終了。	HQ482	1

平安京左京（HL）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
朱雀大路	中・二条駅土地区画整理事業内（その6）他　地内	3/18・21・24～26, 4/1・4・7	No.1；-0.44mで時期不明の路面２。-0.95m以下、暗灰色粘土の無遺物層。No.2；-1mまで近世の土層、以下黄灰色粘土の無遺物層。No.6；-1.15mで近世ほかの流れ堆積。No.8；-0.8mで整地層。	HL520	2
北辺三坊　三町	上・上長者町通室町西入元土御門町522	2/24・26～28, 3/3	No.1；-0.7mで室町の整地層。No.2；-1.5m以下、粘土の無遺物層。	HL472	3

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
北辺四坊　八町	上・京都御苑内	3/4～7・10～14	No.1；-0.45m以下、江戸の包含層10（和同開珎）。No.2；-1.12mで室町の包含層（土師器）。No.3；-0.7mで江戸中期の固く締まった土層、礫・漆喰多く含む。No.5；-0.9m以下、近世の焼土層（土師器、青磁、瓦）。No.6・7；-0.45mで石垣、南北方向の築地の基礎か。No.8；-0.34mで江戸の焼瓦層（染付、軒瓦、焼土）。-1.24m以下、暗褐色砂礫の無遺物層。No.10；-0.65m以下で江戸中期の包含層。	HL492	3
二条二坊　九町	上・椹木町通堀川東入西山崎町222他２筆	3/4～6	No.1；-0.85mで室町の落込。-0.98m以下、黄褐色粘土の無遺物層。No.2；-0.84m以下、流れ堆積。No.3；-0.75mで桃山の土壙。No.4；-1.1mで鎌倉～室町の落込。No.5；-0.67mで包含層。	HL493	2
二条四坊十五町	中・御幸町通竹屋町上る毘沙門町537-5	2/24・26～28,3/3	-1.53mまで近世の包含層。	HL473	3
三条一坊　一町	中・西ノ京北聖町	1/21	-1.2m以下、黄灰色砂礫の無遺物層。	HL419	2
三条一坊　一町	中・西ノ京北聖町62　中京中学校	3/27	巡回時、工事終了。	HL535	2
三条二坊十一町	中・堀川通姉小路上る三坊堀川町59-1	3/12・13	No.1；-1.22m以下、粗砂・砂礫の無遺物層。No.2；-1m以下、室町以降の流路堆積。-1.6m以下、粗砂礫の無遺物層。	HL509	2
三条三坊　七町	中・衣棚通押小路下る下妙覚寺町185,187,189	2/12～14・26～28,3/3・4	No.1；-1.49mで中世の柱穴。-1.6mで鎌倉前期後半の落込み。No.2；-1.64mで江戸初頭の土壙。下層には完形の土師器多量。No.3～5；-2.13mで室町後期後半～江戸前期の池の西肩。東隣地へ続く。竜池にあたる。**本文３ページ。**	HL444	3
三条三坊　九町	中・烏丸通二条下る秋野々町514-1	3/11・12・21	No.1；-0.9mで幕末ころの焼土層、-1.3mで南面する石垣。No.2；-0.97mで近世の黄灰色粗砂、洪水層か。	HL508	3
三条四坊七・八町	中・堺町通（二条通～御池通）地内	3/31,4/1・2・4・7・8・10・14・15	-0.9mまでに８面以上の高倉小路路面及び整地層。No.1；-1.3m以下、湿地状堆積。No.2；-1.04mで褐色砂泥の無遺物層を切って落込（No.5でも確認）。No.3；-0.96mで平安後期の土壙。No.4；-0.9mで鎌倉の包含層。No.5；-0.9m以下、平安前期・鎌倉後期の包含層各１。	HL536	3
三条四坊十五町	中・御幸町通御池上る亀屋町391他３筆	1/16・17	東京極大路の路面と側溝を確認。No.1；-1.08m以下、近世の包含層、時期不明の路面２。-1.9m以下、流れ堆積。No.2；-1.6m以下、路面２。No.3；-2.32mで平安後期の南北溝（西側溝）。	HL411	3
四条一坊十二町	中・壬生坊城町16	3/26・27,4/1	No.1；-1.45mで平安末期～鎌倉の土壙、土師器多量。No.3；-1.07mで平安中期のピット、底部に多量の土師器。No.4；-1.35mで時期不明の落込。-1.40mで平安～室町の東西溝。	HL529	4
四条二坊十三町	下・四条通油小路東入傘鉾町42,42-1・38,40-1	2/14・17・19	-0.62m以下、室町の包含層・土壙、平安前期の包含層。-1.49m以下、暗褐色粘土の無遺物層。	HL447	4
四条二坊十三町	下・四条通西洞院西入傘鉾町54	3/21	-1.85m以下、流れ堆積か。	HL521	4
四条三坊　八町	中・室町通三条下る烏帽子屋町482,484	'96/12/6・9・10,'97/1/8	No.1；-1.38m以下、近世の包含層。No.2；-1.86mで江戸初期の方形土壙。No.3；-1.56m以下、微砂・砂礫の無遺物層。**本文10ページ。**	HL374	5
四条三坊　十町	中・蛸薬師通烏丸西入橋弁慶町235	3/3	-0.95m以下、室町の包含層。	HL490	5
四条三坊十三町	中・東洞院通四条上る坂東屋町664	1/17	-0.55mまで現代盛土。	HL413	5
四条四坊　六町	中・柳馬場通蛸薬師下る十文字町440,442,443	1/14・16・17,2/4	No.1；-0.67m以下、近世以降の整地層。-1.08m以下、近世の流れ堆積。No.2；-1.57mで黄褐色砂礫の無遺物層、これを切って近世の土壙。No.3；-2.26mで近世の井戸。	HL410	5
五条一坊十一町	中・壬生相合町～下・仏光寺通大宮西入坊門町　地先	2/25・27,3/3・6・7・10	No.1；-0.45mで近世の包含層。No.2；-1.15m以下、黄褐色砂礫の無遺物層。No.5；-0.32m以下、中世～近世の包含層。	HL476	4

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
五条三坊　五町	下・松原通新町東入中野之町179	'96/12/18・20, '97/2/4・20	-1.53mまで明確な遺構検出できず。	HL388	5
五条四坊十二町	下・松原通富小路東入松原中之町488、富小路通高辻下る恵美須屋町197	3/28, 4/1・2・4・7・8	No.1・6；五条大路北築地の内溝の北肩。No.1では標高34mで幅1.85m以上、深さ0.75m、鎌倉後期の整地層を切る。No.6では標高38.68mで幅1.3m以上、深さ0.3m以上、平安後期～鎌倉前期。No.2；標高33.6mで平安後期の整地層。	HL532	5
五条四坊十五町	下・寺町通綾小路下る中之町562, 563	3/24～26	-1.29mで包含層（土師器・瓦器）。	HL526	5
六条三坊十三町	下・不明門通五条下る二丁目下平野町491	1/24	巡回時、工事終了。	HL420	5
六条三坊十三町	下・六条通不明門東入仏具屋町167, 168	3/3	-0.3mで砂礫・砂泥の互層による近世の整地層。-0.69m以下で路面7、平安前期の落込、平安後期の土壙。**本文13ページ。**	HL491	5
六条三坊十四町	下・東洞院通五条下る二丁目福島町505, 507	3/13・17・18	No.1；-0.39mで近世の落込。-1.74m以下、にぶい黄褐色細砂の無遺物層。No.2；-2.26m以下、流れ堆積および池状堆積。No.3；-1.32mで中世の包含層。	HL506	5
七条一坊　六町	下・夷馬場町22	3/14・19・21	No.1；-0.67m以下、淡黄灰色粗砂の無遺物層。No.2；-0.57mで整地層。-0.66m以下、黄褐色細砂の無遺物層。	HL515	6
七条三坊十四町	下・不明門通上数珠屋町下る上数珠屋町～桜木町　地先	'96/10/16・17・31, '97/2/5	No.1；-0.45mで近世の焼け瓦出土。-1.10mで鎌倉の包含層（土師器）。No.2；-0.45mで近世以降の路面。No.3；-1.30mで近世の包含層。	HL295	7
七条三坊十四町	下・烏丸通東側（上数珠屋町～七条通他）地内	'96/10/16・24, 12/4・9・11・12, '97/1/8・14, 2/5	No.1；-0.27m以下で路面5、近世の土壙・包含層。No.2；-0.93m以下、中世・近世の包含層。No.3；-1.15m以下、平安後期・室町の包含層。No.4；-0.34m以下、路面整地層12、包含層。	HL296	7
七条三坊十四町	下・桜木町～上数珠屋町　地先	'96/10/30, 12/6, '97/1/8・16, 2/5	No.1；-0.83mで近世の包含層。-0.92m以下、路面3。-1.16m以下も路面か。No.2・3；-0.41mで1～2段の石垣、以下近世の包含層3。	HL322	7
七条三坊十四町	下・烏丸通（東本願寺前他）	2/5・12・21, 3/17	-1.21mで近世の包含層。	HL436	7
八条一坊　一町	下・観喜寺町他	1/7	-1.45mで包含層。-1.55m以下、黄灰色粗砂の無遺物層。	HL397	6
八条一坊　三町	下・観喜寺町3他	2/6	-0.9mまで現代盛土。	HL440	6
八条一坊　五町	南・八条町509-2	1/17	-1.4m以下、灰黄褐色粗砂礫の無遺物層。	HL415	6
八条二坊十三町	南・西九条北ノ内町41-3他17筆	3/7・10・18	-1.28mで耕土層。-1.42m以下、近世の遺物を含む流れ堆積（土師器、陶器、赤絵、瓦）。	HL498	6
八条二坊十四町	下・油小路通塩小路下る東塩小路町	2/10	-0.5mまで現代盛土。	HL441	6
八条三坊十二町	下・東塩小路釜殿町他	1/20	-1m以下、流れ堆積。	HL416	7
八条四坊十一町	下・東七条上ノ町15～西ノ町197	3/26・27, 4/1	-1.6m以下、流れ堆積。	HL528	7
九条二坊　九町	南・西九条池ノ内町58	3/6・7・10	-1.2mで平安前期の氾濫堆積（土師器、須恵器、黒色土器）。	HL497	6

平安京右京（HR）

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
一条四坊十三町	右・太秦安井小山町　地内	1/30, 2/5・12・14・21	中御門大路と西京極大路の交差点部にあたるが、北側で検出した西京極大路西側溝の整地層がこの地点では検出されず、西側の発掘調査で検出した法金剛院の門の地業がこの地点まで続くことを確認。	HR431	8
一条四坊十三町	右・花園伊町　地先	3/5・19	-0.2m以下、平安後期の整地層。	HR500	8
二条二坊　一町	中・西ノ京上平町　地内	2/19・20・27	-1.08m以下、黒色粘土の無遺物層。	HR467	9
二条二坊　八町	中・西ノ京上平町　地内	2/19・27	-0.5m以下、褐色砂礫層、現代盛土か。	HR466	9
二条二坊十一町	中・西ノ京上合町37～39	1/13・23	-1.7mまで現代盛土。	HR406	9
二条二坊十二町	中・西ノ京南上合町103	1/31	-0.48m以下、中世の包含層3（土師器、瓦器）。-0.92m以下、平安中期の遺物を含む湿地状堆積（土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦）。	HR423	9

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
三条二坊十五町	中・御池通北側（西小路通～西大路通）	1/27, 2/18・19・27, 3/3・5～7・17・19・21	No.2；-0.75mで包含層。-1.10m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。No.3；-1.22m以下、炭を含む黄褐色砂泥。No.4；-1.22mで室町の落込。No.6；-1.05m以下、河川堆積。No.8；-1.3m以下、湿地状堆積。	HR424	8・9
三条二坊十六町	中・西ノ京東中合町2	1/7・8	-0.8mで灰黄褐色泥砂、無遺物層か。	HR396	9
三条四坊十五町	右・太秦安井西沢町～太秦安井一町田町	'96/10/28, 11/18, '97/1/14, 2/27	No.2；-2.2m以下、灰黄褐色砂泥の無遺物層。No.3；-2.3m以下、黄褐色砂礫の無遺物層。	HR316	8
四条一坊　九町	中・壬生明神町1-54	2/25	-0.98m以下、近世の包含層。	HR477	11
四条二坊十二町	右・西院東淳和院町36, 37, 35-5・2・8	2/5	-0.6mで近世の包含層。-1.2m以下、黄灰色砂泥の無遺物層。	HR438	11
四条二坊十二町	右・西院東淳和院町5-4他	2/21・24～26	西堀川小路の西側築地の整地層を検出。築地の西側で瓦を多量に含む層。西堀川小路の西側溝、御土居の壕検出。**本文19ページ。**	HR470	11
四条四坊　八町	右・山ノ内中畑町12-2, 24-1・2	1/14・17	-0.3mまで現代盛土。	HR408	10
五条二坊十一町	右・西院平町6-1・2・4, 7-1	3/19	掘削工事なし。	HR522	11
五条三坊十六町	右・西院日照町1	2/10, 3/17	-0.93mで近世の包含層。	HR442	10
五条四坊十六町	右・西院東貝川町38, 39	2/17・18	-0.35mまで現代盛土。	HR459	10
六条一坊十三町	下・中堂寺粟田町1-4・5	1/31, 2/3・13	-0.8mまで現代盛土。	HR427	11
六条二坊十一町	右・西院南高田町3	3/14	-0.3m以下、黄褐色粗砂の無遺物層。	HR514	11
六条四坊　四町	右・西院六反田町他　地内	3/11～5/7	No.3；-0.8m以下、淡黄灰色砂泥の無遺物層。No.12；-1.3mで包含層（土師器片）。No.13；-1.15mで包含層（土師器片）。No.14；-0.58mで包含層（土師器、須恵器）。No.15；-0.72mで灰色粘土層（弥生～庄内の土器片）。	HR503	10
六条四坊十六町	右・西院西田町他　地内	2/6・7・12・13・18～20・27・28, 3/3・4・6・7	No.2；-1.1m以下、湿地状堆積。-1.4m以下、黄灰色砂泥の無遺物層。No.3；-1.28m以下、湿地状堆積。No.7・9～12；-0.8～1.2m以下、氾濫堆積。No.8；-1.15m以下、湿地状堆積。	HR439	10
七条二坊十四町	下・西七条名倉町～西七条比輪田町　地先	3/11～14・21・26・27	No.1；-0.36m以下、黄灰色砂泥の無遺物層。No.2；-0.33mで平安中期の包含層（土師器、須恵器、黒色土器、瓦）。No.3；-0.65mでNo.2と同一層。-0.88m以下、湿地状堆積。No.4；-0.55mで包含層。No.5；-0.47mで落込。No.6；-0.52m以下、明黄褐色砂泥の無遺物層。	HR504	13
九条一坊　十町	南・唐橋門脇町35　八条中学校	2/17・18	-0.7mで包含層（土師器）。-0.95m以下、灰色砂泥の無遺物層。	HR458	13
九条三坊　十町	南・吉祥院西ノ庄西中町46	1/8・13	-0.67mで流路堆積。-1.27m以下、黄灰色砂泥の無遺物層。	HR401	12

洛北地区（RH）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
植物園北遺跡	北・上賀茂畔勝町25	3/13・14・17	-0.98m以下、黄灰色砂泥の無遺物層。	RH511	
植物園北遺跡	左・下鴨南茶ノ木町18-1	3/25・26	-0.3mまで現代盛土。	RH527	
元稲荷窯跡	左・岩倉幡枝町730-4・6	1/27・28	-1m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。（96年度発掘調査地）	RH421	

太秦地区（UZ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
仁和寺院家跡	右・常盤一ノ井町3-1	1/31	-2.4m以下、旧耕土層。	UZ428	
西野町遺跡	右・太秦御所ノ内町2	2/12	-0.75m以下、包含層。西高瀬川に関連する堆積層か。	UZ445	

北白川地区（KS）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
北白川廃寺	左・北白川大堂町21	3/3・4	No.1；-0.96mで瓦片。No.2；-0.75mで平安後期の包含層（土師器）。No.3；-0.53mで瓦片。後世の土層に混入。No.4；-0.6mで中世の包含層。-0.77m以下、整地層2。-0.86mで中世以前の包含層（瓦）。	KS489	
京都大学総合人間学部構内遺跡	左・吉田本町～吉田上大路町　地先	1/20,2/7・10	No.1；-0.41mで整地層3、うち第2層は近世。No.2；-0.31m以下、時期不明の路面3、包含層3。-0.78m以下、無遺物層。No.3；-0.58mで包含層、-0.86mで土壙。地震による断層。	KS414	
京都大学病院構内遺跡	左・東大路通（近衛通～春日北通）	'96/8/21～'97/2/19	縄文後期、平安後期・末期、鎌倉の包含層、落込、土壙検出（縄文後期の深鉢片など）。平安後期から鎌倉の遺構が顕著に残る。-0.66～1.28mで無遺物層。	KS215	
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・冷泉通(岡崎南御所町～岡崎天王町他)地内	3/27～5/13	No.7；-0.51mまで路面6。-0.8m以下、灰黄色砂の無遺物層。No.10；-0.42mまでに路面8～10。-0.65mで平安後期の包含層（土師器）。-1m以下、湿地堆積、-1.28m以下、流れ堆積。	KS530	
岡崎遺跡・尊勝寺跡・延勝寺跡	左・岡崎最勝寺町、成勝寺町　地先	'96/12/12,'97/2/21	-1.6mまで現代盛土。	KS380	
岡崎遺跡・最勝寺跡	左・冷泉通（神宮道および岡崎道との交差点）	2/24～26	No.1；-0.9mで平安後期の土壙2。No.3；-0.72mで平安後期～鎌倉の瓦溜り。No.4；-0.86mで土壙1。いずれも最勝寺に関連する遺構か。No.2・5；-0.65m以下無遺物層。	KS471	
岡崎遺跡・延勝寺跡	左・北門前町486	3/6	-0.48mまで現代盛土。	KS496	
岡崎遺跡・得長寿院跡	左・岡崎徳成町11-5・6	3/19・24	-0.97mで平安後期の包含層、これを切って平安後期の土壙2（土師器、白磁、瓦）。-1.1m以下、黄褐色微砂・砂泥の無遺物層。	KS516	

南・桂地区（MK）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
中久世遺跡	南・久世殿城町223,224	2/25・26	-0.53mで平安の土壙3。-0.6m以下、にぶい黄褐色粘土の無遺物層。	MK475	
大薮遺跡	南・久世殿城町	1/30・31,2/3・5～7,3/3・7・28・31,4/2	-0.5mで黄灰色粘土の無遺物層、これを切って中世の溝。No.1；-0.4mで黄褐色粘土の無遺物層、これを切って柱穴、焼土混入の土壙。No.2～5；-0.2m以下、無遺物層。No.6・7；-0.25mで無遺物層、これを切って弥生～古墳の溝。	MK403	
大薮遺跡	南・久世殿城町520-1	3/21・24	No.1；-0.43mで落込。No.2；-0.45mで幅2.5m以上、深さ0.4mの溝。No.1の落込はNo.2の溝の一部で、南西方向の溝。	MK525	
松室遺跡	西・松室北河原町55-3・4	'96/6/10,'97/4/4	-0.6mまで現代盛土。	MK105	
法華山寺跡	西・御陵峰ヶ堂	3/3・5～7・12	-1.2m以下、黄褐色泥砂の無遺物層。	MK485	
南春日町遺跡	西・大原野南春日町、灰方町	'96/10/25～30,11/26,'97/1/20	奈良時代の建物跡、平安・鎌倉時代の建物跡を重複して検出。**本文52ページ。**	MK312	
南春日町遺跡	西・大原野南春日町　地内	'96/12/06,'97/1/10・16・17,2/5～7・10・12・13	No.4；-1.8m以下、黄褐色砂礫混粘質土の無遺物層。No.9；-0.9m以下、黄褐色粘質土の無遺物層。No.12；-1.6m以下、溝あるいは湿地状堆積。No.19～20；-1m以下、北西から南東の旧流路堆積。北No.3；-0.7m以下、黄褐色砂の無遺物層。北No.4；-0.7m以下、溝または湿地状堆積。	MK366	

洛東地区（RT）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
六波羅政庁跡	東・本町一丁目52	2/28	-0.27mで近世以降の包含層。	RT486	
法住寺殿跡	東・池田町527　一橋小学校	1/13, 3/25・26, 4/4・9	No.1；-1.58mで古墳の包含層。-1.83m以下、灰オリーブ色粘土の無遺物層。No.3；-1.15mで整地層。No.5；-1.02m以下、明黄褐色砂泥の無遺物層。	RT404	
法住寺殿跡・六波羅政庁跡	東・塗師屋町592-2	3/14・19	-0.47mで灰褐色粘土の無遺物層、これを切って平安後期～末期の遺物を含む東西溝、平安後期の土壙、鎌倉後期の土壙。**本文54ページ。**	RT512	
安朱遺跡	山・御陵鳥ノ向町2	3/12	-0.04mで近世の大きな落込の北肩、深さ1.26m。	RT510	
山科本願寺跡	山・西野阿芸沢町1-5	1/21, 6/19・23	-0.8mまで現代盛土。	RT417	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町276-4	1/7	-0.2mまで現代盛土。	RT399	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町276-5	1/7	巡回時、工事終了。	RT400	
中臣遺跡	山・勧修寺西金ケ崎394, 395, 400	1/27	-0.3mまで現代盛土。	RT422	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町101	2/5	-0.1mまで現代盛土。	RT435	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町35-1, 40-3、勧修寺東栗栖野町1-3	2/24・26	-0.52m以下、褐色砂泥粘質の無遺物層。	RT474	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町33	2/26・27	No.1；-1.75mで等間隔で南北に並ぶ東西方向の土壙4。幅0.97～1.12m、深さ0.45～0.49mの逆台形で褐黄褐色粘土の無遺物層に切り込む。No.2；No.1と同様の土壙。幅4.6～6.1m、深さ0.53～0.63mで北が浅く、南が深くなる。いずれも現代か。	RT478	
中臣遺跡	山・栗栖野打越町34-1, 35-1、勧修寺東栗栖野町1-3	3/5・6・10	-0.65m以下、黄褐色粘土の無遺物層。	RT494	
中臣遺跡	山・椥辻番所ヶ口町172-8	3/21	-0.2m以下、現代耕作土層。	RT523	
中臣遺跡	山・椥辻番所ヶ口町172-6・15	3/21	-0.2m以下、現代耕作土層。	RT524	

鳥羽地区（TB）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
上鳥羽遺跡	南・上鳥羽鴨田	2/19・21, 3/10・18, 4/2, 5/12～16・19・21, 9/29	No.1；-0.57m～1.08m以下、湿地堆積、流れ堆積。No.2；-0.2mで近世の包含層。No.4；-1.4mで湿地堆積。No.6；-0.14で旧路面、-0.3mで近世の包含層。	TB468	
西飯食町遺跡	伏・深草飯食町839-1	2/28	-0.45mで包含層（土師器片）。	TB481	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町19-1	2/3	-0.1mまで現代盛土。	TB430	
鳥羽離宮跡	伏・竹田桶ノ井町66-8	2/13	-1.17m以下、湿地堆積。	TB446	
鳥羽離宮跡	伏・竹田踞川町66, 66-1	2/18	-1.63m以下、湿地状堆積。	TB460	
鳥羽離宮跡	伏・中島宮ノ前町（7-2, 8-3, 9-1, 28-2, 29-5, 48）の一部、中島御所ノ内町（11, 11-1, 12）の一部	3/5	-0.15m以下、砂泥粘質層3。	TB488	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町地先	2/4	巡回時、工事終了。	TB505	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町290-3, 293-1、浄菩提院町46-3の一部	3/31	掘削工事なし。	TB537	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町290-3, 293-1、浄菩提院町46-3の一部	3/31	掘削工事なし。	TB538	
下三栖城跡	伏・横大路下三栖梶原町、辻堂町、池田屋敷町飛地、城ノ前町　地先	'96/12/9～12, '97/1/8・13・14, 2/4	No.1；-0.77m以下、流れ堆積。-1.1m以下、湿地堆積。No.2；-0.34mで古墳の包含層2。No.5；-0.5m以下、中世の包含層（土師器片）。	TB376	
下三栖遺跡	伏・下三栖辻堂町	'96/12/20・24・26, '97/1/9・10	No.1；-1.5mで灰色砂礫層。以下、砂礫・砂層の互層の河川堆積。No.2；-1mで中世の包含層。-1．22mで東西方向の堀状遺構、柱穴、土壙状遺構。-1.4mで奈良の包含層。No.3；-1.2mで灰色泥土、-1.5mで淡黄褐色砂泥（遺物少量）。No.4・5；No.2の中世遺構の続きを確認。	TB393	

伏見・醍醐地区（FD）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
醍醐廃寺	伏・醍醐高畑町他　地内	2/21, 3/17・18・26～28	No.2；-0.2m以下、灰白色粗砂の無遺物層、火山灰層。No.5；-0.51mで無遺物層、これを切って落込。	FD465	
伏見城跡	伏・桃山筒井伊賀東町～桃山羽柴長吉東町地内	'96/11/20～29, 12/4・6・10, '97/1/8・13・17, 2/4	No.1；-1.05mで近世の包含層、-1.38mで落込。No.2；-0.28m以下、整地層5。-0.7m以下、明褐色細砂の無遺物層。No.4；-0.22mで路面、-0.5mで整地層。No.5；-0.7～1.2mで瓦・炭を含む包含層。-1.38m以下、粘土の無遺物層を切って東への落込。No.8；-0.59mで桃山～江戸の包含層。No.9；-0.3mで桃山の金箔瓦。No.11；-0.68mで桃山の包含層。	FD351	
伏見城跡	伏・桃山水野左近西町　地先	'96/12/4・6・9～11, '97/3/17～24	No.8；-0.75mで黒褐色砂泥層（土師器小片）。No.9；-0.88mで黒褐色泥砂層（瓦片）。全ての地点で無遺物層は未確認。	FD368	
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町369-1	1/8, 2/4・12～17	No.1；-0.17m以下、整地層。-0.87m以下、橙色砂礫の無遺物層。No.4；地表面で落込、埋土は粘土層。	FD398	
伏見城跡	伏・桃山福島太夫西町～桃山毛利長門西町地内	1/14, 2/4～27	No.2；-0.65m以下、褐色粘土の無遺物層。No.3；-0.7m以下、整地層3。以下は明褐色粘土の無遺物層。No.4；-1.15m以下、整地層2。No.5；-0.32～0.96mで包含層2。	FD409	
伏見城跡	伏・深草中ノ島町～桃山町丹下　地内	1/21, 2/5～21	-0.2m以下、黄褐色粘土の無遺物層。	FD418	
伏見城跡	伏・桃山町丹下1-8	2/18	-0.88～1.2mで整地層3。	FD461	
伏見城跡	伏・桃山筑前台町11, 9-2	2/19	地表面下すべて微砂～細砂の無遺物層。	FD464	
伏見城跡	伏・深草大亀谷東安信町84	2/26	-0.3mまで現代盛土。	FD479	
伏見城跡	伏・深草大亀谷東安信町85	2/26	-0.3mまで現代盛土。	FD480	
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町443-1・8・9・10	2/28	-0.3mまで現代盛土か。	FD487	
伏見城跡	伏・京町六丁目67-1	3/14・17	-0.3mまで現代盛土。	FD513	
伏見城跡	伏・鷹匠町19-1, 36-3、紺屋町196-13	3/27	-0.51mで近世以降の包含層。	FD531	
伏見城跡	伏・深草中ノ島町～桃山町丹下　地内	2/13	東西方向の落込の北肩部、東西6.2m以上、南北4.2m以上。伏見城関連の堀か。	FD540	

長岡京地区（NG）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
長岡京跡	伏・桂川河川敷（羽束師古川町～淀大下津町　地先）	'96/8/20, 10/21, '97/2/10	No.3；-0.9m以下、河川堆積。-1.6m以下、暗青灰色シルトの無遺物層。No.4；-1mで江戸の遺構面。	NG207	
長岡京跡	西・大原野上里南ノ町331-1～282-4	1/16, 3/13・19	No.1；-2.1m以下、黄褐色砂泥層の無遺物層。No.2・3；-1.25m以下、褐色砂礫層、氾濫堆積か。	NG412	
長岡京跡	伏・羽束師古川町328	3/17～19・21・27	-1.36～1.73mで氾濫状堆積3、下層で黒色土器。以下、湿地状堆積。	NG518	
長岡京跡	伏・淀樋爪町158-1	3/28	掘削工事なし。	NG539	

II　1997年　4～12月期（平成9年度）

平安宮（HQ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
大蔵	上・中立売通六軒町西入る三軒町65-34	5/1・2	No.1；-0.4mで江戸の整地層。No.2；-0.73m以下、褐色粘土の無遺物層。No.3；-0.8mで土壙2。	HQ051	1
大蔵	上・仁和寺街道六軒町西入四番町108-4	5/1	-0.2mまで現代盛土。	HQ055	1
大蔵	上・仁和寺街道六軒町西入四番町108-1	5/1	-0.2mまで現代盛土。	HQ056	1
大蔵	上・仁和寺街道六軒町西入四番町108-1の一部	5/1	-0.2mまで現代盛土。	HQ057	1
大蔵	上・七本松通一条下る三軒町66-4	5/30, 6/2	地表面下、黒ボク層。	HQ104	1
主殿寮	上・裏門通一条下る今新在家町200-1	7/7	-0.1mまで現代盛土。	HQ160	1
主殿寮	上・中立売通裏門東入多門町455-13	11/4	-0.2mまで現代盛土。	HQ321	1
主殿寮	上・中立売通日暮東入新白水丸町462-92	11/10	-0.23mまで現代盛土。	HQ331	1
主殿寮	上・中立売通千本東入丹波屋町地先	11/25	夜間工事のため、調査せず。	HQ350	1
右兵衛府	上・下立売通御前東入西東町335	6/17・18	＋0.16mで須恵器甕腹など出土。-0.32m以下、黒褐色粗砂の無遺物層。	HQ131	1
右近衛府	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町257-5	11/17	-0.11m以下、暗オリーブ色砂泥の無遺物層。	HQ339	1
図書寮	上・御前通下立売上る三丁目東入三助町28-2	8/11	-0.1mまで現代盛土。	HQ204	1
図書寮	上・七本松通下長者町西入鳳瑞町245	8/21・22	-0.4mまで現代盛土。	HQ214	1
宴の松原	上・六軒町通下長者町下る七番町358	6/11・23・26	-0.4mまで現代盛土。	HQ119	1
宴の松原	上・六軒町通下長者町下る西入利生町294	8/11	巡回時、工事終了。	HQ198	1
宴の松原	中・聚楽廻西町166	10/28	-0.35m以下、明黄褐色砂泥粘質の無遺物層。	HQ312	1
宴の松原	上・七本松通出水上る西入三番町274	11/25	巡回時、工事終了。	HQ348	1
縫殿寮	上・下長者町通裏門西入坤高町75-6の一部	7/7	-0.2mまで現代盛土。	HQ109	1
縫殿寮	上・下長者町通裏門西入坤高町75-6の一部	7/29	巡回時、工事終了。	HQ191	1
縫殿寮	上・下長者町通裏門西入坤高町75-6の一部	10/8	-0.15mまで現代盛土。	HQ290	1
左近衛府	上・下長者町通智恵光院東入西辰巳町112-16	5/28～30, 6/2	No.1；-1mで鎌倉の包含層。No.2；±0m以下、整地層8。	HQ102	1
職御曹司	上・裏門通出水上る白銀町246-1	4/9	-0.40mまで現代盛土。	HQ019	1
職御曹司	上・出水通智恵光院西入田村備前町221	5/7	掘削工事なし。	HQ064	1
内裏	上・出水通智恵光院西入田村備前町236-1	8/11	巡回時、工事終了。	HQ205	1
内膳司	上・下長者町通千本西入375-4	5/21・22	-0.4mまで現代盛土。	HQ087	1
内膳司	上・千本通出水下る十四軒町393-3	11/4・5	-0.74m以下、褐色泥砂の無遺物層。	HQ319	1
真言院	上・下立売通六軒町西入長門町433	4/16～18	-0.3～0.58mで近世以降の整地層7。	HQ030	1
中和院	上・千本通出水下る十四軒町403	4/9・10	-0.94mで整地層。	HQ018	1
左兵衛府	上・松屋町通下立売上る一丁目621	9/9・11	-0.15mまで現代盛土。	HQ255	1
東雅院	上・日暮通下立売下る櫛笥町706	5/6	-0.16mまで現代盛土。	HQ059	1
造酒司	中・聚楽廻松下町12-43	10/28	-0.6mまで現代盛土。	HQ317	1
左馬寮	中・西ノ京左馬寮町7-33	10/27	-0.25mまで現代盛土。	HQ313	1
豊楽院	中・聚楽廻西町127-5	4/7～9, 5/1, 9/18・19	-0.15mで堅く締まった土層。	HQ009	1
豊楽院	中・聚楽廻西町127-1	5/2・6・7	-0.08mで、敷地全体に版築状の整地層、堆積状況から豊楽院の遺構に関連する整地土か。-0.36m以下、褐色粘土の無遺物層。敷地南端で凝灰岩片が出土。	HQ058	1
豊楽院	中・聚楽廻西町188-39	5/26	-0.35mまで現代盛土。	HQ098	1
豊楽院	中・聚楽廻松下町1-9	6/3～5	-1mまで遺構・遺物検出できず。	HQ110	1
豊楽院	中・聚楽廻西町142-4	6/11	-0.42m以下、褐色粘土の無遺物層。排土より須恵器、陶器、瓦。	HQ123	1
豊楽院	中・聚楽廻中町42	6/17	No.1；-0.27mで平安前期の包含層（土師器、瓦、凝灰岩片）。-0.41m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。No.2；-0.11mでNo.1と同様の平安前期の包含層。栖霞楼の北側にあたり、建物の瓦が落ちたものを整地した跡か。	HQ132	1
朝堂院	中・聚楽廻西町49-21	4/28	-0.25mまで現代盛土。	HQ049	1
朝堂院	上・竹屋町通千本東入主税町1159	6/3・4	-0.4mまで現代盛土。	HQ111	1
朝堂院	中・聚楽廻東町20-11	6/30	掘削工事なし。	HQ150	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
朝堂院	中・聚楽廻東町20-10	6/30	掘削工事なし。	HQ156	1
朝堂院	中・聚楽廻東町20-4	9/18・19・22・24・29・30, 10/1	-0.78mで固く締まった土層。-1.03m以下、明褐色砂泥の無遺物層。	HQ271	1
朝堂院	中・聚楽廻中町57	9/19	-0.37mで包含層（瓦片）。-1.1m以下、にぶい黄褐色砂泥の無遺物層。	HQ272	1
朝堂院	中・聚楽廻南町	12/22・24	-0.4mまで現代盛土。	HQ380	1
内舎人	上・千本通丸太町東入中務町491-29	6/11	-0.2mで近世の包含層（土師器、緑釉陶器、染付、瓦）。	HQ124	1
中務省	上・浄福寺通丸太町下る主税町1036	12/5・9	-0.33mで暗褐色砂泥層、整地層か。	HQ367	1
主水司	上・智恵光院通丸太町下る主税町940	9/22	-0.25mで近世の包含層。	HQ273	1
主水司	上・日暮通丸太町上る西入西院町747-64	11/4～6	-0.14mで包含層（瓦片）。	HQ320	1
大炊寮	上・日暮通丸太町下る四丁目802-30	10/3	-0.1mまで現代盛土。	HQ287	1
大炊寮	上・日暮通竹屋町上る藁屋町535	11/25～28, 12/1・3	-0.6m以下、近世以降の包含層。	HQ349	1
大炊寮	上・日暮通丸太町下る四丁目802	12/9	-0.22mで近代以降の整地層。	HQ368	1
宮内省	上・竹屋町通千本東入主税町1250-2	7/1	-0.3mまで近世層。	HQ155	1
宮内省	上・竹屋町通千本東入主税町1237	7/24	-0.35mまで現代盛土。	HQ184	1
式部省	中・西ノ京小堀町2-45	5/28	-0.3mまで現代盛土。	HQ103	1
式部省	中・西ノ京式部町43（9号地）	6/24	-0.04mで平安の包含層（土師器、瓦）。	HQ141	1
式部省	中・西ノ京式部町　地先	9/10・11	-0.4m以下、黄褐色粘土の無遺物層。	HQ257	1
刑部省	中・西ノ京内畑町15-20	7/14	掘削工事なし。	HQ168	1

平安京左京（HL）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
一条大路	上・一条通浄福寺西入革堂之内町306	7/8	巡回時、工事終了。	HL163	2
一条大路	上・一条通浄福寺西入革堂之内町294-1の一部他	8/21	巡回時、工事終了。	HL215	2
一条大路	上・一条通浄福寺西入革堂之内町294-1の一部	11/7	巡回時、工事終了。	HL330	2
一条大路	上・一条通千本東入革堂之内町　地先	11/25	-0.8mまで現代盛土。	HL351	2
北辺二坊　五町	上・油小路通一条下る油橋詰町89	4/8・9	-0.2m以下、焼土層。	HL017	2
北辺三坊　一町	上・中立売通室町西入三丁目457　新町小学校	7/29・30	-0.15mまで現代盛土。	HL190	3
二条二坊十二町	中・油小路通二条下る二条油小路町　地先	6/2～9	夜間工事のため、調査せず。	HL106	2
二条二坊十五町	中・丸太町通油小路東入る大文字町41-1	10/17・20・21・24	-0.94mで室町の包含層、これを切って近世の落込（陶器擂鉢、天目椀）。	HL300	2
二条三坊　二町	中・新町通丸太町下る大炊町192	5/21～23・26	No.1；-1.26mでにぶい黄褐色粘土の無遺物層、これを切って幅0.5～0.8m、深さ0.09～0.19mの弥生の南北溝。方形周溝墓の溝か。No.2；No.1と同じ無遺物層をきって平安後期・鎌倉・中世～近世の土壙4（土師器、須恵器、緑釉陶器、青磁、白磁）。	HL088	3
二条三坊　二町	中・新町通丸太町下る大炊町209, 207-1	8/1・4・7・12	-1.2mで中世の包含層。	HL195	3
二条三坊　七町	中・衣棚通丸太町下る玉植町234	7/25	-0.3mまで現代盛土。	HL167	3
二条三坊十一町	中・烏丸通夷川上る少将井町230-1-4	7/23～25・29・30	-1.75mで室町後半～桃山の包含層（軒平瓦、土師器、陶器、えな壷、染付）。	HL172	3
二条三坊十五町	中・車屋町通竹屋町上る砂金町409-2	10/1～3・6・7・9	-0.85mで平安末期～鎌倉の包含層（白磁）。-1.55m以下、褐色粘土の無遺物層。	HL283	3
二条四坊　四町	中・高倉通二条上る天守町746, 747	11/10	巡回時、工事終了。	HL335	3
二条四坊十四町	中・竹屋町通麩屋町西入魚屋町441	7/30・31, 8/1	+0.1mで近世の包含層。	HL193	3
二条四坊十六町	上・京都御苑3	6/23	-0.55mで江戸以降の包含層（磁器、坩堝）。	HL137	3
三条一坊十二町	中・西ノ京池ノ内町　地先	7/15, 8/6・8・11・18・20・21	No.2；-0.45mで近世の包含層。-0.8mで流れ堆積。-0.94mと-1.08mで路面各1。-1.14m以下、緑灰色粘土の無遺物層。No.4；-0.93mで流れ堆積。-1.07m以下、黄褐色粘土の無遺物層。No.6；-0.24mで整地層。-0.4m以下、褐色細砂の無遺物層。	HL161	2
三条二坊　二町	中・黒門通御池上る織物屋町212	8/18・19	-0.94m以下、オリーブ褐色砂礫の無遺物層。	HL206	2

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
三条二坊　七町	中・池元町408-22他	4/22～25, 5/1・6・29, 6/5・9, 9/18	No.1；-0.64mで平安後期の土壙（土師器、須恵器、白磁、瓦）。No.2；-1.23mで黄褐色粘土の無遺物層、これを切って平安中期～室町の土壙（土師器、緑釉、鬼瓦）。	HL041	2
三条二坊　七町	中・御池通堀川西入池元町397-1・3	7/24	-0.3mまで現代盛土。	HL182	2
三条二坊　七町	中・西堀川通御池上る池元町408-5	9/16～19・22・24	No.1；-0.87m以下、平安後期の整地層3（土師器、須恵器）。-1.13mで平安後期の包含層（土師器、須恵器、黒色土器）。-1.45m以下、にぶい黄褐色粘土の無遺物層。No.2；-0.22mで室町の落込。No.3；-0.25m以下、平安中期～後期・平安後期の土壙（土師器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦）。	HL266	2
三条二条十四町	中・西洞院通姉小路上る三坊西洞院町576-1・2他	8/18, 9/16, 10/27・28	既存建物の地下室、基礎で攪乱のみ。	HL207	2
三条二坊十五町	中・小川通御池上る下古城町384-1他	8/18～22・26, 9/1・3・22	No.3；-2mで円形の近世の井戸、南北0.96m、東西0.9m、深さ1.85m残存。掘形の直径は約1.1m。桶を逆さまに2個組み合わせたもの。試掘調査済み。	HL208	2
三条三坊　一町	中・釜座通二条下る上松屋町705	9/9・11	-1.08mで近世の包含層。	HL254	3
三条三坊　二町	中・釜座通押小路下る下松屋町28	9/22・24・29・30, 10/1・2	-0.85mで江戸の包含層、落込。-1.65m以下、微砂・粗砂礫の無遺物層。	HL274	3
三条三坊　三町	中・釜座通御池下る津軽町777他3筆	6/24～26	-1.7m以下、流れ堆積。	HL142	3
三条三坊　七町	中・衣棚通押小路下る妙覚寺町198-3	7/30, 8/1・4	-0.47mで包含層（土師器片）。-1.99m以下、流れ堆積。	HL194	3
三条三坊　七町	中・衣棚通御池上る下妙覚寺町192-3	9/2・3	No.1 -1.5mで池状堆積の肩口、96HL444（本文3ページ）で検出された池の北側延長部分。	HL245	3
三条三坊　十町	中・御池通室町上る御池之町302	11/6・7・10～14・17・18・20, 12/1・4	No.2；-1.62mで時期不明の整地層。以下、室町の包含層。No.3；-1.21mで江戸の包含層。以下、オリーブ褐色砂泥の無遺物層、これを切って室町の落込。	HL329	3
三条四坊　二町	中・押小路通高倉西入左京町141	9/9・12・17	-1.45mで平安末期～鎌倉の土壙。-1.45m以下、にぶい黄褐色砂泥粘質の無遺物層。	HL237	3
三条四坊　五町	中・三条通高倉東入桝屋町62	9/8・9・11・17・19	-1mで江戸の包含層。	HL251	3
三条四坊　九町	中・富小路通二条下る俵屋町183	7/15・16・18・22・25	No.1；-1.3m以下、平安後期・鎌倉の包含層。No.2；-1.3mで桃山～江戸初期の包含層。-1.95m以下、にぶい黄褐色粘土の無遺物層。排土より江戸初期の塩壷、底部に「みなと籐左エ衛門」の刻印あり。No.3；-2.17mで平安前期かそれ以前の土壙（土師器、須恵器）。	HL169	3
三条四坊十三町	中・寺町通三条上る天性寺前町534-2	4/8・9	-0.8mで氾濫状堆積。当地は東京極大路内にあたるが、路面層は確認できなかった。無遺物層は未確認。	HL014	3
三条四坊十四町	中・寺町通御池下る下本能寺前町514	11/25・27・28	-0.92mで幅2.1m以上、深さ0.3m以上の室町の南北方向の溝状遺構。	HL352	3
三条四坊十五町	中・寺町通御池上る上本能寺前町480-1・2・5	11/6・7	-1.08mで平安後期の土壙。	HL328	3
四条一坊十三町	中・壬生坊城町1-1, 2-4・6	4/7～9・11	-0.7m以下、平安後期の落込、鎌倉の整地層。	HL010	4
四条二坊　一町	中・大宮通三条下る三条大宮町273	9/16・24・25・29・30	-0.85m以下、近世の遺物を含む湿地状堆積。	HL265	4
四条二坊十六町	中・小川通三条下る猩々町136	9/2～5・8	No.1；-1.28mで江戸の落込。-1.5m以下、暗灰黄色粗砂礫の無遺物層。No.3；-1.41mで鎌倉の包含層、-1.55mで流れ堆積。No.4；-0.81mで室町の土壙2。	HL244	4
四条三坊　六町	中・錦小路通室町西入天神山町290-1	8/26・28・29, 9/1	No.1；-1.01m以下、平安後期・鎌倉の土壙、中世の柱穴（土師器、瓦器、陶器、白磁、壁土）。-1.64m以下、にぶい黄褐色砂泥の無遺物層。柱穴は中央に石を据える。	HL229	5
四条三坊　八町	中・三条通室町西入衣棚町50, 了頓図子町475-8	5/15・16・19～22	-0.93m以下、平安後期・末期の包含層。	HL076	5
四条三坊　八町	中・新町通三条下る三条町348	6/23～27・30	-1.3mで江戸前期の井戸（土師器皿完形多数、天目、志野、擂鉢、磁器、フイゴ羽口、鉱滓）。-2.1m以下、にぶい黄褐色砂泥層は無遺物層。	HL138	5

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
四条四坊　二町	中・高倉通六角下る和久屋町343　高倉小学校	7/24・30・31	-2.8mまで近世の包含層。	HL183	5
四条四坊　八町	下・堺町通四条上る立売中之町～中・堺町通三条上る桝屋町　地先	11/5・10～12	-1.5mで包含層（土師器片）。	HL325	5
四条四坊十三町	中・寺町錦小路下る東大文字町291	8/6・7・12	-0.15mで江戸末期の井戸、硯石材が多量に出土。	HL203	5
四条四坊十四町	中・寺町通蛸薬師下る円福寺前町273	8/28・29, 9/2～5・8・9	No.1；-0.92mで室町の包含層。-1.5m以下、流れ堆積。No.2；-1.05mで鎌倉の包含層。No.3-0.9mで平安・平安後期の土壙。-2.2m以下暗灰黄色砂礫の無遺物層。No.4；-0.63m以下、東京極大路路面2。-0.97m以下、流れ堆積。	HL236	5
四条四坊十六町	中・新京極通三条下る桜ノ町424-1, 425	10/13・14・27・28	-1.3mで近世の包含層。	HL291	5
五条一坊　四町	中・坊城通（高辻通～松原通）	10/22～24・27・28	-0.7m以下、暗緑灰色粘土の無遺物層。	HL304	4
五条一坊　六町	中・壬生相合町69-6・8	12/10～12・15～17	No.1；-0.38mで落込、包含層(土師器片)。-0.53m以下、粘土・砂礫の無遺物層。No.2；-0.3mで平安後期の落込、鎌倉・室町の土壙。	HL371	4
五条二坊　三町	下・黒門通仏光寺下る今大黒町218	9/1～3・5	No.1；-0.78mで室町の土壙。-1.02m以下、褐色粗砂の無遺物層。No.2；-0.3mで江戸以降の土壙、時期不明のピット状遺構。-1.5m以下、にぶい黄褐色砂礫の無遺物層。	HL243	4
五条二坊十三町	下・油小路通高辻下る麓町635-6	7/18・22・23・25	-0.53m以下、平安後期・江戸の包含層。-1.08m以下、褐色粘土の無遺物層。江戸の井戸を3基確認。	HL166	4
五条二坊十五町	下・仏光寺通西洞院西入木賊山町184	4/21・22	No.1；-0.52m以下、平安後期～末期の包含層、鎌倉～室町の土壙・落込。-0.77m以下、褐色砂泥粘質の無遺物層。No.2；-0.6mで室町の落込。	HL037	4
五条三坊　一町	下・綾小路通西洞院東入新釜座町716-1	5/28～30, 6/3・5	-0.9mで流れ堆積。-1.31m以下、灰オリーブ色粘土の無遺物層。	HL101	5
五条三坊　二町	下・綾小路通新町西入矢田町121-1・5	8/1・4・7・11・12	-1.3mまで現代盛土。	HL196	5
五条三坊　二町	下・新町通仏光寺上る船鉾町397-1	9/12・17	-1mで室町の包含層、遺構の可能性あり。	HL261	5
五条三坊十三町	下・烏丸通松原上る東側因幡堂町728-1・3	10/22～24・27	-0.85m以下、室町の包含層2。	HL305	5
五条三坊十五町	下・東洞院通綾小路下る扇酒屋町307	6/17～19	-0.92mで近世の包含層（染付、銅製品、塩壷）。-1.42mで氾濫堆積層、-1.5mで包含層（土師器片）。	HL133	5
五条四坊　八町	下・四条通柳馬場西入立売中之町92	5/23・28～30, 6/9・10	No.2；-2.1mで鎌倉～室町の土壙（多量の土師器）。-2.46m以下、黄褐色粘土の無遺物層。No.3；-2.04mで平安の包含層（土師器、須恵器、緑釉陶器）。-2.25mで土師器甕が出土、奈良か。-2.44m以下、オリーブ褐色砂礫の無遺物層。	HL091	5
五条四坊十二町	下・松原通富小路東入松原中之町498-1, 499-1	6/10・11	-0.6mまで現代盛土。	HL120	5
六条二坊　一町	下・大宮通松原下る東側西門前町412	10/2・3・6～8	-0.91m以下、平安後期の包含層、鎌倉の落込、室町の包含層。-1.3m以下、褐色砂泥の無遺物層。	HL286	4
六条二坊十二町	下・堀川通六条下る佐女牛井町158	5/26・28	-0.4mで包含層（土師器片）。-0.51mでにぶい黄褐色粘土の無遺物層、これを切って落込。	HL094	4
六条四坊　四町	下・東洞院通五条下る和泉町522, 522-6	6/9	-1.4mで室町の包含層（土師器、瓦器）。	HL117	5
七条一坊　一町	下・西新屋敷下之町　地先	5/9・12・13・16	-0.62mで室町の包含層、-1.15m以下、灰黄褐色粘土の無遺物層。	HL067	6
七条二坊　一町	下・大宮通花屋町上る柿本町609-1　淳風小学校	7/3・24	-0.3m以下、平安後期・室町の包含層、平安末期～鎌倉・室町の土壙。-1m以下、にぶい黄橙色砂泥の無遺物層。	HL179	6
七条二坊　八町	下・花屋町通堀川西入柿本町600-1	6/26・27, 7/16・18・30	No.4・5；-0.43mで室町時代の包含層。No.5；-1.6mで江戸の池東肩。	HL146	6
七条二坊　九町	下・醒ヶ井通六条下る元日町2-2	5/22・23	-1mで平安後期の包含層。-1.2m以下、流れ堆積。	HL089	6
七条二坊十四町	下・東中筋通正面下る紅葉町351	4/23・24	-1.12m以下、江戸の包含層。	HL036	6
七条二坊十五町	下・西洞院通花屋町下る西洞院町466　植柳小学校	7/23・25・30	-0.95mで中世の包含層、これを切って江戸の土壙（土師器、染付、焙烙）。-1.25mで平安の包含層（土師器）。	HL180	6

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
七条三坊　一町	下・新町通六条下る艮町875	7/22	-1.17mで鎌倉の整地層。	HL174	7
七条三坊　三町	下・西洞院通正面下る鍛冶屋町451	10/16・17・20	-1.08mで包含層(土師器片)、土壙の可能性あり。	HL299	7
七条三坊　八町	下・新町通花屋町上る艮町878	9/17～19・22・24・25・29	No.2；-1.15mで平安後期の包含層。-1.35mで整地層を切ってピット状遺構。-1.6m以下、暗褐色砂泥の無遺物層。No.3；-1.2m以下、平安後期の整地層、室町の包含層。No.4；-1.25mで平安後期の包含層。No.5；-1.1mで路面、-1.2mで平安中期の土壙。	HL269	7
八条一坊　一町	下・歓喜寺町他　梅小路公園	10/21・23	-2.6m以下、黄褐色砂礫の無遺物層。	HL303	6
八条一坊　二町	下・観喜寺町３他	4/7	-0.6mまで現代盛土。	HL013	6
八条一坊　二町	下・歓喜寺町　地内	12/18・19・22	-0.2mまで現代盛土。	HL382	6
八条一坊　十町	下・観喜寺町19-5他	9/22	-0.4mまで現代盛土。	HL275	6
八条一坊十二町	南・八条町446-1・3,447-1	4/11・14	No.1；-1.3mまで砂礫の流れ堆積。No.2；-0.18m以下、八条大路の路面３、上層で瓦・灰釉陶器。	HL022	6
八条二坊　三町	下・黒門通（塩小路通～JR東海道本線他）地内	5/12～8/19	-0.32m以下、砂礫の流れ堆積。	HL073	6
八条三坊　七町	下・塩小路通室町下る東塩小路町858-1他	8/4・7	-1.0mまで現代盛土。	HL188	7
八条四坊　九町	下・郷之町11-1・2,153-1・2・13	4/23	-0.45m以下、砂礫の流れ堆積、磨滅した焼瓦片。	HL045	7
九条二坊　一町	南・東寺東門前町58	10/6・8・9・14・15	No.3；-0.18mで室町の包含層。以下、粗砂・砂礫による流れ堆積。No.4；-0.79mで鎌倉初期の包含層。-1.05m以下、砂礫による流れ堆積。No.5；-0.41mで室町の包含層。	HL289	6
九条二坊　八町	南・西九条藤ノ木町55	5/26	巡回時、工事終了。	HL095	6
九条二坊十三町	南・九条春日町13　九条弘道小学校	12/12・15	-0.55mまで耕作土。	HL372	6
九条三坊　五町	南・東九条下殿田町56　陶化中学校	9/16	-0.2mまで現代盛土。	HL263	7
九条三坊十二町	南・東九条烏丸町17	9/3・4	No.1；＋0.15m以下、室町・江戸の包含層、-0.4mでオリーブ褐色粘土の無遺物層、これを切って平安後期の落込。No.2；-0.3mで平安後期の包含層。-0.63m以下、にぶい黄褐色粗砂礫の無遺物層。	HL247	7
九条三坊十五町	南・東九条西山王町５	4/14～16	-１m以下、湿地状の泥土層と流れ状の砂礫層の互層堆積。排土より平安中期の土師器。	HL024	7
九条四坊　三町	南・東九条南山王町９	4/23～25・30	No.2；-0.72m以下、平安後期の土壙、室町前半の包含層。-1.13m以下、湿地堆積。	HL044	7
九条四坊　四町	南・東九条中御霊町55　陶化小学校	7/22・24・30	-1.26m以下、にぶい黄褐色砂泥の無遺物層。	HL173	7
九条四坊十二町	南・東九条河西町23	6/30,7/1	-1.08mで中世の包含層。-124m以下、流れ堆積。	HL148	7

平安京右京（HR）

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
一　条　大　路	上・六軒町通（一条下る西入三軒町～一条下る西入西今出川町）地先	4/21	-0.8mまで現代盛土。	HR038	9
北辺二坊　二町	上・御前通仁和寺街道上る下竪町173,179-7・8	5/27・28	No.1；-0.1m以下、平安前期の土壙、平安の土壙・落込・包含層（土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦）。-0.43m以下、褐色砂泥粘質の無遺物層。No.2；-0.24mで室町の包含層。-0.72m以下、黄褐色泥土の無遺物層。No.3；-0.31mで平安の落込（土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦）。調査地は西大宮大路にあたるが、攪乱により不明。	HR097	9
北辺二坊　七町	北・大将軍西町157-2	12/4・5	No.2；-0.33mで平安中期の包含層（土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器）。-0.43mで黒褐色砂泥混礫、野寺小路の路面か。No.3；-0.4mで平安中期の包含層（土師器、須恵器、緑釉陶器）。遺構の残存状況は良好で、工事掘削は-0.45mと浅い。北隣接地は93HR450で平安前期の野寺小路路面、東西側溝を検出している。	HR358	9

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
北辺四坊　八町	右・谷口園町　地内	4/7～5/22	-0.4mで整地層。-0.6m以下、橙色粗砂礫の無遺物層。	HR011	8
一条二坊　二町	中・妙心寺道（西大路通～御前通）地内	7/7～10/23	調査地の大半は近衛大路にあたる。-0.2～0.9mで路面8。西大宮大路との交差点部では西側溝は検出できず、路面のみ。**本文15ページ。**	HR162	9
一条二坊　四町	中・西ノ京西鹿垣町63	9/10・11・16～19・22	No.1；-0.15m以下、灰黄褐色砂泥の無遺物層。No.2；-0.15mで近世以降の包含層。-0.45mで包含層、礫多く堅く締まる。	HR256	9
一条二坊十一町	中・西ノ京中保町～北円町　地先	11/4～7・10～12・19・20,12/4	No.1；-1.15m以下、にぶい黄褐色砂泥の無遺物層。No.2；-0.14mで鎌倉の包含層。No.3；-0.62mで中世の包含層。	HR323	9
一条四坊　二町	右・花園木辻北町1	5/26～6/3,7/29・30	-0.3mで黄褐色粘土の無遺物層、これを切って鎌倉前期の南北溝、室町の土壙、近世の柱穴2。**本文18ページ。**	HR093	8
三条一坊　一町	中・西ノ京星池町18-5・6	8/27～29,9/1・03・04	-0.04mで江戸の包含層。-0.29m以下、黄褐色砂礫の無遺物層。	HR231	9
三条一坊　一町	中・二条駅地区土地区画整理事業内（その7）	11/20・27	掘削内、現代盛土のみ。	HR345	9
三条一坊　二町	中・西ノ京星池町，西ノ京栂尾町　地先	10/23・26・28・30,12/5	-0.6m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	HR306	9
三条一坊　四町	中・西ノ京小倉町10-3	10/14・15・17	-1.12m以下、包含層2（瓦片）。-1.82mで植物遺体を含む湿地状堆積。-2.55m以下、流れ堆積。	HR295	9
三条一坊　十町	中・西ノ京永本町22	4/10	-2mまで遺構・遺物検出できず。	HR020	9
三条一坊十二町	中・西ノ京東月光町22	8/21・22	-1mまで現代盛土。	HR218	9
三条一坊十六町	中・西ノ京永本町7-1　西ノ京中学校	5/6・9・12・13・21・26	-1mまで現代盛土。	HR060	9
三条二坊　二町	中・西ノ京銅駝町65・66	9/1・2・5・8・11	-1.12mで灰オリーブ色粘土の無遺物層、これを切って平安中期の落込（土師器、緑釉陶器）。西大宮大路の西側溝か。	HR241	9
三条二坊　四町	中・西ノ京樋ノ口町116-1・2,117-2	7/2～4・7	No.1；-0.76mで幅0.5m以上、深さ0.13mの平安の土壙（土師器、須恵器、黒色土器）。以下、オリーブ黒色粘土の無遺物層。No.2；-0.63mで平安前期～中期の包含層（土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器）。-0.75mで褐灰色砂泥の無遺物層、これを切って杭状のピット3。	HR157	9
三条二坊　八町	中・西ノ京原町35	10/23・24	-0.35mで東西溝2。-0.68m以下、平安中期以降の湿地堆積（土師器、須恵器、丸・平瓦、平安前期の複弁八葉蓮華文軒丸瓦）。	HR307	9
三条二坊　十町	中・西大路通東側（新二条通～御池通）地内	4/16～6/12	No.2；-0.27mで平安中期の包含層（土師器、黒色土器、緑釉陶器）。No.5；-0.25mで室町の包含層（土師器、須恵器、磁器）。No.10；-0.15mで路面。-0.3m以下、流れ堆積。-1.1m以下、にぶい黄色粘土の無遺物層。No.11；-0.6mで平安後期の包含層。	HR031	9
三条四坊　五町	右・山ノ内北ノ口町8	6/30,7/1・3・7	No.2；-0.35mで室町の南北溝。No.3；-0.4mで鎌倉～室町時代の包含層。-0.5mで浅黄色粘土の無遺物層。	HR152	8
四条一坊　四町	中・壬生花井町3	12/1・3	-1.56m以下、粗砂礫の流れ堆積。	HR359	11
四条二坊十三町	右・春日東通（三条通～四条通他）地内	7/16～9/30	No.1；-1.37mで灰黄褐色粗砂の無遺物層、これを切って落込。東西溝であれば四条大路北側溝にあたる。No.2；-0.7mで鎌倉の落込、南へ1.55mで杭を検出、東西溝か。No.3；-0.8mで平安後期の土壙。No.4；-0.82mで中世の包含層。No.13；-1.0mで池状堆積の落込。No.15；-0.7mで無遺物層、これを切って古墳前期の南北溝。	HR170	11
四条三坊　二町	右・西院下花田町21-3～6	7/23～25	-0.4mで平安中期の遺物を含む湿地状堆積。-1mで浅黄色粘土の無遺物層、これを切って土壙。	HR181	10

遺　跡　名	所　在　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
四条三坊　十町	右・西院金槌町　地内	8/19～21・29, 9/1	-0.9mまで現代盛土。	HR212	10
五条二坊　一町	中・壬生仙念町10-5	8/27	-1.65mで流れ堆積。-2.05m以下、池状堆積。	HR230	11
五条二坊十六町	右・西院巽町4-2	11/11・17, 12/8・9・12・16	-0.9mで平安中期～後期の包含層（土師器、須恵器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、瓦）。-1.54mでオリーブ黄色粘土の無遺物層、これを切って北東から南西方向の河川堆積（土師器、須恵器、火山灰混入）。	HR357	11
五条三坊　四町	右・西院西矢掛町31-2, 32-2・3	10/27～31	平安前期の南北溝２条、東西溝１条、南北方向の落込の東肩。宇多小路東側外溝と内溝。**本文21ページ。**	HR314	10
五条四坊十六町	右・西院東貝川町42	11/18・19・21	-0.92mで包含層（土師器）。-1.52mで植物遺体を含む泥土層。	HR340	10
六条一坊　四町	下・朱雀分木町～中堂寺南町　地先	9/4・8・9・11・12・17・18・22	No.2；-0.85mで流れ堆積。No.3；杭列３本確認。No.4；-0.77mで中世の包含層(瓦片)。-0.89m以下、にぶい黄橙色粘土の無遺物層。	HR248	11
六条一坊　九町	下・中堂寺庄ノ内町1-7	4/15・21	-0.54mで鎌倉の整地層、-0.65m以下、湿地状堆積、砂礫の流れ堆積。	HR028	11
六条一坊　十町	下・中堂寺南町（五条通・七本松通交差点内）	4/7～10	夜間工事のため、調査せず。	HR012	11
六条一坊十三町	下・中堂寺粟田町１	6/30	-1.4mまで現代盛土。	HR153	11
六条一坊十六町	下・中堂寺庄ノ内町1-136・143	9/11	-0.2mまで現代盛土。	HR260	11
六条二坊十二町	右・西院中水町21-1, 22-1	4/10・11・15～18・21	平安前期の野寺小路両側溝検出。**本文25ページ。**	HR021	11
七条一坊　七町	下・朱雀分木町57-4・5	9/30、10/1～3	-0.5mで土壙。土壙の中央部の底に幅0.3m以上、深さ0.08mの窪みがある、柱穴か。	HR280	13
七条一坊　九町	下・西七条東石ヶ坪町　地先	8/29～12/17	-1.1～1.3m以下、ほぼ同様の流れ堆積の無遺物層。No.9；-0.31mでにぶい黄褐色砂泥を切って佐女牛小路の北側溝（須恵器、灰釉陶器）。No.22；-0.82m以下、平安・平安中期の包含層（土師器、須恵器、黒色土器）。No.23；-1.06mで平安の包含層（土師器、須恵器、瓦）。	HR240	13
七条三坊　六町	右・西京極南庄境町66	8/21・28	-1.23m以下、粘土の湿地堆積。	HR217	12
七条三坊　七町	右・西京極南庄境町21・22・32・33・35	12/9・10・12	No.1；-1.3m以下、粗砂礫の流れ堆積。No.2；-0.91mで包含層（土師器片）。-1.4m以下、黄褐色粗砂礫の無遺物層。	HR360	12
七条四坊十五町	右・西京極西池田町38-1・2	9/24・25・29	-1.6m以下、流れ堆積の無遺物層。	HR276	12
八条一坊　十町	下・西七条東久保町11	8/25・28・29, 9/1	-0.43mで落込。-0.48m以下、にぶい黄褐色砂礫の無遺物層。	HR223	13
八条二坊　四町	下・梅小路西中町111	8/18・19	-0.56mで路面。西大宮大路と八条大路の交差点部にあたる。	HR209	13
八条二坊　十町	下・七条御所ノ内北町96	6/2・4	No.1；-0.5mで池状堆積。No.2；-0.39m以下、平安・室町の包含層（土師器、須恵器、黒色土器、馬の歯）。	HR108	13
八条三坊十二町	南・吉祥院西ノ庄西浦町64	5/16・19・20・22	-0.75mで流れ堆積。	HR078	12
九条一坊　二町	南・唐橋赤金町62-6・7・14・15	8/22, 9/1	-１mまで現代盛土。	HR221	13
九条一坊　四町	南・唐橋羅城門町46	6/3～5・10	羅城門推定地。-0.37mで流れ堆積。-0.47m以下、オリーブ褐色砂礫の無遺物層。	HR112	13
九条一坊　十町	南・唐橋門脇町36-19	11/20	-0.2mまで現代盛土。	HR344	13
九条一坊十四町	南・唐橋西寺町36	4/1・2	-0.52m以下、時期不明の西大宮大路路面。-0.92mで古墳の遺物を含む湿地状堆積。以下、弥生の遺物を含む流れ堆積。	HR002	13
九条一坊十四町	南・唐橋西寺町34	7/14	-0.15mで耕作関連と思われる畦状の遺構（土師器、須恵器片）。	HR164	13
九条一坊十四町	南・唐橋西寺町32	8/28	-0.05mまで現代盛土。	HR234	13
九条一坊十四町	南・唐橋西寺町32	8/28	-0.05mまで現代盛土。	HR235	13
九条一坊十四町	南・唐橋西寺町33-8	12/16	-0.2mまで現代盛土。排土より丸・平瓦。	HR378	13
九条一坊十五町	南・唐橋門脇町5-17	7/3・4・7	-1.26mで室町以降の包含層。排土より瓦、近世の土師器、磁器、瓦器。	HR158	13
九条二坊　八町	下・梅小路高畑町5-2	4/17	-0.8mまで耕作土・床土。	HR033	13

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
九条二坊 八町	下・梅小路高畑町5-3	5/9, 8/22	-0.63mで湿地状堆積。-0.9m以下、流れ堆積。	HR066	13
九条二坊十二町	南・唐橋西平垣町 地内	5/22	-0.6m以下、砂・細砂の流れ堆積。	HR90	13
九条二坊十三町	南・吉祥院中島町29	6/18・27	-1mで平安の包含層。	HR128	13
九条三坊 六町	南・吉祥院西ノ庄猪之馬場町1	5/19	-1.15m以下、流れ堆積。	HR080	12
九条三坊十二町	南・吉祥院西ノ庄猪之馬場町1	5/20	-1.78mで砂礫の流れ堆積。	HR84	12
九条四坊十一町	南・吉祥院内河原町10	5/15・16・22	-1m以下、流れ堆積。	HR077	12
九条四坊十二町	南・吉祥院中河原里西町6	8/26・28, 9/1・2	-0.8mで整地層。-0.95m以下、褐色砂礫の無遺物層。	HR227	12

洛北地区（RH）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
平安京跡隣接地	上・一条通七本松西入北側龍ヶ鼻町429-19	6/6	-0.36m以下、にぶい黄褐色砂泥の無遺物層。	RH114	
平安京跡隣接地	上・一条通浄福寺西入革堂之内町294-1の一部他	9/29	巡回時、工事終了。	RH278	
植物園北遺跡	北・上賀茂土門町50 穂根東児童公園	4/22・24	-0.9mで弥生または古墳の土器、一帯に拡がる包含層か。-1.3m以下、褐色砂礫混泥砂の無遺物層。	RH039	
植物園北遺跡	北・上賀茂蟬ヶ垣内町45-1	5/19・20～22	-0.57m以下、包含層2（土師器片）。-1.03m以下、褐色砂礫の無遺物層。	RH079	
植物園北遺跡	左・下鴨梁田町18-1～3	5/27・28・30	-0.2mの耕作土層より磨滅した中世の瓦質盤。-0.52m以下、灰黄褐色砂礫の無遺物層。	RH100	
植物園北遺跡	北・上賀茂烏帽子ヶ垣内町1	7/30	-0.3mまで現代盛土。	RH192	
植物園北遺跡	北・上賀茂岩ヶ垣内町90	8/4・6・7・11～13	竪穴状遺構、柱穴、飛鳥後半の須恵器などを含む遺構検出。**本文27ページ。**	RH202	
植物園北遺跡	北・上賀茂烏帽子ヶ垣内町1 上賀茂小学校	11/27, 12/9	-0.46mで中世の包含層。	RH354	
北野遺跡・北野廃寺	北・北野上白梅町1	4/11・16・21	敷地北東部に版築をもつ基壇状の高まりを検出。平安前～中期の土壙、平安の土壙を検出。**本文30ページ。**	RH023	
北野遺跡・北野廃寺	北・北野西白梅町75	5/7～9・12・13・15・16・20・22・23	道祖大路西築地心の北延長線の西側で、平安～室町の南北方向の溝5、路面検出。**本文32ページ。**	RH065	
北野遺跡	北・北野東紅梅町15	6/13・16・17・23・25	No.1；-0.43m以下、流れ堆積。No.2；+0.86mで中世～近世の包含層（瓦）。+0.76m以下、浅黄色砂泥の無遺物層。No.3；-0.36mで河川堆積の西肩口。	RH125	
紫野斎院跡	上・大宮通（鞍馬口通～寺ノ内一筋北側），芦山寺通（千本通～大宮通）地内	4/22～9/30	-0.25mで南面した石垣、石材は径0.15～0.3m、南北方向の溝か水路の可能性あり。	RH043	
紫野斎院跡隣接地	上・寺之内通大宮西入大猪熊町83	11/11・12	-0.44mで中世の包含層、整地層か。	RH332	
世尊寺跡	上・五辻通智恵光院西入五辻町86	5/6・9・12	-1mで近世の土壙。-1.58m以下、褐色粘土の無遺物層。	RH061	
新町校地遺跡	上・新町通上立売上る安楽小路町430-8	7/24・25・30, 8/1	-1.6mで中世の土壙、-1.7mで平安の包含層。	RH185	
聚楽第跡	上・智恵光院通一条上る智恵光院前之町232	8/25・26	-0.97m以下、江戸中期の土壙。	RH225	
小野瓦窯跡	左・上高野池ノ内町10-6・8	8/27	-0.7mまで現代盛土。排土より瓦。	RH233	

太秦地区（UZ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
南野古墳群	右・嵯峨広沢北下馬野町9-105 A棟	8/21・22	-0.3mまで現代盛土。	UZ219	
南野古墳群	右・嵯峨広沢北下馬野町9-106・110 B棟	8/22	-0.28mで包含層（土師器、石器）。-0.4m以下、明黄褐色砂泥の無遺物層。	UZ222	
梅ケ畑遺跡（銅鐸出土地）隣接地	右・梅ヶ畑向ノ地町	4/1～4/13, 7/3・4・30, 8/18～29, 9/5, 10/3・31, 12/25（継続中）	銅鐸出土地の隣接地として調査を開始したが、丘陵頂部周辺で平安前期を中心とする多量の遺物と関連する遺構を検出したため、発掘調査（梅ケ畑祭祀遺跡＝97UZ-UM）に切り替えた。**本文38ページ。**	UZ001	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
清涼寺境内	右・嵯峨釈迦堂藤ノ木町	7/22・24・29・30	-0.96m以下、灰色微砂の無遺物層。	UZ165	
円乗寺跡	右・竜安寺住吉町～御室大内　地内	9/30,10/1	-1m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	UZ281	
草木町遺跡	右・太秦京ノ道町13-3	6/6・12・16・17	-0.64mで土壙3。-0.82m以下、褐色粘土の無遺物層。	UZ115	
法金剛院跡	右・花園扇野町34-10他	11/10	-0.7mで平安中期の包含層。	UZ334	
上ノ段町遺跡	右・太秦西蜂岡町　地内	4/16～18・21・23～25・30,5/1・7	-0.43mで古墳後期～飛鳥の包含層（土師器片）。-1.1m以下、暗褐色砂礫の無遺物層。	UZ032	
上ノ段町遺跡・仲野親王陵古墳隣接地	右・太秦垂箕山町13-3	8/4・6～8・10・13・18・20,9/1・2・4	地表面の炭混じりの土層から土師器片。-1.2m以下、灰白色細砂の無遺物層。青灰色粘土の自然堆積層に流木多数、敷地は東から西に低くなる。	UZ200	
広隆寺旧境内	右・太秦森ヶ東町51-12	6/24・27・30,7/3	No.1；+0.6mで奈良の土壙2。No.3；-0.27mで平安の土壙。	UZ139	
広隆寺旧境内	右・太秦組石町12-2	7/17・18・24,8/7	-0.39m以下、浅黄色粘土の無遺物層。	UZ171	
広隆寺旧境内	右・太秦桂木町9	8/4・6～8・12	飛鳥～奈良・平安の土壙、落込検出、瓦多量に出土。広隆寺旧境内関連の遺構。**本文47ページ。**	UZ201	
多薮町遺跡	右・太秦堀ヶ内町16-11,15-1の一部	6/13	-0.3mまで現代盛土。	UZ126	
東衣手町遺跡・郡城跡	右・西京極東衣手町59	9/8・9・11・12・16	-0.22mで古墳の包含層（須恵器片）。-0.71m以下、にぶい黄褐色砂礫の無遺物層。	UZ252	
東衣手町遺跡	右・西京極東衣手町10	12/2・3	-0.05mで整地層、以下は固く締まったにぶい黄褐色泥砂の単一層。	UZ361	

北白川地区（KS）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
北白川廃寺	左・北白川堂ノ前町39-6	6/30,7/1・3	-0.61m以下、褐色細砂の無遺物層。	KS149	
北白川廃寺	左・北白川堂ノ前町39-10	7/29・30	+0.7m以下、古墳・飛鳥・平安の土壙、古墳の包含層。	KS189	
北白川廃寺	左・北白川山田町63-1・4・5	10/13～16	-0.14m以下、平安～室町の包含層（土師器片）。	KS292	
池田町古墳群	左・北白川上池田町50,51-2・3の一部	5/6～9・12・13	No.2；-0.5mで花崗岩、河原石を含む土壙。-0.7m以下、明黄褐色泥砂混粗砂の無遺物層。No.3；-0.5mで鎌倉の包含層。	KS062	
池田町古墳群	左・北白川下池田町88-1	12/19・22	-0.38mで室町の包含層。	KS383	
京都大学構内弥生遺跡	左・吉田本町14	9/12・16・17	巡回時、工事終了。	KS262	
京都大学北部構内遺跡	左・北白川追分町　地内	4/24,5/1～30,6/2～19,7/1	4箇所で縄文の包含層検出。-0.75mで黄砂。No.17；-0.41mで近世の包含層。No.18；-1.34mで縄文後期～弥生前期の包含層(縄文土器深鉢)。	KS046	
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・冷泉通(岡崎天王町～岡崎東天王町他)地内	4/21,5/16・19・27	No.1；-0.45mで江戸の包含層。-1.12mで暗灰黄色粗砂の無遺物層、これを切って平安後期の包含層。No.2；-0.85mで湿地堆積、-1.2m以下、灰黄色粗砂の無遺物層。	KS040	
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・岡崎法勝寺町80-1他	8/26・28	-1.1mで包含層（磨滅した土師器片、瓦）。-1.32m以下、シルトの湿地堆積。	KS224	
岡崎遺跡・成勝寺跡	左・岡崎最勝寺町他	10/15～23,11/4・5,12/9～24	-1.23mで近世の包含層。	KS297	
岡崎遺跡・延勝寺跡	左・岡崎成勝寺町　地先	12/15・16	-0.73mで近世以降の包含層。	KS373	
岡崎遺跡・白河南殿跡	左・聖護院蓮華蔵町8	5/20	-0.1mまで現代盛土。	KS081	
白河南殿跡	左・聖護院蓮華蔵町4-18	8/27	巡回時、工事終了。	KS232	
白河北殿跡	左・聖護院川原町12-8	6/17	-0.6m以下、包含層2（染付、瓦）。	KS135	
白河北殿跡	左・聖護院川原町25-1	8/18	-1.49mでオリーブ褐色微砂の無遺物層、これを切って小穴2。うち1基に中世の土師器を含む。	KS211	
岡崎遺跡・得長寿院跡	左・岡崎徳成町28	4/3	巡回時、工事終了。	KS005	
岡崎遺跡・白河街区跡	左・岡崎東天王町1　岡崎中学校	9/16・18・22	-0.55mまで現代盛土。	KS267	
岡崎遺跡・白河街区跡	左・岡崎円勝寺町140-5	9/18・19	-2.01mで平安末期～鎌倉の整地層（遺物多量）。	KS270	
白河街区跡	左・聖護院東寺領町2他	4/22～25・30,5/1・7・8・16	-1.82mで東へ下がる中世の落込。以下、流れ堆積。	KS042	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
白河街区跡	左・東大路通（近衛通～春日北通）	6/10,7/3・15・30	-0.35mまで現代盛土。	KS121	
白河街区跡	左・聖護院西町19	6/25～27	-1.4m以下、黄褐色粘土の無遺物層。	KS144	
白河街区跡	左・黒谷町～岡崎天王町	6/25	-0.35m以下、褐色砂泥粘質の無遺物層。	KS145	
白河街区跡	左・岡崎北御所町25	7/7・8・15・30・31,8/4・7	No.2；-0.6mで姶良火山灰層。No.3；-1.9mで江戸の井戸。	KS159	
白河街区跡	左・頭町360-2	9/16～19・24	-1.04mで近世の包含層。	KS268	

南・桂地区（MK）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
中久世遺跡	南・久世中久世町三丁目76-2	9/29,10/1・7・9・14	-1.5mで包含層（土師器、陶器、植物遺体）。以下、緑灰色粘土の無遺物層。	MK279	
大藪遺跡	南・久世大藪町296,297	12/15	地表＋0.09mで包含層（瓦器）。	MK356	
下津林遺跡	西・下津林番條町112,115	4/8・9	-0.65mまで現代盛土。	MK016	
妙見山古墳隣接地	西・大原野東野町3-274	11/11～14	-0.9mで落込、古墳に関連する遺構か。-1.7m以下、橙色粗砂礫の無遺物層。	MK338	
芝古墳群	西・大原野石見町　地内	7/25,8/1	巡回時、工事終了。	MK178	

洛東地区（RT）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
六波羅政庁跡	東・田中町507-3	6/23～26	-0.9mで江戸後期～末期の包含層（土師器皿、染付、銅製の釘・針金）。-1.42mで粗砂・砂礫の流れ堆積。排土より土師器、陶器、磁器、土製品泥面子など。	RT140	
六波羅政庁跡	東・轆轤町82　六原小学校	7/24・30	-2.06mで鎌倉の包含層（土師器、瓦器、白磁片、瓦、古墳後期の須恵器杯片混入）。-2.59m以下、浅黄色砂泥の無遺物層。	RT186	
法住寺跡・六波羅政庁跡	東・茶屋町522-2,525の一部	6/30,7/1	-0.28mで整地層、これを切って平安末期～鎌倉の土壙3。	RT154	
法住寺殿跡・六波羅政庁跡	東・大黒町通（五条通～七条通）地内	9/8～12/11	No.1・5・10・12・16・17；-0.4～0.6mで無遺物層、これを切って平安末期～鎌倉の落込（土師器、白磁、瓦、鉄製品、剣頭文軒平瓦2）。No.18；-0.16m以下、近世の遺物を含む流れ堆積3層をはさむ路面10。	RT253	
法住寺殿	東・下堀詰町247	10/21～24	-0.76mで中世の包含層。-0.96m以下、黄褐色粗砂礫の無遺物層。	RT302	
法性寺跡	東・福稲上高松町5-2・4,65	6/6・9	-0.48mで包含層（土師器、白磁、瓦）。	RT116	
法性寺跡	東・本町十五丁目749	9/4・5・8・9・11・16～18	-0.68mで中世の落込（遺物多量）。-1.03m以下、明黄褐色砂泥の無遺物層。	RT249	
法性寺跡	東・福稲岸ノ上町7-2	9/5	-0.8mまで現代盛土。	RT250	
安朱遺跡	山・上野御所ノ内町9-12	9/16	-0.7mまで耕作土。	RT264	
安朱遺跡	山・安朱南屋敷町他	10/13・15・20～24,11/13,12/22・24	No.1；-0.57mで整地層。-1.2m以下、灰オリーブ色砂泥、砂礫の無遺物層。No.7；-0.79mで近世以降の包含層。	RT293	
山科本願寺跡	山・西野広見町～西野大手先町　地内	4/17,6/3～5・9～11・16～19・27・30,7/1	No.1・2・5～8；-0.13m以下、路面、整地層。No.8；-0.58mで土壙（すさ入り焼土、砥石）。-0.6m以下、黒褐色砂泥・砂礫の無遺物層。	RT034	
山科本願寺跡	山・西野山階町25-5	8/4・7	-1.4mまで現代盛土。	RT199	
山科本願寺跡	山・西野山階町25-5	8/18・19	-0.7mまで現代盛土。	RT210	
山科本願寺跡	山・西野左義長町35-9	8/26～28	-0.68mで東西溝、古墳期らしい土師器。	RT228	
中臣遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎425	4/2	-0.1mまで現代盛土。	RT003	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町280	4/7・9・10・23,5/28	-0.36m以下、明褐色砂泥の無遺物層。	RT015	
中臣遺跡	山・西野山中臣町72-72の一部（1号地）	5/1	-0.25mで近世以降の包含層。-0.45m以下、黄褐色シルトの無遺物層。	RT052	
中臣遺跡	山・西野山中臣町72-72の一部（3号地）	5/1	-0.1mまで現代盛土。	RT053	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
中臣遺跡	山・西野山中臣町72-72の一部（2号地）	5/1	-0.19mで近世以降の包含層。	RT054	
中臣遺跡	山・西野山中臣町75（G）	5/12	-0.2mまで現代盛土。	RT068	
中臣遺跡	山・西野山中臣町75（H）	5/12	-0.7m以下、にぶい黄褐色の無遺物層。	RT069	
中臣遺跡	山・西野山中臣町75（I）	5/19	-0.7mまで遺構・遺物検出できず。	RT070	
中臣遺跡	山・西野山中臣町75（F）	5/12	-0.2mまで現代盛土。	RT071	
中臣遺跡	山・西野山中臣町75	5/12,8/28	-0.7m以下、にぶい黄褐色の無遺物層。	RT075	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町277-7	5/23	巡回時、工事終了。	RT085	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町277-4	5/23	巡回時、工事終了。	RT086	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町193	5/23	-0.4m以下、にぶい黄橙色粘土の無遺物層。	RT092	
中臣遺跡	山・西野山中臣町26-123	6/16	＋0.08mで中世の土壙。遺構の残存状況は良好。-0.15m明褐色泥土の無遺物層、これを切って中世の柱穴7、東西溝1。	RT129	
中臣遺跡	山・東野舞台町53-14	6/16	-0.4mまで現代盛土。	RT130	
中臣遺跡	山・勧修寺東栗栖野町29-1,30-2	8/22・25	-0.3mまで現代盛土。	RT220	
中臣遺跡	山・椥辻番所ヶ口町177-15	10/20	-0.3mまで現代盛土。	RT301	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町258-2	10/27	-0.2mまで現代盛土。	RT308	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町258-2	10/27	-0.2mまで現代盛土。	RT309	
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町	10/27	-0.2mまで現代盛土。	RT310	
中臣遺跡	山・勧修寺東栗栖野町　地先	10/28・30	-0.54m以下、黄褐色砂泥混礫の無遺物層。	RT316	
中臣遺跡	山・栗栖野華ノ木町22-1	11/18	-0.85m以下、褐色砂泥の無遺物層。	RT341	
中臣遺跡	山・勧修寺東栗栖野町4-25の一部（12号地）	12/4	巡回時、工事終了。	RT366	
中臣遺跡	山・東野舞台町95-21	12/15	巡回時、工事終了。	RT376	
中臣遺跡	山・東野舞台町95-22	12/15	巡回時、工事終了。	RT377	

鳥羽地区（TB）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
唐橋遺跡	南・吉祥院九条町49,50-1	5/20・22	-0.28mで包含層（土師器片）。	TB083	
烏丸町遺跡	南・東九条西御霊町29-2・3・8・9・16	10/27・28	-1.38mで弥生後期～古墳前期の土器を含む流路堆積。-1.69m以下、褐色泥土の無遺物層。	TB315	
上鳥羽遺跡	南・上鳥羽花名町3	12/2	-0.4mまで現代盛土。	TB362	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町112-1・6の一部	4/1,9/1	巡回時、工事終了。	TB004	
鳥羽離宮跡	伏・竹田真幡木町42,42-2・3	5/27	-0.35mまで現代盛土。	TB099	
鳥羽離宮跡	伏・中島前山町20-2	6/18	-0.4mまで現代盛土。	TB136	
鳥羽離宮跡	伏・竹田桶ノ井町　地先	6/24	-0.65mで近世の包含層。	TB143	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町112	8/21	掘削工事なし。	TB216	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町　地先	8/28	-1.11mで耕作土。	TB238	
鳥羽離宮跡	伏・竹田小屋ノ内町　地内	9/30,10/1～3・6・7	No.2；-1.17m以下、流れ堆積、湿地堆積。No.4；-1.33mで包含層（瓦）。	TB282	
鳥羽離宮跡	伏・竹田田中殿町58	10/3	-1.23mで耕作土。	TB288	
鳥羽離宮跡	伏・竹田田中殿町15	11/18	-1.4mまで現代盛土。	TB342	
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町　地先	11/25・26・27・28,12/1	-0.76m以下、近世の遺物を含む湿地状堆積。	TB353	
下鳥羽遺跡	伏・下鳥羽芹川町　地先	11/11～14・18・19	No.1；-1.25m以下、弥生・平安後期の包含層。No.2；-1.25mで奈良の包含層。	TB337	
下三栖遺跡	伏・横大路下三栖	8/20～22・25・28・29,9/1・2・9・10～12・16・22・24	古墳～奈良の東西溝・包含層、平安後期～室町前期の包含層。製塩土器、円筒埴輪、土馬など。**本文57ページ。**	TB063	

伏見・醍醐地区（FD）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
深草坊町遺跡	伏・深草東伊達町62-5・6	6/2	巡回時、工事終了。	FD107	
深草坊町遺跡	伏・深草坊町12-9,72-1・2	6/17	-0.4mまで現代盛土。	FD134	
嘉祥寺跡	伏・深草瓦町50	10/13	-0.35mまで現代盛土。	FD294	
伏見城跡	伏・桃山福島太夫南町68	4/25・30,5/1・8	-0.5m以下、明褐色粗砂の無遺物層。	FD047	

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
伏見城跡	伏・京町十丁目14-1	5/12	-0.57mで明黄褐色砂泥の無遺物層、これを切って近世の土壙（土師器、陶器）。	FD072	
伏見城跡	伏・桃山町下野26-5他	5/26	-0.13mで整地層。-0.3m以下、明黄褐色粘土の無遺物層。	FD096	
伏見城跡	伏・南浜町248-4	6/4・5・9	-0.98mで近世の包含層。	FD113	
伏見城跡	伏・桃山町丹下8	6/9～11	-1.38mで整地層。	FD118	
伏見城跡	伏・桃山町永井久太郎57	6/10・13・16	-0.5mで焼瓦・炭を含む桃山の土壙（土師器、陶器、瓦、鉄釘、焼壁土）。土壙内の南壁と底部南半分が堅く焼きしまる。	FD122	
伏見城跡	伏・豊後橋町～桃山町泰長老　地先	6/30, 7/1・7・8	夜間工事のため、調査せず。	FD151	
伏見城跡	伏・桃山最上町43	7/23・25・30・31	No.1・3；-0.96mで桃山～江戸の土壙4。No.5；-1.6mで江戸の井戸。	FD175	
伏見城跡	伏・丹後町142　伏見南浜小学校	7/22・30	-0.5mで整地層。	FD176	
伏見城跡	伏・桃山町金森出雲3-17	7/24, 8/12・18	-0.2mで江戸の井戸。	FD187	
伏見城跡	伏・京町南八丁目107-1・2	8/4	-1.81m以下、明黄褐色砂泥の無遺物層。	FD197	
伏見城跡	伏・新町四丁目451-1	8/20～22・25・28	No.1；-1.55mで近世の包含層を切って落込（土師器、陶器、染付）。-1.7m以下、にぶい黄橙色砂礫の無遺物層。No.2；-0.82m以下、整地層8（陶器、染付、瓦）。-1.39m以下、明褐色砂礫の無遺物層。	FD213	
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町　地先	8/28, 9/1～3・8・9・11・18	-0.4m以下、灰オリーブ色砂泥粘質の無遺物層。	FD239	
伏見城跡	伏・紙子屋町541	9/1・2	-0.43m以下、黄褐色粘土の無遺物層。	FD242	
伏見城跡	伏・瀬戸物町709-7, 710	9/24～26・29	-0.33mで近世の包含層。-0.5m以下、にぶい黄褐色泥土の無遺物層。	FD277	
伏見城跡	伏・桃山町泰長老24-7	10/1・2	-0.7mで細砂の流れ堆積。-1.05m以下、砂泥・粗砂礫の無遺物層。	FD284	
伏見城跡	伏・京町大黒町122-1	10/1～3・6・7	地表面以下、整地層6。	FD285	
伏見城跡	伏・観音寺町221-1	11/18～21	-0.28m以下、中世・近世以降の包含層。-0.46m以下、褐色粘土の無遺物層。	FD343	
伏見城跡	伏・豊後橋	11/21	-0.3mまで現代盛土。	FD347	
伏見城跡	伏・丹後町148-4他，新町二丁目490-1他	12/15～17	-0.62mで近世の包含層。	FD374	
向島城跡	伏・向島ニノ丸町3	4/3・4・7～10	-0.84m以下、流れ堆積、湿地堆積。	FD006	

長岡京地区（NG）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
長岡京跡	伏・久我西出町12-18他3筆	4/3・7・10・14, 5/28	-1.95m以下、青灰色粘土の無遺物層。	NG007	
長岡京跡	伏・羽束師菱川町592-1	4/3・4・9・10・14～18・21～23, 5/1	-1.2mまで耕作土。以下、湿地状堆積。耕作土から須恵器片。	NG008	
長岡京跡・芝古墳群	西・大原野石見町　地内	4/14～18・21・22・24, 5/12・13・16・19・21・23・27～30, 6/2・12・18・19	No.12；-0.87m以下、古墳～平安・平安～鎌倉の包含層2。No.18；-0.4mで褐色砂泥の無遺物層、これを切って土壙。No.19；-0.2mで褐色砂泥の無遺物層、これを切って古墳の遺物を含む東への落込検出、消滅古墳の周溝か。	NG025	
長岡京跡	伏・羽束師菱川町511-1, 512-1・2・9	4/14～18・21, 5/12・16・28・30	-1.3mで包含層（須恵器）。以下、自然流路。	NG027	
長岡京跡	西・大原野上里鳥見町8-11	4/15	-0.4mまで現代盛土。	NG029	
長岡京跡	西・大原野上里勝山町10-8	4/8	-0.28mまで現代盛土。	NG035	
長岡京跡・羽束師遺跡	伏・羽束師菱川町　地内	5/12・13・16	-1.22m以下、湿地状堆積。	NG074	
長岡京跡	伏・納所薬師堂27-307他　納所児童公園	5/30, 6/2	-2.5mまで現代盛土。	NG105	
長岡京跡	伏・久我本町11-8・9	6/13	-1mまで現代盛土。	NG127	
長岡京跡	伏・久我西出町　地先	6/27, 7/1・4, 8/1	-1.2mまで遺構・遺物検出できず。	NG147	
長岡京跡	伏・久我西出町2-29	8/26・27, 9/1～4	-2.1m以下、湿地堆積。	NG226	
長岡京跡	伏・久我本町5-52, 5-7の一部	9/2	-0.16mで近世の整地層。	NG246	
長岡京跡	伏・久我石原町　地先	11/5	-1.42mで落込。	NG327	
長岡京跡	伏・久我森ノ宮町15-16・21	11/10・11	-0.72m以下、黄褐色砂泥層、無遺物層か。	NG336	

遺　跡　名	所　　在　　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
長　岡　京　跡	伏・久我西出町～羽束師菱川町　地先	11/28, 12/1・10	-1.4mまで現代盛土。	NG355	
久 我 殿 遺 跡	伏・久我本町5-12	9/10	-0.5mまで現代盛土。	NG258	

Ⅲ　1995年度

遺　跡　名	所　　在　　地	調査日	調　査　概　要	調査No.	図版
平安京右京三条一坊　五町	中・西ノ京星池町、西ノ京栂尾町　地先	'96/1/24, 2/22・23, '97/2/24	No.1；-0.7m以下、淡黄灰色砂礫の無遺物層。No.2；-1.2mで黒灰色砂泥の池状堆積。No.3；-1.1m以下、淡青灰色砂泥の無遺物層。No.4；-1.4mまで現代盛土。	95HR398	
円乗寺跡隣接地	右・御室竪町15他	'95/5/16, 6/1・3, '97/4/9	-0.1mで近世以降の包含層。-0.5m以下、黄褐色砂泥の無遺物層。	95UZ070	

報告書抄録

ふ り が な	きょうとしないいせきたちあいちょうさがいほう
書　　名	京都市内遺跡立会調査概報　平成９年度
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シ リ ー ズ 番 号	
編 著 者 名	高橋　潔、竜子正彦、本　弥八郎、尾藤徳行、近藤章子、長戸満男、吉本健吾、小桧山一良、長宗繁一
編 集 機 関	(財)京都市埋蔵文化財研究所
所　在　地	〒602-8435　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　TEL075-415-0521
発 行 機 関	京都市文化市民局
所　在　地	〒604-0925　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　TEL075-222-3108
発 行 年 月 日	西暦1998年３月31日

所収遺跡名	所　在　地	コード		北　緯	東　緯	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京跡 左京三条三坊七町	京都府京都市中京区衣棚通押小路下る下妙覚寺町	26100		35度０分29秒	135度45分36秒	1997.２.12～３.４		マンション
平安京跡 左京四条三坊八町	京都府京都市中京区室町通三条下る烏帽子屋町	26100		34度59分44秒	135度45分37秒	1996.12.６～1997.１.８		マンション
平安京跡 左京六条三坊 六条大路	京都府京都市下京区六条通不明門東入仏具屋町	26100		34度59分26秒	135度45分48秒	1997.３.３		マンション
平安京跡 右京一条二坊 近衛大路	京都府京都市中京区・上京区妙心寺道、西大路通～御前通	26100		35度１分４秒	135度44分13秒	1997.９.２～10.23		水道管入替

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京跡 左京三条三坊七町	都城	江戸初頭	池・溝・土壙	陶磁器類・鋳造関連具	
平安京跡 左京四条三坊八町	都城	江戸前期	落込	土器類・土製品・鉄製品・漆器	
平安京跡 左京六条三坊 六条大路	都城	平安前期・中世	土壙・路面	土器類・瓦	
平安京跡 右京一条二坊 近衛大路	都城	平安前期～鎌倉	路面	土器類・瓦	

ふ り が な	きょうとしないいせきたちあいちょうさがいほう
書　　名	京都市内遺跡立会調査概報　平成９年度
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	高橋　潔、竜子正彦、本　弥八郎、尾藤徳行、近藤章子、長戸満男、吉本健吾、小桧山一良、長宗繁一
編 集 機 関	(財)京都市埋蔵文化財研究所
所　在　地	〒602-8435　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　TEL075-415-0521
発 行 機 関	京都市文化市民局
所　在　地	〒604-0925　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　TEL075-222-3108
発 行 年 月 日	西暦1998年３月31日

所収遺跡名	所　在　地	コード		北　緯	東　緯	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京跡 右京一条四坊二町	京都府京都市右京区 花園木辻北町	26100		35度１分４秒	135度45分32秒	1997.５.26～ ７.30		校舎
平安京跡 右京四条二坊 淳和院	京都府京都市右京区 西院東淳和院町	26100		35度０分５秒	135度43分53秒	1997.２.21～ 26		駐車場
平安京跡 右京五条三坊四町	京都府京都市右京区 西院西矢掛町	26100		34度59分45秒	135度43分53秒	1997.10.27～ 31		事務所
平安京跡 右京六条二坊 十二・十三町	京都府京都市右京区 西院中水町	26100		34度59分27秒	135度44分４秒	1997.４.10～ 21		工場・事務所

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京跡 右京一条四坊二町	都城	鎌倉～江戸	溝・土壙・柱穴	土器類・瓦・鉄製品	
平安京跡 右京四条二坊 淳和院	都城・邸宅	平安	築地・溝	土器類・瓦	
平安京跡 右京五条三坊四町	都城	平安前期	溝	土器類・瓦	
平安京跡 右京六条二坊 十二・十三町	都城	平安前期	溝・路面	土器類・瓦	

ふ り が な	きょうとしないいせきたちあいちょうさがいほう
書　　名	京都市内遺跡立会調査概報　平成９年度
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	髙橋　潔、竜子正彦、本　弥八郎、尾藤徳行、近藤章子、長戸満男、吉本健吾、小桧山一良、長宗繁一
編 集 機 関	㈶京都市埋蔵文化財研究所
所　在　地	〒602-8435　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　TEL075-415-0521
発 行 機 関	京都市文化市民局
所　在　地	〒604-0925　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　TEL075-222-3108
発 行 年 月 日	西暦1998年３月31日

所収遺跡名	所　在　地	コード		北　緯	東　緯	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
植物園北遺跡	京都府京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町	26100		35度２分54秒	135度46分９秒	1997.８.４～13		マンション
北野遺跡 北野廃寺	京都府京都市北区北野上白梅町	26100		35度１分30秒	135度43分57秒	1997.４.11～21		住宅
北野遺跡 北野廃寺	京都府京都市北区北野上白梅町	26100		35度１分24秒	135度43分57秒	1997.４.11～21		住宅
梅ヶ畑祭祀遺跡	京都府京都市右京区梅ヶ畑向ノ地町	26100		35度１分49秒	135度41分55秒	1997.４.１～		高区配水池

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
植物園北遺跡	集落	飛鳥～江戸	竪穴状遺構・溝・落込	土器類・鉄製品	
北野遺跡 北野廃寺	集落・寺院	平安	建物基壇	土器類	
北野遺跡 北野廃寺	集落・寺院	平安～室町	路面・溝・土壙	土器類・瓦	
梅ヶ畑祭祀遺跡	祭祀	奈良～平安前期	祭壇状遺構・柱穴・遺物包含層	土器類・瓦・銭貨・線刻石製品	

ふりがな	きょうとしないいせきたちあいちょうさがいほう
書名	京都市内遺跡立会調査概報　平成９年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	髙橋　潔、竜子正彦、本　弥八郎、尾藤徳行、近藤章子、長戸満男、吉本健吾、小桧山一良、長宗繁一
編集機関	㈶京都市埋蔵文化財研究所
所在地	〒602-8435　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　TEL075-415-0521
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-0925　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　TEL075-222-3108
発行年月日	西暦1998年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
広隆寺旧境内	京都府京都市右京区太秦桂木町	26100		35度０分37秒	135度42分32秒	1997.８.４～12		マンション
南春日町遺跡	京都府京都市西京区大原野南春日町、灰方町	26100		34度57分３秒	135度40分19秒	1996.10.25～1997.１.20		ほ場整備
法住寺殿跡 六波羅政庁跡	京都府京都市東山区塗師屋町	26100		34度59分14秒	135度46分22秒	1997.３.14～19		住宅
下三栖遺跡	京都府京都市伏見区横大路下三栖	26100		34度55分27秒	135度45分11秒	1997.８.20～９.24		共同溝

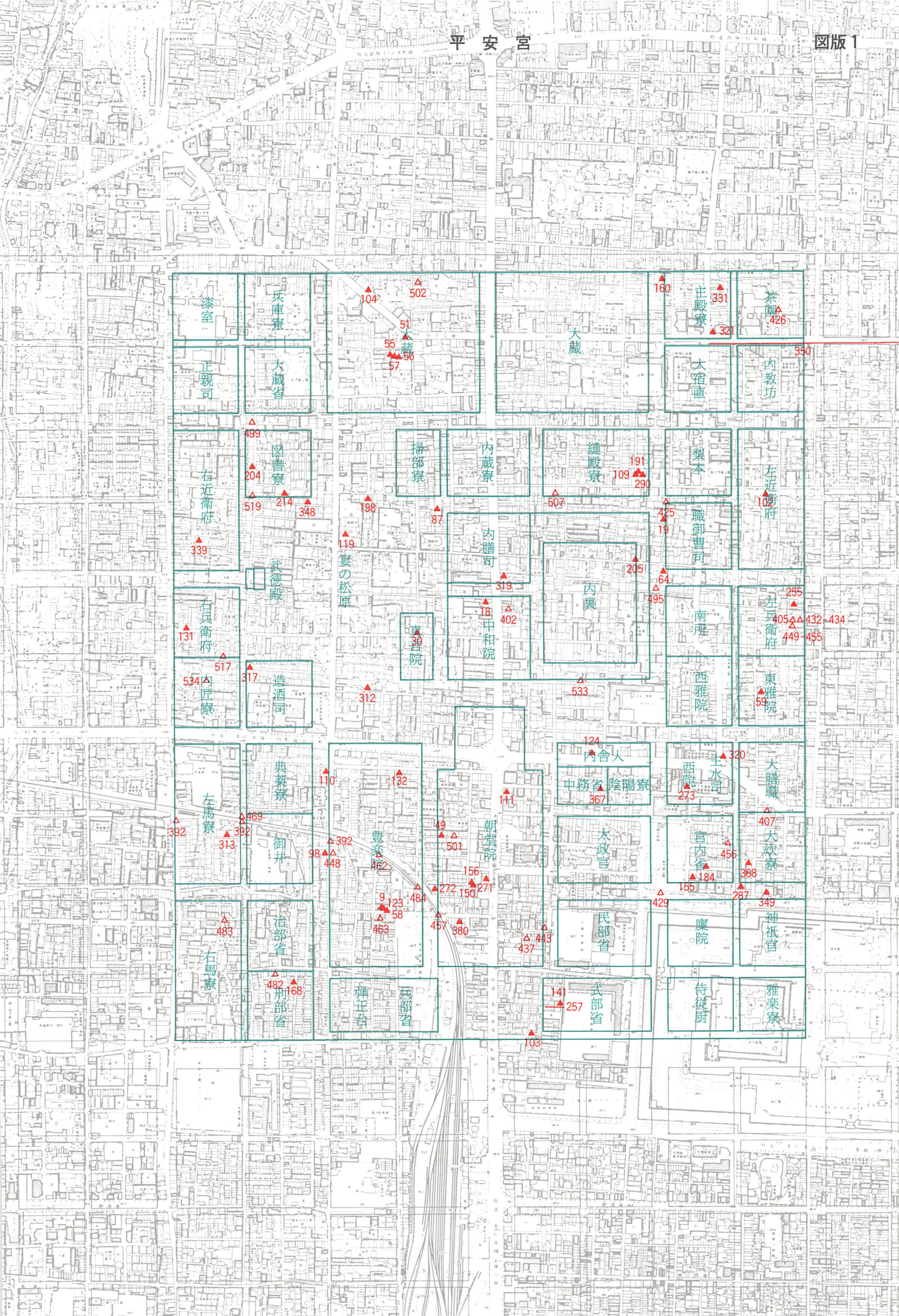
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
広隆寺旧境内	寺院	飛鳥～平安	土壙・遺物包含層	土器類・瓦	
南春日町遺跡	集落	奈良～鎌倉	掘立柱建物・溝・柵列	土器類・瓦	
法住寺殿跡 六波羅政庁跡	邸宅・都城	平安～鎌倉	溝	土器類	
下三栖遺跡	集落	弥生～平安	溝・遺物包含層	土器類・埴輪	

図　　版

凡　例

△---------1996年度立会調査地点　▲———1997年度立会調査地点

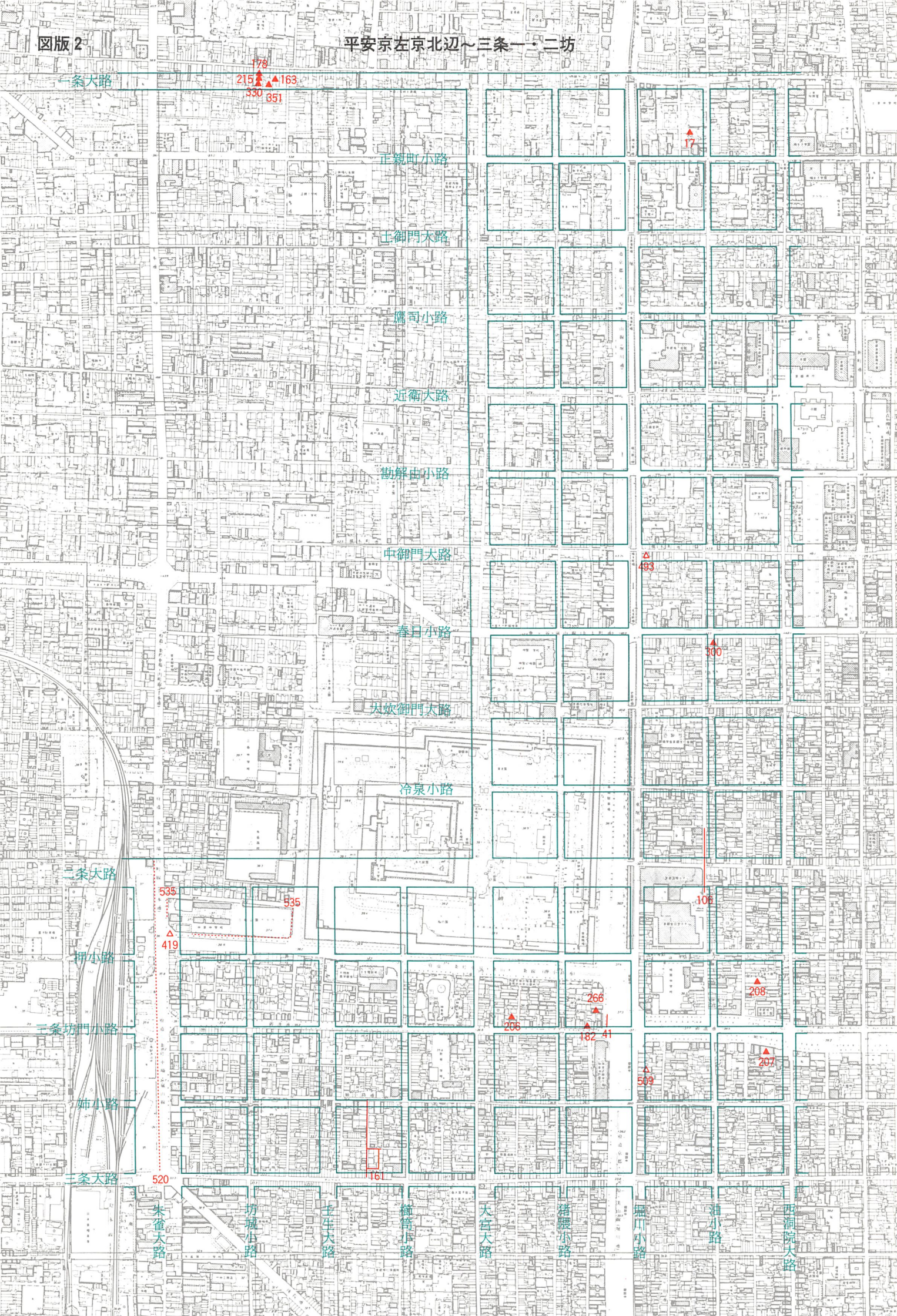
平安宮　図版1



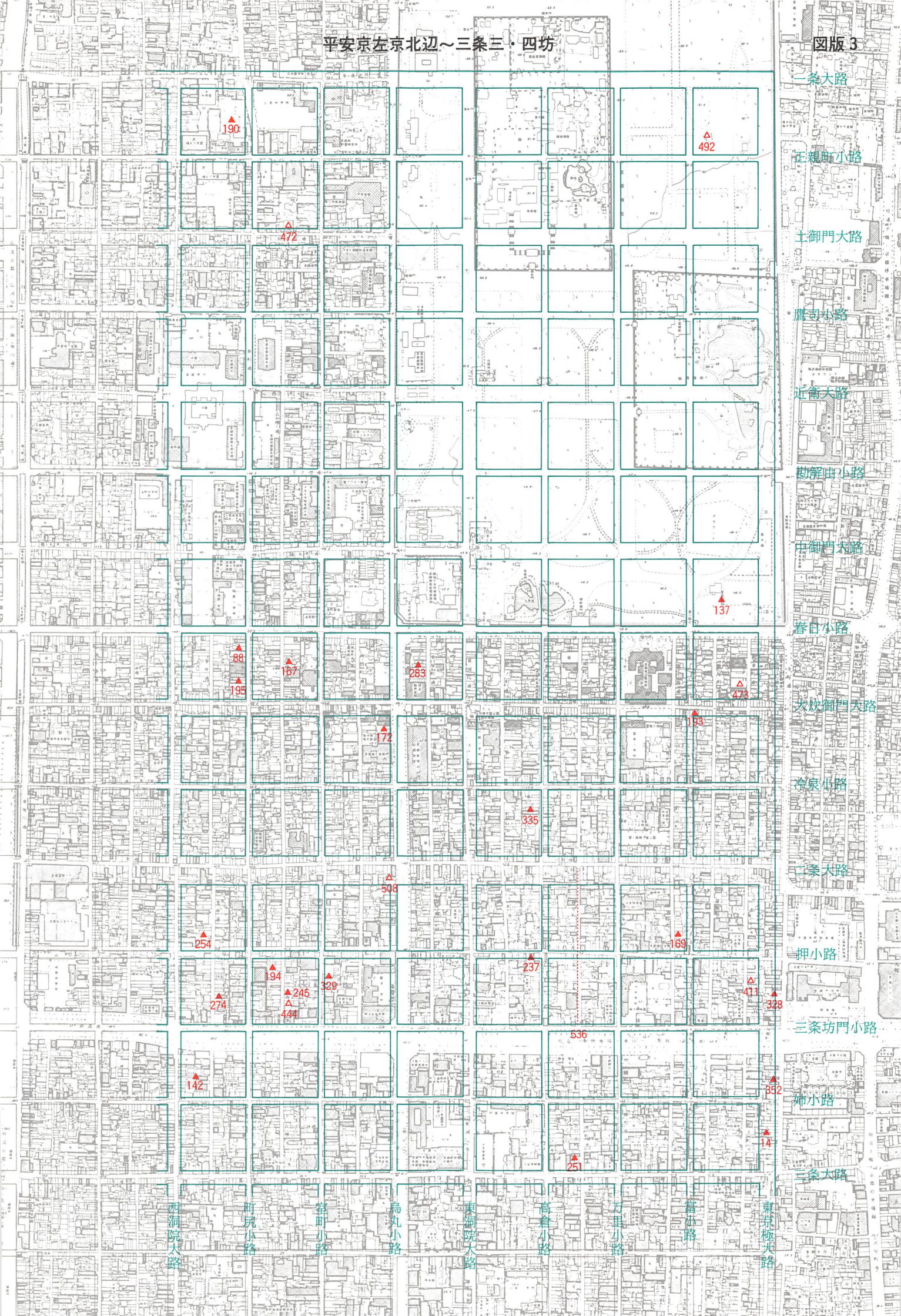
漆室
兵庫寮
正親司
大蔵省
大蔵
主殿寮
茶園
大宿直
内教坊
図書寮
掃部寮
内蔵寮
縫殿寮
梨本
左近衛府
右近衛府
内膳司
職御曹司
武徳殿
宴の松原
内裏
右兵衛府
中和院
南所
左兵衛府
内匠寮
造酒司
西雅院
東雅院
内舎人
中務省
陰陽寮
西院
主水司
大膳職
典薬寮
左馬寮
御井
豊楽院
朝堂院
大政官
宮内省
大炊寮
治部省
右馬寮
民部省
廩院
神祇官
刑部省
弾正台
兵部省
式部省
侍従厨
雅楽寮

図版 2

平安京左京北辺～三条一・二坊

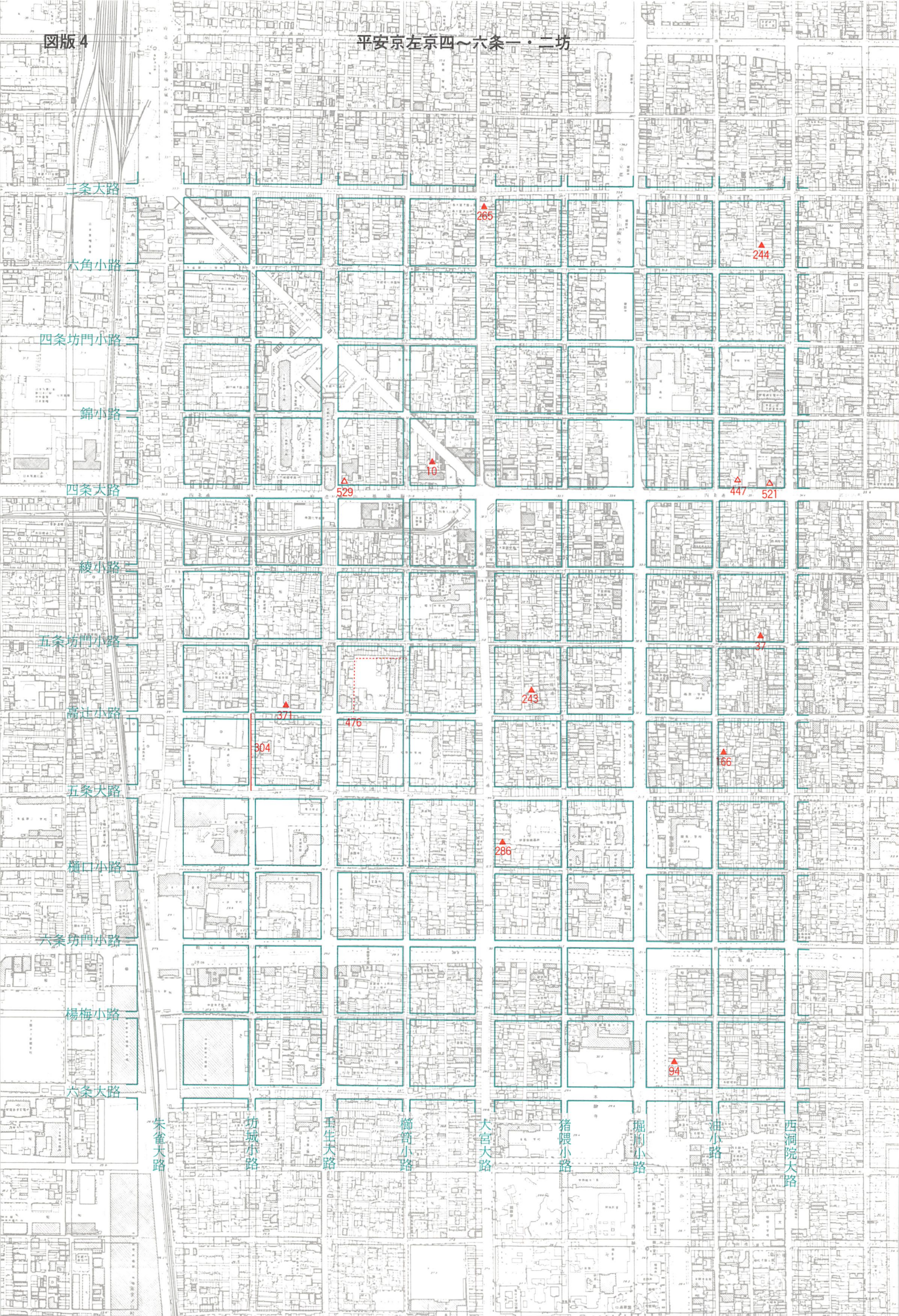


平安京左京北辺～三条三・四坊



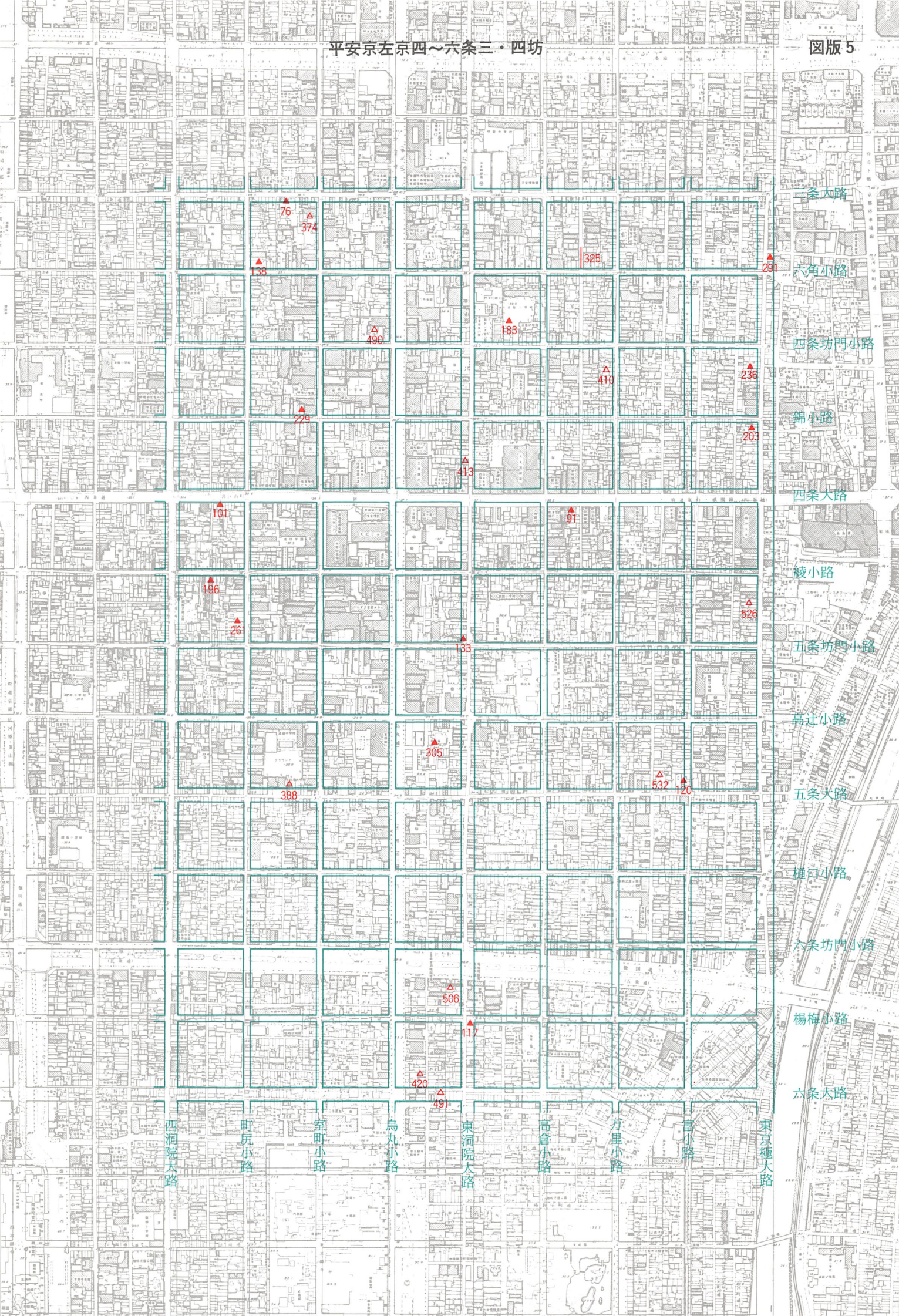
図版 4

平安京左京四～六条一・二坊



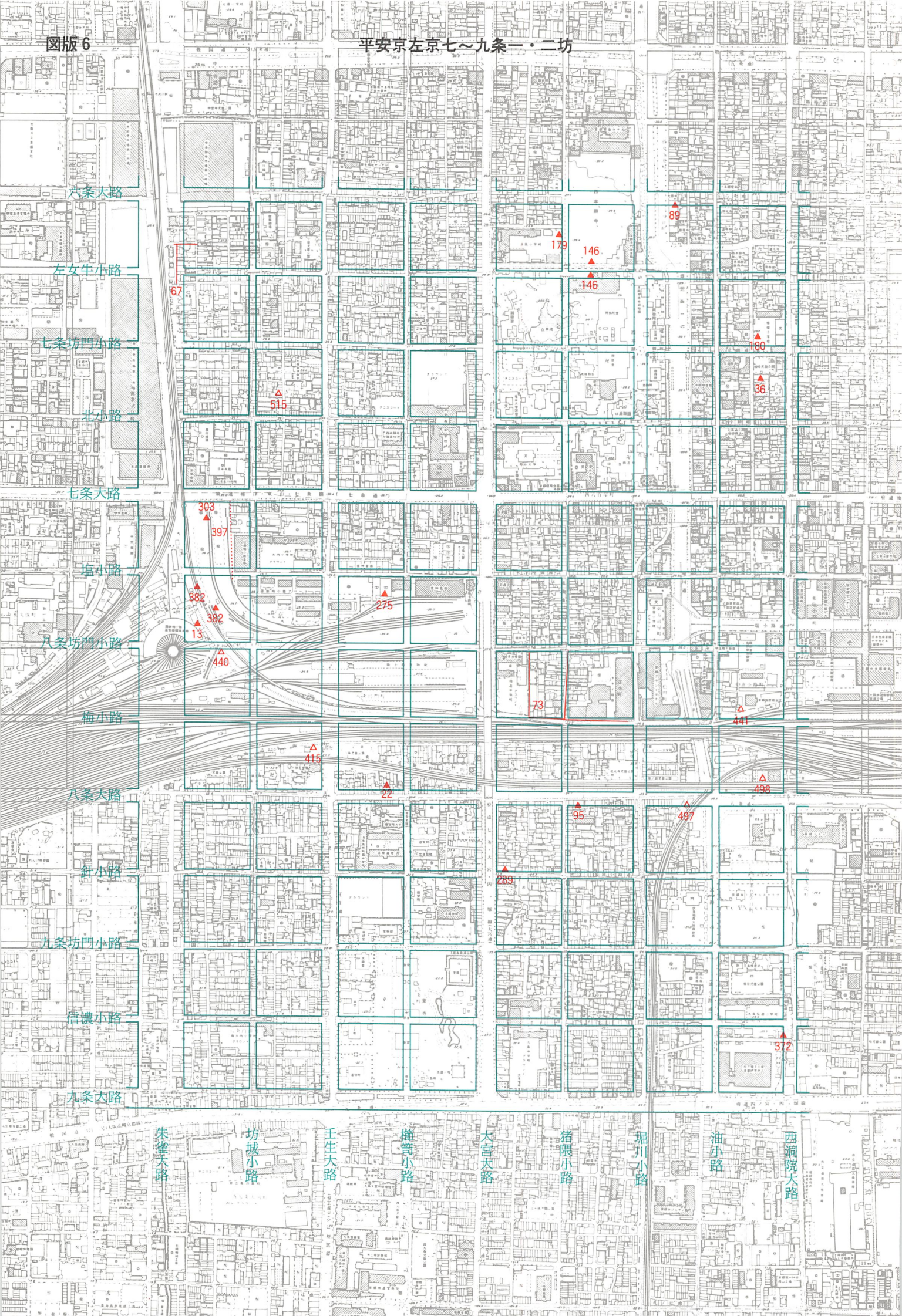
平安京左京四～六条三・四坊

図版 5



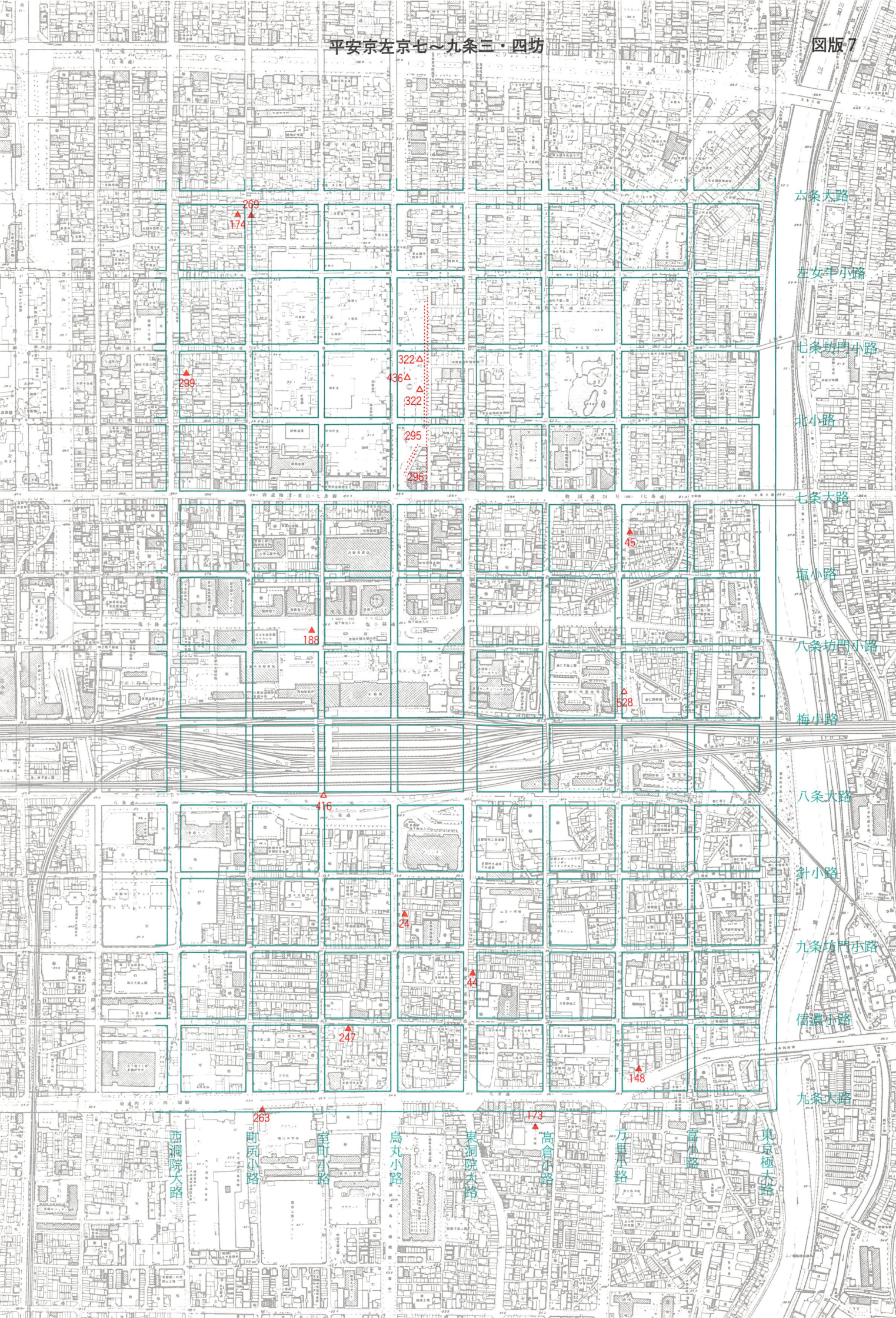
図版 6

平安京左京七～九条一・二坊



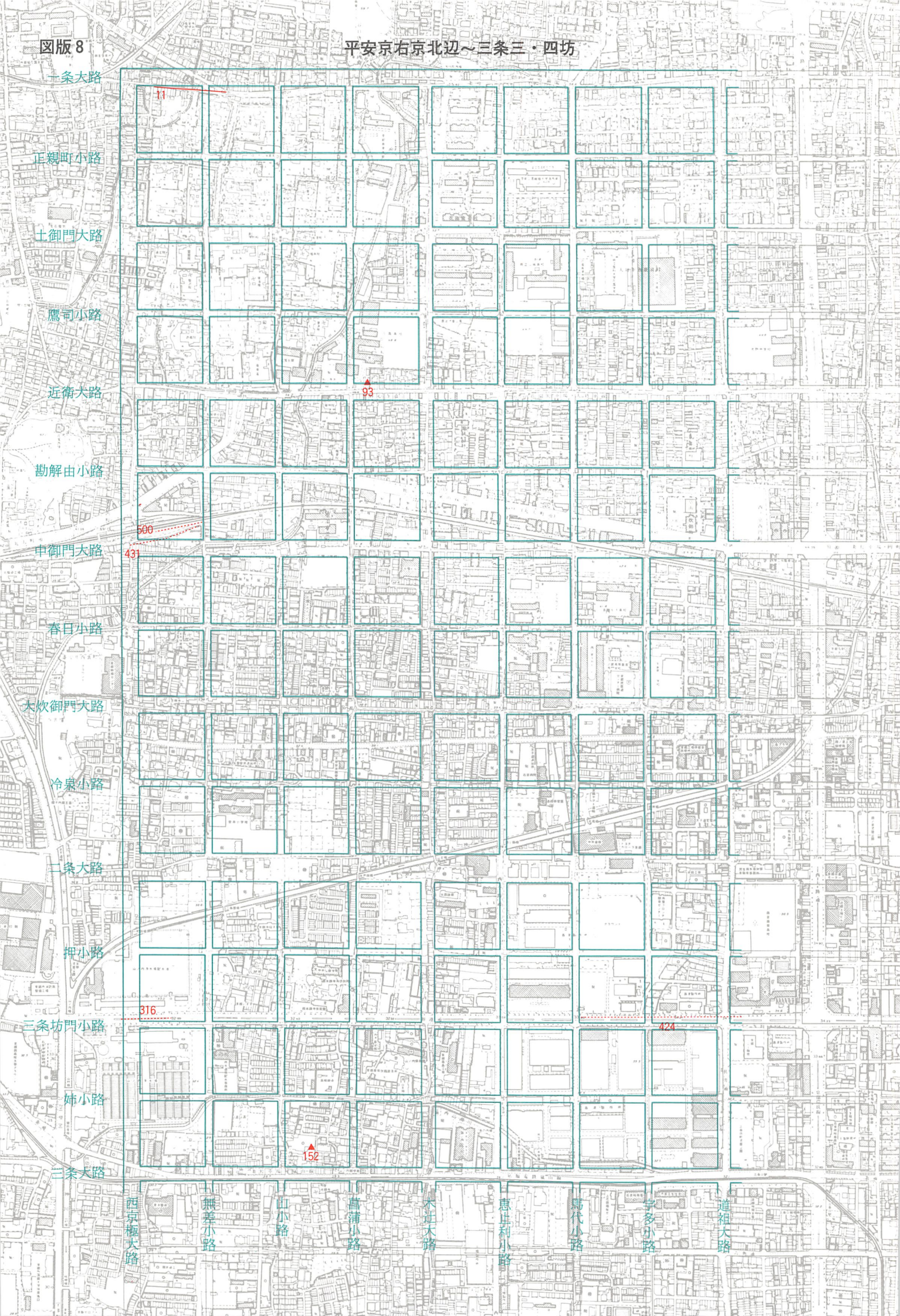
平安京左京七～九条三・四坊

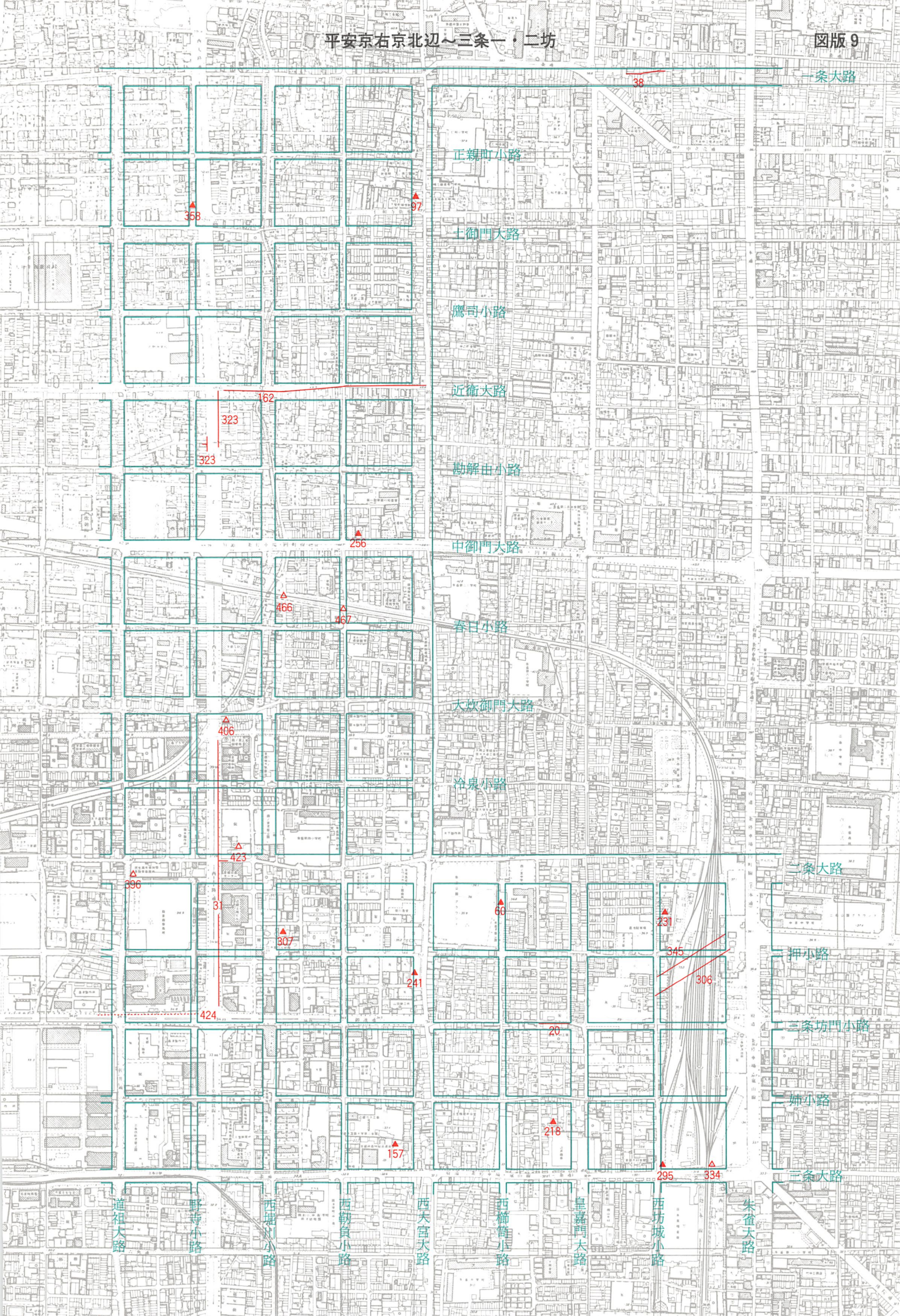
図版７



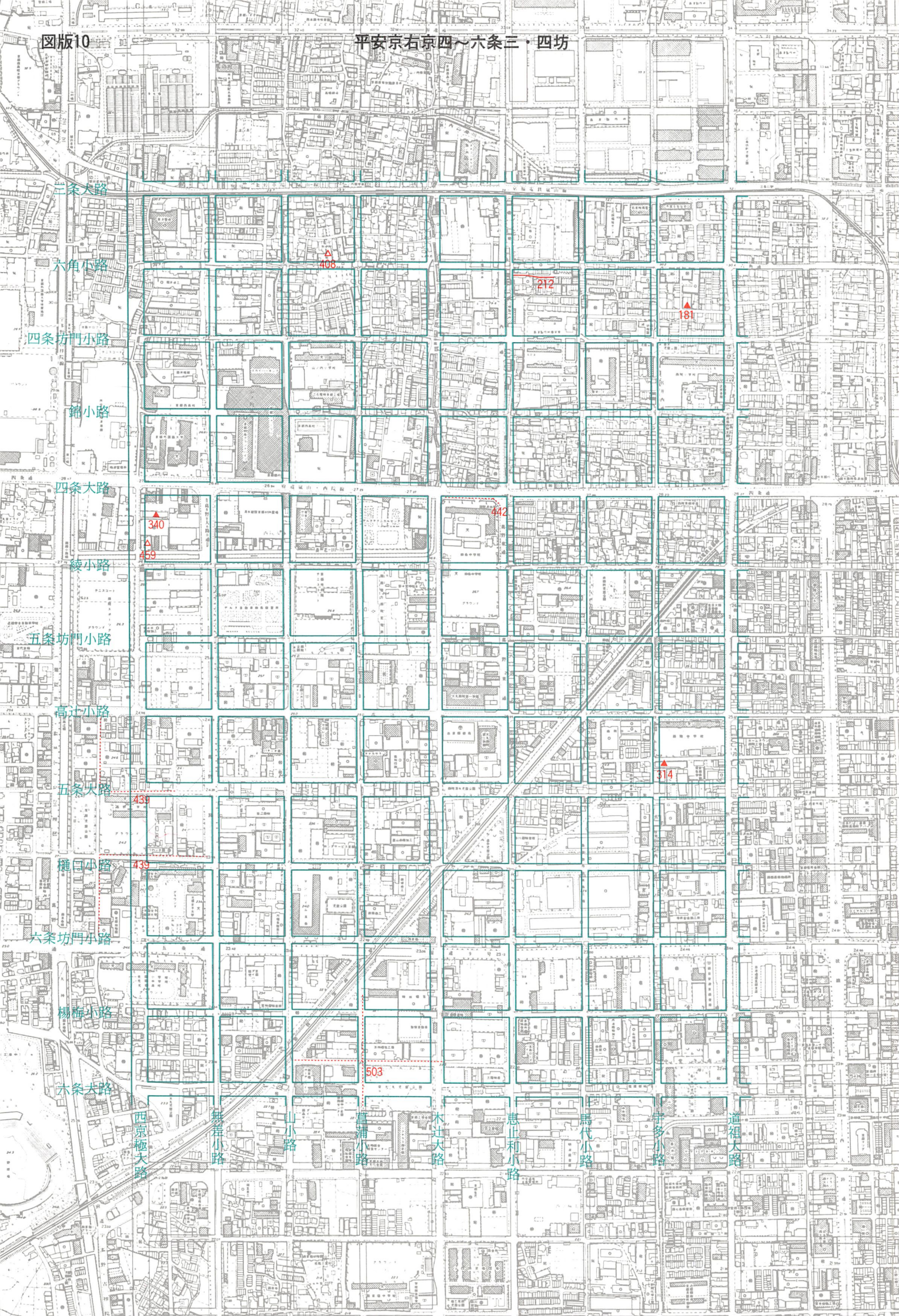
図版８

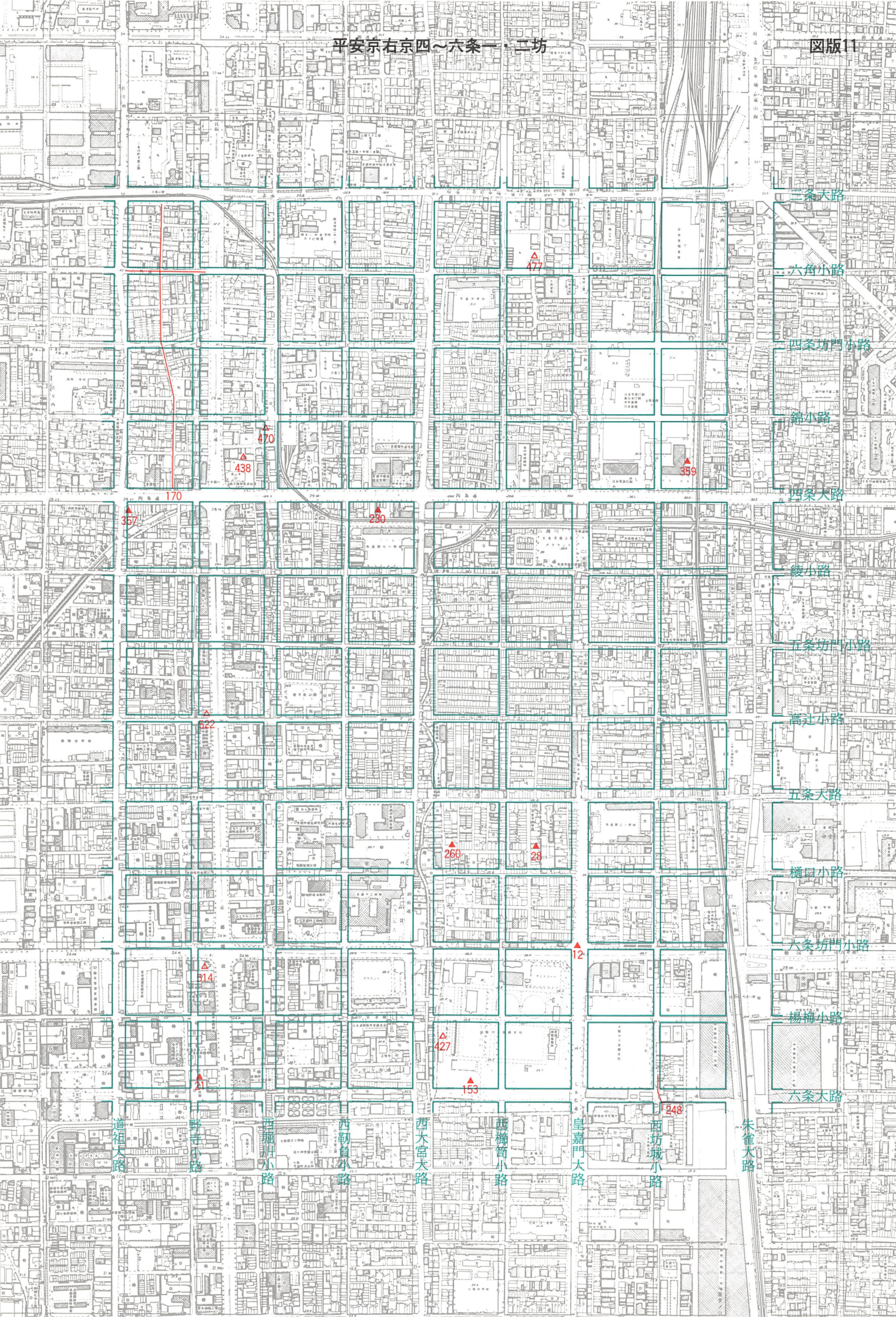
平安京右京北辺～三条三・四坊




一条大路
38
正親町小路
358
97
土御門大路
鷹司小路
162
323
323
近衛大路
勘解由小路
256
中御門大路
466
467
春日小路
大炊御門大路
406
冷泉小路
423
二条大路
396
31
60
231
307
345
押小路
241
306
424
三条坊門小路
20
姉小路
218
157
295
334
三条大路
道祖大路
野寺小路
西堀川小路
西朝負小路
西大宮大路
西櫛笥小路
皇嘉門大路
西坊城小路
朱雀大路

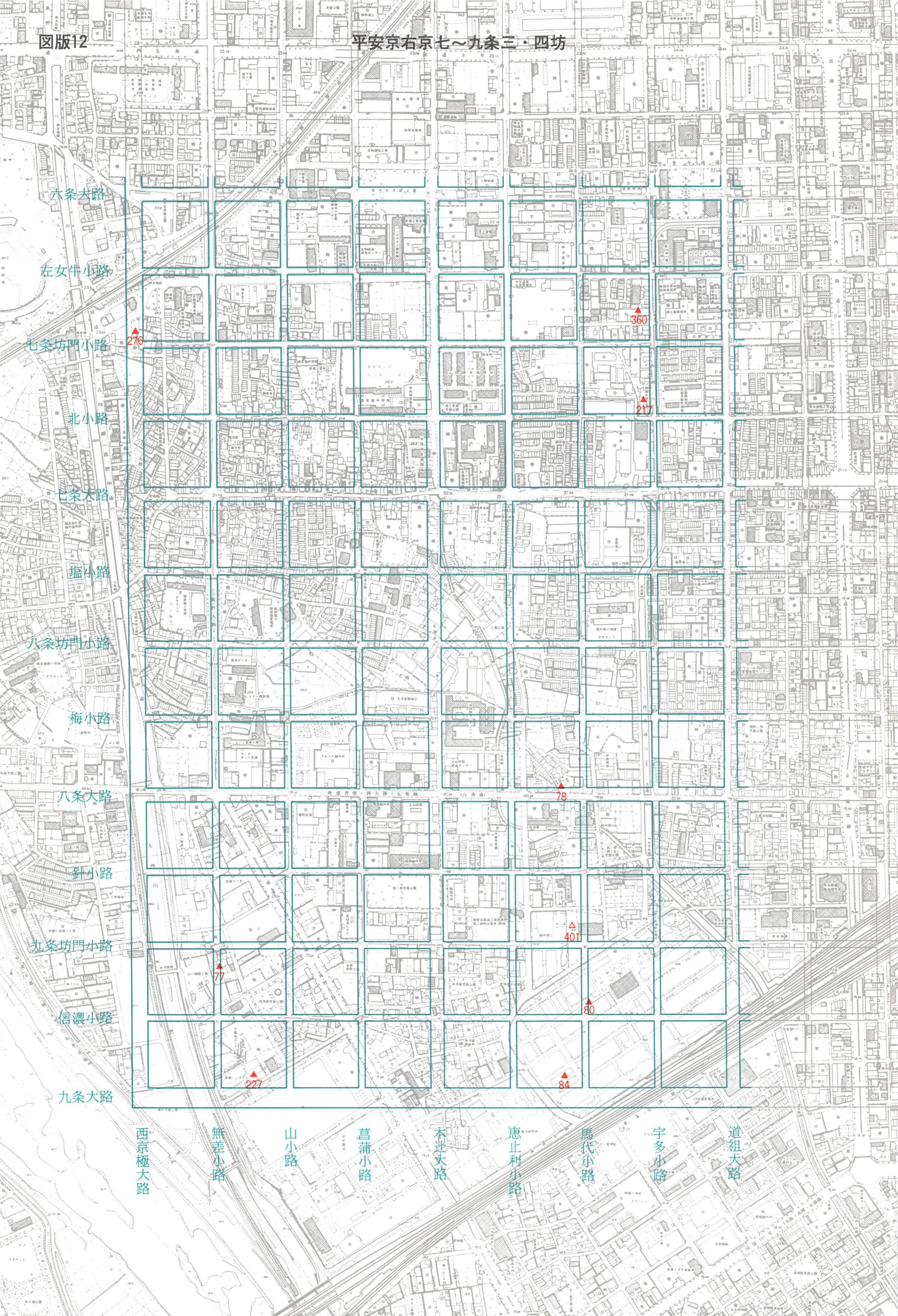
図版10　平安京右京四～六条三・四坊

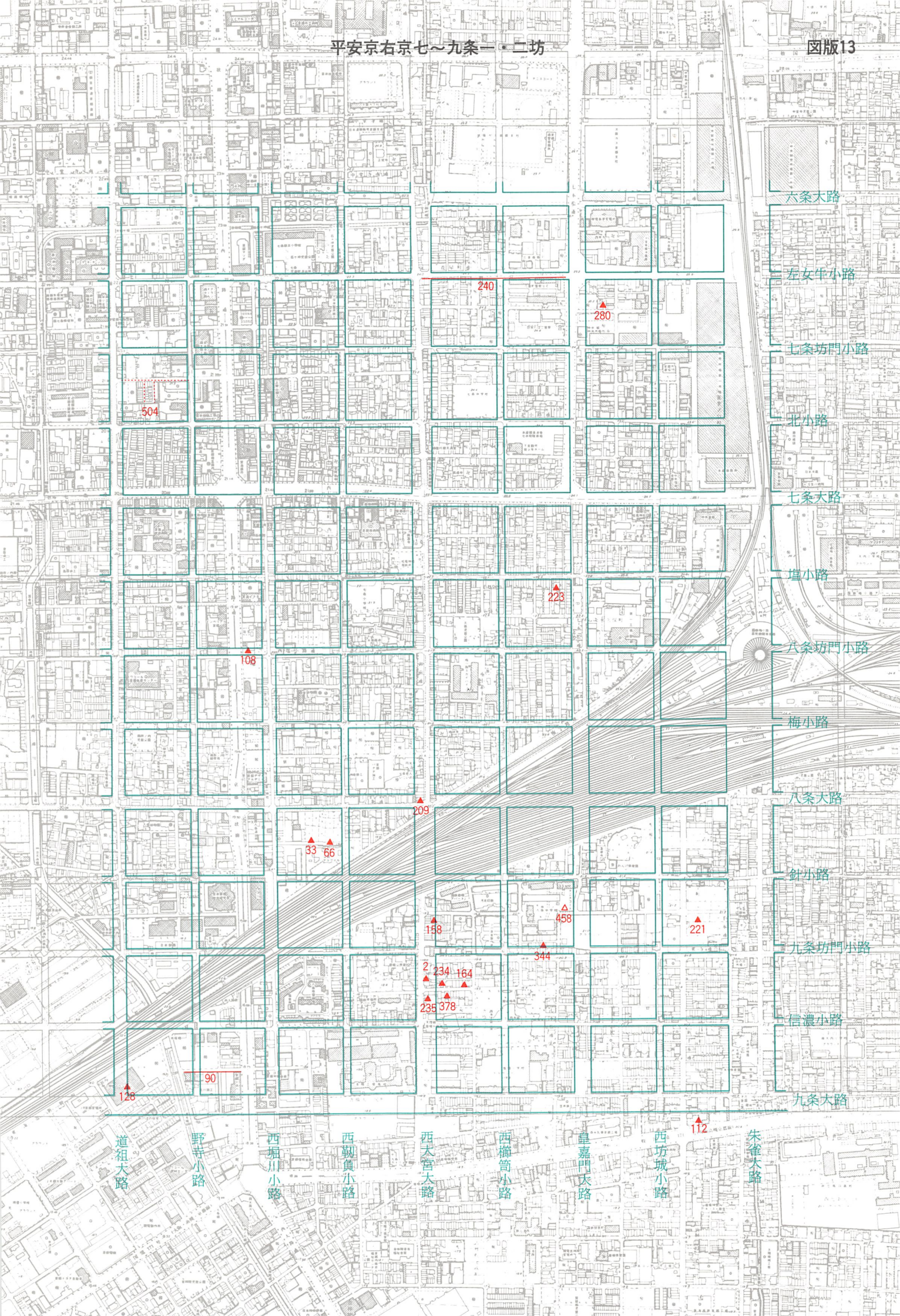



三条大路
六角小路
四条坊門小路
錦小路
四条大路
綾小路
五条坊門小路
高辻小路
五条大路
樋口小路
六条坊門小路
楊梅小路
六条大路
477
470
438
359
170
357
230
522
260
28
12
514
427
153
21
248
道祖大路
野寺小路
西洞院小路
西靭負小路
西大宮大路
西櫛笥小路
皇嘉門大路
西坊城小路
朱雀大路

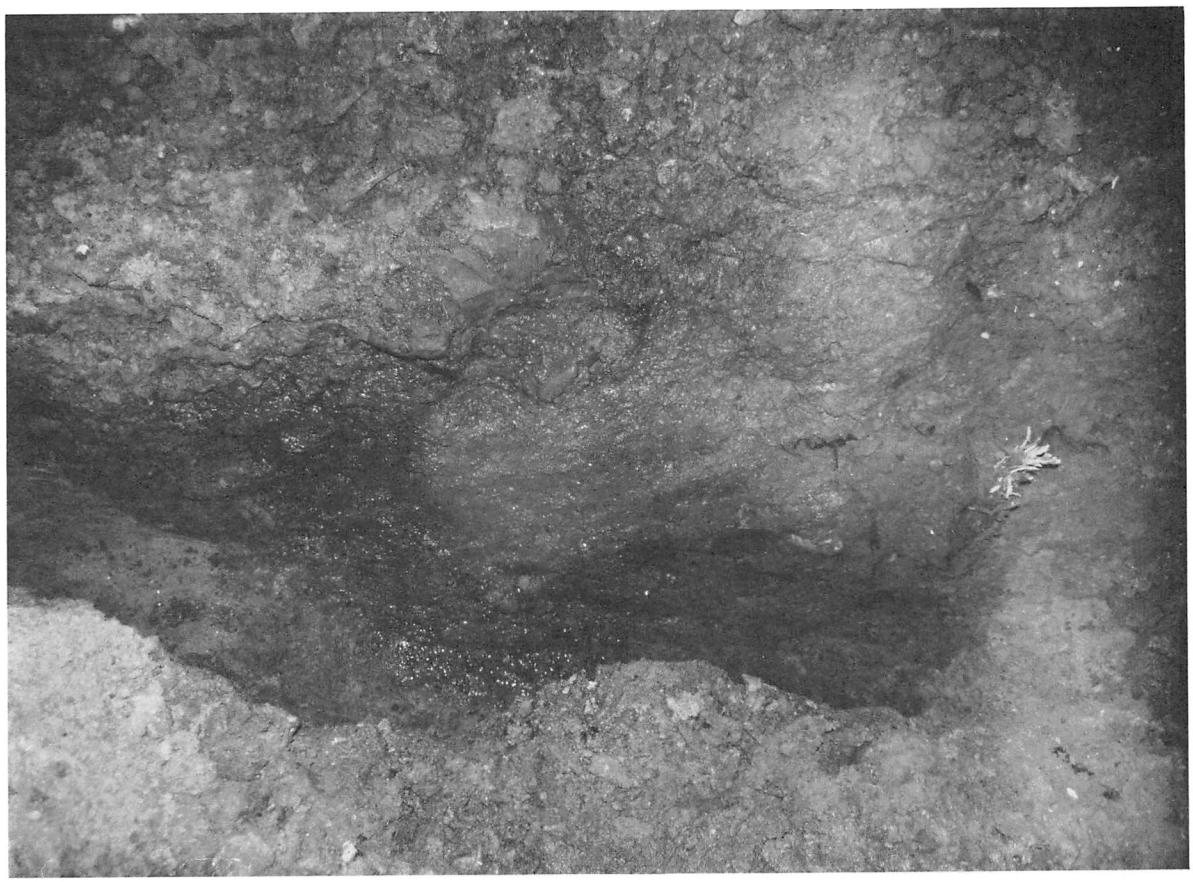
図版12

平安京右京七～九条三・四坊

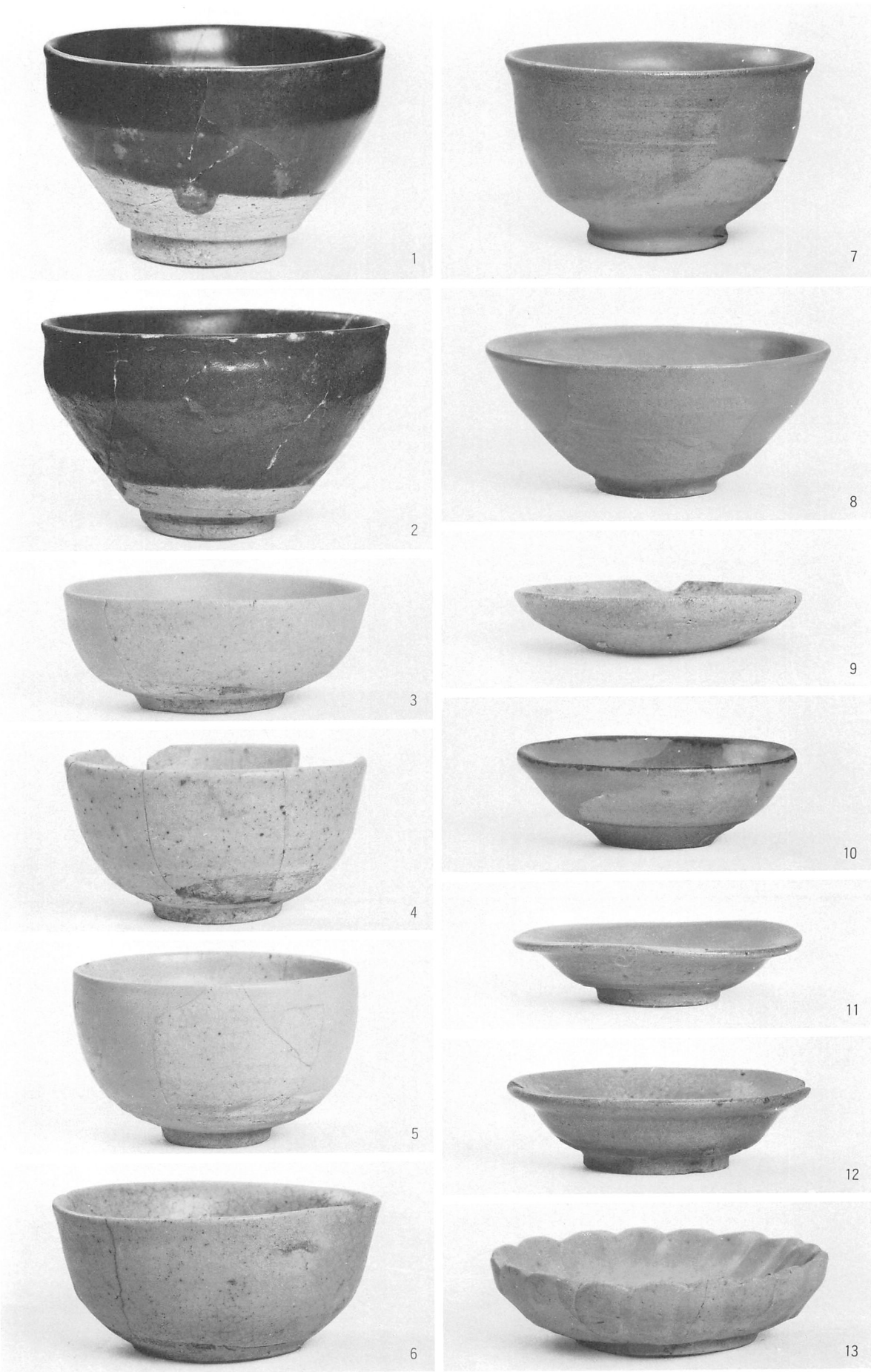



六条大路
左女牛小路
七条坊門小路
北小路
七条大路
塩小路
八条坊門小路
梅小路
八条大路
針小路
九条坊門小路
信濃小路
九条大路
240
280
504
223
108
209
33
66
158
458
221
344
2
234
164
235
378
90
128
112
道祖大路
野寺小路
西堀川小路
西靭負小路
西大宮大路
西櫛笥小路
皇嘉門大路
西坊城小路
朱雀大路

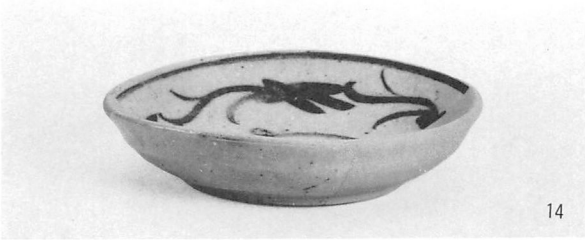
1　No. 2 地点　土壙遺物出土状況（北から）



2　No. 4 地点　南北溝断面（南から）



No. 2 地点　土壙出土遺物


14

15

16

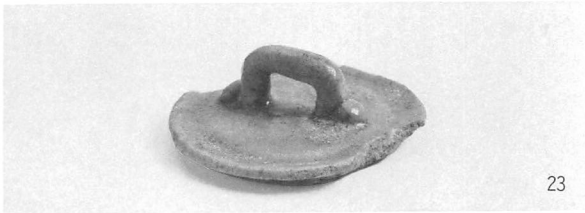
17

18

20

21

22


23

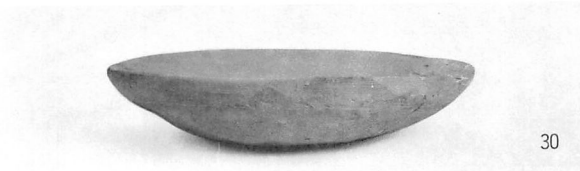
24

25

26

No. 2 地点　土壙出土遺物

27


30

32

33

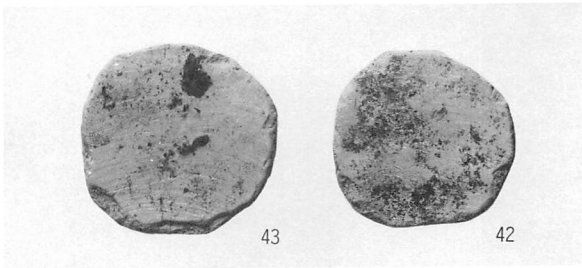
34

37

38

40

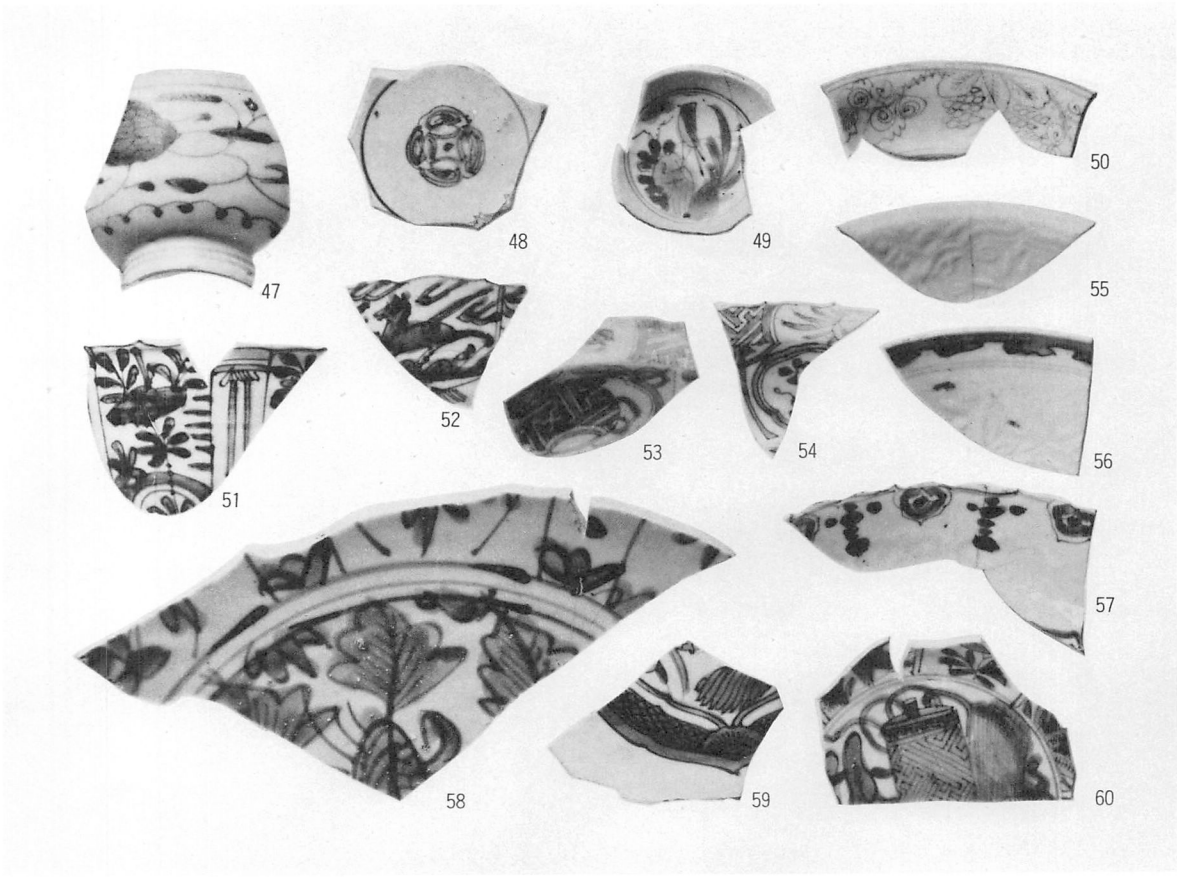
41


43 42

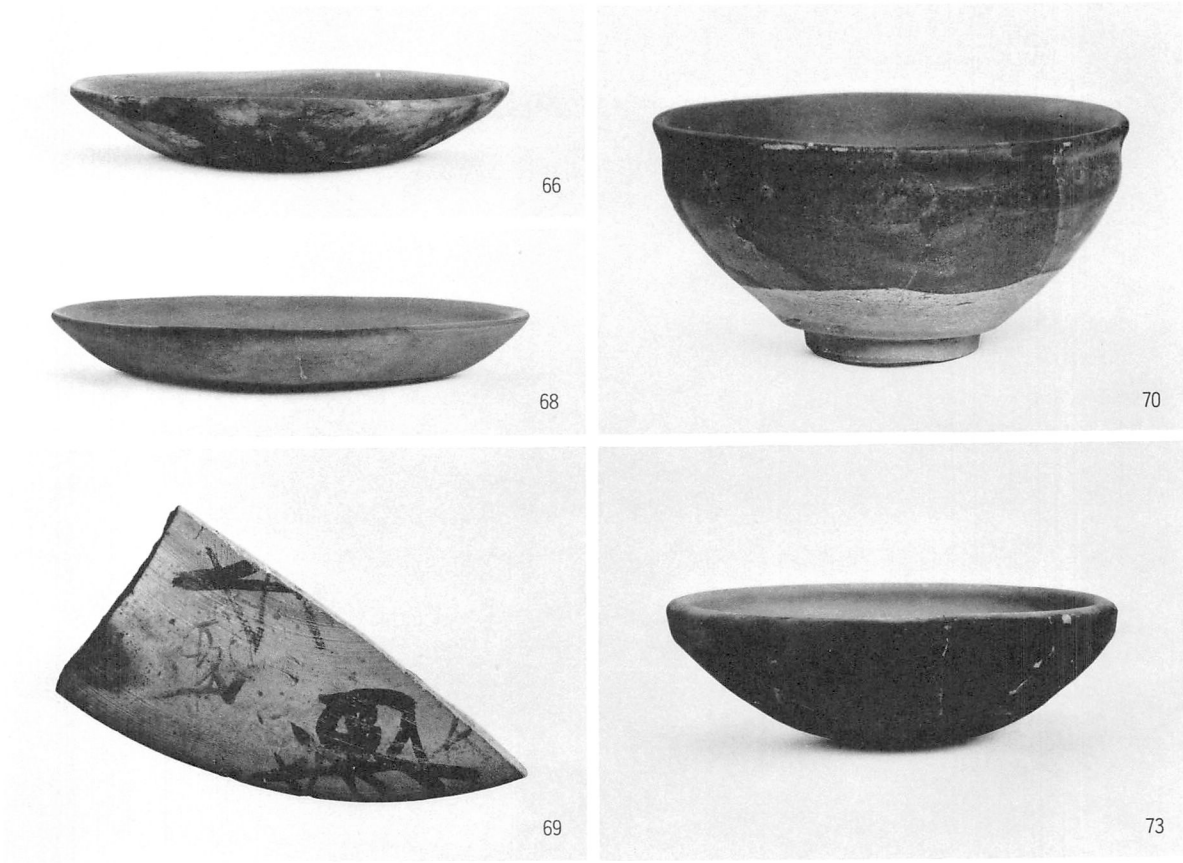
45

46

No.2 地点　土壙出土遺物



1　No. 2 地点　土壙出土遺物

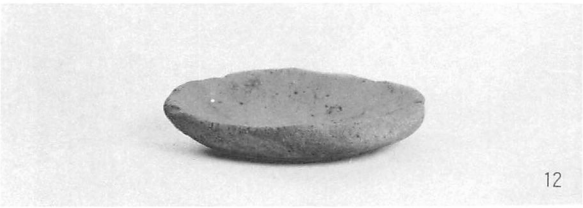


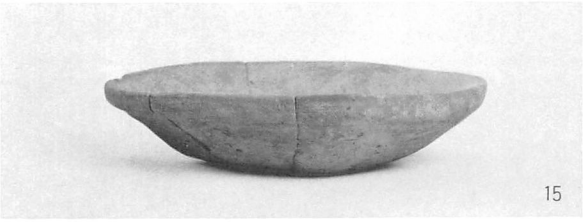
2　No. 3 地点　池出土遺物

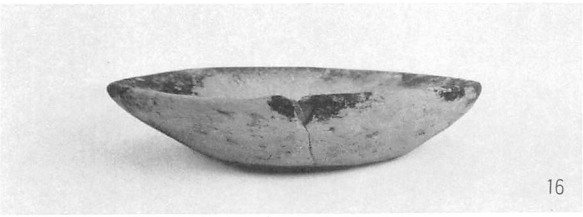
1　落込　土器出土状況（北から）

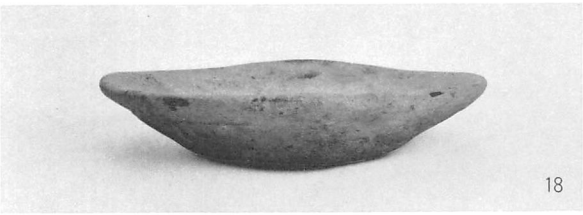
2　落込　出土遺物

9


12

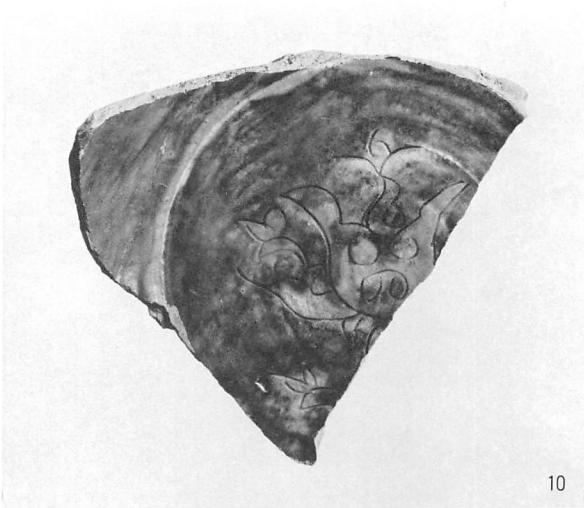

15


16


18

20

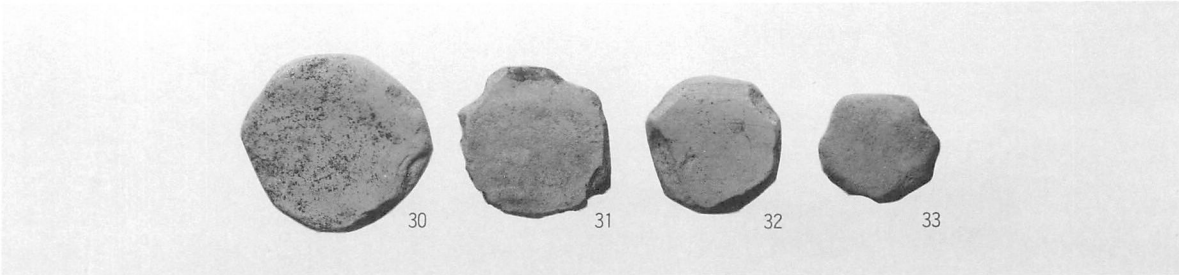
21


10

23

28

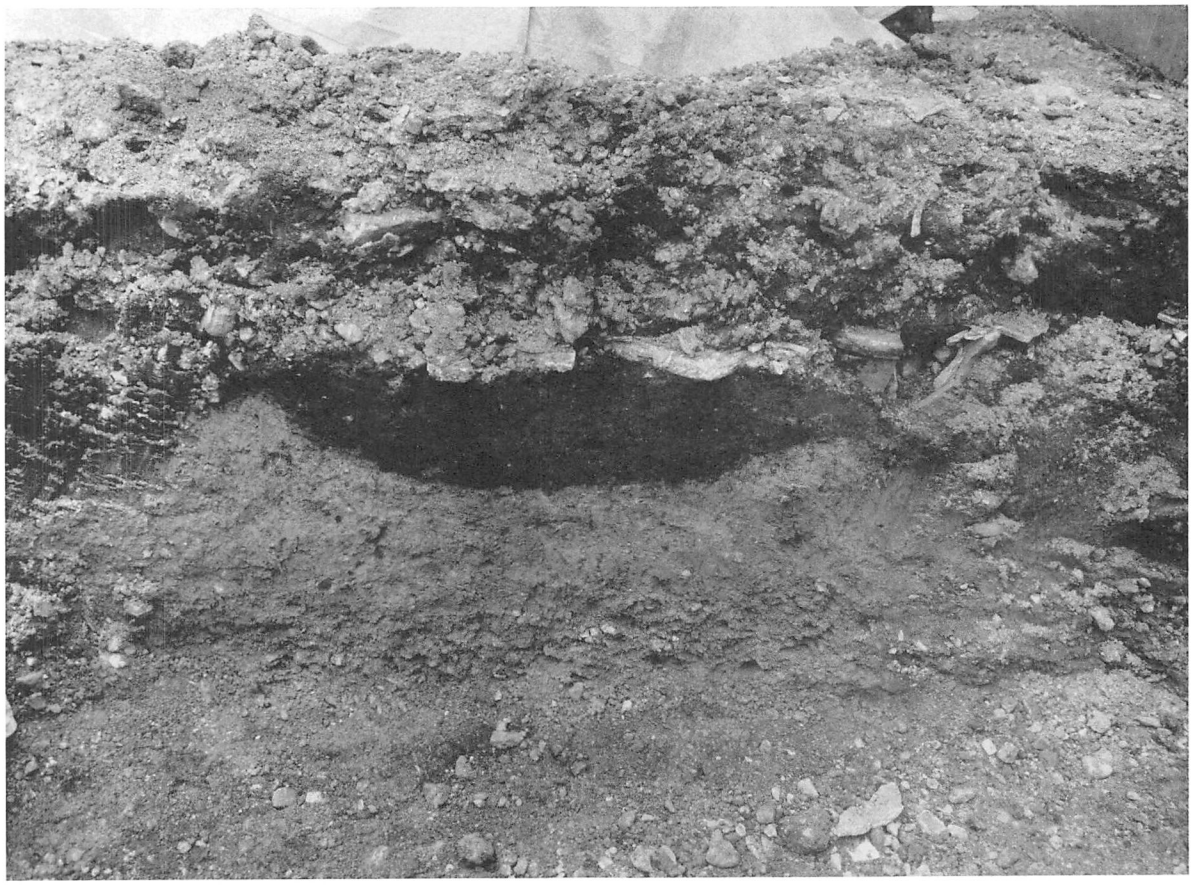
29


30 31 32 33

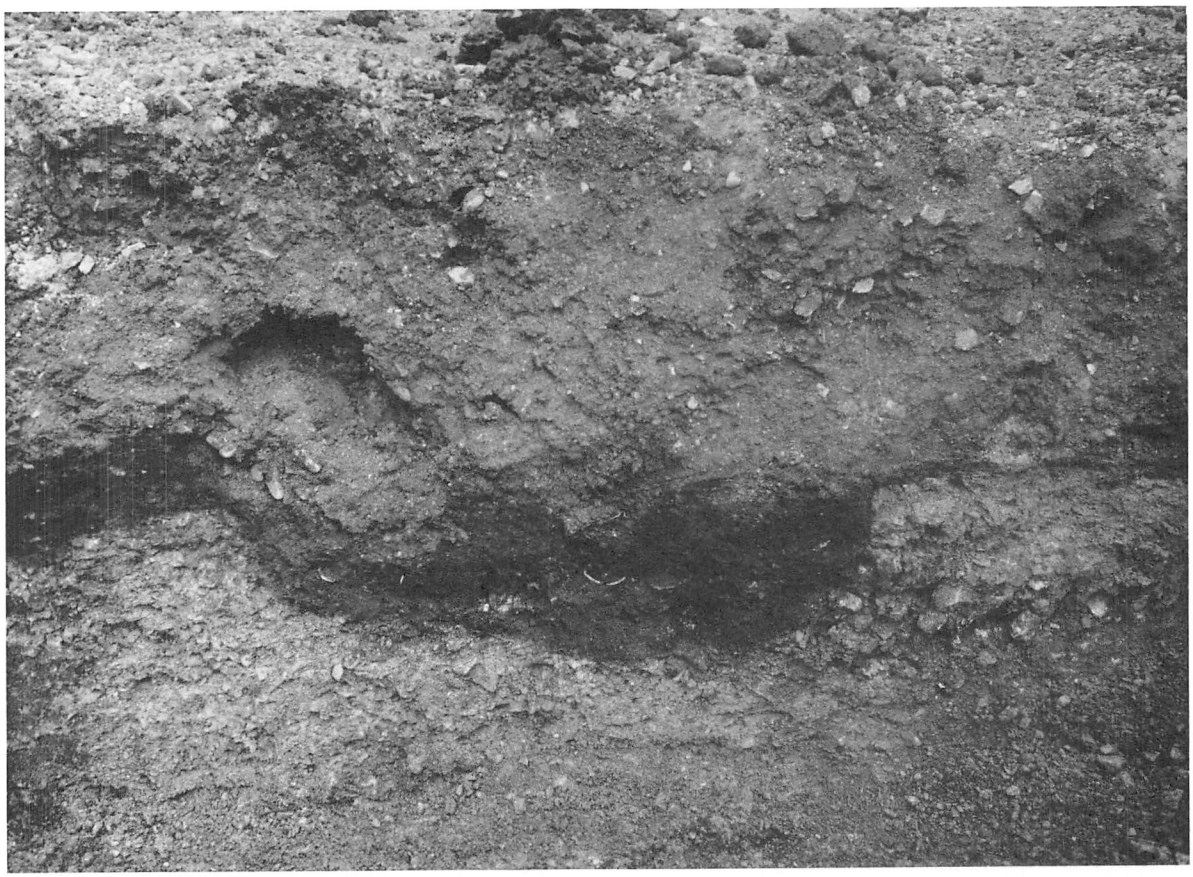
落込　出土遺物

1　調査地全景（南から）

2　東壁断面（西から）



1　No.3 地点　溝断面



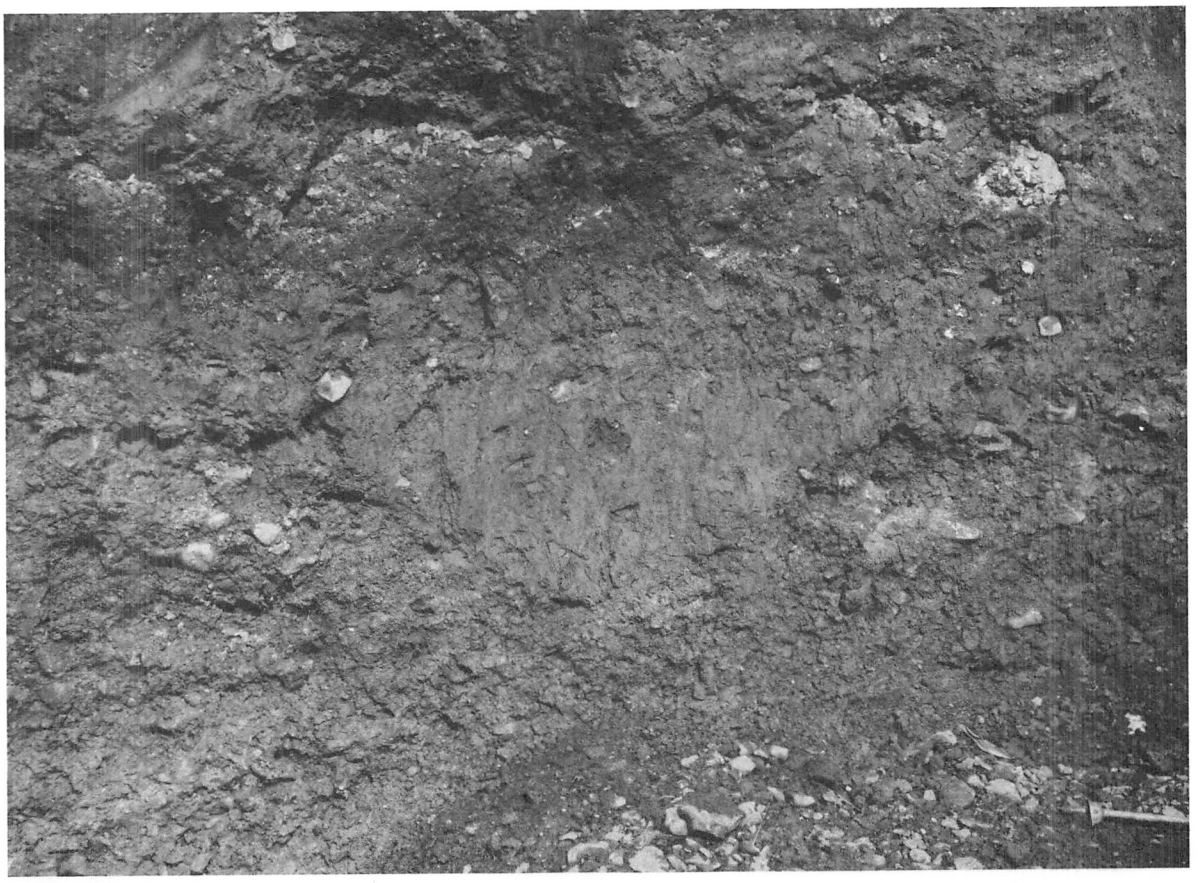
2　No.4 地点　溝断面

平安京右京四条二坊十一・十二町　淳和院（96HR470）

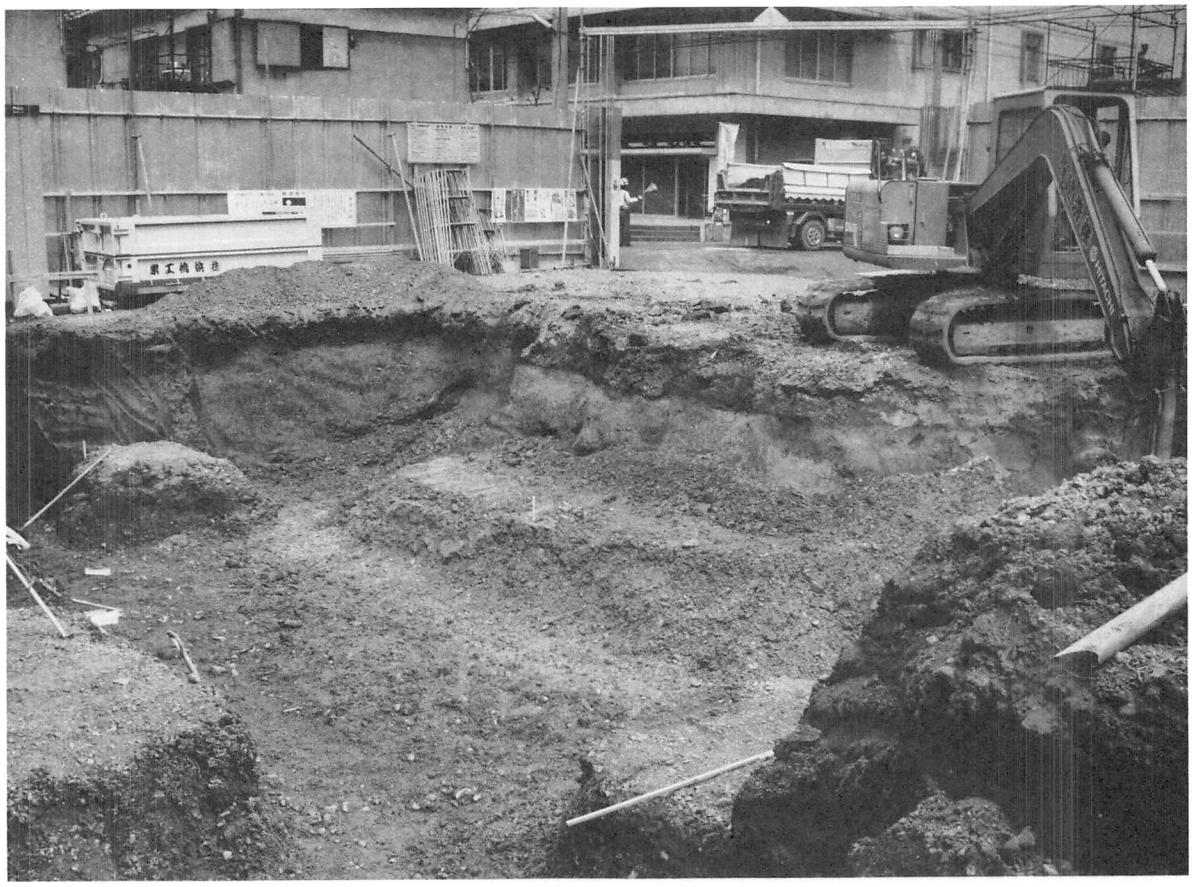
1　No.5 地点　断面（南から）

2　No.6 地点　断面（南から）

1　溝1　断面（南から）

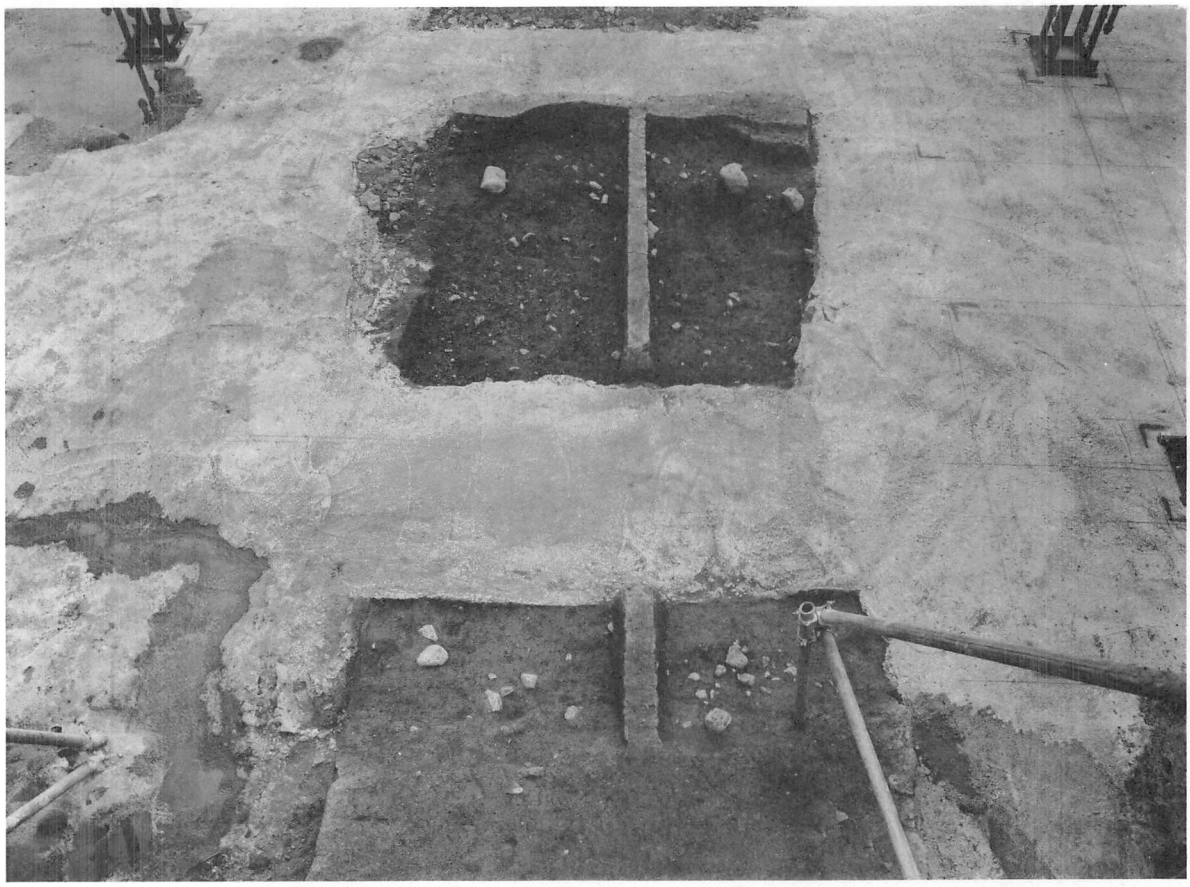


2　溝2　断面（南から）

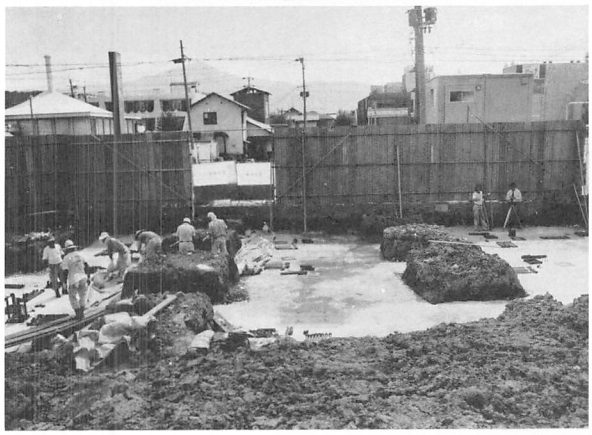


1　調査地全景（南東から）

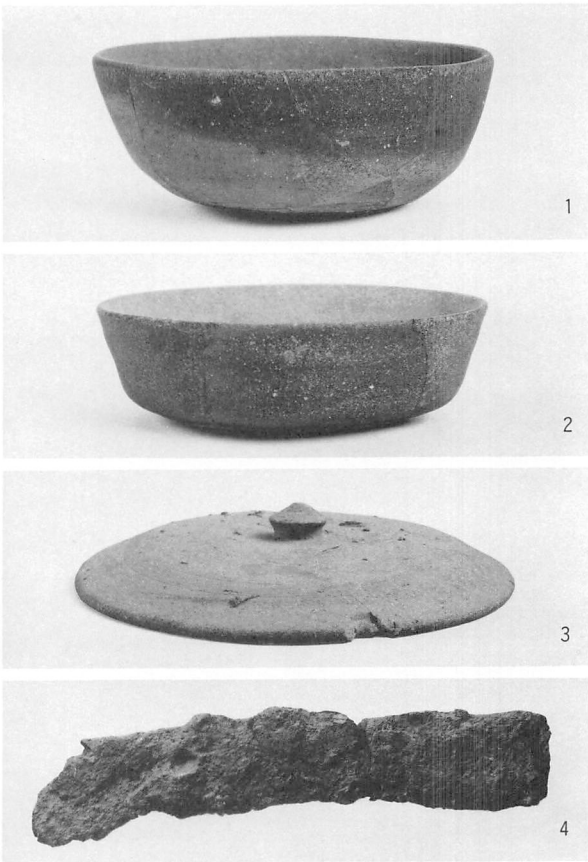
2　No.3・4地点　断面（南から）



1　竪穴状遺構（東から）

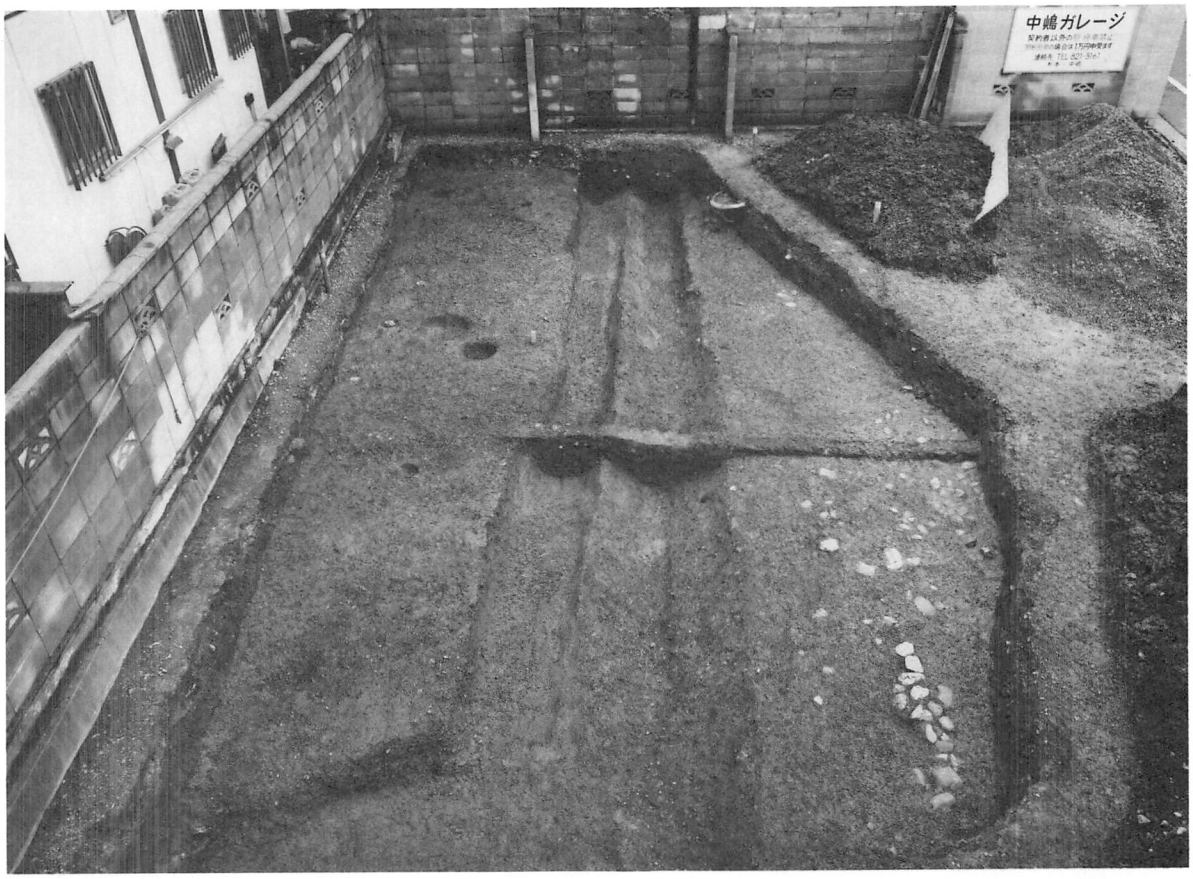


2　（上）No.4 地点　溝（南西から）
（下）調査風景（西から）

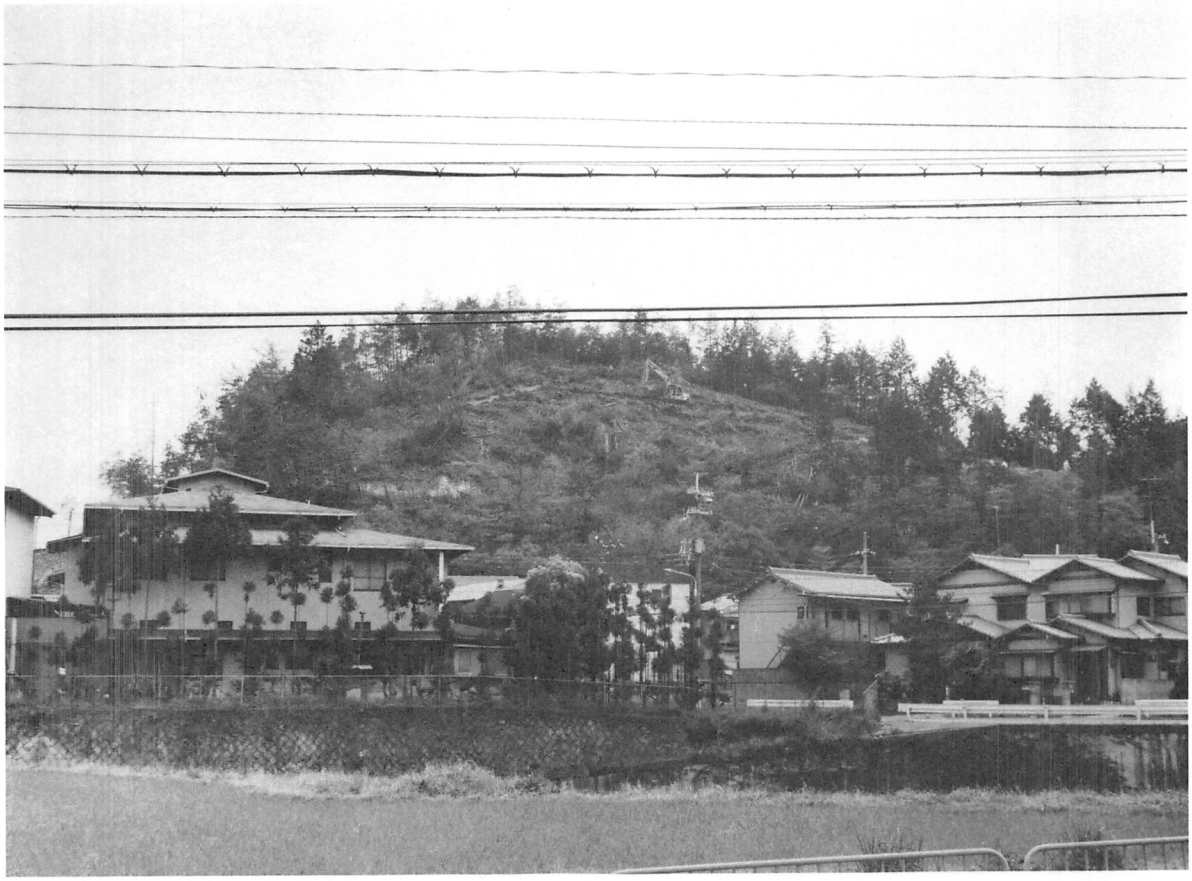


3　各遺構　出土遺物

1　97RH23　基壇状高まり　断面（南西から）

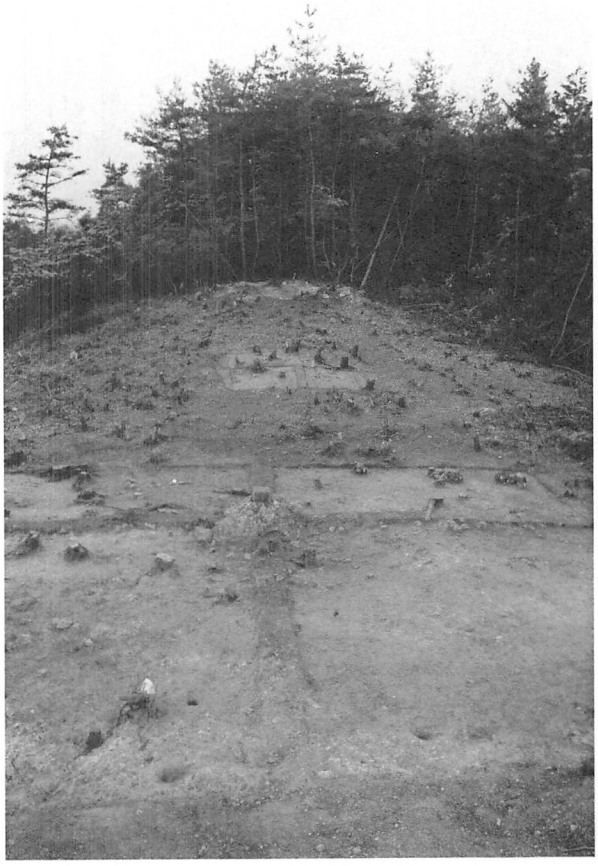


2　97RH65　第２面全景（南から）

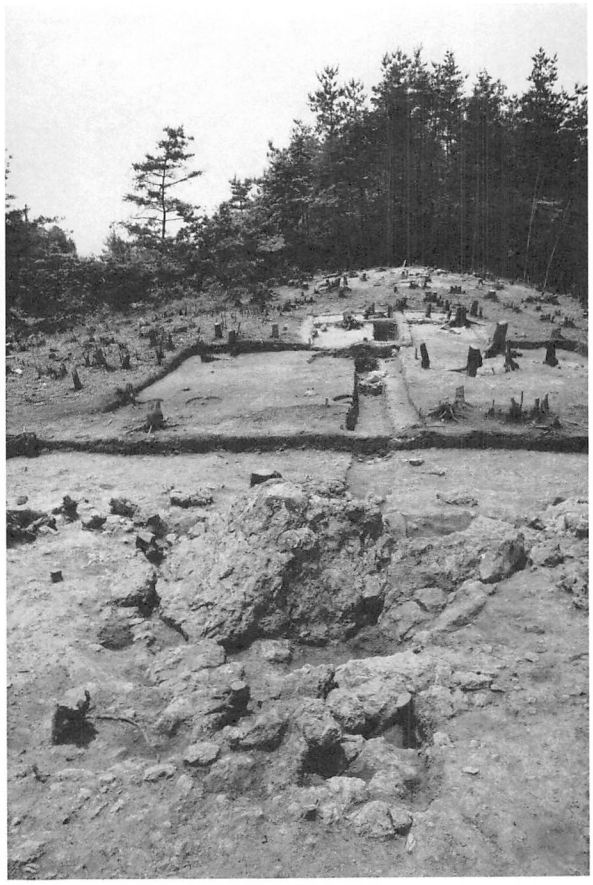


1　調査当初　丘陵全景（北東から）

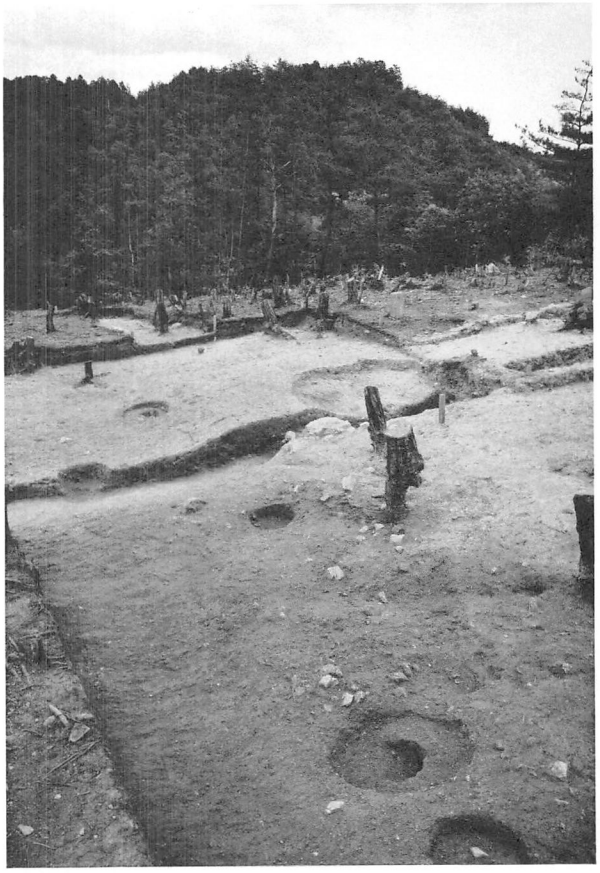
2　調査中　丘陵全景（北東から）



1　頂部　遺構検出状況１（北から）

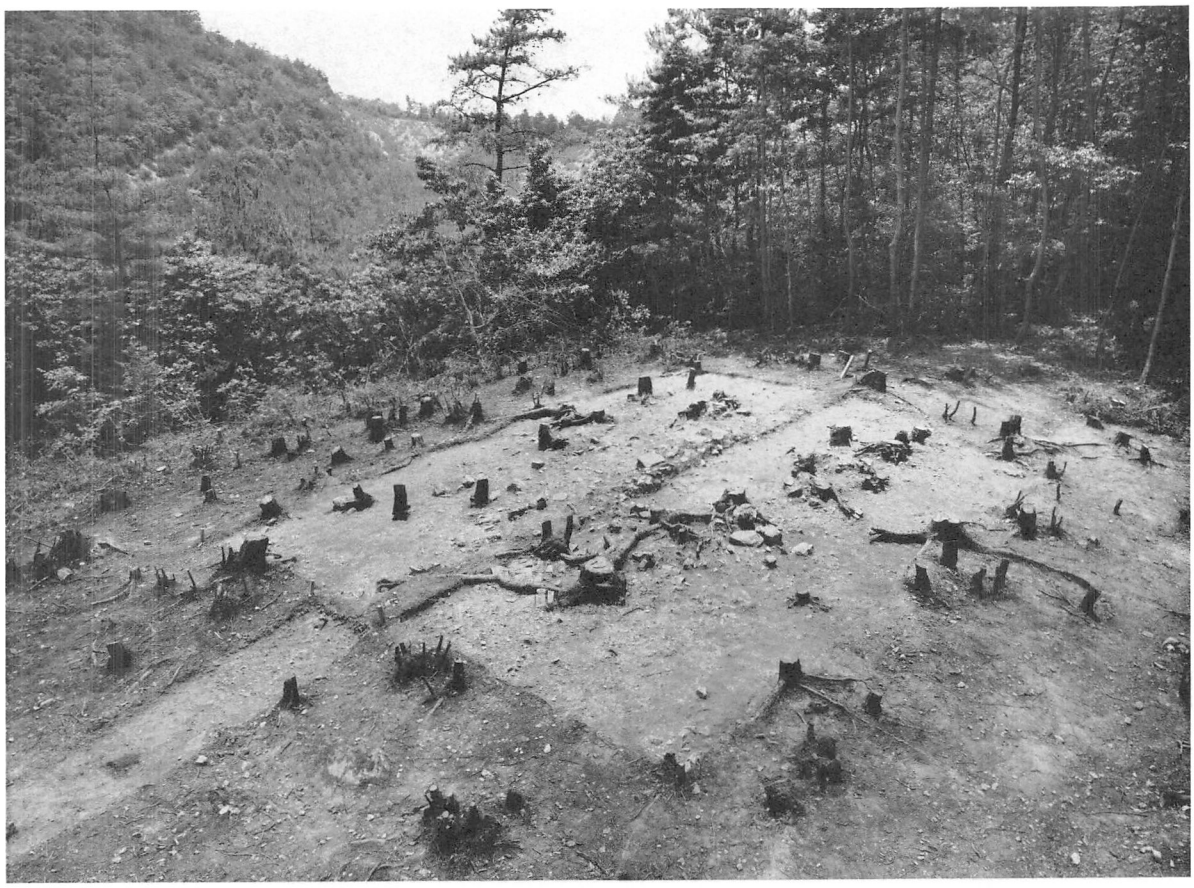


2　頂部　遺構検出状況２（北から）

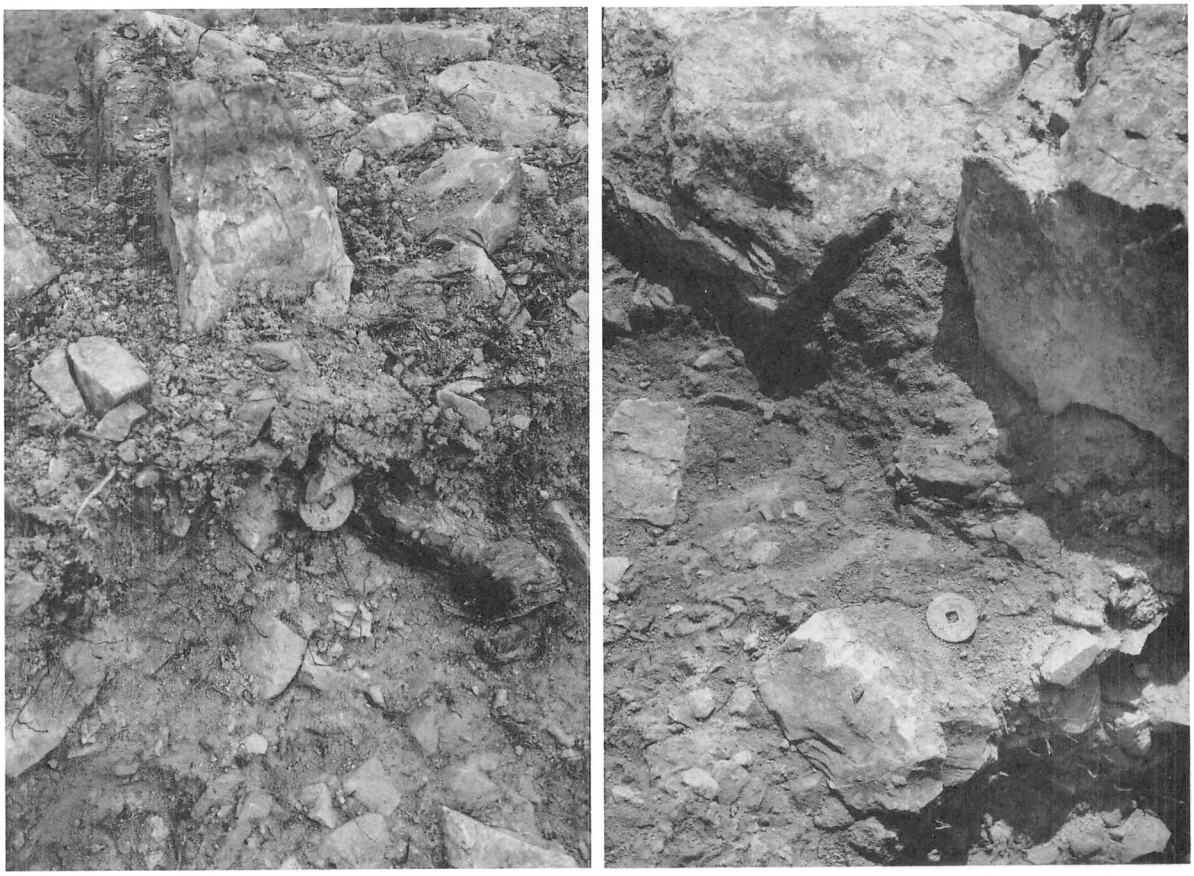


3　A-6地区　整地層上面検出状況（北西から）

4　A-6地区　柱穴列１（西から）



1　B地区　SX１掘り下げ状況（北西から）



2　B地区　SX１銭貨出土状況（左：北西から，右：東から）

1　A-2・3地区　完掘状況（北西から）

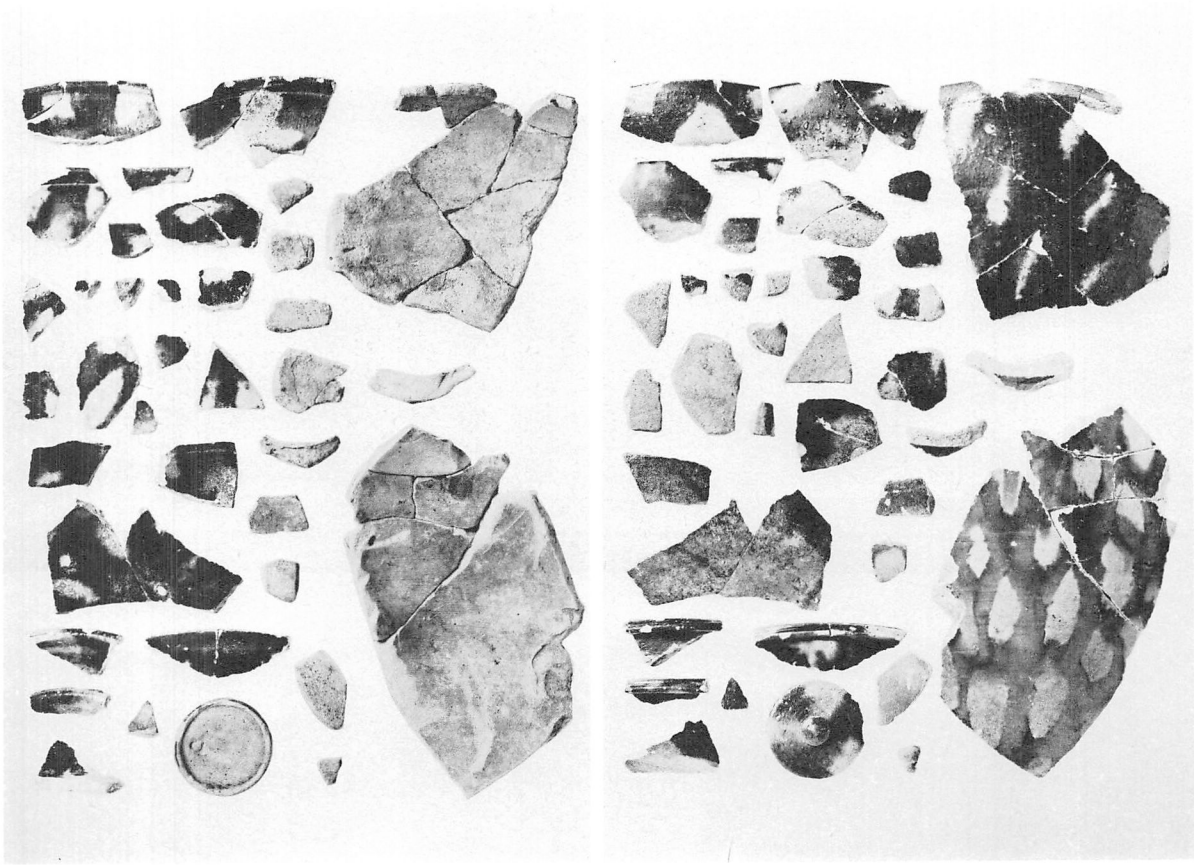
2　A-2地区　遺物出土状況（東から）

3　A-3地区　遺物出土状況（東から）

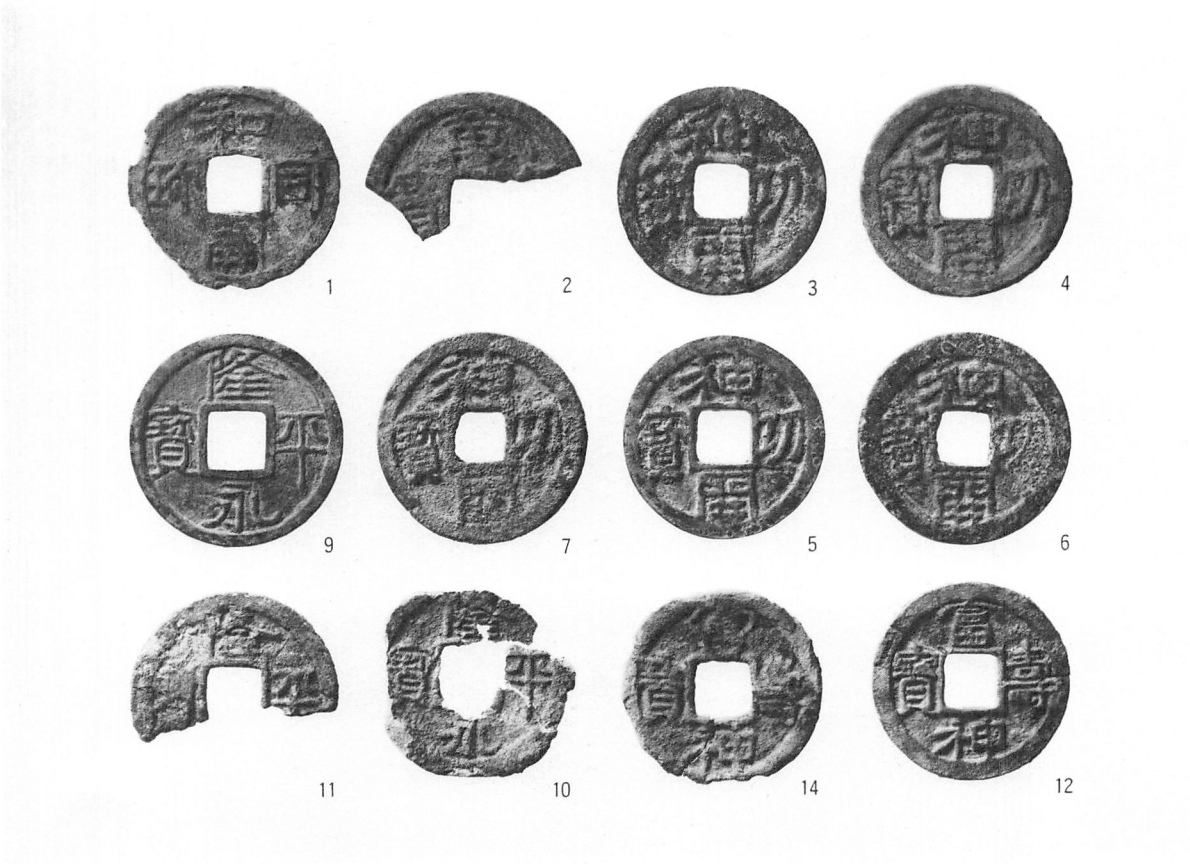
1　C地区　検出状況（北東から）

2　D-7地区　遺物出土状況（南から）

1　D-8地区出土　線刻石製品



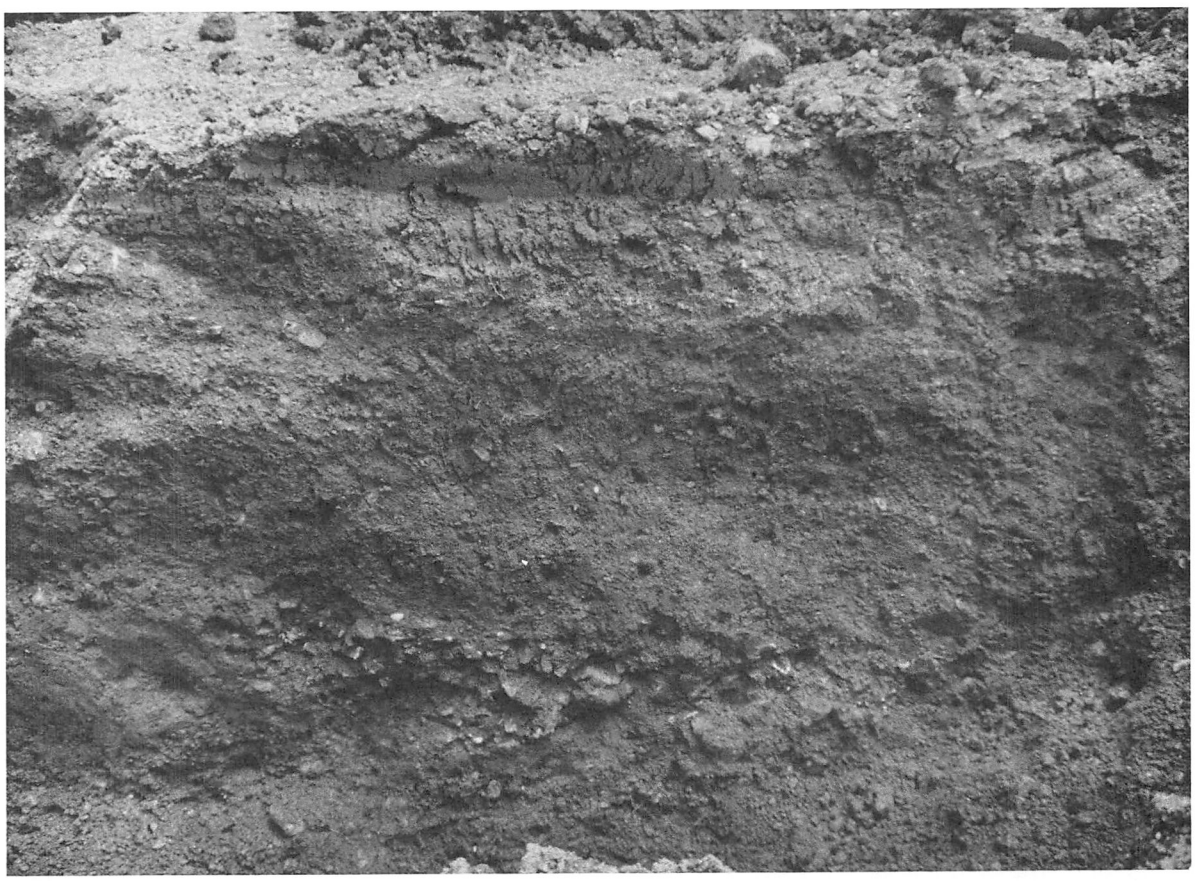
2　各地区出土　二彩陶器（左が内面，右が外面）



1　各地区出土　銭貨（番号は図57に対応）

2　墨書土器（1：西斜面，2・3：北東斜面）

1　調査地全景（南から）



2　土壙４　断面（西から）

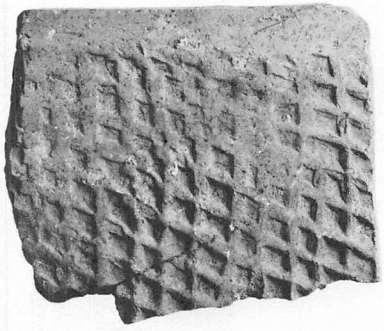
軒平瓦（1・2）・鬼瓦（3）・平瓦（4～7）

8

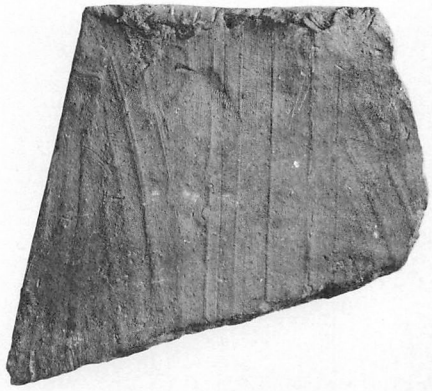
12

9

13



10

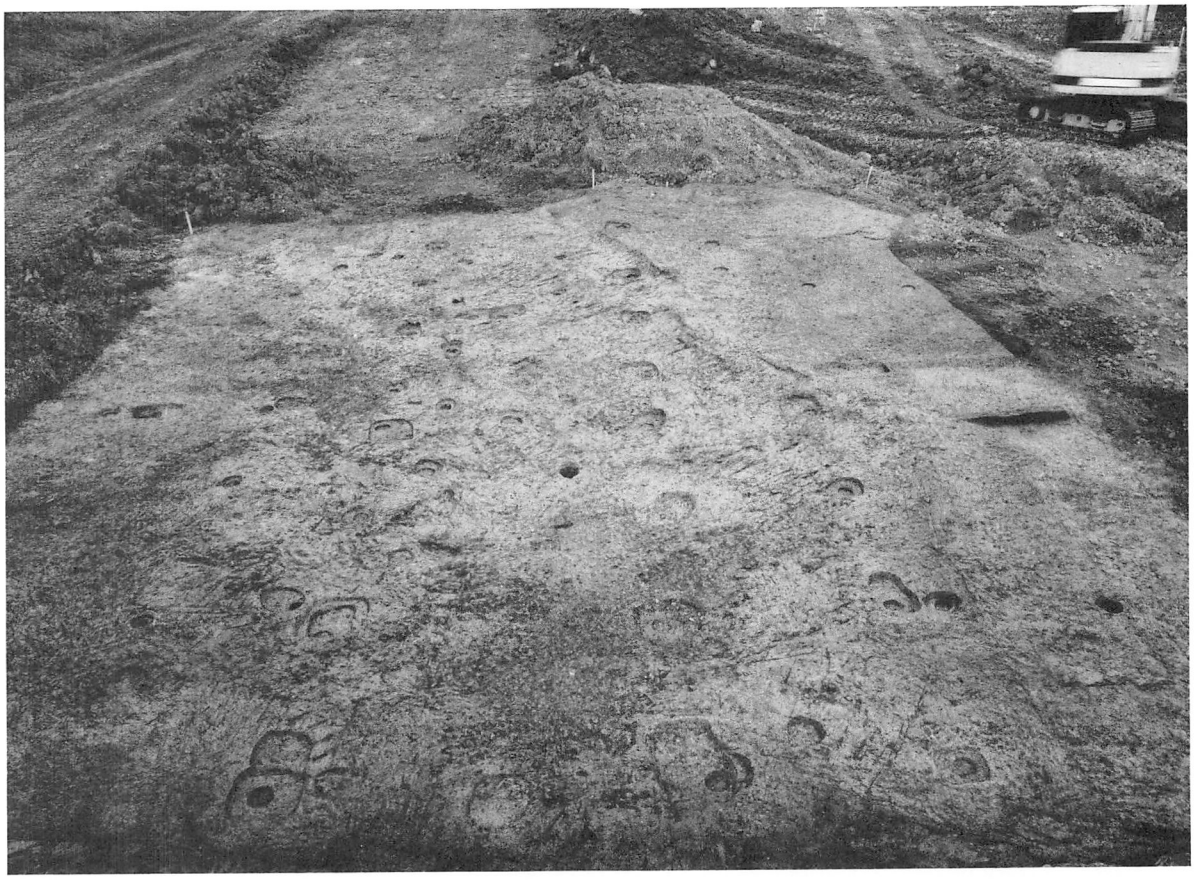


14

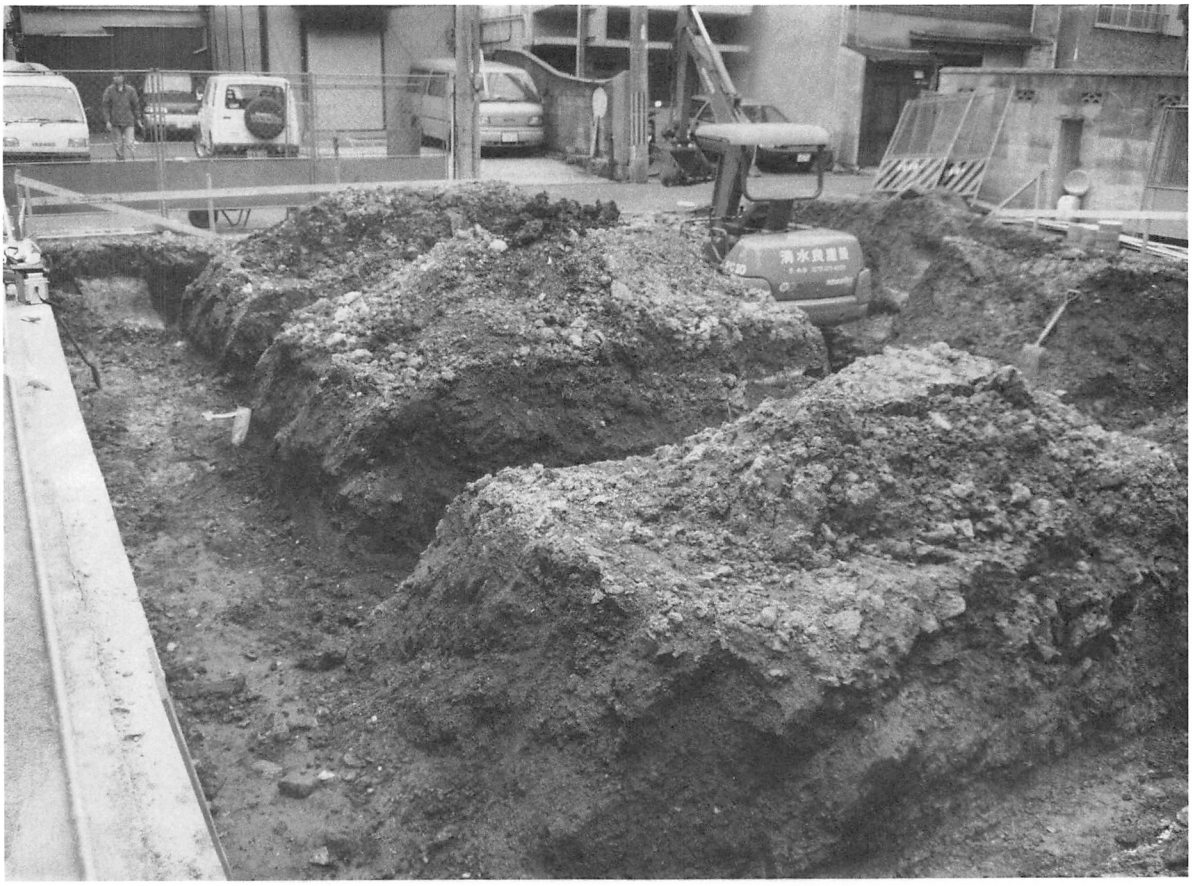
11

平瓦（8～14）

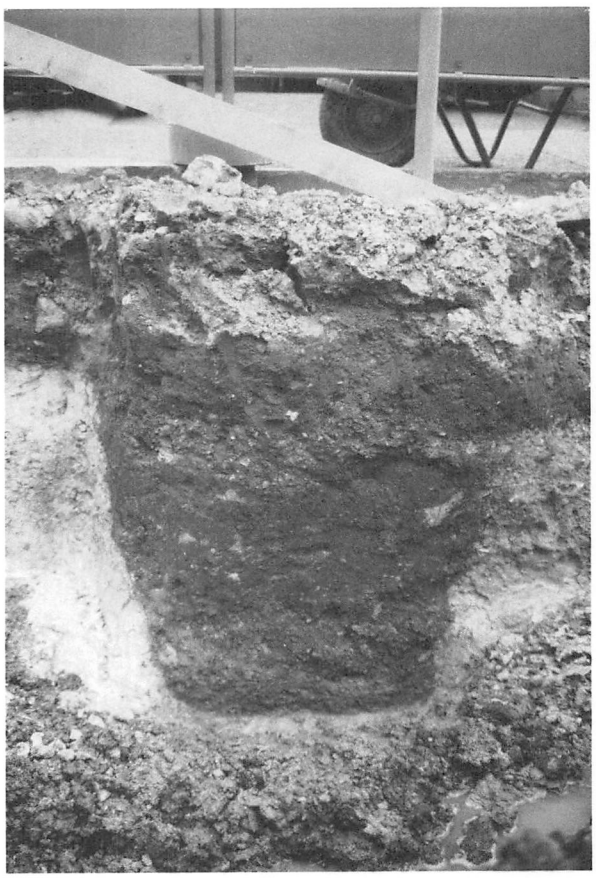
1　調査地全景（西から）



2　遺構全景（西から）



1　調査地全景（北西から）

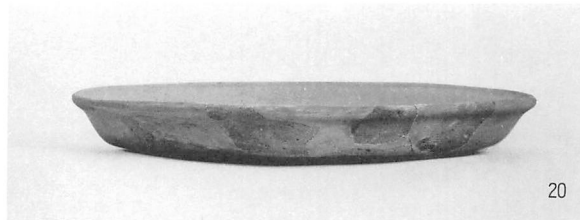


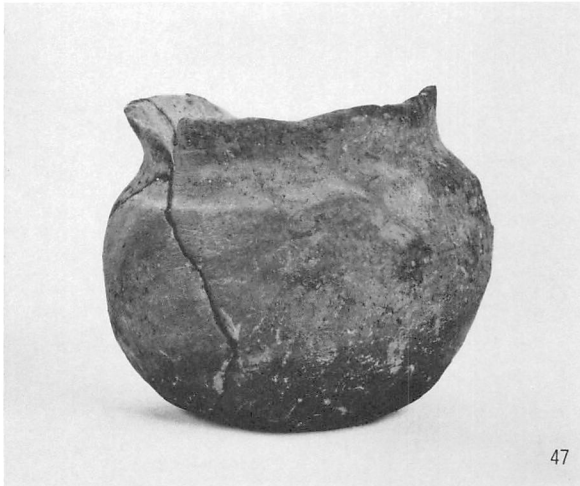
2　東壁　溝断面（西から）

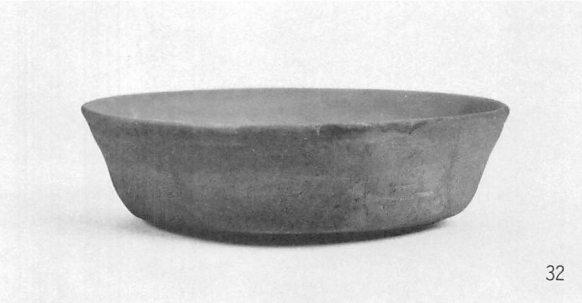
3　西壁　溝断面（東から）

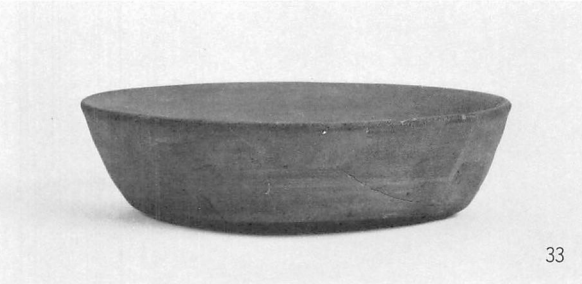
1　No.6 地点　溝 1 断面（東から）

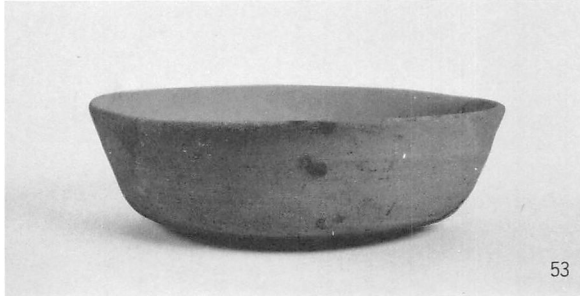
2　No.9 地点　溝 2 完掘状況（東から）



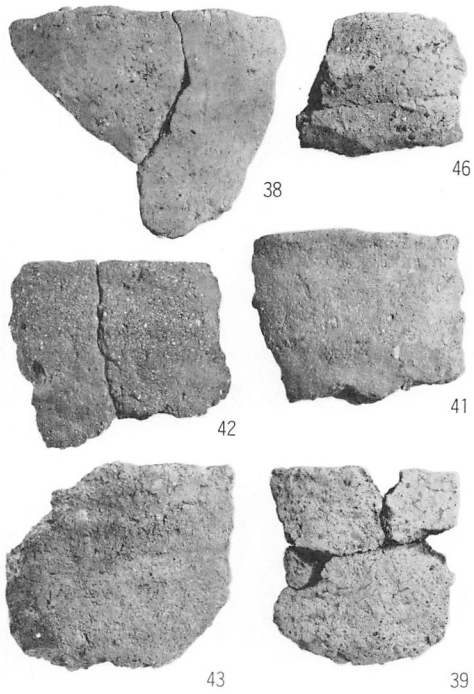




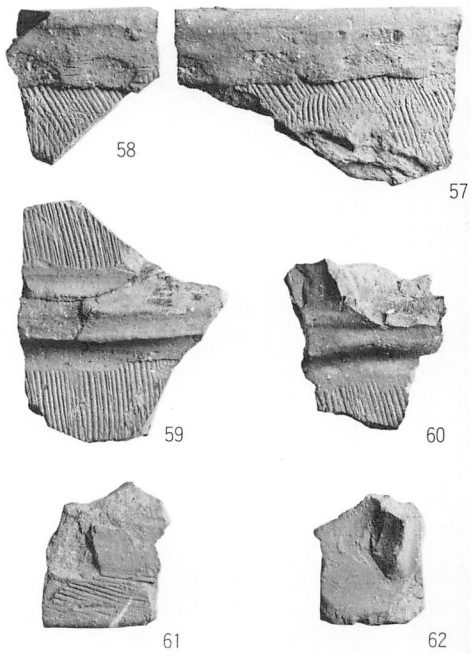




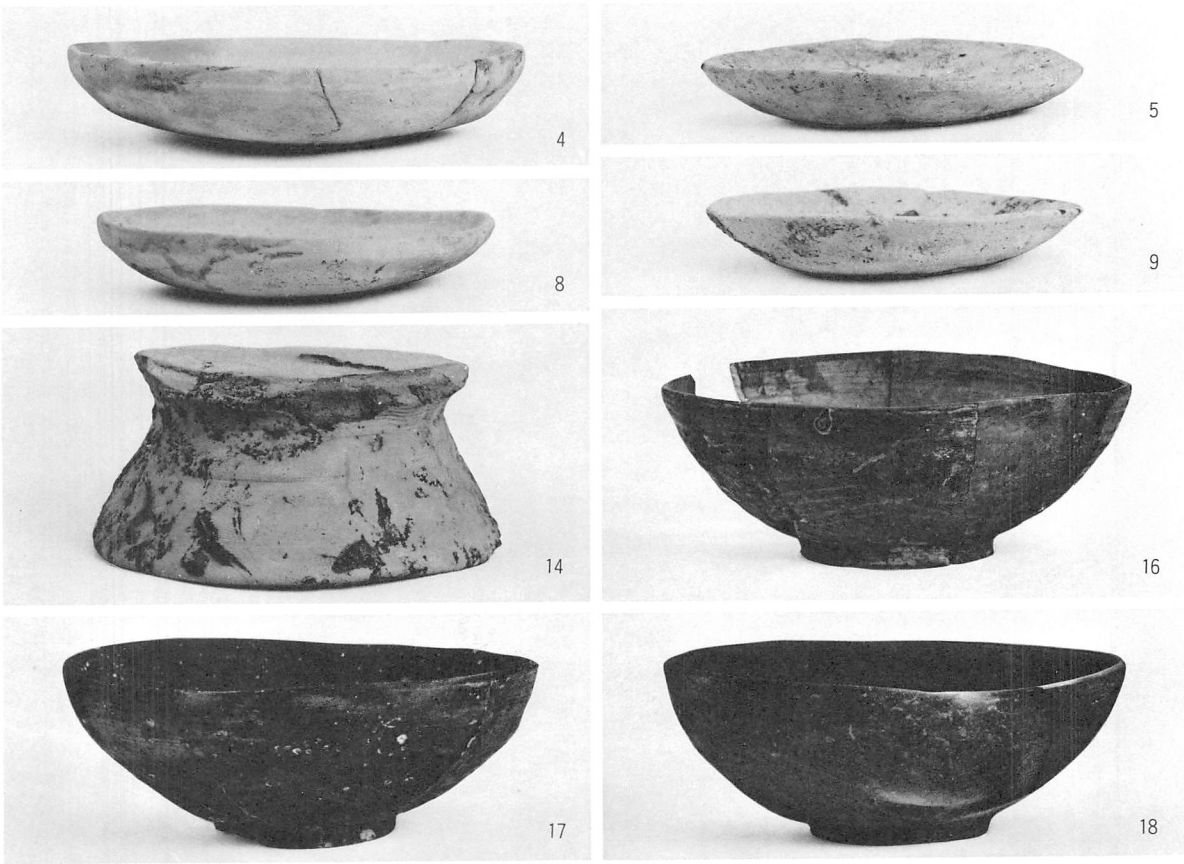
溝２　出土土器　（No.７地点：19・20・24・26・27・32・33・37，No.９地点：47・52・53）



1　溝２　出土製塩土器（No.７地点）



2　溝２　出土埴輪（No.９地点）



3　溝１　出土土器（No.５地点）

京都市内遺跡立会調査概報

平成９年度

発行日　平成10年３月31日

発　行　京都市文化市民局

住　所　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488

編　集　㈶京都市埋蔵文化財研究所

住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1

ＴＥＬ（075）415-0521

印　刷　真　陽　社